令 和 5 年

会津美里町議会会議録

（含：決算特別委員会）

定例会 9 月会議

9 月 4 日開議～ 9 月 26 日散会

会津美里町議会

令和５年会津美里町議会定例会９月会議会議録目次

第１日　９月４日（月曜日）

○議事日程 …… 1
○本日の会議に付した事件 …… 1
○出欠席議員 …… 2
○説明のため出席した者 …… 2
○事務局職員出席者 …… 2
○開議の宣告 …… 3
○諸般の報告 …… 3
○会議録署名議員の指名 …… 3
○議案の上程及び提案理由の説明 …… 3
○決算審査概要報告 …… 7
○陳情の常任委員会付託について …… １０
○決算特別委員会の設置について …… １０
○議案の決算特別委員会付託について …… １０
○散会の宣告 …… １１
散　　会　（午前１０時３９分） …… １１

決算特別委員会第１日　９月４日（月曜日）

○出欠席委員 …… １３
○説明のため出席した者 …… １３
○事務局職員出席者 …… １４
開　　会　（午前１０時５５分） …… １５
○開議の宣告 …… １５
○認定第１号 …… １５
○散会の宣告 …… １５
散　　会　（午前１１時１４分） …… １５

第２日　９月６日（水曜日）

○議事日程 …… １７
○本日の会議に付した事件 …… １７
○出欠席議員 …… １８

○説明のため出席した者 ……１８
○事務局職員出席者 ……１８
開　　議　（午前１０時００分） ……１９
○開議の宣告 ……１９
○一般質問 ……１９
鈴　木　繁　明　君 ……１９
根　本　謙　一　君 ……３２
長　嶺　一　也　君 ……４６
荒　川　佳　一　君 ……５９
渋　井　清　隆　君 ……７２
○延会の宣告 ……８５
延　　会　（午後　５時０２分） ……８５

第３日　９月７日（木曜日）
○議事日程 ……８７
○本日の会議に付した事件 ……８７
○出欠席議員 ……８８
○説明のため出席した者 ……８８
○事務局職員出席者 ……８８
開　　議　（午前１０時００分） ……８９
○開議の宣告 ……８９
○一般質問 ……８９
村　松　　尚　君 ……８９
小　柴　葉　月　君 ……１０３
大　竹　　惣　君 ……１１６
星　　次　君 ……１３３
○散会の宣告 ……１４７
散　　会　（午後　３時３４分） ……１４７

第４日　９月８日（金曜日）
○議事日程 ……１４９
○本日の会議に付した事件 ……１５０
○出欠席議員 ……１５１

○説明のため出席した者 ……１５１
○事務局職員出席者 ……１５１
開　　議　（午前１０時００分） ……１５２
○開議の宣告 ……１５２
○報告第１２号の議題、説明、質疑 ……１５２
○報告第１３号の議題、説明、質疑 ……１５２
○報告第１４号の議題、説明、質疑 ……１５３
○報告第１５号の議題、説明、質疑 ……１５９
○報告第１６号の議題、説明、質疑 ……１６０
○報告第１７号の議題、説明、質疑 ……１６２
○議案第４５号の議題、説明、質疑 ……１７１
○議案第５３号の議題、説明、質疑、討論、採決 ……１８２
○議案第５４号の議題、説明、質疑、討論、採決 ……１８４
○同意第１号の議題、質疑、討論、採決 ……１８５
○同意第２号～同意第１３号の議題、質疑、討論、採決 ……１８６
○諮問第１号の議題、採決 ……１９１
○諮問第２号の議題、採決 ……１９１
○総括質疑 ……１９２
○議案の常任委員会付託について ……１９５
○散会の宣告 ……１９５
散　　会　（午後　１時５２分） ……１９５

決算特別委員会第２日　９月１１日（月曜日）
○出欠席委員 ……１９７
○説明のため出席した者 ……１９７
○事務局職員出席者 ……１９９
開　　議　（午前１０時０２分） ……２００
○開議の宣告 ……２００
○認定第１号 ……２００
○延会の宣告 ……２５２
延　　会　（午後　３時２６分） ……２５３

決算特別委員会第３日　９月１２日（火曜日）

○出欠席委員 ……２５５
○説明のため出席した者 ……２５５
○事務局職員出席者 ……２５６
開　　議　（午前１０時００分） ……２５７
○開議の宣告 ……２５７
○認定第１号 ……２５７
○延会の宣告 ……２７５
延　　会　（午前１１時４６分） ……２７５

決算特別委員会第４日　９月２０日（水曜日）
○出欠席委員 ……２７７
○説明のため出席した者 ……２７７
○事務局職員出席者 ……２７９
開　　議　（午前１０時００分） ……２８０
○開議の宣告 ……２８０
○認定第１号 ……２８０
○延会の宣告 ……３２８
延　　会　（午後　３時０１分） ……３２８

決算特別委員会第５日　９月２１日（木曜日）
○出欠席委員 ……３２９
○説明のため出席した者 ……３２９
○事務局職員出席者 ……３３０
開　　議　（午前１０時００分） ……３３１
○開議の宣告 ……３３１
○認定第１号 ……３３１
○延会の宣告 ……３５４
延　　会　（午前１１時５５分） ……３５４

決算特別委員会第６日　９月２５日（月曜日）
○出欠席委員 ……３５５
○説明のため出席した者 ……３５５
○事務局職員出席者 ……３５６

開　　議　（午後　２時００分）　……３５７
○開議の宣告　……３５７
○認定第１号　……３５７
○閉会の宣告　……３５８
閉　　会　（午後　２時０７分）　……３５８

第５日　９月２６日（火曜日）
○議事日程　……３５９
○本日の会議に付した事件　……３５９
○出欠席議員　……３６０
○説明のため出席した者　……３６０
○事務局職員出席者　……３６０
開　　議　（午前１０時００分）　……３６１
○開議の宣告　……３６１
○諸般の報告　……３６１
○常任委員会委員長の報告　……３６１
○決算特別委員会委員長の報告　……３６４
○認定第１号の議題、討論、採決　……３６５
○認定第２号の議題、討論、採決　……３６５
○認定第３号の議題、討論、採決　……３６６
○認定第４号の議題、討論、採決　……３６６
○認定第５号の議題、討論、採決　……３６７
○認定第６号の議題、討論、採決　……３６７
○認定第７号の議題、討論、採決　……３６８
○認定第８号の議題、討論、採決　……３６９
○認定第９号の議題、討論、採決　……３６９
○議案第４５号の議題、討論、採決　……３７０
○議案第４６号の議題、討論、採決　……３７０
○議案第４７号の議題、討論、採決　……３７１
○議案第４８号の議題、討論、採決　……３７２
○議案第４９号の議題、討論、採決　……３７２
○議案第５０号の議題、討論、採決　……３７３
○議案第５１号の議題、討論、採決　……３７３

○議案第５２号の議題、討論、採決 ……３７４
○陳情第９号の議題、討論、採決 ……３７４
○日程の追加 ……３７５
○議案第５５号、議案第５６号の議題及び提案理由の説明 ……３７５
○議案第５５号の議題、説明、質疑、討論、採決 ……３７６
○議案第５６号の議題、説明、質疑、討論、採決 ……３７８
○発議第４号の議題、説明、質疑、討論、採決 ……３８０
○会議時間の延長 ……３８０
○散会の宣告 ……３８１
散　　会　（午前１１時５７分） ……３８１

定 例 会 ９ 月 会 議

(第 １ 号)

令和５年会津美里町議会定例会９月会議

議事日程　第１号

令和５年９月４日（月）午前１０時００分開議

諸般の報告

①議長の報告（出席した会議等別紙のとおり）

②議長の提出物の報告（別紙のとおり）

③説明員の報告（別紙のとおり）

④町長の行政報告

第１　会議録署名議員の指名

第２　議案の上程及び提案理由の説明

第３　決算審査概要報告

第４　陳情の常任委員会付託について

第５　決算特別委員会の設置について

第６　議案の決算特別委員会付託について

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

○出席議員（１６名）

１番	櫻井幹夫君	９番	渋井清隆君
２番	大竹惣君	１０番	星次君
３番	小柴葉月君	１１番	堤信也君
４番	荒川佳一君	１２番	鈴木繁明君
５番	山内豪君	１３番	根本謙一君
６番	長嶺一也君	１４番	根本剛君
７番	村松尚君	１５番	横山義博君
８番	小島裕子君	１６番	横山知世志君

○欠席議員（なし）

○説明のため出席した者

町長	杉山純一	君
副町長	佐々木吉一	君
総務課長	金子吉弘	君
政策財政課長	國分利則	君
会計管理者	松本由佳里	君
町民税務課長	猪俣利幸	君
健康ふくし課長	平山正孝	君
産業振興課長	小林隆浩	君
建設水道課長	加藤定行	君
教育長	歌川哲由	君
こども教育課長	渡部雄二	君
生涯学習課長	福田富美代	君
代表監査委員	小島隆一	君

○事務局職員出席者

事務局長	児島隆昌	君
事務局次長 兼総務係長	歌川和仁	君

開　議　　（午前１０時００分）

○開議の宣告

○議長（横山知世志君）　ただいまから令和５年会津美里町議会定例会９月会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりであります。

○諸般の報告

○議長（横山知世志君）　日程に入ります前に、諸般の報告を行います。

議長の報告、議長の提出物の報告、説明員の報告は別紙のとおりであります。

次に、町長の行政報告ですが、お手元に配付いたしました報告書のとおりであります。

以上をもって諸般の報告を終わります。

○会議録署名議員の指名

○議長（横山知世志君）　日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、本町議会会議規則第127条の規定により、

７番　　村　松　　尚　君

８番　　小　島　裕　子　君

の両名を指名いたします。

○議案の上程及び提案理由の説明

○議長（横山知世志君）　日程第２、議案の上程及び提案理由の説明を行います。

本会議に送達されました事件は、会津美里町長より、報告第12号から報告第17号まで、認定第１号から認定第９号まで、議案第45号から議案第54号まで、同意第１号から同意第13号まで、諮問第１号、諮問第２号の計40議案であります。

お諮りいたします。本日は、議案を別紙付議事件一覧表のとおり上程し、提案者からの説明を求めたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

よって、ただいま宣告のとおり議事を進行いたします。

提案者から提案理由の説明を求めます。

町長、杉山純一君。

〔町長（杉山純一君）登壇〕

○町長（杉山純一君）　本日、令和５年会津美里町議会定例会９月会議の再開に当たり、議員各位におかれましては、ご参集を賜り、ありがとうございます。本定例会にご提案申し上げます報告６件、

認定９件、議案10件、同意13件、諮問２件の提案理由をご説明申し上げます。

初めに、報告第12号は、専決処分の報告についてであります。本件は、令和５年２月19日、町内字御蔵南地内において舗装面の老朽化による自動車物損事故が発生いたしました。事故後、相手方と交渉の結果、賠償金２万4,310円を町が支払うことで示談が成立したため、専決処分したものであります。

次の報告第13号は、専決処分の報告についてであります。本件は、令和５年５月13日、ふれあいの森公園内においてベンチが倒れ、右足が下敷きになり、負傷する身体事故が発生いたしました。事故後、相手方と交渉の結果、賠償金6,749円を町が支払うことで示談が成立したため、専決処分したものであります。

次の報告第14号は、株式会社会津美里振興公社経営状況報告についてであります。本件は、株式会社会津美里振興公社代表取締役より、令和４年度事業報告及び決算、令和５年度事業計画及び予算について報告がありましたので、地方自治法第243条の３第２項の規定により、報告するものであります。

次の報告第15号は、会津美里町一般会計継続費の精算報告についてであります。本件は、令和４年度に終了した郷土資料館整備事業に係る継続費の精算について、地方自治法施行令第145条第２項の規定により、報告するものであります。

次の報告第16号は、地方公共団体の財政の健全性に関する比率の報告についてであります。本件は、令和４年度の決算に基づき算定した実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率及び将来負担比率並びに資金不足比率について、地方公共団体の財政の健全化に関する法律第３条第１項及び第22条第１項の規定により、報告するものであります。

次の報告第17号は、会津美里町教育委員会事務管理及び執行状況の点検及び評価報告についてであります。本件は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第１項の規定により、令和４年度の会津美里町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について行った点検及び評価の結果について、報告するものであります。

次の認定第１号から認定第９号までは、令和４年度一般会計、各特別会計及び水道事業会計並びに下水道事業会計の決算認定についてであります。地方自治法第233条第３項及び地方公営企業法第30条第４項の規定により、監査委員の意見をつけて議会の認定をお願いするものであります。なお、それぞれの会計の詳細につきましては、主要施策の成果に関する説明書のとおりであります。

まず、認定第１号は、令和４年度会津美里町一般会計歳入歳出決算認定についてであります。歳入歳出予算現額141億9,547万9,700円に対し、収入済額は138億9,763万5,406円、支出済額は132億9,758万524円であり、歳入歳出差引残額は６億5,005万4,882円であります。

次の認定第２号は、令和４年度会津美里町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定についてであります。歳入歳出予算現額24億7,424万7,000円に対し、収入済額は23億7,753万8,928円、支出済額は22億

6,689万701円であり、歳入歳出差引残額は１億1,064万8,227円であります。

次の認定第３号は、令和４年度会津美里町介護保険特別会計歳入歳出決算認定についてであります。歳入歳出予算現額32億7,511万7,000円に対し、収入済額は33億1,677万4,894円、支出済額は29億2,896万5,790円であり、歳入歳出差引残額は３億8,780万9,104円であります。

次の認定第４号は、令和４年度会津美里町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定についてであります。歳入歳出予算現額２億6,753万1,000円に対し、収入済額は２億6,514万8,278円、支出済額は２億6,460万5,377円であり、歳入歳出差引残額は54万2,901円であります。

次の認定第５号は、令和４年度会津美里町工業団地造成事業特別会計歳入歳出決算認定についてであります。歳入歳出予算現額6,131万7,000円に対し、収入済額は6,147万4,139円、支出済額は5,958万4,983円であり、歳入歳出差引残額は188万9,156円であります。

次の認定第６号は、令和４年度会津美里町住宅用地造成事業特別会計歳入歳出決算認定についてであります。歳入歳出予算現額1,466万4,000円に対し、収入済額は1,466万2,782円、支出済額は1,437万9,396円であり、歳入歳出差引残額は18万3,386円であります。

次の認定第７号は、令和４年度会津美里町水道事業会計決算認定についてであります。収益的収入及び支出は、収入予算額が４億6,711万4,000円に対し、決算額は４億7,050万7,777円、支出予算額は４億2,987万4,000円に対し、決算額は４億1,074万1,014円であります。次に、資本的収入及び支出は、収入予算額が１億425万6,000円に対し、決算額は１億425万4,683円、支出予算額は２億3,346万4,000円に対し、決算額は２億3,102万8,350円で、資本的収入額が資本的支出額に不足する額１億2,677万3,667円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額と過年度分損益勘定留保資金で補填いたしました。

次の認定第８号は、令和４年度会津美里町下水道事業会計決算認定についてであります。収益的収入及び支出は、収入予算額が５億9,542万3,000円に対し、決算額は５億9,648万7,676円、支出予算額は５億9,436万2,000円に対し、決算額は５億8,124万8,366円であります。次に、資本的収入及び支出は、収入予算額が３億959万7,000円に対し、決算額は３億730万6,800円、支出予算額は４億8,580万3,000円に対し、決算額は３億8,262万2,464円で、資本的収入額が資本的支出額に不足する額１億7,531万5,664円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額と繰越工事資金、過年度分損益勘定留保資金、当年度分損益勘定留保資金で補填いたしました。

次の認定第９号は、令和４年度永井野財産区特別会計歳入歳出決算認定についてであります。歳入歳出予算現額19万9,000円に対し、収入済額は18万8,266円、支出済額は16万2,615円であり、歳入歳出差引残額は２万5,651円であります。

次の議案第45号は……

〔「議長、すみません、ちょっと体調不良なので、ちょっと退席の許可をお願いしたいんですが」と言う人

あり〕

○議長（横山知世志君）　許可します。

〔６番（長嶺一也君）退席〕

○町長（杉山純一君）　継続します。

○議長（横山知世志君）　続けてお願いします。

○町長（杉山純一君）　次の議案第45号は、令和５年度会津美里町一般会計補正予算（第４号）であります。既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ５億2,332万7,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を123億1,609万5,000円とするものであります。

次の議案第46号は、令和５年度会津美里町国民健康保険特別会計補正予算（第２号）であります。既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ1,867万6,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を23億9,820万2,000円とするものであります。

次の議案第47号は、令和５年度会津美里町介護保険特別会計補正予算（第２号）であります。既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ３億3,278万7,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を34億3,065万1,000円とするものであります。

次の議案第48号は、令和５年度会津美里町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）であります。既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ49万2,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を２億7,745万6,000円とするものであります。

次の議案第49号は、令和５年度会津美里町工業団地造成事業特別会計補正予算（第１号）であります。既定の歳入歳出予算の総額5,368万7,000円のうちで歳入を補正するものであります。

次の議案第50号は、令和５年度会津美里町住宅用地造成事業特別会計補正予算（第１号）であります。既定の歳入歳出予算の総額2,359万6,000円のうちで歳入を補正するものであります。

次の議案第51号は、令和５年度会津美里町水道事業会計補正予算（第１号）であります。今回の補正予算の内容は、収益的収入の予定額を952万3,000円増額し、収益的収入合計で４億7,574万9,000円とし、収益的支出の予定額を25万6,000円減額し、収益的支出合計で４億4,753万9,000円とするものであります。また、資本的収入の予定額を435万2,000円減額し、資本的収入合計で２億2,313万7,000円とするものであります。また、債務負担行為を設定するものであります。上水道施設管理業務委託について期間を令和６年度から令和８年度までとし、限度額を定めるものであります。

次の議案第52号は、令和５年度会津美里町下水道事業会計補正予算（第１号）であります。今回の補正予算の内容は、収益的収入の予定額を1,506万5,000円減額し、収益的収入合計で６億5,163万4,000円とし、収益的支出の予定額を1,636万1,000円減額し、収益的支出合計で６億5,798万5,000円とするものであります。また、資本的収入の予定額を1,526万円減額し、資本的収入合計で２億1,514万円と資本的支出の予定額を352万円増額し、資本的支出合計で３億6,250万6,000円とするものであります。

次の議案第53号は、財産の処分についてであります。本案は、高田工業団地内の販売用地を処分することについて、地方自治法第96条第１項第８号及び会津美里町議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第３条の規定により、議決を求めるものであります。

次の議案第54号は、訴訟の提起についてであります。本案は、令和５年６月22日、町営住宅入居者Ｋ氏に対し、令和５年７月20日を期限に町営住宅の明渡し及び滞納家賃等の全額納付を請求しましたが、Ｋ氏が住宅の明渡し及び滞納家賃等の納付に応じないことから、訴訟を提起することについて、地方自治法第96条第１項第12号の規定により、議会の議決を求めるものであります。

次の同意第１号は、会津美里町教育委員会委員の任命につき同意を求めることについてであります。本案は、本町教育委員会委員の須田健志氏が令和５年９月30日をもって任期満了となることから、新たに鈴木貴博氏を委員に任命したいので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第４条第２項の規定により、議会の同意を求めるものであります。

次の同意第２号は、会津美里町農業委員会委員の任命につき同意を求めることについてであります。本案は、町農業委員会の委員が令和５年11月30日をもって任期満了となることから、野中充氏を任命したいので、農業委員会等に関する法律第８条第１項の規定により、議会の同意を求めるものであります。任期につきましては、令和５年12月１日から令和８年11月30日までであります。

次の同意第３号から第13号までは、ただいま同意第２号において申し上げました理由によって同意を求めるものであります。氏名のみを申し上げ、提案理由とさせていただきます。同意第３号、間舩一男氏、同意第４号、村松祐一氏、同意第５号、松本晋平氏、同意第６号、眞鍋伸太郎氏、同意第７号、福田真実氏、同意第８号、柴﨑陽氏、同意第９号、大井豊記氏、同意第10号、眞部剛氏、同意第11号、佐々木弘則氏、同意第12号、星忠彦氏、同意第13号、木野光洋氏を委員に任命したいので、農業委員会等に関する法律第８条第１項の規定により、議会の同意を求めるものであります。

次の諮問第１号は、人権擁護委員候補者の推薦についてであります。本諮問は、現委員の野内昭氏が、令和５年12月31日をもって任期満了となります。引き続き候補者として推薦したいので、人権擁護委員法第６条第３項の規定により、議会の意見を求めるものであります。

次の諮問第２号は、人権擁護委員候補者の推薦についてであります。本諮問は、現委員の赤井秀雄氏が、令和５年12月31日をもって任期満了となります。引き続き候補者として推薦したいので、人権擁護委員法第６条第３項の規定により、議会の意見を求めるものであります。

私からは以上であります。審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（横山知世志君）　これをもって提案理由の説明を終わります。

ここで、長嶺議員の入室を許可いたします。

〔６番（長嶺一也君）入場〕

○決算審査概要報告

○議長（横山知世志君）　日程第３、決算審査概要報告を議題といたします。

代表監査委員、小島隆一君、報告願います。

小島監査委員。

〔代表監査委員（小島隆一君）登壇〕

○代表監査委員（小島隆一君）　改めておはようございます。令和４年度の決算審査の内容につきまして、その概要について報告をさせていただきます。

まず、歳入歳出決算及び基金の運用状況審査意見書の１ページをお開きください。審査の対象は、一般会計歳入歳出決算から始まり、国民健康保険特別会計から永井野財産区特別会計歳入歳出決算までの会計決算であります。

さらに、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書、財産に関する調書について、去る７月28日から８月７日までの期間にわたり、私と山内委員の２名により審査を実施いたしました。

審査の手続につきましては、各会計の歳入歳出決算書をはじめとした関係書類について、決算書、その他関係書類が法令に適合し、その計数は正確であるか、関係法令に従って執行されているかについて、記載されておりますような内容に着目しながら審査を実施したものであります。

審査の結果につきましては、各会計歳入歳出決算書、同事項別明細書、実質収支に関する調書、財産に関する調書について、それぞれ関係法令に準拠して作成されており、その計数も関係帳簿、その他証書類等と照合精査した結果、誤りがないものと認めたものでございます。

次に、２ページ中段、審査意見の総括であります。（１）が一般会計及び特別会計の総決算額及び前年度との比較、（２）が特別会計の各会計別の歳出決算と前年度との比較であります。予算額に対し歳入額と歳出額が幾らだったのか、差引金額は幾らになったのかについて表示しております。一般会計については、前年度に比較して歳入で2.1％、歳出で1.2％の増加となっております。特別会計で大きな増減のあったものとしては、工業団地造成事業で１区画の販売がありましたが、前年度に行われた団地内道路改良工事等がなくなったことにより、減額となっております。また、住宅用地造成事業では、１件の販売実績があったことにより、増額となっております。

３ページ中段以降であります。会計別の指摘事項ですが、まず一般会計の決算状況でございます。歳入歳出差引額は、前年度比１億2,791万5,000円増の６億５万4,000円。実質収支は、前年度比１億3,904万円増の５億5,344万6,000円。単年度収支は、前年度より１億3,015万2,000円減の１億3,904万円。実質単年度収支については、前年度比３億9,315万8,000円増の11億1,930万7,000円となっております。財政構造の弾力性を表す経常収支比率については、前年度より2.7ポイントアップし、89.4％となりました。

歳入と歳出のそれぞれの決算状況でございます。歳入につきましては、不納欠損額、収入未済額とも前年度に比べ大きく減少しております。歳出につきましては、予算の執行率が僅かながら低下するとともに、不用額も増加しております。

５ページでございます。一般会計のまとめとして記載させていただきました。実質収支、単年度収支とも前年度を上回っております。経常収支比率は89.4％となりました。ここ数年改善傾向にありましたが、一般的に70から80％が適正水準と言われておりますので、引き続き適正な財政運営に努めていただきたいと思います。

次に、地方公共団体の財政の健全化に関する規定に基づく財政健全化審査結果につきましては、健全化判断比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類は、いずれも適正であることを確認しました。

実質公債費比率は、３か年平均は4.9％、単年度では4.62％となり、前年度より0.6ポイント改善しております。公債費の後年度負担に留意し、長期財政計画に基づいた健全な財政運営に努めていただきたいと思います。

将来負担比率は、将来負担額が充当可能額を下回ったため、算定されませんでした。不用額については、予算編成段階での事業精査に加え、定期的な予算の執行状況の確認と検証、これをしっかりと行っていただきたいと思います。収入未済額は減少しております。健全な財政運営を維持するためには、歳入確保に向けた全庁一丸となった取組が大切であり、当局のその努力の一端がうかがえたものでございます。

次に、特別会計と企業会計の決算状況であります。主な会計について説明させていただきます。まず、国民健康保険特別会計について、調定額に対する保険税の収入率が前年度から1.8％アップし、88.7％となりました。ここ数年収納率の着実な向上が見られ、これとともに収入未済額も毎年減少してきております。さらなる徴収率向上へ向けた取組の強化、推進を図るとともに、保険給付費の抑制に向けた各種事業の展開に努めていただきたいと思います。

次に、介護保険特別会計についてでございます。調定額に対する保険税の収入率は99.3％と伸びており、収入未済額についても減少してきております。引き続き保険給付費の抑制に努めながら、適正な会計に向けた取組を推進していただきたいと思います。

７ページでございます。水道事業会計について、収益的収支の純利益は前年度より2,342万603円減少し、5,332万128円となり、減少傾向が続いております。給水戸数が前年度より８戸減少し、給水人口が340人ほど減少しております。有収水量は３万5,000立方減少し、結果、有収率は72.07％まで減少しております。施設の維持管理と併せ、老朽管の更新による漏水対策等も今後の経営の効率化、安定化にとって重要項目の一つとなっており、経営戦略計画の着実な取組が求められております。

次に、下水道事業会計についてでございます。収益的収支の純利益は前年度より501万5,573円減少し、651万9,065円となりました。公共下水道事業整備率は、全体計画のうち89.8％まで整備が進んでおりますが、施設の利用状況や適正規模を示す施設利用率は34.97％にとどまっております。接続率の向上に向けた一層の取組等により、安定経営に向けた努力を続けていただきたいと思います。

次に、財産に関する調書についてでございます。貸付基金を除いた基金総額については３億6,047万

2,000円ほど取崩しされ、年度末残高は86億3,773万1,000円となっております。今後とも設置目的に沿って適正、適切な積立てを行うとともに、効率的な管理運営に努めていただきたいと思います。

現地審査については、記載のとおりでございます。

以上、簡潔ではございますが、令和４年度の決算審査の概要報告とさせていただきます。

○議長（横山知世志君）　以上で決算審査概要報告を終わります。

○陳情の常任委員会付託について

○議長（横山知世志君）　日程第４、陳情の常任委員会付託についてを議題といたします。

お諮りいたします。本件は、別紙陳情文書表のとおり常任委員会に付託したいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

よって、本件は別紙陳情文書表のとおり常任委員会に付託することに決しました。

○決算特別委員会の設置について

○議長（横山知世志君）　日程第５、決算特別委員会の設置についてを議題といたします。

令和４年度会津美里町一般会計歳入歳出決算認定については、議長と議会選出監査委員を除く議員全員で構成する決算特別委員会を設置して審議することにしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

よって、令和４年度会津美里町一般会計歳入歳出決算認定については、決算特別委員会を設置して審議することに決しました。

お諮りいたします。決算特別委員会の正副委員長につきましては、委員会条例第９条の規定により、委員会の互選によると規定されておりますが、議会運営委員会で協議済みの正副委員長のとおりにしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議ないようでございますので、決算特別委員会委員長は２番、大竹惣君、副委員長は４番、荒川佳一君にお願いいたします。

○議案の決算特別委員会付託について

○議長（横山知世志君）　日程第６、議案の決算特別委員会付託についてを議題といたします。

お諮りいたします。本件は、別紙審査付託表のとおり決算特別委員会に付託したいと思いますが、

これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

よって、本件は別紙審査付託表のとおり決算特別委員会に付託することに決しました。

○散会の宣告

○議長（横山知世志君）　以上で本日の議事日程は全部終了いたしました。

本日はこれで散会いたします。

散　会　　（午前１０時３９分）

決 算 特 別 委 員 会

（第　１　日）

令和５年会津美里町議会（決算特別委員会）

第１日

令和５年９月４日（月）午前１０時５５分開会

委員長　大竹　惣君　　副委員長　荒川佳一君

○出席委員（１４名）

１番	櫻井幹夫君	９番	渋井清隆君
２番	大竹　惣君	１０番	星　次君
３番	小柴葉月君	１１番	堤　信也君
４番	荒川佳一君	１２番	鈴木繁明君
６番	長嶺一也君	１３番	根本謙一君
７番	村松　尚君	１４番	根本　剛君
８番	小島裕子君	１５番	横山義博君

○欠席委員（なし）

○説明のため出席した者

町長	杉山純一	君
副町長	佐々木吉一	君
総務課長	金子吉弘	君
政策財政課長	國分利則	君
町民税務課長	猪俣利幸	君
健康ふくし課長	平山正孝	君
会計管理者	松本由佳里	君
産業振興課長	小林隆浩	君
建設水道課長	加藤定行	君
こども教育課長	渡部雄二	君
生涯学習課長	福田富美代	君
代表監査委員	小島隆一	君

○事務局職員出席者

事務局長	児	島	隆	昌	君
事務局次長 兼総務係長	歌	川	和	仁	君

開　会　　（午前１０時５５分）

○副委員長（荒川佳一君）　ただいまから令和５年会津美里町議会定例会９月会議決算特別委員会を開会します。

○委員長（大竹　惣君）　皆さん、おはようございます。この決算特別委員会は、あくまで令和４年度の決算の範疇の中での質疑になります。その点十分注意していただいて、質疑漏れのないようしっかりと準備していただきたいと思います。また、スムーズに審議が行われますよう、質疑、答弁ともに簡単、明瞭にしていただきますよう、ご協力のほどお願いいたします。なお、この決算特別委員会大変長時間に及びますが、健全な町政運営のために大変重要なものでありますから、慎重審議のほどよろしくお願いいたします。

それでは、これから本日の会議を開きます。

本委員会に付託された案件は、認定第１号　令和４年度会津美里町一般会計歳入歳出決算認定についての１議案であります。

お諮りいたします。説明の方法については、説明員は着席のまま、歳入については政策財政課長より事項別明細書にて要点のみ説明を受け、歳出についてはあらかじめお手元に配付した資料をもって説明に代えたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　異議なしと認めます。

よって、ただいま宣告のとおり議事を進めてまいります。

認定第１号　令和４年度会津美里町一般会計歳入歳出決算認定についてを議題といたします。

ここで、当局より内容の説明を求めます。

歳入について、政策財政課長、説明願います。

政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　それでは、認定第１号　令和４年度会津美里町一般会計歳入歳出決算認定についてご説明申し上げます。

認定第１号　令和４年度会津美里町一般会計歳入歳出決算書　歳入　　（数字説明）

○委員長（大竹　惣君）　説明が終わりました。

以上で本日の日程は全部終了いたしました。

よって、本日はこれで散会いたします。

散　会　　（午前１１時１４分）

定 例 会 ９ 月 会 議

(第 ２ 号)

令和５年会津美里町議会定例会９月会議

議事日程　第２号

令和５年９月６日（水）午前１０時００分開議

第１　一般質問

本日の会議に付した事件

　　議事日程に同じ

○出席議員（１６名）

１番	櫻井幹夫君	９番	渋井清隆君
２番	大竹惣君	１０番	星次君
３番	小柴葉月君	１１番	堤信也君
４番	荒川佳一君	１２番	鈴木繁明君
５番	山内豪君	１３番	根本謙一君
６番	長嶺一也君	１４番	根本剛君
７番	村松尚君	１５番	横山義博君
８番	小島裕子君	１６番	横山知世志君

○欠席議員（なし）

○説明のため出席した者

町長	杉山純一	君
副町長	佐々木吉一	君
総務課長	金子吉弘	君
政策財政課長	國分利則	君
会計管理者	松本由佳里	君
町民税務課長	猪俣利幸	君
健康ふくし課長	平山正孝	君
産業振興課長	小林隆浩	君
建設水道課長	加藤定行	君
教育長	歌川哲由	君
こども教育課長	渡部雄二	君
生涯学習課長	福田富美代	君
代表監査委員	小島隆一	君

○事務局職員出席者

事務局長	児島隆昌	君
事務局次長 兼総務係長	歌川和仁	君

開　議　　（午前１０時００分）

○開議の宣告

○議長（横山知世志君）　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりであります。

○一般質問

○議長（横山知世志君）　日程第１、一般質問を行います。

通告順に発言を許します。

通告第１号、12番、鈴木繁明君。

〔12番（鈴木繁明君）登壇〕

○12番（鈴木繁明君）　おはようございます。それでは、通告しておきました２件について伺います。

１、空き家の利活用と対策について。平成27年、空家等対策特別措置法が施行されて以来、空き家対策に取り組む自治体は少なくありません。本町でも町長の施政方針で、空き家の利活用事業については、利活用可能な空き家の実態調査を積極的に行い、引き続き物件登録件数の増加に力を入れることで空き家、空き地バンクを充実させ、空き家等所有者と利用希望者のマッチングを一層推進していくとしています。また、倒壊等のおそれがある危険な空き家については、特定空家等に認定するとともに、所有者に対して段階的に助言、指導、勧告等を行い、令和４年度より拡充した除却支援制度を積極的に周知することにより、早期除却を促し、安全、安心な住環境の形成に努めるとしています。そこで、３点について伺います。

①、空き家セミナーや空き家に対する研修会等を開催していますが、それぞれの対象についてと、参加人数、開催回数及び成果について伺います。

②、空き家となっている物件の実態調査結果で利活用可能な件数についてと、それによっての空き家バンクへの登録件数はどのようになったかを伺います。

③、空き家の所有者に対しての十分な説明や段階的な措置はどのように取られているのか、現状を伺います。

２、廃棄物減量対策について。町は、第２期会津美里町一般廃棄物処理基本計画において、平成30年度の実績を基準として、令和３年度から令和７年度までの後期５か年分を見直し、令和７年度の達成目標値を再設定しました。また、生活系のごみ減量対策として、特に生ごみの水切りの徹底と、リデュース、リユース、リサイクルの３Ｒの重要性について啓発を行い、選別収集についても、適正排出の再認識により廃棄物の減量につながることから、引き続き取り組んでいくとしています。そこで、３点について伺います。

①、現時点での目標値に対する総排出量の増減について伺います。

②、各年度間で人口減少による１人当たりのごみの排出量と、ごみ処理にかかった金額について伺

います。

③、スポーツ用品のリユース展示物の運営は、４か所に回収ボックスを設置していますが、小中学生の卒業などにより不要となる制服や学用品、ランドセルなどの取扱いもしてはどうかということで伺います。

以上よろしくお願いします。

○議長（横山知世志君）　答弁、町長、杉山純一君。

〔町長（杉山純一君）登壇〕

○町長（杉山純一君）　12番、鈴木議員の一般質問にお答えいたします。

初めに、空き家の利活用と対策についてでありますが、１点目の空き家セミナー等の成果につきましては、参加対象の制限はなく、年１回開催しており、昨年度は14名の参加がありました。セミナーの内容は、相続登記や空き家の適正管理、空き家バンクを利用する際の注意事項などを説明しております。成果といたしましては、空き家に関する制度の周知と空き家バンクの利用促進が図られたものと考えております。昨年度実施した研修会は、自治区長を対象に１回開催し、45名の参加者がありました。成果といたしましては、空き家の利活用と処分に関する制度が周知され、空き家の適正管理に関する意識の醸成が図られたものと考えております。

２点目の空き家となっている物件の実態と調査結果につきましては、令和２年度に実施した空き家実態調査では、430件の空き家があり、そのうち利活用可能な件数は268件となっております。調査結果に基づき、所有者に対し、売却や賃貸などの意向調査を行い、空き家バンクへの登録手続を促し、令和５年８月末で76件の登録となっております。

３点目の空き家所有者に対しての十分な説明や段階的な措置につきましては、まず空き家実態調査で判明した利活用可能な空き家につきましては、所有者に対し、意向調査を行っております。次に、売却や賃貸のためには相続等の手続を行い、取引可能な状態にする必要があるため、個別に相談を実施いたします。取引可能となった物件については、順次空き家バンクに登録するとともに、ホームページに掲載して利活用を促進させます。

次に、危険空き家等につきましては、登記簿情報や戸籍等により所有者等を確知した後、所有者、または相続人全員に対し、町空き家等の適正管理に関する条例に基づき、助言、または指導を行います。その後、改善等が見られない場合には勧告、命令の段階となります。また、そのまま放置すれば著しく危険となるおそれのある状態の空き家につきましては、町空家等対策本部会議において特定空家に認定し、空家等対策の推進に関する特別措置法に基づき、助言、または指導を行います。おおむね５回の助言、または指導を行っても改善がなされない場合には、勧告及び命令の段階となり、また地方税法に基づく住宅用地に対する固定資産税等の課税標準の特例の対象から除外されることとなります。最終的に改善の措置がなされない場合は、町が所有者等に代わり除却を行う行政代執行、または略式代執行に移行いたします。

次の廃棄物減量対策についてでありますが、１点目の現時点での目標値に対する総排出量の増減につきましては、令和４年度におけるごみ総排出量は、現在一般廃棄物処理事業実態調査を実施中であり、数値は確定しておりませんが、暫定値は6,751トンであり、令和７年度の目標値5,629トンに対しては1,122トンの超過、目標値に対する進捗率は80.1％となっております。また、基準年度である平成30年度の数値7,581トンに対しては830トンの減、率にして11.1％の減となっております。

２点目の人口減少による１人当たりのごみの排出量とごみ処理にかかった金額につきましては、まず１人１日当たりのごみの排出量は、令和３年度が971グラム、令和４年度の暫定値が1,016グラムであり、45グラムの増加となったところです。増加の主な要因は、コロナ禍の行動制限等が緩和されたことに伴い、県境をまたぐ往来が可能となり、実家の片づけ等による多量ごみの排出が増加したこと、また経済活動等の回復傾向により事業系一般廃棄物の排出量が増加したことによるものと考えております。

次に、ごみ処理にかかった金額は、令和３年度は会津若松地方広域市町村圏整備組合の衛生費負担金のうち、ごみ処理に係るものは一般運営費が8,787万6,000円、施設整備に係る公債費が752万1,000円であり、一般廃棄物許可事業者に対する収集運搬委託料が8,470万円、合計で約１億8,000万円となっております。令和４年度は、一般運営費が7,204万2,000円、公債費が663万8,000円であり、収集運搬委託料が8,580万円、合計で約１億6,500万円となっております。

３点目の制服、学用品、ランドセルなどのリユース事業での取扱いにつきましては、現在町で行っているリユース事業は、子供服や絵本、またスポーツ用品といった、成長が著しく、短期間で使用することができなくなってしまうものや、スキー用品等使用期間が短いものなど、比較的状態がよく、再利用を希望される方の多いものを対象として実施しているところです。制服、ランドセル等につきましては、一般的に３年間から６年間と使用期間も長く、使用頻度も高いことから、状態のよいものが少ないことに加え、学校ごとに制服が異なり、個人ごとのサイズの違いもあるため、利用者が限られてしまうことなどから、町が行うリユース事業にはなじまないものと考えます。

私からは以上でございます。

○議長（横山知世志君）　鈴木議員。

○12番（鈴木繁明君）　それでは、再質問します。

空き家セミナーの目的は２つあります。１つは、放置されている空き家の利活用の実現であります。２つ目は、家の相続に困難を来し、空き家として放置されてしまうのを防ぎ、円滑な相続と将来ビジョンを明確化しつつ、物件の利活用を促し、動き出せる状態にすることを目的にしています。そこで、空き家セミナーの研修会への参加者のうち、空き家の所有者は何名出席されましたか伺います。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　ただいまのご質問にお答えしたいと思います。

セミナーの参加者のうち、空き家の所有されている方の数でございますが、参加者についてそこま

で詳細な情報はつかんでおりませんので、数字については把握してございません。
○議長（横山知世志君）　鈴木議員。
○12番（鈴木繁明君）　やはりこれは空き家の所有者が出席していただくというのが基本的なことだと思いますが、そのほかの方についてはどのような方が出席されておりましたか伺います。
○議長（横山知世志君）　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　参加者の中には実際空き家を今後利活用したい、実際に買ったり、借りたり、そういった方もいらっしゃいますので、参加者全員が空き家を所有されている方ということではございません。そういったことで幅広く参加者を募集しているところでございます。
○議長（横山知世志君）　鈴木議員。
○12番（鈴木繁明君）　自治区長を対象に研修会を行ったということでございますが、45名の方が参加者があったということで、区長の任期は１年のところと２年のところがあります。それで、実施したのが年度末のようなことでありますので、あと任期が終わるというような時期に開催してもちょっとどうかなと思いますが、今後の在り方について伺います。
○議長（横山知世志君）　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　研修会の開催時期でございますが、実はこの研修会、町の区長会の連絡協議会と一緒になって開催したものでございますので、たまたま時期が年度末になったということでございます。あと任期の問題でございますが、確かに今の自治区長、１年ないし２年の任期というようなところが多いのかなと思っております。昨年度の年度末に実施いたしましたが、その情報については地区の例えば区の会議とかいろいろございますので、その辺での情報を共有化していただければなと思っております。あとまた、今回初めての開催でございますので、今後も第２回、第３回と、そこは区長会と協議しながら町としても研修会なり、制度の周知を図ってまいりたいと考えてございます。
○議長（横山知世志君）　鈴木議員。
○12番（鈴木繁明君）　空き家が発生する一般的な原因は、自宅を所有する高齢者が介護施設への入所や子供宅などに転居したり、そのほかいろいろなケースがあります。今後団塊の世代を含めた高齢者はますます増えていくのではないかと思っております。それに伴って空き家も増加していくと思いますが、空き家の実態調査についてはどのように行っているのか伺います。
○議長（横山知世志君）　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　実態調査の件でございますが、実態調査につきましては、令和２年度に実施したのが今最新の情報となってございます。この調査につきましては、やっぱり定期的に、何年か置きに調査する必要があると思っておりますので、この調査はやはり必要でございますので、今後も定期的に実施したいと考えてございます。
○議長（横山知世志君）　鈴木議員。

○12番（鈴木繁明君）　今やはり空き家対策は必要なことでありますので、ぜひ頻繁にやっていただきたいと思います。空き家と判断した空き家は、利活用可能な空き家と危険空き家に分かれますが、利活用可能な空き家の所有者にはどのような方法で周知をされていますか伺います。
○議長（横山知世志君）　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　利活用可能な空き家の所有者に対しましては、町のほうからある程度この物件については状態が確認しまして、そういった売買が可能であるところには直接お電話なり、連絡先が分かるところであれば電話、さらには文書等で、こういった空き地、空き家バンクがありますので、ご利用いかがでしょうかというような制度の周知だったり、お知らせをしているというところでございます。
○議長（横山知世志君）　鈴木議員。
○12番（鈴木繁明君）　そういった意向調査をしているということでよろしいのですね。それでは、その中で意向調査をした結果、登記の登録済みの方がおられるわけでありますが、そのときに空き家バンクへの勧め、空き家バンクがあるから、こうしたほうがいいとか、そういうような指導というのは、どんなふうにしておりますか。
○議長（横山知世志君）　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　勧め方でございますが、当然空き家は個人の財産でございますので、町が強制的に入ってくれと、そういったことはできないと思っております。空き家の利活用の仕方も様々ございます。民間の不動産会社のほうにお願いするパターンもございますので、その一つとして町の空き家バンクというのがございます。あわせて、民間にも登録なりお願いをしている、さらには町も登録、それも可能でございますので、できればそういったことで両方ホームページ等に載せていただければ、さらに利活用が図れるのかなと思ってございます。
○議長（横山知世志君）　鈴木議員。
○12番（鈴木繁明君）　登記の方にはそういうふうにしているということで、未登記の方についてはどんなようにしておられるのかということをお願いします。
○議長（横山知世志君）　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　まず、未登記の方につきましては、まずは空き家バンクなり空き家の相談に町なり今委託しておりますＴＯＲＣＨという団体でございますが、ほぼ、ほぼ未登記の物件が多いというような状況でございます。それに、結局登記なり相続をしないとそういった売買なり登録できませんので、町としましてもそういった登録なりするには、相続なり登記が必要ですというのを丁寧に説明しながら、さらにはその進め方、やり方も説明をしながら、所有者に対して丁寧に説明して、登記、さらには相続を促していると、そういうような状況でございます。
○議長（横山知世志君）　鈴木議員。
○12番（鈴木繁明君）　関わり方についてでありますが、丁寧に説明して所有者の方にはやっている

ということで、それで登録まで持っていける方といけない方があると思いますが、その辺の関わりについてお願いします。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　関わり方ということでございます。一般的というか、例をちょっと申し上げたいと思います。まず、相談があってから実際空き家バンクに登録されるまでのおおむねの期間でございますが、約１年から２年、場合によっては２年以上かかる場合がございます。まず、それにつきましてはやはり相続なり登記、いわゆるどの辺まで登記されているのか、相続されているか、それでかなり時間が変わってくるというようなことでございます。ですから、町としてもそういった１年前、２年前にご相談あった方もいらっしゃいますので、そういった情報を町、さらにはお願いしていますＴＯＲＣＨのほうにも情報共有化いたしまして、そういった相談体制、例えば遠くにいる方ですとお盆とか、そういう時期に帰っていらっしゃる方もいらっしゃいます。今回も結構夏の期間そういった方いらっしゃいました。そういった情報を共有化することによって、町も１年前、２年前の書類を見ながらどの辺まで進んでいるのか、どういう状況なのか確認をいたしまして、最終的には相続なり登記をしてバンクに登録していただくというような結果で、そういったふうに進めております。その結果、先ほど町長答弁にもありましたが、空き家バンクの今登録数が76件というような登録数になったという結果でございます。

○議長（横山知世志君）　鈴木議員。

○12番（鈴木繁明君）　空き家問題は、人口減少と連動して大変重要なことだと思います。空き家の所有者は、窓口に相談に来られる方や電話で相談される方、それぞれおられると思いますが、所有者の悩みに寄り添って相談に対応すべきと思いますが、この対応についてはどのようになっておりますか。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　お答えいたします。

　相談者に対するいろいろな様々悩みございます。先ほども申し上げましたが、相続なり登記の仕方、さらには家財、家にある財産、例えば家財道具をどうやったら処分できるのかとか、いろいろな相談がございます。相談体制でございますが、先ほども何度か申し上げておりますが、町と、あともう一つ、ＴＯＲＣＨというところに町は委託しておりますので、その両者で情報を共有しながら相談をしていると。例えばあとは、なかなか遠くにいらっしゃる方が多い場合が多いので、なかなかこちらのほうに窓口においでになるというのが非常に難しいということでございますので、そういう場合はメール、さらには、今なので、例えばそういった画面越しで相談もできますので、いわゆるオンラインでの相談というのが近年増えているという状況でございますので、そういった相談体制の充実を図りながら所有者に対して丁寧に説明をしていきたいと考えております。

○議長（横山知世志君）　鈴木議員。

○12番（鈴木繁明君）　ぜひ所有者に寄り添って相談に乗っていただきたいと思います。空き家の利活用は、空き家になりそうなとき、なったときが一番大事な時期だと思います。空き家は、通常閉め切っているため、湿気が抜けないことでどんどん家が傷んでしまいます。そういうことで、一番大事なときにどうすればよいのか分からない高齢者の方も多いと思います。そのためには、常に町民の方に対し、広報紙等で情報を提供していくべきと思いますが、その辺いかがでしょうか。
○議長（横山知世志君）　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　制度の周知ということでございますが、当然広報紙ということで周知、非常に効果的だと思っております。あと町としましては、毎年固定資産税の納付書をお送りするときに、所有者の方にその納付書と一緒に空き家バンクの制度の周知の文書も送っております。そこの中に、今町とシルバー人材センターのほうで協定を結んでございます。シルバー人材センターのほうで空き家等の適正管理の推進に関する協定書というのを結んでございますので、例えば家の周りの草刈りとか、草むしりとか、例えば庭の剪定とか、定期的な見回りとか、サポートとか、様々な業務を行っておりますので、そういったサポート業務を紹介しながら、空き家の適正管理をお願いしたいということで周知をしているという状況でございます。
○議長（横山知世志君）　鈴木議員。
○12番（鈴木繁明君）　空き家バンクの利活用可能な件数の中で、利用希望者は空き家所有者の倍の方がおられます。少しでもよい物件を提供することで一件でも多くのマッチングすることが可能だと思います。しっかりその辺力を入れてやっていただきたいと思いますが、その辺についてお伺いします。
○議長（横山知世志君）　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　確かに登録物件よりも利活用をしたいという方のほうが非常に多くいらっしゃいます。空き家でございますが、どういう家がいいのか、悪いのか、悪いのかというよりも適しているのかというのがございます。その人の趣味、さらには生活スタイル、様々ございますので、我々としては様々な家の形態がございますので、なるべく一件でも多く登録していただいて、利用登録されている方の希望される空き家を一件でも多くマッチングさせたいと思って活動してございます。
○議長（横山知世志君）　鈴木議員。
○12番（鈴木繁明君）　次に、危険な空き家と判断された方には管理促進通知文書を送付しております。それに対しての返答について伺います。どのような返答があったのか。
○議長（横山知世志君）　建設水道課長、加藤定行君。
○建設水道課長（加藤定行君）　それでは、今のご質問にお答えいたします。
　各相続者関係には通知しておるところであり、回答いただいておるところなのですけれども、なかなかお金のかかることで、空き家の解体には今現在なかなか至らないような状況で、相続に関しても

相続放棄をするような方向で動いておられる方がかなりいらっしゃるような状況で、なかなかまとまらないような状況でございます。

以上です。

○議長（横山知世志君）　鈴木議員。

○12番（鈴木繁明君）　結局なかなか返答がないというか、そういったお金のかかることで、できないということで、所在については分かって、住所があるから、調べておられると思いますけれども、やっぱり返答がなかったときにはどのようにやっているのか。そこで終わってしまったらばなかなか今度進まないわけであります。そういうことでありますので、その辺ちょっとその後どうしているのかということで。

○議長（横山知世志君）　建設水道課長。

○建設水道課長（加藤定行君）　返答が返ってこなかった方に関しましては、再度指導文書等をお送りいたしまして回答をお待ちしているような状況でございます。それも今後とも継続してやってまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（横山知世志君）　鈴木議員。

○12番（鈴木繁明君）　やっぱり追跡調査、あるいは訪問、面談をすることによって、危険な空き家の所有者と会えることができ、悩みを聞き出して、アドバイスや所有者の意向を確認することができると思います。その実施については、そういった訪問面談や追跡調査、その辺について伺います。

○議長（横山知世志君）　建設水道課長。

○建設水道課長（加藤定行君）　お答えいたします。

今現在所有者等の住所等は全てにおいてつかんでいるところでございます。それで、面談したいと思っているところなのですけれども、お会いできないという現状もございまして、なかなかそれには沿えないような状況でございます。

以上です。

○議長（横山知世志君）　鈴木議員。

○12番（鈴木繁明君）　先ほどシルバー人材センターと協定を結んでいるということで答弁があったのですが、それは固定資産税の中に通知を入れていて、それに対して空き家の所有者が個人的に申し込んでやっているということで、その辺のこと、ちょっと詳しくお願いします。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　お答えします。

先ほど説明、答弁いたしましたが、シルバー人材センターへのお願いというか、頼んでいる方については、当然空き家を所有されている方が直接シルバー人材センターのほうに申し込むというような形になっております。あともう一つは、町なり、先ほど申し上げましたＴＯＲＣＨのほうに相談があ

って、そちらから紹介するというパターンがございます。
○議長（横山知世志君）　鈴木議員。
○12番（鈴木繁明君）　危険な空き家は今まで15棟認定されていまして、12棟は除却されてということでよろしいですね。あと３棟が残っているということで、これからもその３棟に対しては指導を続けていくと思いますが、それぞれの指導文書の送付についてはどのようになっておるのか伺います。
○議長（横山知世志君）　建設水道課長。
○建設水道課長（加藤定行君）　議員おっしゃるように、特定空家に関しましては今現在３棟残っているような状況でございます。指導に当たる件数が今現在まで２件ほどございまして、今後も継続して指導のほうを行ってまいりたいと考えております。残り１件なのですけれども、指導の段階を通り越しまして今現在勧告というような段階に移って、新鶴地区なのですけれども、１回目の勧告をしたところでございます。
　以上でございます。
○議長（横山知世志君）　鈴木議員。
○12番（鈴木繁明君）　ちょっと分からなかったけれども、２件の方はどうなっているって。
○議長（横山知世志君）　建設水道課長。
○建設水道課長（加藤定行君）　今の段階でございますが、まだ指導の段階でございます。
　以上です。
○議長（横山知世志君）　鈴木議員。
○12番（鈴木繁明君）　段階的には、指導、それから勧告、それから命令というふうになるのですね。２番目の勧告だということで、ちょっとこの後、それよりも危険な空き家は小動物のすみかや雑草の繁茂や衛生面、景観の悪化など、地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼします。指導文書１件についてでありますが、勧告の文書を送付したということでありますが、その後の改善措置はどのようになっておりますか。
○議長（横山知世志君）　建設水道課長。
○建設水道課長（加藤定行君）　お答えいたします。
　今現在、勧告の文書を送付したのはごくごく最近でございます。その勧告の文書に関しましては、まだ回答が来ていないような状況でございます。
　以上でございます。
○議長（横山知世志君）　鈴木議員。
○12番（鈴木繁明君）　今は勧告だということでありますが、後々指導に移るのかなと思います。それでよろしいですか。
○議長（横山知世志君）　建設水道課長。
○建設水道課長（加藤定行君）　今現在、指導から勧告のほうに移ってまいりました。その次、命令

という段階になるようなことでございます。
○議長（横山知世志君）　鈴木議員。
○12番（鈴木繁明君）　ちょっと勘違いしました。命令に移るのかなということでありますけれども、そういったとき、勧告をして最大85日以内の措置の期間を設けるが、その期間まで履行されない場合は、本部会議の判断を仰ぎ、命令に移行するということになっておりますが、実施されない場合どのようなふうになっていくか伺います。
○議長（横山知世志君）　建設水道課長。
○建設水道課長（加藤定行君）　お答えいたします。
　続きまして命令になるわけなのですけれども、その命令に関しましても実施しなかった場合、周りにすごい影響等及ぼす場合、それに関しましては、行政代執行、または略式代執行という一番重いような段階に移ってまいりたいと考えております。
○議長（横山知世志君）　鈴木議員。
○12番（鈴木繁明君）　そうしますと、行政代執行になる可能性があるということで理解してよろしいですか。
○議長（横山知世志君）　建設水道課長。
○建設水道課長（加藤定行君）　そのような措置を取らざるを得ないような状況になると考えております。
　以上です。
○議長（横山知世志君）　鈴木議員。
○12番（鈴木繁明君）　ここで町長に伺いたいと思いますけれども、空き家に対する取り組み方の考え方、町長の考えを伺いたいと思いますけれども、よろしくお願いします。
○議長（横山知世志君）　町長。
○町長（杉山純一君）　お答えをさせていただきたいと思います。
　議員ご存じのように、我が町においても空き家対策は本当重要課題の一つだと私も認識をして、就任当初からこれに携わっております。かつて調べたときには500件を超える空き家があったものが、先ほど課長からの答弁もありましたように、空き家バンク、ＴＯＲＣＨという民間ですけれども、こういった方々が活躍をされていて、430件まで減っているという現状、これはしっかり町としてもいい方向に向かっているのだというふうに思っています。その中で、今議員がおただしのように、なかなか朽ち果てていくような空き家がこれから増えてくることになります。そういったときに、今課長答弁の中で行政代執行という話も出てきましたが、当然町の負担も出てくるという中にありますから、そうならないように町としては、今も所有者分かるものに対してはしっかり文書なりでやっているわけですけれども、それに応じない方がいるわけで、これに対してはなかなか難しいなというふうに私も実感しております。これからもどうしたらそういった問題を解決できるのか、よく協議をしながら、

一件でもそういった状況にならないように、町としても努力してまいりたいというふうに思っております。

○議長（横山知世志君）　鈴木議員。

○12番（鈴木繁明君）　ぜひそういうふうによろしくお願いします。

次に、２件目の廃棄物減量対策についてでありますが、一般廃棄物処理基本計画で、令和３年度から令和７年度までの後期５か年分を見直し、達成目標値を設定しましたが、総排出量については、令和３年度は6,638トンで、達成目標値の令和７年度は5,629トンとなっています。５年間で約1,000トン、１年間で200トンずつの減量目標になっています。まだ途中でありますが、目標達成については可能だと思いますか伺います。

○議長（横山知世志君）　鈴木議員に申し上げます。最後のほうちょっと語尾小さくなって聞こえなくなってしまうので、そこははっきりと。

○12番（鈴木繁明君）　まだ途中でありますが、目標達成については可能だと思いますか伺います。

○議長（横山知世志君）　町民税務課長、猪俣利幸君。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　それでは、ただいまのご質問にお答えいたします。

総排出量につきましては、自家処理される以外の資源ごみを含めた全ての排出量でございまして、選別収集等の取組により、町においては高い比率を維持しておりますリサイクル率の効果というものがほとんど反映されません。計画では、平成30年度の総排出量7,581トンから７年間で1,952トン、約４分の１の量を減量するというふうにしています。最終的に5,629トンと。４年度までの４年間で減少した量は830トンでございます。このごみをさらに７年度までの３年間で1,122トンを減らすことは非常に困難で、現状困難であると認識しておりまして、強力に啓発を進めていく必要があるというふうに考えてございます。

○議長（横山知世志君）　鈴木議員。

○12番（鈴木繁明君）　それでは、今目標に対してはなかなか難しいというようなことで受け取ってよろしいのですか。

○議長（横山知世志君）　町民税務課長。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　今後やはり有効な取組方法、いわゆるリデュース、先ほどおっしゃいましたリデュースでごみの発生抑制、それから再利用、リユース等によって排出量を抑えるというのと、あと生ごみ処理機によって自家消費を促すということで、やっぱりそういうような啓発をして強力に行って、目標は達成不可能な数字ではないというふうに考えてございます。

○議長（横山知世志君）　鈴木議員。

○12番（鈴木繁明君）　それでは、１人１日当たりの排出量の目標値について、令和３年度は957グラム、達成目標値の令和７年度は866グラムに設定されております。それに対して１人１日当たりのごみ処理にかかったお金についてでありますが、令和１年度が１万2,550円、２年度が１万3,350円、

３年度が１万4,060円と金額が上昇しています。令和４年度分については出ていますよね……４年度分についてはちょっと分かりませんが、上昇しているのかどうか伺います。

○議長（横山知世志君）　町民税務課長。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　ただいまのご質問にお答えします。

ただいま鈴木議員がおっしゃられた数字につきましては、恐らくごみ処理基本計画の９ページの処理費、ごみ処理経費という表とこの計画上の数字だと思いますけれども、実はこの計画の中には、この経費の中には、ごみ処理費の以外にも、し尿処理費も入ってございます。先ほど町長が答弁させていただきました経費につきましては、あくまでも全てのそういうような廃棄物の処理のうち、ごみ処理に係る経費を申し上げたものでございまして、その費用、１人当たりの経費を申し上げますと、令和３年度につきましては１人当たり9,700円、いわゆる１億8,000万円と先ほど答弁させていただきました。それを10月１日現在の現住人口１万8,573人で割りますと9,700円、令和４年度の経費につきましては１億6,500万円を10月１日現在の人口１万8,209人です、令和４年度。１人当たりの金額は9,100円というふうな金額になるところでございます。

○議長（横山知世志君）　鈴木議員。

○12番（鈴木繁明君）　今の数字は令和３年度のほうで言ったのですか。

○議長（横山知世志君）　町民税務課長。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　今、令和３年度が9,700円でございます。それから、令和４年度が9,100円でございます。

○議長（横山知世志君）　鈴木議員。

○12番（鈴木繁明君）　これ町の資料だと思うのですが、令和３年度は１万4,060円となっているのですけれども、数字的にはどうなのですか。

○議長（横山知世志君）　町民税務課長。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　申し訳ございません、そちらはどちらの資料に、計画書ではないのでしょうか。何の資料だかちょっと教えていただければ、幸いなのですが。

○議長（横山知世志君）　休憩します。

休　憩　　（午前１０時４６分）

再　開　　（午前１０時４７分）

○議長（横山知世志君）　再開します。

町民税務課長。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　その数字の内容を確認させていただきたいので、暫時休憩をお願いしたいと思います。

○議長（横山知世志君）　休憩します。

休　憩　　（午前１０時４８分）

再　開　　（午前１０時５１分）

○議長（横山知世志君）　再開します。

ここで11時10分まで休憩いたします。

休　憩　　（午前１０時５１分）

再　開　　（午前１１時１０分）

○議長（横山知世志君）　再開します。

答弁、町民税務課長。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　大変失礼いたしました。

それで、先ほど鈴木議員のお手元の資料でございますが、実際にあの資料については町のホームページに掲載しておりまして、私その辺ちょっと把握不足でございました。なお、その金額でございますが、その根拠となりますごみ処理に係る負担金の広域に係る負担金について、ホームページのほうの数字につきましては、やはりし尿処理に係る経費が約3,300万、それから後年度の公債費に充てる積立金ということで4,600万ということで、そのようなあくまでも広域に係る、広域に対する負担金総額を計上したものでございまして、純粋にごみ処理に係る経費を申し上げますと、令和３年度では9,500万程度になるということでございます。その結果１人当たりの経費は先ほど申し上げた３年度が9,700円、それから４年度が9,100円ということでございます。

○議長（横山知世志君）　鈴木議員。

○12番（鈴木繁明君）　総排出量、１人当たりの排出量は減少しております。にもかかわらず、かかるお金は上昇しているということで、その辺の理由といいますか、正当性について伺います。

○議長（横山知世志君）　町民税務課長。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　お答えいたします。

令和４年度に沼平の第３処分場が稼働開始されました。そのことによりまして、やはり令和４年度から公債費のほうが上昇しております。その結果、あと電気料等の高騰によりまして、ごみの処理経費がかなり、３年度、４年度ということでかさんでございまして、その結果１人当たりの経費が増加しているということでございます。

○議長（横山知世志君）　鈴木議員。

○12番（鈴木繁明君）　今３年度、４年度と言っていますが、これずっと平成26年から資料あるのですけれども、からずっと上がっているのですよね。最近のことだけ言いましたけれども、この辺について説明をお願いします。

○議長（横山知世志君）　町民税務課長。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　お手元の資料にもあるとおり、26年度からやはり……失礼しました。広域の負担金、償還金等の負担金の増加に伴いまして、やはり固定的な経費も負担金の中に含まれますので、その中で人口がかなり毎年300人から400人の間で減少しているということで、どうしても１人当たりの経費というものが上昇してしまうというような結果につながってございます。

○議長（横山知世志君）　鈴木議員。

○12番（鈴木繁明君）　それでは、次の点に移りますが、制服、ランドセル等については、町が行うリユース事業にはなじまないものと考えるということでございます。最近のランドセルは、強度と耐久性に優れ、６年間使っても簡単には壊れることはないような製品になっております。それで、ランドセルは使用済みのものでも寄附が可能であります。寄附されたランドセルは、世界の恵まれない子供たちに届けられるなど、国際協力をしている組織や団体があります。随時ランドセルを募集しているところもあるわけでありますが、こういうところがありますが、一応町としての考えはなじまないということでありますが、今言ったようなことで担当課長、その辺ちょっともう一回、考え方、お願いします。

○議長（横山知世志君）　町民税務課長。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　ただいまのランドセルの件でございますけれども、６年間使ってもやはりまた使えるような状態のものもあるということで、そういう品質の問題もございますが、この事業をそもそも運営するに当たりましては、通常業務と併せて対応が可能で、やはりそういうような保管場所、それから展示スペース、それから人材が必要であるということで、今現在ＮＰＯ法人に委託しているところでございまして、今実施している施設の設置目的に支障がないように、ロビーの一画で必要最小限やっている、やっぱりそういう場所的な問題もございますので、だから、ランドセルを展示する、保管しておくというようなまず場所がなかなか確保できないというところも一つの要因でございます。

○議長（横山知世志君）　鈴木議員。

○12番（鈴木繁明君）　了解しました。

以上で質問終わります。ありがとうございました。

○議長（横山知世志君）　これで鈴木繁明君の質問は終わりました。

ここで、次の質問準備のため、暫時休憩いたします。

休　憩　　（午前１１時１７分）

再　開　　（午前１１時１８分）

○議長（横山知世志君）　再開いたします。

次に、通告第２号、13番、根本謙一君。

〔13番（根本謙一君）登壇〕

○13番（根本謙一君）　それでは、私の通告してあることについて、ただいまより一般質問をさせていただきたいと思います。

まず、大きな１点目でございます。次代を担う人材育成プロジェクトについてでございます。このプロジェクトが我々に明示されたのは２年前、2021年10月です。５年間で成果を上げるよう強力に取り組むと述べております。具体的な取組のロードマップがありますが、スケジュールありきで性急的にはなってはいないか。来年４月開校、開始では特に保護者とのコミュニケーション不足の懸念はないのか。まず、進捗状況についての認識を伺いたいと思います。

さらに、以下についても所見を伺いたいと思います。まず、１点目、小中一貫教育といいましても、３地域においておのおの違う制度の類型であります。これまでの２年間において、地域住民、とりわけ保護者の理解と納得を得ているとは言いがたいと思っております。本郷地域保護者アンケート調査の結果からもうかがえると思っております。一番大事で肝要なところと考えることから、どのようにしてきたのか、先進事例等からしっかり学んでいるのか、現状認識はいかがか伺いたいと思います。

２点目、本郷地域教育施設等整備事業である義務教育学校、本郷学園の進捗状況について伺います。特に校舎連結問題はその後どのように進捗しているのか。

３点目です。高田、新鶴地域においても、令和６年４月より幼児教育と小中一貫教育を開始するとしております。議会に対しての詳細説明はいまだないと思っておりますが、保護者等に対しての具体的内容説明はどのようにしてきているのか伺います。

大きな２点目に参ります。本町の特別支援教育の現状についてであります。昨年の12月13日、有識者の新聞報道記事において、国連の障害者権利委員会は、2022年９月、日本の特別支援教育を分離教育だと指摘し、中止を勧告したとありました。人権問題だとしております。障害者権利条約の定めるインクルーシブ教育とはどんなもので、日本の特別支援教育のどこが問題とされたのか、教育長のご認識はいかがなものか伺いたいと思います。そして、その認識を踏まえられての本町における特別支援教育の実情、実例について、問題意識、課題はないのか、差し支えない範囲で所見を伺いたいと思います。

次に、大きな３点目に参ります。あやめ苑再生計画の総括と今後についてであります。あやめ苑は、昭和51年頃から植え始められたと町広報2010年６月、55号で知りました。水辺に咲くカキツバタができたばかりの公園にとても似合っていたからと言っております。先達は、多くの人に見てもらうため、失敗の許されないアヤメ栽培を心がけても、自然が相手でうまくいかないときもあった。栽培する上では連作障害や病害虫、雑草の問題も大きかったが、一番の課題は、あやめ祭りが終わった後の植え替え作業でしたと言っております。そして、平成６年に苦心研究の末マルチ栽培にたどり着き、平成７年の全国市町村あやめサミットがあやめ苑で開催され、それまでの苦労に応えるようにアヤメの花は最高に咲き誇りました。美しく咲いた花が一番の喜びと回顧しております。今年は47年目になります。

さて、今年度、令和２年１月から令和６年３月までとするあやめ苑再生計画の最終年に当たり、本年のアヤメの咲きぶりはいかがだったのか。芳しくない声しか聞こえてきておりません。所管としての総括はきちんと行わなければなりません。私は、今までに幾度となく、先達の情熱と知見の継承によるあやめ苑の充実と先進事例に学ぶ管理の徹底を訴えてまいりましたが、町長はどのようなビジョンを持たれているのか、問題意識はどうなのかを所見伺いたいと思います。

よろしくお願いします。

○議長（横山知世志君）　答弁、町長、杉山純一君。

〔町長（杉山純一君）登壇〕

○町長（杉山純一君）　13番、根本議員の一般質問にお答えいたします。なお、次代を担う人材育成プロジェクト及び本町特別支援教育の現状につきましては、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

あやめ苑再生計画の総括と今後についてでありますが、まずあやめ苑の再生計画の総括につきましては、令和２年１月に策定したあやめ苑再生計画は、近年の異常気象や連作障害等により衰退したハナショウブ株を再生することと、再生後も持続できるよう栽培管理の構築を図ることを目的に策定したところであります。そのあやめ苑再生計画に基づき、令和２年度及び３年度には専門事業者へ肥培管理の委託、あやめ苑全体の土壌改良、不足した株の植付け等を実施したところです。令和４年度に当町で開催された全国あやめサミットにおいては、その成果が実り、ハナショウブが美しく咲き誇ったと認識しております。計画の最終年である今年度におきましては、令和２年度に全面的に植え付けた株が４年目を迎えたことによる連作障害と著しい気候変動の影響が、来園された方々から咲きぶりが芳しくないとの声となった原因であると考えております。今年度先達の知見を再確認した上であやめ苑維持管理計画を新たに策定したところであり、今後につきましては、あやめ苑維持管理計画に基づき、公園管理指導員を中心に関係機関等と連携をより一層強化して、来苑した方々に楽しんでいただけますよう、維持管理に努めてまいります。

私からは以上でございます。

○議長（横山知世志君）　答弁、教育長、歌川哲由君。

〔教育長（歌川哲由君）登壇〕

○教育長（歌川哲由君）　13番、根本議員の一般質問にお答えいたします。

初めに、次代を担う人材育成プロジェクトについてでありますが、１点目の進捗状況につきましては、次代を担う人材育成プロジェクトの施設整備以外の教育内容等の取組については、地域での説明会、保護者への説明会、学校から保護者への説明を行い、保護者の理解を得ながら、ロードマップどおりに事業が進んでいるものと認識しております。

次に、１点目の１つ目、小中一貫教育につきましては、保護者への説明経過と先進事例については、小中一貫教育はよりよい学習環境へと改善を図るために行う教育制度であり、本町では中学校区ごと

に１つの学校運営協議会を設置していることから、より実施しやすくなるものと認識しております。保護者への説明は、高田、本郷、新鶴の各地域で行ってきたほか、学校運営協議会における地域の方との協議や学校の保護者会において各校長より説明を行っており、今後も丁寧な説明を行っていくことで保護者のご理解と納得が得られるものと認識しております。さらに、広報「あいづみさと」令和５年８月号において、小中一貫教育の記事を掲載し、広く町民の皆様にお知らせしたところであり、理解につながっていくものと期待しております。また、本郷地域においては、義務教育学校の設立に向け、一般公募の方を含めた検討委員会を設置し、協議を重ねるとともに、保護者への説明会を２回行ってきており、質問やご意見をお受けすることを周知し、保護者の不安や疑問に寄り添った体制づくりに努めてきております。１度目の保護者会でのアンケートでお寄せいただいた不安や疑問について、２度目の保護者会で丁寧に説明したことから、保護者の皆様のご理解が進んでいるものと考えております。先進事例につきましては、先進地の情報収集に加え、特に本郷地域のように統廃合を伴わずに義務教育学校化している県内の先進校を視察し、本町にふさわしい学習環境づくりに生かしているところであります。今後も保護者や町民のご理解を深めていただけるよう、小中一貫教育の制度の啓発に努めてまいる考えであります。

１点目の２つ目、本郷学園の進捗状況につきましては、令和４年10月６日に本郷地域教育施設等整備検討委員会を立ち上げ、現在まで計６回開催してまいりました。その中で、教育理念、目指す子供像、校名、校章、校歌等について検討を重ね、アンケートや保護者説明会等でいただいたご意見も参考にしながら協議し、教育理念、目指す子供像、校名、校章、校歌の歌詞を決定し、校歌の作曲を依頼しているところであります。また、施設整備につきましては、９年間の教育課程を見据え、最大限の教育効果が発揮できるよう、校舎の利用方法も含め、検討を重ねており、現段階では本郷中学校の校長室及び職員室を本郷学園の開校に向け、改修したところであります。本郷小中学校校舎の連結につきましては、連結の前提条件となる２つの校舎の間にある道路の学校用地化に向け、周辺自治区と協議を進めております。具体的には、６月中旬に該当となる自治区長に対し、道路の学校用地化に関する趣旨を説明するとともに、７月23日に対象自治区の住民の方々に対して地区説明会を開催し、道路の学校用地化の必要性と方法等についてご説明させていただいたところです。説明会の中で十分なご理解をいただけなかった方々には個別に訪問させていただき、内容を詳細にご説明申し上げ、ご理解をお願いしたところです。義務教育学校は、校舎一体化が開校の必須条件になるわけではございませんが、子供たちにより安全、安心な教育環境を提供するため、引き続き周辺地区の方々のご理解を得るべく、丁寧に進めてまいりたいと考えております。

１点目の３つ目、高田、新鶴地域への小中一貫教育における保護者への具体的説明につきましては、全ての小中学校において年度初めのＰＴＡ総会や保護者会で、各校長より資料を基に小中一貫の意義や体制、教育活動について説明しているところであります。また、学校によっては１学期末の保護者会やＰＴＡ役員会、学校だより等で小中一貫教育に係る内容について説明しております。なお、議会

に対しましても、今後詳細な説明を行っていく考えであります。

次の本町特別支援教育の現状についてでありますが、１点目のインクルーシブ教育につきましては、子供たちの多様性を尊重し、障がいのある、なしなどにかかわらず全ての子供を受け入れ、誰も排除しない教育であることが障害者権利条約に規定されていると認識しております。また、日本の特別支援教育の問題とされたのは、障がいのある子供と障がいのない子供を分離して教育を進めてきたことであり、私も同様の認識であります。

２点目の本町の特別支援教育の問題意識や課題につきましては、障がいの内容や程度により、その子供の特性に合わせた最適な学習環境とするためには、学校やこども園における施設改修などの環境整備が必要になることや、医療的ケアが必要な児童生徒の就学に当たっては、看護師や支援員の確保が課題であります。なお、支援が必要と思われる児童生徒の就学先については、校長の意見や保護者の意見、障がいの状況、検査結果等を基に、当該児童生徒の授業参観を行った上で、医師や学校関係者などで構成している教育支援委員会において適切な就学先の検討を行い、その結果を受けて町教育委員会としての就学先を決定しております。その後、就学先を保護者へお伝えし、保護者の判断により就学先を決定しております。今後も児童生徒の実態把握に努め、児童生徒本人と保護者の意思を最大限尊重しながら、インクルーシブ教育の環境構築に努めていく考えであります。

私からは以上でございます。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○13番（根本謙一君）　それでは、通告の順序に従いまして再質問をしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

まず、１点目の次代を担う人材育成プロジェクトについてでございます。つまりここで答弁としては、ロードマップどおりに事業が進んでいるものと認識。この７月に常任委員会として信濃町に研修に行ってまいりました。そこで、義務教育学校の現状、あるいは先駆的な取組をやっているということで行ってまいりました。そこは、施設を新たに造って一体化して進めているということなので、あながち全てが美里町に参考になるかといったら、そうはいかないところも一応踏まえてお尋ねしたいと思いますけれども、そこでびっくりしたのは、長野県で一番初めに義務教育学校になったのです。それも一貫教育にも取り組んで、４年後に義務教育学校になった。これが平成24年に小中学校開校しまして、28年に義務教育学校に移行したということ。そこで、大変カルチャーショックを受けてきましたのは、そこに小中学校一貫教育に入る前に８年間かけて、住民合意を得るためのコミュニケーション取りがすごいのですよ、中身が。８年かけて50回以上、60回近く重ねて、住民が納得して分かったというのを確認できるまでやっぱり進めなければいけないと思ったのです。それも私も理解できるのです。なぜかというと、長野県は住民自治が進んでいるところなのですよ、その意識が高いところで。ですから、そういう環境もあり、土壌もあっての取り組み方だなというふうにうかがい知るのですけれども、振り返って我が町を見たときに、当初この説明を受けたときは、５年でこんなにとんと

ん、とんとんといけるのだというふうに思っておりました。あの当時の教育長の説明で、このロードマップ、５年間ですけれども、時間的には大変ぎりぎりで厳しいというようなお話も伺った記憶あります。ここにメモ書きありますけれども。

そういう中で進められてきていることを、特に保護者とのコミュニケーション取りどういうふうにするのかな、理解をどう得ていくのかなというところ、特に注目して見ていましたけれども、私の資料によりますと、令和４年５月にこのプロジェクトの説明会を保護者の皆さんにされています。80名の出席でした。その後見ますと、令和４年10月12日に本郷地域の義務教育学校設立保護者説明会ということで地域の方限定でやられています。これが30名の出席でした。ここでアンケート調査の説明もされています。その後、このアンケート結果の説明を第２回として令和５年１月11日やられております。問題はこの後なのですよ、問題は。あれだけのまだまだ理解、そもそもからして、それからメリット、デメリットも含めて十分な理解があるとは思われない、アンケートが出てきていたにもかかわらず、その後どうしたのかなというところが私は問題視しております。アンケートに対する回答もしっかりされていますけれども、それで、もうこれで十分だと思ってもらっては私は困ると思っています。私にとってもまだまだ十分な理解を持っているとは思っておりません。この後のフォローが一番大事だと思っています。だって出席者がこれだけですよ。アンケートの賛成者が60％と出てきておりますけれども、それを基にして理解が進んでいるというような考え方で進めるのはいかがなものかなというふうに思っております。なぜならば、地域とともにある学校づくりをこれからしていこうということでしょう。ですから、皆さんは理解が早いのですよ、進めるほうですから。問題は町民、特に保護者だと私は思っております。その辺で私は不十分な部分がないですかというところを言いたいのです。昨日も小中学校の校長先生にお会いしてお話を伺ってまいりました。確かに情報発信の部分で、学校側としても少し不足していたなという思いも吐露されておりました。それを私はやゆするつもりも、責めるつもりもありませんけれども、やはりもう少し密に、この５年間のロードマップで進めたいのならばなおさらのこと、もっともっと住民に情報提供して、これでもか、これでもか、なぜここまでするのかということ、それは地域とともにこれからの学校をつくっていくのだ、それは子供たちのためであり、地域の未来のためだ。それをどうして語らないのですかというところを私は教育長に問いたい。よろしくお願いします。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

確かに議員ご指摘のとおり情報提供というのが本当に丁寧に、丁寧に、もっともっとやればやるほどよかったなという思いはございます。ただ、例えば本郷地域の昨年10月に行いました第１回の保護者説明会の際に、事後のアンケートで様々なご意見、ご質問いただいております。ここには、議員もおっしゃったとおり、丁寧に回答させていただいてホームページにも掲載しております。それを受けまして、今年１月に実施しました第２回目の保護者説明会では、第１回目に私がちょっと事情ができ

て参加できなかったものですから、義務教育学校の必要性とか、特徴とか、メリット、デメリットも含めて丁寧に説明をさせていただきました。そして、担当からアンケートのご質問に対する答えも説明させていただきまして、今後とも教育委員会のほうに遠慮なくご意見をいただきたいというふうにも申し上げてまいりました。実際ご意見はほとんどいただいておりませんけれども、その２回目の説明会の中で参加された保護者の方々から出たご質問等につきましては、義務教育学校の制度そのものについてのご質問は全くございませんでした。関心は何かというと、義務教育学校ができた後の例えば学校行事どうするのですか、修学旅行や卒業式はどのようにやりますか、制服はどうなりますか、転校生が出た場合にはどうされますかとか、そういう具体的な質問が非常に多かったわけでございます。ですから、私は、義務教育学校の制度そのものの説明を十分にこれから繰り返していくというフェーズはもう大体終わってきたのかなというふうに思っております。ただ、今後学校を中心にしながら、今小中学校の教職員で様々な協議を重ねて、来年度の教育課程、カリキュラム、それから校務の改正等を整えるように進めておりますけれども、そういう具体的なものが決まった段階での説明はどんどん続くと思います。教育委員会としましては、そういう保護者の皆様を交えた具体的な説明の機会にも顔を出しながら、学校とともに丁寧な説明を今後も尽くしていきたいというふうに思っているところでございます。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○13番（根本謙一君）　教育長はそうおっしゃいますけれども、学校の適正配置、適正規模の検討委員会がありますね、あの中でも同じようなことをおっしゃっています。説明したけれども、その後いつでもご質問ください、問合せくださいと言ってもなかった。ないからこれで理解されたと思うのはそちら側だけです。分からないけれども、どう質問していいか分からないというのが私は普通の感覚だと思います。私らだってそうですよ。これ質問するというのは大変勇気も要るし、そんな簡単なことではないのです。そういうふうに考えますと、やはりキャッチボールが私は大事だと思います、キャッチボールが。あのとき答えましたよね、それでその後何も質問されませんでしたよね、だから理解されたと思っていましたって、そんな簡単なこの大改革では私はないと思っています。ですから、丁寧に進める、丁寧に説明をするというのは、私はそういうことではないと思っている。いわばキャッチボールは何回もやる。そして、理解者を、あるいは納得者を70％、80％、あるいは90％、100％を目指して回を重ねる、あるいは学校を通じてでもいいです。それは方法論はいろいろあると思います。それが私は不足していると。私は、先進事例でこういう分かりやすい家庭に配布しているところありますよって、多分前言ったことあります。これも参考にされたらいかがですか。私らが町でいただいているこのペーパー、２ページ余りの、これとは全く違いますよ、内容。本当に分かりやすく出ているのです。普通の町民の方でも、ああ、なるほど、だからこういう取組するのだ、義務教育一貫教育が必要なのだというところ、本当に理解しやすくできている。こういうのをぜひ出してくださいねって、町民向けにも。だって地域の理解なしには、地域と共にあるなんて絵に描いた餅になりませ

んかというところです。この私の問題提起にはいかがお感じになりますか。
○議長（横山知世志君）　教育長。
○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。
　確かに議員おっしゃるとおりキャッチボールをしながら周知を図っていく、ご理解いただくというアクションは大変大事だというふうに思っております。先ほど申し上げましたとおり、教育委員会として制度そのものの説明を主に説明会を催すフェーズよりは、学校がより具体的なものを決めながら説明をしてご理解を深めていくという段階に私は移ってきていると思いますので、そこを教育委員会としても全力で支援してまいりたいというふうに思っております。言葉だけではなかなか理解していけないものもありますので、例えば過日行われた小中合同運動会であったり、それから来月初旬に行われます美化活動、本郷の地域住民と一緒にやるような計画があるようでございますけれども、そういうアクションの中で町民と一緒に協働的に活動していただくことによって、もっともっと深い理解を深めていくというのが私は大事かなというふうに思っております。そういうふうな取組を今後も続けながら、ご指摘いただきました地域と共にある学校づくりというのはやっぱり地域住民と一緒にアクションをすることによってつくられていくものだというふうに私は思いますので、そのところにも今後力を入れていきたいなというふうに考えておるところであります。
○議長（横山知世志君）　根本議員。
○13番（根本謙一君）　教育長そうおっしゃいますけれども、私はそのまま素直に受け止められない。やっていることはそこから私はずれていると思っています。どれだけ町民と皆さんが関わりましたかというところで、私は不足していると思っております。確かに、なった後どうなるのだと、そこに移っている。昨日校長先生方とのお話でもその話が出ました。学校では、学校だよりの中で情報発信もまめにしていくようにしますと、やっぱり各戸配布ですよ。ホームページに載せてあるとかなんとかと、それで情報発信した、分かってもらえる手段を取った、そういうことでは私はないと思っていますので、もう少し本当に丁寧さで進めていただきたいなというふうに思っております。教職員の方々も何回か小中の合同会議を持たれて意思疎通を図って、一体感醸成のために努力されていると話も伺ってきました。いい雰囲気で進もうとしているというのもうかがい知りましたので、少しほっとはしてまいりましたけれども、全ては子供のためであり、地域の未来のためですから、そこはもう少し密にコミュニケーション取りをやっていただきたい。そして、高田、新鶴地域のほうですけれども、併設型と、それから連携型になるわけですよね。ですよね、一貫教育で。その説明会は、このプロジェクトの説明会の後に学校通じていろいろ発信されているということでよろしいですか。
○議長（横山知世志君）　教育長。
○教育長（歌川哲由君）　先ほど答弁させていただいたとおりでありますので、学校を通じて、教育委員会が作成しました説明資料を基に、校長のほうから保護者の方に何度か説明をさせていただいているところでございます。

○議長（横山知世志君）　根本議員。
○13番（根本謙一君）　学校からの説明でいいと、それでよろしいのではないかなというところですか。教育長自ら行ってお話ししてくる、どうしてこういうことをするのかということを含めて。私は、それが非常に大事だと思っているのですけれども、その辺の考え方はいかがでしょう。
○議長（横山知世志君）　教育長。
○教育長（歌川哲由君）　コロナ等の影響で、直接出かけて大勢の保護者の方の前でご説明する機会がなかなか得られなかったということはございますけれども、今後学校で開かれる保護者会等の機会を得ながら私からも説明してまいりたいというふうには考えております。
○議長（横山知世志君）　根本議員。
○13番（根本謙一君）　どうしてくどく言うかというと、来春開校なんでしょう、移行なのですよね。もう半年ですよね。ですから、大丈夫なのと、それは走りながら整えていくというのも、それは可能なのかもしれませんけれども、そんな進め方で本当にいいのですかって、学校のやることだ、教育委員会が、町が進めているのだからというところで受け入れざるを得ないのは町民です。そういう中で、この本当に半年ぐらいの間で、機会があればなんてということで、コロナ禍のこともあまり理由にはしないで、私はしっかりまず早めに町民に語りかけていただきたい、保護者に、いかがでしょうか。
○議長（横山知世志君）　教育長。
○教育長（歌川哲由君）　来年度の小中一貫教育への移行については、高田地区、新鶴地区におきましても、学校運営協議会を中心に今教育の理念であったり、どのような教育目標を設定するかだったり、具体的な教育課程の骨になる部分、骨子の部分をつくり上げているところでございます。そこを皆様方に周知しながら私どもも、教育制度が大きく変わるだけではありませんが、特に小学校高学年の教科担任制や、１年生から中学校３年生までの異学年交流だったり、様々な形で子供たちの教育活動に変化が表れますので、そういうことについても私から説明する機会を得ていきたいというふうに思っております。
○議長（横山知世志君）　ここでお諮りしたいと思うのですが、間もなく昼食の時刻となりますが、根本議員の質問が終わるまで延刻したいと思いますが、よろしいでしょうか。
〔何事か言う人あり〕
○議長（横山知世志君）　それでは、再度お諮りします。
１問目が終了するまで延刻したいと思いますので、ご理解ください。
根本議員。
○13番（根本謙一君）　議長、１問目というのは大きな１問目ということですか。
○議長（横山知世志君）　はい。
○13番（根本謙一君）　それでは、分かりました。
いずれにしても、そういう会を、説明会を開いても、やっぱり出席率はそんなに上がらないと思い

ます、いろいろ見ると。ですから、ペーパーでしっかり各戸に配布していただく、特に保護者のほう、これはぜひやっていただきたいと思います。

次に、本町の特別支援教育の現状について参ります。

〔何事か言う人あり〕

○13番（根本謙一君）　ごめんなさい。そうか、失礼しました。

○議長（横山知世志君）　ここで、昼食のため午後１時まで休憩いたします。

休　憩　　（午前１１時５６分）

再　開　　（午後　１時００分）

○議長（横山知世志君）　休憩前に引き続き一般質問を再開します。

根本議員。

○13番（根本謙一君）　午前中に引き続いて続けます。議長にちょっと許可もらいたいのですけれども、１問目、１点目にちょっと戻って、１点だけ伺いたいことがございますので、よろしいでしょうか。

○議長（横山知世志君）　はい。

○13番（根本謙一君）　総合教育会議の議長である町長、今先ほどいろいろやり取りいたしました。私も問題提起しました。そのことをやり取りを伺っていて、町長の教育総合会議の議長としての感想を伺っておきたいと思います。町民に対して含めて。

○議長（横山知世志君）　根本議員、それは通告していないでしょう。

○13番（根本謙一君）　通告していません。していないけれども、最高責任者として……

○議長（横山知世志君）　それは許可できないですね。

○13番（根本謙一君）　分かりました。今のところ素直に受け取っておきます。

では、次に参ります。２点目です。本町の特別支援教育の現状についてというところで４点ほど伺いたいと思います。答弁の中で、認識はそのとおりでそのままなので、そのまま持っておられるということからして、中ほどに、その子供の特性に合わせた最適な学習環境とするために、これ２点目の答弁になります。学校やこども園における施設改修など云々とあります。医療的ケアが必要な児童生徒の指導に当たっては、看護師や支援員の確保が課題であります。現状的には、ちょっと耳に挟んだことあるのですけれども、医療行為、看護師資格の方が１人支援員としてついておられるという話なのですけれども、現状はどうなのでしょうか。差し支えない程度でお願いします。

○議長（横山知世志君）　こども教育課長、渡部雄二君。

○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまのご質問でございますが、現在こども園において医療的ケアが必要なお子さんがいらっしゃいまして、その方の、その子供の方の対応として看護師を配置しているところでございます。

○議長（横山知世志君）　根本議員。
○13番（根本謙一君）　分かりました。しっかりそういう対応もされているということが確認できました。
　２点目ですけれども、いわゆる支援が必要と思われる児童生徒の就学先についてでありますけれども、この検討する教育支援委員会というのがございますね。それに基づいていろいろ調査しながら検討されていると。最終的には保護者の方の判断によって決定していくのだという答弁になっております。今までの中で問題点として、全てが円満にいっているというような形になっているのか、いろいろまた反省点など、あるいはそれに基づく課題としては何かあるのか、そのようなところを伺えればと思います。
○議長（横山知世志君）　こども教育課長。
○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまのご質問でございますが、答弁の中におきましても、まず学校への意見に保護者の方の希望、それを聞きながら委員会の中で判断をしまして、保護者の方に決定事項をお伝えしているような流れでやっておりますが、確かに事前の保護者の方の希望とこの委員会での決定に違いがあるような場合、なかなか、我々は丁寧に説明はさせていただいているところでございますが、表面上保護者の方、了解しましたというようなことで当然ご理解をいただいているというふうに理解はしているのですけれども、中には完全に決定を、その決定について100％満足しているという保護者の方がいらっしゃらないようなケースもあったのかなというふうには把握しているところでございます。
○議長（横山知世志君）　根本議員。
○13番（根本謙一君）　100％ではない場合についてはどのような対応をされていますか。
○議長（横山知世志君）　教育長。
○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。
　今課長が答弁申し上げたことに加えまして、特別支援教育の教育環境で一番問題になるのは、就学先を決定してそこに就学した後、年度途中にやっぱり体制が合わないとかということで措置替え、これは人事配置の都合上、県の教育委員会の指針として、年度途中の措置替えはできないことになっております。ですから、その年は何とか工夫しながら、そのお子様の教育環境を個別最適になるように調整しながら進むしかないという現状でございます。次年度に向けての教育支援会議の中で、委員会の中で、再度検討しながら、そのお子様の状況を見ながら最適な就学先の提案を申し上げていくというふうな状況でございます。
○議長（横山知世志君）　根本議員。
○13番（根本謙一君）　分かりました。そこは丁寧に進めていただきたいなというふうに思います。保護者としては行政からいろいろ提供された中で、できればという、そういう思いの中でも、仕方ないなと受け入れざるを得ない状況もあるやにも伺います。私がこれに関心持ったのは新聞のこれを読

んでからです。国連からの勧告が出されたという中身の中で、文科省でもしっかり特別支援教育についても取り組むように言ってきているということからすると、実態的には真逆な状態があるのではないかなという問題意識であります。振り返って本町の在り方の中で、地区に入って事例も知ることができました。そういう中で、この機に至っていろいろ町がしっかり対応してくださっているような話も情報として入ってきておりますけれども、そこは、プライバシーにあまり触れないようにして、確認だけ、向き合い方の確認だけはさせていただきたい。今の年度途中ではできないので、来年度に向けてしっかり対応していくということの答弁でありましたけれども、そのとおり受け止めてよろしいですね。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

おっしゃったとおり子供たちにやっぱり最適な環境を提供するというのが特別支援教育の最大の狙いでございますので、様々な条件はありますけれども、その条件の中で最適な環境が提供できるように検討してまいりたいというふうに考えております。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○13番（根本謙一君）　よく使われる言葉ですけれども、ご家庭、あるいは本人、親御さんにしっかり寄り添って、ここに答弁にも書いてありますように、児童生徒本人と保護者の意思を最大限尊重しながらということであります。インクルーシブ教育の環境構築に努めていく考えであります。美里町すごいぞという状態をしっかりつくっていけますように取り組んでいただきたいなというふうに思います。それで、これは終わりたいと思います。

次、あやめ苑に参ります。３点目です。あやめ苑再生計画、見る限りではしっかりできている。でも、結果的には今年度芳しくなかったという反省ですから、この反省の中に、いろいろありますけれども、結局業者任せでは駄目だということです。いろいろ方法やっています。そのとおりやっていいのですけれども、問題はそのやり方と、あとどんなものを使ったかとか、土壌改良にどういうもの使ったか。堆肥は自分でつくれって言っています、先達は。買ってきては駄目だと。それから、水くれにしてもどういうふうにしているか分からないけれども、やっぱり上からまかないと駄目だと、スプリンクラーが理想的だということも含めて、自然相手ですから、いろいろあります。よその事例も見れば、どうすればいいかなというのはすぐ、いろいろ参考になることいっぱいあるはずですので、この維持計画の中身、少し詳しく教えてください。

○議長（横山知世志君）　建設水道課長、加藤定行君。

○建設水道課長（加藤定行君）　ご質問にお答えいたします。

あやめ苑再生計画の反省点を踏まえ、あやめ苑維持管理計画を策定いたしました。あやめ苑再生計画の中では、どうしても４年目を迎えて連作障害等、もしくはハナショウブの衰退等が起こってしまったという現状を踏まえまして、あやめ苑の中を３年、３分割にしまして、連作障害等が発生しない

４年目を迎えないような計画でもって策定したところであります。あやめ苑内を全て３分割にして１年ごとに全て３年内で維持管理を行った上で、それをさらにまた３年、３年で繰り返した上で維持管理を行ってまいりたいというふうに考えているところです。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○13番（根本謙一君）　その３年サイクルはいいと思うのですよ。前は４年サイクルだったりしていたので、３年サイクルはいいのですけれども、問題は誰がやるか、どんなものを使ってやるか、それから苗も含めてですけれども、時期を咲かせるにはこういう苗がいい、あるいは北のほうでできた苗のほうがいいとかあるのですよ、いろいろ聞くと。そういうことを含めてしっかり対応できる人が必要なわけです。新しい人で二、三年ですぐできるわけではないと思います。土も含めて一からちゃんと作り直してほしい。今までのやり方、600万近く業者使ってやってきたわけですよ、計画。それで今年ですよ。これは本当に残念至極です。幸い去年のサミットでうまくいきましたかもしれませんけれども、それでも私から見たら寂しかった。そこの認識を伺いたいと思います。

○議長（横山知世志君）　建設水道課長。

○建設水道課長（加藤定行君）　お答えいたします。

先達からのいろいろ知見等を継承して、昨年度より公園管理指導員を採用したところです。採用した公園管理指導員に対し、またさらなる指導を賜った上で、今後ともプロパーとして育てた上での管理を行ってまいりたいということが１つでございます。もう一つなのですけれども、堆肥関係の話出ましたが、今まで買ったものでの堆肥等、肥料等でやっていたのもあった関係上、今後堆肥等も考慮した上で検討してまいります。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○13番（根本謙一君）　あやめ苑を作られた、手がけた本当に先達が元気でおられるようですから、いろいろ教えを請うのは今ですよ。この際にしっかりそういう情熱をちゃんと引き継げる体制にして取り組んでもらいたい。体制ですけれども、建設水道課が関わってはいけないと私は思っていない。でも、よその事例を見ると、やっぱり商工観光課なのです。見てもらわなければならないから、やっぱり思い入れが違うというのかな、所管的にこれは、私はそうあるべきだと思っているから、以前から言っているのですけれども、皆さんのご苦労は分かりますよ、一生懸命やってくれているのは。でも、よその事例を見るとそれが一番やはりフィットする形ではないか、管理、それから見てもらうという一連の流れで、総括的にちゃんと管理していけるということからすると。その辺の考えを伺っておきたいと思います。これは町長から。

○議長（横山知世志君）　副町長。

○副町長（佐々木吉一君）　今ほどあやめ苑の管理、ほかの自治体では商工観光系で行っているというようなお話ですけれども、うちのほうの町の公園の部分の所管が建設水道課になっておりまして、

そのままずっと昔から建設水道課で管理してきたという経緯はあるわけなのですけれども、ただ、今その上物といいますか、アヤメ、ハナショウブ、その部分はやはり観光客相手だというところは十分に加味しながら、ただ、今すぐここでどうこうとは言えませんけれども、今後の課題として検討させていただきたいと思います。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○13番（根本謙一君）　職員の皆さんは変わりますよね、変わっていきますよね。確かに専門員をつくられたと、その方がある程度作ると。その方が所属するところが継続的に責任を負えるような体制がないと私はうまくいかないと思っていて、そこがポイントだと思うのです。ただ、今の体制の中では人がころころ、ころころ変わる中で、担当者が。うまく来ていないわけですから、ここに来ては。それも先達心配しているところなのです。もう心配ないようにしてもらいたいという話、当然だと思います。50年近く経つあれで、観光にも打って出るというわけですから、そこはしっかり検討するということで受け止めてよろしいでしょうか。

○議長（横山知世志君）　副町長。

○副町長（佐々木吉一君）　根本議員おっしゃるとおりだと思います。今まで本当お一人の方が一生懸命苦労して、当初からあやめ苑完成までやってきて、きれいな花を咲かせていただいたという経緯がございました。それに対して、高齢で体があまり言うこと利かなくなったということで、新たに若いと言うと語弊がありますけれども、職員にお願いしている部分、新たに職員お願いしている部分ございますけれども、やはりその経験値というものをいかに引き継いでいくかというのが本当に重要だというふうに考えておりますので、そこは今現在の管理している職員の方に十分にお願いして、一日でも早く先人の域まで達せるような形で引き継いでいただきたいというふうに考えております。あとは所管の部分については、やはり先ほども申し上げましたけれども、ちょっと時間をいただいた中で検討させていただきたいと思います。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○13番（根本謙一君）　最後にします。

ここに答弁に町長のビジョンが載っていないのです。私はビジョンを伺ったはずです。あやめ苑に対するビジョン、町長はどんなふうにお持ちになりますって、ビジョンを、それをぜひ披瀝していただいて私の質問を終わりたいと思います。

○議長（横山知世志君）　町長。

○町長（杉山純一君）　お答えをさせていただきたいと思います。

ビジョンというご質問でございます。この高田のアヤメは、本当先達の方が苦労をしてここまで育て上げたあやめ苑でありますから、私としても今後もこのアヤメ、その時期、時期に他のアヤメに負けないような花づくりといいますか、それに向けて行っていきたいと。先達も高齢になっておりますから、今の指導員もあやめサミットに向けていろいろと指導していただきましたけれども、まだまだ

引き継ぐべきところがあると思いますので、今のうちにその指導員がしっかり受け継げるようなことを私からも指示させていただければというふうに思っております。

以上です。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○13番（根本謙一君）　終わります。

○議長（横山知世志君）　これで根本謙一君の質問は終わりました。

ここで、次の質問の準備終了するまで暫時休憩いたします。

休　憩　　（午後　１時１９分）

再　開　　（午後　１時２１分）

○議長（横山知世志君）　再開します。

次に、通告第３号、６番、長嶺一也君。

〔６番（長嶺一也君）登壇〕

○６番（長嶺一也君）　６番、長嶺一也でございます。通告に従い、質問させていただきます。

まず、町職員の働き方改革、併せて休暇制度についてお尋ねします。町職員の定員につきましては、定員適正化計画の普通会計職員を見ると、合併時の平成17年の269人を令和９年４月には188人へと81人削減することとされております。コロナ禍、地域住民ニーズの多様性、ロシアのウクライナ侵攻等に伴う社会情勢の急激な変化などに対応するため、町職員の業務負担は増加の一途をたどっているのでは、年次有給休暇等も十分取得できないのでは、メンタル面で病んでいる職員もいるのではと心配しております。そのような中であっても定員を削減する計画となっており、その対応として会計年度任用職員の雇用、アウトソーシング、業務システムなどを活用し、職員の業務負担軽減を促進していくことと思います。そこで、以下お尋ねします。

①、定員が減っている中、コロナが全国に蔓延した令和２年度から令和５年６月までの職員１人当たり月平均の超過勤務時間の実績を尋ねます。

②、いわゆるイクボス推進に係る男性職員の育児休業の取得実績についてですが、直近の令和４年度における対象者数、取得者数、平均取得日数及び子の出生後１年以内に１か月以上取得した職員数の状況を尋ねます。

③、地域貢献活動休暇についてですが、創設する考えがあるのか尋ねます。

④、公務員の兼職、副業については、地方公務員法第38条の規定で原則禁止されておりますが、任命権者の許可を受ければ兼業は可能である規定となっております。農家の高齢化が進み、担い手不足の中、公務に支障が生じない範囲で兼業を許可する自治体があります。兼業は、職員の現場主義意識の向上、地域の課題解決に取り組む姿勢を示すこと、地域課題を直接感じて今後の施策策定へとつながるメリットもあると思っています。そこで、本町でも本制度を創設すべきと考えますが、見解を尋

ねます。

⑤、地域貢献活動休暇と兼業許可を併設することにより、勤務時間外や休日以外でも地域活動に貢献できるものと考えます。すなわち、農家の人手不足の中、本町の基幹産業である農業を持続していくためにも必要な制度創設と考えますが、見解を尋ねます。

⑥、働き方改革の一環としてノーネクタイを通年化する動きが県内の自治体で広がってきました。冷暖房の適切使用と職員の環境意識のさらなる意識向上を図るためにも、ＴＰＯに合わせ、町民に不快感を与えない、節度ある服装であることはもとより、式典などでは社会通念上の適切な服装で対応するなどに心がけて、本町でもノーネクタイを通年化すべきと考えますが、見解を尋ねます。

⑦、チャットＧＰＴを活用した業務負担軽減についてであります。チャットＧＰＴは、議事録の要約、挨拶文やゼロからの文書作成など、業務効率化につながる便利なツールと考えておりますが、チャットＧＰＴの導入についてどのように考えているのか尋ねます。

次に、現在策定中の第４期地域福祉計画について伺います。８月下旬に４期計画の第３回策定委員会が開催され、４期計画素案が提示されたところだと思います。近年地域社会を取り巻く環境は、少子高齢、人口減少、独居高齢者の増加、ＬＧＢＴ、ジェンダー、ダイバーシティー、ヤングケアラー、8050問題など、時代とともに変遷する大きな課題を抱えており、これら課題を解決するために地域の力を強化し、その持続可能性を高めていくことが必要であると考えております。４期計画策定に当たっては、このような課題、アンケート調査、地区座談会、第３期地域福祉計画の取組評価等を踏まえた課題解決に資する内容になるものと思っております。そこで、以下お尋ねします。

①、４期計画策定に当たり、前述アンケート調査結果等による４期計画推進に係る課題を抽出したかと思いますが、どのような課題があったのか、そしてその課題をどのように４期計画に反映する考えなのか尋ねます。

②、４期計画には３期計画の第５章、施策の展開の基本目標３に記載されている健康づくりの推進の大人の健康づくりの充実についても盛り込まれるかと思います。本年８月上旬に県が公表した特定健康診査の情報分析結果を見ますと、会津、南会津圏域ではメタボ指標が悪化傾向にあるとのことでした。また、本県の脳血管疾患、心疾患、がんに起因する死亡率は、都道府県別でワースト４位から13位でありました。喫煙、飲酒が主なリスクであり、40から50代の就労世代の男性がそれらリスクを持っているようです。これらの方々がもしものことがあった場合、家庭や勤務先に大きな打撃、もしくは損失をもたらすことになりかねません。そこで、４期計画における大人の健康づくりに係る項目には、危機意識を持っていただく強い表現で４期計画に盛り込むべきと考えますが、見解を尋ねます。

③、４期計画に盛り込まれる地域共生社会の実現に向けた地域福祉の推進に係る事業について尋ねます。令和３年４月１日施行された重層的支援体制整備事業の創設についてであります。これは、市町村において、属性を問わない相談支援、多様な社会参加に向けた支援及び地域づくりに向けた支援の３つの支援を一体的に実施するというものですが、どのように４期計画に盛り込む考えなのか、そ

してどのような事業を考えているのか尋ねます。地域共生社会の実現のため、町民に対してどのように４期計画を周知、普及、啓発していく考えなのか尋ねます。

以上、よろしくお願いします。

○議長（横山知世志君）　答弁、町長、杉山純一君。

〔町長（杉山純一君）登壇〕

○町長（杉山純一君）　６番、長嶺議員の一般質問にお答えいたします。

初めに、町職員の働き方改革についてでありますが、１点目の令和２年度から令和５年６月までの職員１人当たり月平均の超過勤務時間の実績につきましては、9.5時間となっており、年度ごとにつきましては、令和２年度では7.7時間、令和３年度では10.9時間、令和４年度では10.2時間、令和５年度の６月までは8.0時間となっております。

２点目の男性職員の育児休業の取得実績につきましては、直近の令和４年度における対象者は４名おりましたが、そのうち１名が育児休業を取得しております。取得日数は182日であり、１か月以上の取得となっております。

３点目の地域貢献活動休暇の創設につきましては、現在職員が自発的に、かつ報酬を得ないで社会貢献活動を行う場合、特別休暇としてボランティア休暇の制度があります。この制度は、地域貢献活動休暇と同様に地域及び社会貢献活動のために活用することができることから、改めて地域貢献活動休暇は創設せず、当面はボランティア休暇にて対応していきたいと考えております。

４点目の職員の兼職、副業制度の創設につきましては、本町においても地方公務員法第38条の規定に基づいて、職務の遂行に支障がない場合等の条件の下、服務規程により営利企業等への従事許可をしており、制度として確立しているところであります。

５点目の地域貢献活動休暇と兼業許可の併設につきましては、全国的にも農業の担い手不足や人手不足は、従事者の高齢化と相まって深刻な問題となっていることは十分認識しているところであります。こうした問題の解決策の手段として、職員が自ら地域に入り、社会貢献活動をしていくことは、職員自身の自主性や積極性などの人間性を育成し、郷土への愛着にもつながっていくものと考えられます。ご提案のありました新たな制度の創設については、今後兼業、副業の在り方と併せて調査研究してまいります。

６点目のノーネクタイの通年化につきましては、本年５月より地球温暖化対策の取組を一層推進し、より働きやすい職場環境づくりを目指し、クールビズ、ウォームビズを通年化して実施しております。通年ノーネクタイを実施することで働きやすい服装による職員の業務効率の向上や、さらなる省エネルギー推進に取り組んでまいります。

７点目のチャットＧＰＴの導入につきましては、全国の自治体でも活用を模索する動きがあり、文書の作成や事業のアイデア出しにも活用が想定され、業務の効率化も期待されることから、今後ＤＸ推進の一環としまして、調査研究を重ねながら、住民サービスにもつながる活用について考えてまい

ります。

次の第４期地域福祉計画についてでありますが、１点目の課題と４期計画への反映につきましては、アンケート調査、団体等の活動状況調査、第３期計画の振り返り、町民懇談会を踏まえ、次期計画に反映させるべき項目として、人と人とのつながりのある関係づくり、地域で支え合い、安心して暮らし続けられる体制づくり、子供から大人まで誰もが元気に活動できる仕組みづくりの３点を課題と捉えております。４期計画では、様々な地域生活課題を抱えながらも、住み慣れた地域で自分らしく暮らしていけるよう、地域住民が支え合い、一人一人の暮らしと生きがい、地域を共につくっていく地域共生社会の実現を大きなテーマとしております。地域共生社会の実現と課題解決のためには、地域や一人一人の取組が重要であることから、計画策定の過程における町民懇談会において、地域で発生している生活課題を洗い出し、それらの課題を我が事として捉え、自分自身で何ができるかを話し合い、その内容を整理しております。計画期間最終年である５年後の地域を描きながら、課題解決に向けた様々な取組を４期計画に反映させることとしております。

２点目の大人の健康づくりにつきましては、４期計画の施策体系において、地域における健康・生きがいづくりの推進を掲げ、町民の自主的な健康づくりの重要性について記載する予定としております。詳細については個別計画に記載することになりますが、健康づくりに当たって一人一人の意識改革は不可欠でありますので、記載内容については検討いたします。

３点目の１つ目、重層的支援体制整備事業の創設につきましては、４期計画における施策体系の中で包括的な支援体制の充実を掲げ、その中で多様な生活課題に対応できる相談体制として重層的支援体制の構築を整備する予定としております。具体的な事業展開については、今後の検討課題となりますが、庁内協議や関係機関等の連携会議を開催し、具体的な体制づくりを進めてまいりたいと考えております。

２つ目の４期計画の周知、普及、啓発につきましては、ダイジェスト版の全町民への配布のほか、出前講座の活用、集いの場など、町民が集まる場での啓発活動、広報紙における特集記事の掲載など、あらゆる機会を通して町民への周知、普及、啓発を進めてまいります。

私からは以上でございます。

○議長（横山知世志君）　長嶺議員。

○６番（長嶺一也君）　再質問させていただきます。

まず、働き方改革のところなのですが、まず二本松市の霞ヶ城の「戒石銘」はご存じでしょうか。「爾俸爾禄　民膏民脂　下民易虐　上天難欺」。つまり町職員の給料は、町民が汗をかいて、体中あぶらのようになって働いたたまものより得ているものでございます。町職員は、町民に感謝し、いたわらなければなりません。この気持ちを忘れて弱い町民を虐げたりすると、きっと天罰がそのような職員に下るというものでございます。この「戒石銘」は、私が公務員になった四十数年前、新採用職員研修会で講師よりいただいた言葉でございます。行政職員の規範となる戒めと考えております。こ

の「戒石銘」を町職員は研修等で分かっているのか。働き方改革を推進する上で「戒石銘」の精神がないと改革は進まないと思いますが、町の考えをお尋ねします。

○議長（横山知世志君）　総務課長、金子吉弘君。

○総務課長（金子吉弘君）　それでは、お答えをさせていただきます。

まず、「戒石銘」につきましては、ちょっと私大変申し訳ございませんが、存じ上げていないというところでございます。ただ、町職員の責務といたしまして、当然全体の奉仕者たる業務を担うというふうなところでございまして、町民が主役であるために我々の仕事があるというふうに理解をしております。その精神につきましては、当然町役場に入庁した際にしっかりと研修において、ミーティングにおいてそれが伝えられるものでございまして、その後の研修におきましても、しっかりと研修を通してそういう認識を持って業務に当たるというふうなところで研修を進めて、認識をしていただいているところでございます。

○議長（横山知世志君）　長嶺議員。

○６番（長嶺一也君）　課長の意気込みが分かりましたので、職員のほうに浸透させていただきたいと思います。働き方改革については、例えばコピー用紙の使用料を見える化、早期退庁を促すポップアップメッセージを全職員の端末に表示、あと各課の超勤実績を端末に表示し、情報を共有する見える化、テレワークの推進など、経費節減につながる取組もあろうかと思いますが、町はこれまでどのような働き方改革に取り組んできたのか尋ねます。

○議長（横山知世志君）　総務課長。

○総務課長（金子吉弘君）　それでは、お答えいたします。

町の働き方改革に伴います取組の状況でございますが、まず１点目といたしましては、毎週水曜日をノー残業デーといたしまして、全体、職員一斉退庁を促して経費の節減に努めているところでございます。あとは、職員の身体的な休息に充てているところでございます。そのほかでございますが、コロナ禍におきます分散業務の一環としまして、土日勤務による週休日の振替ですとか、あとはテレワーク、いわゆる在宅で仕事が進められるというふうな方法ですとか、あとは庁舎を別にした分散勤務の実施などを新たな働き方として進めてきたところでございます。また、そのほか従来からの対応でございますが、１つの業務に対していわゆる複数の担当制なんかを設けまして、しっかりと休息、休暇が取れるような状況にも努めてきているところでございます。また、研修等を通じまして休みを取りやすい職場環境の構築などにも力を入れて取り組んできているところでございます。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　長嶺議員。

○６番（長嶺一也君）　遅出出勤、早出出勤という時差出勤みたいなものは採用していないのですか。

○議長（横山知世志君）　総務課長。

○総務課長（金子吉弘君）　時差出勤につきましては、今のところ採用はしていないところでござい

ます。ただ、福島県の例なんかを見ますと、かなり８段階と幅広い時間帯を設定しまして実施しているような状況もございますので、人事管理等で結構手間暇はかかる部分はございますが、現状、今後そういったものも調査させていただきながら、取り入れられるべきものであるというふうなことの理解ができましたら、速やかにそういったことも取り入れていきたいなというふうに考えているところでございます。

○議長（横山知世志君）　長嶺議員。

○６番（長嶺一也君）　町の働き方改革、ノー残業デー、土日出勤の週休日の設定、テレワークというような取組があったわけなのですが、それらの改革についてどのように評価して、今後どのような、新たな働き方を採用していくのかというのをちょっとお聞きしたいのですが。

○議長（横山知世志君）　総務課長。

○総務課長（金子吉弘君）　これまでの取組に対する評価についてでありますが、今コロナ禍において発生した働き方改革として発生したいわゆるテレワークですとか、あとは週休日の振替、分散勤務でございますが、これにつきましてはかなり有効な手段であったというふうに思っております。ＢＣＰの関係もございまして、業務継続の観点からもやはりコロナを最小限に感染を抑えることができたという点では非常に有意義な、有効性のある取組だったのかなというふうに感じているところでございます。また、毎週水曜日のノー残業デーに関しましても、これにつきましてもかなりやっぱり節電効果といいますか、あとは職員の体調管理の面からも非常に有効的に受け入れられているというふうに私個人としては受け止めておりまして、これはやっぱりしっかり継続していきたいなというふうに思っております。先ほど議員のおただしの中にもありましたが、ちょっとポップアップメッセージで上げて、自動的にシャットダウンしますよなんていうふうなところの取組も最近始めておりまして、そういったことで、今日はノー残業デーだから皆さん帰りましょうねというふうな、そういう意識醸成にもつながっているのかなというふうに考えているところでございます。

　大枠は以上でございます。

○議長（横山知世志君）　長嶺議員。

○６番（長嶺一也君）　働き方改革につきましては、一般職員だけではなくて、管理職員のマネジメント能力向上も必須かと思いますが、管理職員に対する実践的な研修はどのように実施しているのか、教えてください。

○議長（横山知世志君）　総務課長。

○総務課長（金子吉弘君）　お答えいたします。

　管理職への実践的な研修という部分でございますが、当然業務は課単位といいますか、その課が一体的に行う業務がほとんどでございますので、まず管理職のほうにそういったいわゆる各職員の業務の状況をしっかりと把握していただくようなことの研修、まずこれが必要であって、研修の中でも実施しているところでございます。決して１人の職員に偏るようなことがなく、ある程度業務について

は平準化といいますか、分散をさせていただいて、１人の職員に業務が偏るようなことが絶対ないようにというふうなところで、まずマネジメントしていただく必要が相当あろうというふうに思っております。それでもちょっと足りないような場合につきましては、しっかりとやはり私どものほうで残業のアベレージといいますか、残業の実施状況を各課把握させていただいた上で、必要があれば人的な配置をしていくというふうなことになろうかなというふうに思っているところでございます。

○議長（横山知世志君）　長嶺議員。

○６番（長嶺一也君）　次に、超過勤務時間のことにつきましてお尋ねします。先ほどの答弁の中で、２年度が7.7時間、３年度が10.9時間、２年度から３年度にかけまして３時間ほど増えておりますが、大きな理由は何でしょうか。

○議長（横山知世志君）　総務課長。

○総務課長（金子吉弘君）　超過勤務の件でございます。２年度と比較して３年度、４年度が増えている大きな一番の理由といたしましては、２年度、３年度ちょうど選挙等がございまして、いわゆる３年度であれば町長選挙、あとは町議会議員選挙、さらには衆院の選挙なんかがございました。これによりまして、選挙の場合については職員全体に協力を求めながら実施を執行しているところでございまして、そこがかなり大きなウエートを占めたのかなというふうに思っております。あとはプラスアルファの要因といたしまして、いわゆるやはりコロナ禍におきます各対策事業の実施が増えている要因かなというふうに思っているところでございます。

○議長（横山知世志君）　長嶺議員。

○６番（長嶺一也君）　分かりました。

超過勤務時間につきましては、各課に時間の相違があるかと思うのですけれども、職員の配置を変えたり、あと忙しい時期、スポット的にほかのセクションから忙しいところに人を手伝い的に回したりするような、平準化するような考えはあるのでしょうか。

○議長（横山知世志君）　総務課長。

○総務課長（金子吉弘君）　超過勤務のばらつきの件についてでございますが、これにつきましては、いわゆるコロナ禍におけるコロナ対策業務なんかは、その年度内で突然実施を要請されたりするという部分が多くございまして、その場合については各課連携しながら進めてきたなんていうふうな実態もございますし、あと、それ以外の通常業務の部分に関しましては、年度内にやっぱり人を動かすということはかなり無理がございます。ですので、課内、内部の協力をいただきながら、何とかその課の中で解決いただくようなことでお願いをしてきているというのが実情でございます。

○議長（横山知世志君）　長嶺議員。

○６番（長嶺一也君）　実情が分かりました。

次に、育休取得状況なのですが、該当職員４名のうち３名は取得しなかったという答弁でしたが、なぜ取得しなかったのか、あるいは取得できなかったのか、その辺の理由を教えていただきたいので

すが。
○議長（横山知世志君）　総務課長。
○総務課長（金子吉弘君）　お答えいたします。
　育休対象者が４名おりました。その中で取得についてはお一人だけでございました。ほかの３名の理由につきましては、その家庭内でやはりそのお子さんを見ていただける方がいらっしゃったというのが一番の原因だというふうなところで、３名とも同じような話をされておりまして、皆さん同じような理由で取得しなかったのかなというふうに思っているところでございます。
○議長（横山知世志君）　長嶺議員。
○６番（長嶺一也君）　取得しなかった３名は、職場に気を遣って取らなかったという理由かなとも思ったのですが、そうではなかったので、よかったと思います。
　次に、地域貢献活動休暇についてなのですが、ボランティア休暇で対応していきたいというお話でございました。ボランティア休暇を取得するに当たっては、ボランティアの種類、あとは事前に計画書なんかも作成したりして縛りがあったと思うのですが、その縛りをなくす意味からも地域貢献活動休暇の創設は急務かと思いますが、再度改めて本休暇の創設の必要性の考えを尋ねます。
○議長（横山知世志君）　総務課長。
○総務課長（金子吉弘君）　地域貢献活動休暇につきましては、ボランティア休暇との大きな違いといいますのは、やはりいわゆる対価を得てそういった業務といいますか、活動に臨むか否かが大きな違いかなというふうに思っているところでございます。ボランティア休暇につきましては、当然平日等を対象にして、執務時間中にある意味特別休暇をいただいてそこに出向くというふうなことになりまして、そこで対価を得るというのは適切ではないのかなというふうに考えているところでございます。当然土日、時間外の活動であれば、これは休暇というふうな制度ではなくて、あくまで時間外でございますので、そういった休暇制度というのを特に設けなくても、町のいわゆる営利企業等への従事許可を、今それ現在運用しているところなのですが、それを拡充することによって何とか対応可能なのではないかなというふうに考えておりまして、ですので、地域貢献活動休暇ではなく、地域貢献活動制度ということでちょっと構築に向けて検討を進めてまいりたいなというふうに考えているところでございます。
○議長（横山知世志君）　長嶺議員。
○６番（長嶺一也君）　今ほど休暇ではなくて制度ということで調査研究してまいりたいということなので、早めに方向性を決めていただければというふうに思います。
　次に、営利企業等への従事許可ということで、制度としてやっているという答弁でしたが、許可した実績についてお伺いしたいのですが。
○議長（横山知世志君）　総務課長。
○総務課長（金子吉弘君）　営利企業等への従事許可の許可実績でございますが、これについてはち

ょっと手元に詳細な資料がございませんので、今まで何人に対して何件行ったかというのをデータ的にはございませんが、間違いなく許可をしているところでございます。中身的には、やはり家業がいわゆる農家であって、どうしてもやはりその絡みで農業に従事しなければならないとかというパターンと、あとは、地域の自治会活動に伴いまして、例えば自治会の役員さんになっていらっしゃる方とかがいらっしゃいますが、そういった方についてもお出しをしていただいて許可しているところでございます。さらには、多面的機能支払交付金事業なんかを各地区のほうでやっていらっしゃる例があると思いますが、そういったことで役員さんとなって、その団体、組織のほうから手当を受けている、そういった場合についても申請をしていただいて、町のほうで許可をしているというふうなところでございます。

○議長（横山知世志君）　長嶺議員。

○６番（長嶺一也君）　従事許可といってもあくまでも副業なので、本業に影響がないような形にしなくてはいけないと思うのですが、本業に影響がないために、１週間の就業時間の上限とか、月の就業時間の上限というものは設定しているのでしょうか。

○議長（横山知世志君）　総務課長。

○総務課長（金子吉弘君）　まず、営利企業等への従事をする場合においては、当然いわゆる条件がございまして、１つは職務の遂行に支障がない場合、これは当然でございます。次に、当該従事する企業、事業、事務との間に特別な利害関係、その発生がないと認められるときが２点目でございまして、さらに、その職務の信用を傷つけ、職全体の不名誉となるおそれがないと認められるときというふうな大前提がございます。これは、しっかりと守っていただくようなことでお願いはしていっているところでございます。当然本業であってはいけない、それをなりわいとしては決していけませんので、我々やっぱり公僕としての役割がございますので、その範疇は絶対超えてはいけないということで、許可の基準で時間の制限をしているところでございます。その時間の制限については、営利企業等の従事制限に関する規則がございまして、その中で許可の基準がございます。その中で、従事する時間が週８時間、月30時間以内であり、勤務時間が割り振られた日においては１日３時間以内であることというふうな規定がございますので、あくまでその範疇内での活動というふうなことになります。

○議長（横山知世志君）　長嶺議員。

○６番（長嶺一也君）　最後の上限時間につきましては、国と同じ時間ということで了解いたしました。

次に、地域貢献活動休暇と兼業許可の併設につきまして、調査研究してまいりますという答弁でしたが、もうちょっと具体的にどう進めていくのかお聞かせいただきたいのですが。

○議長（横山知世志君）　総務課長。

○総務課長（金子吉弘君）　今後の進め方についてでございますが、地域貢献活動休暇でございますが、これにつきましては、やはり例えば特定の産業のみを対象にしていいのだろうかというふうな部

分の考え方がございます。確かに農業は基幹産業ではございますが、農業だけを特出しで進めていっていいのかなというふうなところがまず１点ございまして、全国的な例を調査したところでございますが、地域貢献活動というものは、先ほどもちょっと申し上げましたが、いわゆるその地域、自治会とかの作業もやはり高齢化、過疎化が進んできてままならないというふうな状況なんかがございます。あとは、そういう伝統文化の継承ですとか、そういった継承のために、やはり担い手が少なくて、どうしてもそういう伝統文化、この町にはいろいろいっぱいあると思いますが、そういったものがなかなかなし得なくなってしまう、そういったところをカバーする手だてとしてこの地域貢献活動制度というものがあるというふうにちょっと勉強のほうさせていただきました。そういったことも踏まえて、全体の、ある程度町民の方々のご理解もやっぱり求めなければいけないというふうなこともございます。あとは、庁内もしっかりと議論をさせていただいて、何がこの町に合った活動となるかというのをしっかりと議論しながら進めて決めていく必要があるというふうに思いますので、そのためにちょっと時間をしっかりとかけさせていただいて、本当に我が町のものとした活動になるように、しっかりと検討してまいりたいというふうなところでございます。

○議長（横山知世志君）　長嶺議員。

○６番（長嶺一也君）　今の答弁で、特定の産業だけでよいのかというようなことが答弁あったわけなのですが、私が調べた限りでは、福島市では桃の収穫、山形県ではサクランボの収穫、青森県ではリンゴの収穫、果樹の収穫時期がすごく短い期間で労働力が必要だということで、今言った３自治体は果樹農家がほとんどなものですから、特定の産業だと思いますので、その辺も含めて検討していただければというふうに思います。

　次に、ノーネクタイの通年化の答弁の最後で、さらなる省エネルギー推進に取り組んでまいりますという答弁でございました。省エネ推進について町はどのように取り組んでいく考えなのかお伺いいたします。

○議長（横山知世志君）　総務課長。

○総務課長（金子吉弘君）　省エネルギーの取り組み方でございますが、しっかりといわゆるノーネクタイ化を通年化することによって、やはり働きやすい環境が得られるのは間違いないというふうに思っております。当然そういった環境が整えられることによって、いわゆる冷暖房の抑制、抑えることにもつながってくるのかなというふうに考えておりまして、あとはさらなるそういう電力等もかなり高額になってきておりますので、併せましてそういったまめな消灯なんかも心がけながら、しっかりと省エネルギーに関しての認識を職員に持っていただきながら、もっと突っ込んだといいますか、取組を加速化させていただいて、エネルギーの縮減に努めていきたいなというふうに考えているところでございます。

○議長（横山知世志君）　長嶺議員。

○６番（長嶺一也君）　省エネルギーの取組なのですけれども、前の議会の中で、燃料費高騰に当た

って可能な限り節減に取り組んでまいるというような答弁も受けた記憶があるものですから、しっかりと取り組んでいただければというふうに思います。

チャットＧＰＴについてでございます。ちょっと私もまだ勉強不足で、今回は問題提起的に質問させていただきました。チャットＧＰＴ導入に向けた研修を実施している自治体もあります。しっかり調査していただいて、職員の研修等を重ねていただき、職員の業務負担軽減に資するため、有効な活用を図っていくようにお願いしたいと思いますので、改めてその考え方についてお伺いします。

○議長（横山知世志君）　総務課長。

○総務課長（金子吉弘君）　チャットＧＰＴの活用につきましては、議員おただしのとおり様々な効果があるというふうに私どもも認識しておるところでございます。これから町は本当にＤＸを推進していくというふうなところで、しっかりと政策目標を掲げながら進んでいく予定でございます。その中で、庁内研修も含めまして、やはり職員一人一人にそういう自覚を持っていただきながら、何が効率化、ＤＸ化に向けて取り組むべきことなのかということをしっかりと認識いただきながら、庁内検討を重ねるというふうなスケジュールになっておりますので、そこの中でひとつそういったチャットＧＰＴの活用についてもしっかり議論の対象にのせて進めてまいりたいなというふうに思っております。

○議長（横山知世志君）　長嶺議員。

○６番（長嶺一也君）　しっかりとやっていただきたいと思います。

最後に、働き方改革についての質問をしまして、ここの１番目の質問は終わりたいと思います。私働き方改革というよりも働きやすさ改革というのが、こういうふうに言ってもいいのかななんて思っております。風通しのよい職場環境、あとは休みを取りやすい職場環境、休暇取得職員のフォローアップ、例えば休んだ職員が担当の電話がかかってきても、担当がいないからちょっと分かりませんなんていうような対応をしないようなフォローアップができる人材育成、このような環境についても働きやすさ改革に資すると考えておりますので、その辺の取組状況について答弁お願いします。

○議長（横山知世志君）　総務課長。

○総務課長（金子吉弘君）　お答えいたします。

まさに議員おっしゃるように、働きやすさ改革なのではないかなというふうに私も思っているところでございます。当然風通しのよい職場であったり、休暇が取りやすい職場環境であるということは本当に必要なことであるというふうに思っております。当然そういったもの、先ほども申し上げましたが、管理職の研修の中でも十分そういったことを念頭に入れての研修を毎年しているところでございまして、かなり管理職のみならず職員のほうには浸透してきているのかなというふうに思っております。さらに、やはり自由闊達な意見を交わせるというふうな職場環境というのは非常に生産性が上がるというふうに思っておりますので、そこはいま一度しっかりと総務課のほうからも再度提案というか、お知らせをしていって、しっかり継続した研修制度となるように努めてまいりたいと思います。

さらには、フォローアップに関しましても、これも先ほど申し上げましたが、正副の複数担当制を取っておりますので、担当者が休みの場合にも副担当者なり、係長等がカバーする仕組みというのはしっかり組織内に構築されておりますので、これをしっかりと継続しながら進めていけるように努めていきたい、また総務課としましても全体に指導してまいりたいというふうに考えているところでございます。

○議長（横山知世志君）　長嶺議員。

○６番（長嶺一也君）　要は町民サービスが役場職員の仕事でありますので、その辺はしっかりと対応をお願いしたいと思います。

　では、次に第４期地域福祉計画について質問してまいりたいと思います。この４期計画策定に当たりまして、町民目線に立った視点や住民参画に留意して計画策定を進めているということが先ほどの答弁で分かったわけなのですが、本計画は総合計画に次ぐ上位計画という位置づけであります。地域福祉計画にぶら下げる個別アクションプランにどのように反映していく考えなのかお尋ねいたします。

○議長（横山知世志君）　健康ふくし課長、平山正孝君。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　計画の反映についてということでございますが、まず先ほど議員が言われますように、総合計画の下に位置する地域福祉計画、その部分については全体的な福祉という形の計画になりますので、詳細な事業計画という形の記載は例示的な記載にとどまると考えております。実際の行動計画的な計画につきましては、例えば健康増進計画であったり、介護保険事業計画であったりといった詳細な事業計画の中に、より具体的に記載をしていくという形になります。

○議長（横山知世志君）　長嶺議員。

○６番（長嶺一也君）　今４期計画策定ばかりではなくて、令和４年度から開始年度となる第４期障がい者基本計画、第４次健康増進計画・自殺対策計画・食育推進計画及び第３期保健事業実施計画、第４期特定健康診査等実施計画というのが今年の計画策定のめじろ押しの年になっていると思うのですが、なかなか担当職員も大変かと思うのですけれども、今こちらの個別計画との整合を見ながら、どういうふうに計画進めているのか、ちょっと簡単に説明いただきたいのですが。

○議長（横山知世志君）　健康ふくし課長。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　まず、地域福祉計画について、全協において12月議会に上程できるようにという形のスケジュール説明をさせていただいたところです。ほかの下位計画につきましては、現在策定を各委員会等において進めているところでございます。地域福祉計画の方向性を見ながら、あと、どのような事業展開をしていくかという形の内容を詰めながら、３月までに策定をするという流れで現在取り組んでいるところでございます。計画については、一応４本ですか、４つで、１つについては、健康増進計画につきましては、国、県が１年間延期、計画を延長したということがありまして、当町においても１年計画延長しておりますので、来年度策定ということで取り組んでいる

ところでございます。

以上です。

○議長（横山知世志君）　長嶺議員。

○６番（長嶺一也君）　具体的な大人の健康づくりやメタボ対策なのですけれども、４期福祉計画を踏まえて、私もさっきの質問で、働き盛りの人のメタボ問題については重要な問題なので、強い文言で入れるべきではないかと申し上げたのですが、その辺の答弁がちょっとあまり、不明確だったような気がしたので、もう一度詳しく説明お願いしたいのですが。

○議長（横山知世志君）　健康ふくし課長。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　メタボ等、働き盛りの方、家庭を持っている方が何かあったときに、その家庭が困るのではないかということで、そういった健康増進のための強い発信が必要ではないかということだと思います。地域福祉計画の中でメタボという限定的な形の言い回しはなかなかできないとは考えております。ただ、強いというよりも、やはりそういう点は必要だという部分の記載の方法はあるかなというふうに考えております。あと、そういった強い内容についてということになってきますと、例えば健康増進計画、あと保健事業計画、データヘルスという部分ですが、例えば保健事業計画、データヘルスであれば、あくまで保険者としての作成になります。要は国民健康保険に加入している方が対象の計画ということになります。健康増進計画について、基本的には町民向けの計画ではございますが、特定健診というのが保険者ごとにやるものという形になっております。社会保険に加入している方であれば基本は社会保険のところで特定健診を行う、国保、後期高齢の方については、町が保険者であるから、町が特定健診を行うという形になっておりますので、個別に計画をつくっていくという形にはなると思いますが、全体的な町民向けの内容という形で若干入れ込みできればというふうに考えております。

○議長（横山知世志君）　長嶺議員。

○６番（長嶺一也君）　ちょっと飛びまして、重層事業のことにつきまして質問させていただきたいと思います。社会福祉法第106条の３の第１項に重層事業については努力義務という規定になっております。にもかかわらず、本町は、取組姿勢を計画に盛り込む考えであることという答弁と受け取ったのですけれども、重層事業について計画の中に必須のものとして取り組むことはいいことだと思うのですが、なぜ必須のものとして計画に盛り込むようになったのか、ちょっとお聞きしたいのですが。

○議長（横山知世志君）　健康ふくし課長。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　重層的支援体制事業ということで、まずその必要性についてでございますが、その前に地域共生という今大きな国の流れがございます。それを実現していくために必要な事業ということで、その中の一つとして重層的支援事業というものが関わってきております。自治体によっては、断らない相談窓口とかという形を設置しているところもございます。町としても、そういったところは、結構大きな市辺りはそういう形で設けられておりますが、小さい市町村につい

てはなかなかそういうのも難しい。人材的な部分、協力していただける団体としても難しいというのがございます。次期地域福祉計画の中で取組について検討していく、取り組めるようにしていくという形で計画の中に入れ込んでいきたいということでございます。

○議長（横山知世志君）　長嶺議員。

○６番（長嶺一也君）　最後になりますが、４期計画につきましては、３期策定計画の手法とは異なって、町民主体、町民目線の計画を策定しているということが答弁でも分かったわけなのですけれども、計画の町民に対する周知につきましては、あらゆる機会を通して周知、普及、啓発を進めてまいりますという答弁でございました。町民への計画周知を十分に図っていただいて、町民福祉の向上のために真摯に取り組んで、さらなる町民福祉向上が図られることを期待して、引き続きこの計画がすばらしい計画になるように取り組んでいただければと思いますので、ちょっとその辺の意気込みについて最後にお聞きして質問を終わりたいと思います。

○議長（横山知世志君）　健康ふくし課長。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　第４期地域福祉計画の策定に当たりましては、今までの策定の方法でいきますと、アンケート調査をやって、計画策定委員会で計画の内容をもんで、その後、地区座談会であらあらのできたものを意見をいただくという形で実施しておりましたが、この計画からは住民アンケート、あと団体、福祉事業者に対するアンケート、あと計画をつくる前の段階で地区懇談会という形で３地域に入りまして、ワークショップ的な形で、美里町、どういう町がいいのか、どういう福祉の支援が必要なのかというワークショップをやっていただいて、それを各地区２回やって、それを基にして、あと３期計画の４年間の分の振り返り等を踏まえて今計画を策定するという形の流れを取っております。地区懇談会においても、全体で100名を超える方が参加していただいて、夜６時半過ぎから９時ぐらいまで真剣に協議をいただいて、その結果を反映していきたいと考えております。

○６番（長嶺一也君）　分かりました。以上で質問を終わります。

○議長（横山知世志君）　これで長嶺一也君の質問は終わりました。

ここで２時35分まで休憩します。

休　憩　　（午後　２時２０分）

再　開　　（午後　２時３５分）

○議長（横山知世志君）　再開します。

次に、通告第４号、４番、荒川佳一君。

〔４番（荒川佳一君）登壇〕

○４番（荒川佳一君）　４番、荒川佳一です。それでは、通告に従い、一般質問をいたします。

初めに、１の人口減少の対策について伺います。全国的に人口減少となっており、特に若者の流出による地方の過疎化が問題となっております。リモートワークによって地方で仕事をしたり、地方へ

移住したり、市町村によっては転入者が増える傾向となっております。令和２年３月に作成した会津美里町第２期まち・ひと・しごと創生、人口ビジョン・総合戦略では、町の総人口が平成27年は２万913人でありましたが、令和27年には１万2,404人と推定され、30年間で8,509人減少し、年間約280人が減少することになります。また、会津美里町第３次総合計画基本構想・後期基本計画によると、令和７年の目標人口を１万8,164人以上としています。このことから次の３点について伺います。

１点目は、人口減少対策はいつから実施し、対策実施から現在までの移住者数は何人か伺います。

２点目は、人口減少対策について町がどのようなことを実施しているのか伺います。

３点目は、会津美里町第３次総合計画基本構想・後期基本計画の中で目標人口とした人数の考え方について伺います。

次に、２の森林環境譲与税と森林整備について伺います。森林は、木材生産をはじめ国土の保全や水源涵養、地球温暖化や山地災害の防止、生活環境の保全等、多面的機能を有しております。このような機能を持続的に発揮しつつ、林業の成長産業化を実現していくためには、植栽、保育、間伐等の森林整備を適正に行うことによって、健全な森林を造成し、資源の循環利用を進めていく必要があります。この森林整備を実施するため、森林環境譲与税を活用し、新たな財源として令和６年度から個人住民税均等割の枠組みを用い、国税として国民１人当たり年額1,000円が徴収され、森林整備の財源になります。このことから次の３点について伺います。

１点目は、これまでに森林環境譲与税を活用した森林整備について各年度の事業費と事業内容を伺います。

２点目は、森林整備をするためには所有者や境界の確認が必須となっている。未相続になっている土地はどのように進めていくのかを伺います。

３点目は、森林環境譲与税は、間伐等の森林の整備に関する施策と人材育成、担い手確保、木材利用の促進や普及啓発等の森林の整備の促進に関する施策に充てるとされていますが、今後町はどのように森林環境譲与税を活用し、森林整備を行っていくのか伺います。

以上です。

○議長（横山知世志君）　答弁、町長、杉山純一君。

〔町長（杉山純一君）登壇〕

○町長（杉山純一君）　４番、荒川議員の一般質問にお答えいたします。

初めに、人口減少の対策についてでありますが、１点目の人口減少対策実施の状況につきましては、平成28年度に人口ビジョン作成のために移住者の把握をはじめ、令和５年８月末までの移住者の実績につきましては、移住に関する住宅取得補助金、移住支援金などを活用した方や地域おこし協力隊として着任した方の累計は439名となっております。

２点目の町の人口減少対策につきましては、令和２年３月に策定した第２期人口ビジョン・総合戦略により、人口減少対策として４つの基本目標に基づき、施策を進めております。１つ目の目標は、

儲かる地域をつくるとともに、安定した雇用を創出するであります。農林業生産物の販路確保や人材育成、新規創業や就業などへの支援、雇用の創出に関する事業を実施しております。２つ目の目標は、本町と多様に関わる人を増やし、新しい人の流れをつくるであります。観光交流、関係人口の創出をはじめ空き家の利活用、移住、定住の促進、学官連携や、ふるさと納税の導入などの事業を実施しております。３つ目の目標は、結婚・出産・子育ての希望をかなえるであります。出会いから結婚、出産、子育ての支援、並びに安心して子育てができる環境整備を実施しております。４つ目の目標は、質の高い安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくるであります。公共交通や地域活動を活性化するための取組、さらにはスポーツを活用した健康づくり、医療体制の充実など、健康や暮らしに関する事業まで、幅広い内容となっております。

３点目の目標人口の考え方につきましては、第３次総合計画後期計画における目標人口は、第２期人口ビジョンの推計人口を基に設定したものであります。何も対策を講じない場合の単純推計では、令和７年に１万7,810人まで減少すると見込んでおりましたが、第３次総合計画における政策、施策及び重点プロジェクトを全体的に実施することで人口減少に歯止めをかけ、１万8,164人を目標人口としたものであります。

次の森林環境譲与税と森林整備についてでありますが、１点目の各年度の事業費と事業内容につきましては、森林環境譲与税は森林の整備及びその促進に関する施策の財源に充てるため、令和元年度より私有林人工林面積、林業就業者数及び人口基準に配分されております。町では、主に森林経営管理法に基づき森林整備を促進するため、森林所有者に対する今後の森林経営管理に関する意向調査や経営管理権集積計画作成を行うなど、森林整備に向け取り組んでおります。町のこれまでの森林環境譲与税額と事業費につきましては、令和元年度の税額は776万9,000円で、事業費が116万2,614円、令和２年度の税額は1,651万円で、事業費が614万3,506円です。令和３年度の税額は1,648万円で、事業費が1,538万4,973円、令和４年度の税額は1,968万8,000円で、事業費が1,079万3,627円となっております。本年度につきましては、当初予算計上額で森林環境譲与税額2,136万2,000円を計上しており、森林経営管理権集積計画調査業務や森林資源活用ビジョン策定業務などに充てております。なお、譲与税と事業費の差額については、森林の整備等を目的とした森林環境基金に積み立てており、令和４年度末で2,696万2,656円となっております。

２点目の未相続となっている土地の進め方につきましては、森林法における森林の土地の所有者届出制度により、森林の土地の所有者となった場合は町への届出が必要となっております。また、令和６年４月１日からは不動産の相続登記が義務化されますので、町が行う森林経営管理に関する調査等の過程において、未相続の土地があった際には相続手続に関する制度の周知を図るなど、森林の所有者が明確化されるよう取り組んでまいります。

３点目の今後の森林環境譲与税を活用した森林の整備につきましては、町内における森林整備が促進されるよう、引き続き森林経営管理法に基づき、森林経営に関する意向調査や経営管理権集積計画

の策定、林業事業体による森林整備に向け取り組んでまいります。また、町内において森林整備の促進に不可欠である木材需要を創出するため、森林資源を民間主体で継続して活用できるような事業や支援方法などを具現化することを目的に森林資源活用に関するビジョンを本年度策定し、さらなる林業の振興に向け取り組んでまいります。

私からは以上でございます。

○議長（横山知世志君）　荒川議員。

○４番（荒川佳一君）　一定の回答ありがとうございました。それでは、再質問をいたします。

我が町でも年々人口が減少しております。少子高齢化が進んでいるのが現状でございます。それで、先ほど令和28年から……

〔「平成じゃないか」と言う人あり〕

○４番（荒川佳一君）　……平成、ごめんなさい、平成28年から約８年間ということで、移住者数は439名ということですが、平均すると55名ぐらいになるかと思います。思ったよりちょっと多いかなということで、その辺は受け止めております。そこで、移住者の方のことなのですが、今まで移住された方から何か困り事か、何か相談事とかあった場合どのように対応したのか、その点お伺いします。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　お答えいたします。

移住者の方からの相談体制ということでございますが、現在移住の相談業務をＴＯＲＣＨというところに今委託してございます。空き家バンクも一緒に運営していただいておりますが、そのＴＯＲＣＨにおいて相談業務をお願いしているところでございます。相談に関しましては特に町のほうにも随時入る場合もございますが、やはりＴＯＲＣＨにおきましては、移住当初から相談がありますので、そこの中でつながりがございますので、やはりそちらのほうで電話、最近やはりメールなりライン、そちらのほうが多いということで聞いております。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　荒川議員。

○４番（荒川佳一君）　そうしますと、今言われたようにＴＯＲＣＨということで、空き家バンクも一緒に含めて管理していただいているということで、それについては民間で町が委託をしているのか、もしくは何らかの町として関わりというか、金銭的な何かあるのか、その辺だけちょっと確認したいと思います。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　ただいま私が申し上げた業務につきましては、おのおの委託契約ということで契約を結んでＴＯＲＣＨのほうにお願いしているということでございます。

○議長（横山知世志君）　荒川議員。

○４番（荒川佳一君）　それでは、今の相談内容、そういった形で町のほうが相談を受けたときに町

のほうで対応するということは特になくて、あくまでも委託先ということで、そちらのほうに任せているということでよろしいのでしょうか。
○議長（横山知世志君）　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　確かに業務として委託はしておりますが、町にもかかってきますので、当然町がお答えできる内容については町が対応します。ただし、情報はお互いに共有ということで、例えばこういう方からこんな相談がございましたということでなっております。移住者でされた方も当然町民でございますので、そういう移住関係の政策財政課なりＴＯＲＣＨだけではなくて、例えば困り事があれば当然担当する所管のほうにつないだりというようなことはしておりますので、全部がＴＯＲＣＨだったり、政策財政課で対応しているということではございませんので、そこはご承知願いたいと思います。
○議長（横山知世志君）　荒川議員。
○４番（荒川佳一君）　その点よく分かりました。それでは、移住者、移住された方への支援ということではあるかと思うのですけれども、一応今現在439名全てということではないのですけれども、その方が美里町に住んでいるかとは思うのですが、その点は町としては確認はしていますでしょうか。
○議長（横山知世志君）　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　先ほど申し上げました累計の439名の確認ということでございますが、特に確認ということでは実施してございません。
○議長（横山知世志君）　荒川議員。
○４番（荒川佳一君）　特に確認はしていないということなのですけれども、皆さん、移住された方については、もちろん先ほども話が出ていますように、空き家バンクのほうを紹介して、そちらのほうに借りるか、所有するかということで、その辺は定着しているというか、特にその点については問題なく生活しているということで理解してよろしいでしょうか。
○議長（横山知世志君）　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　お答えしたいと思います。
　まず、累計の439名でございますが、町長答弁にもあったように、この数字といいますのは、町が実施しております移住に関する住宅の補助金を交付されている方、要は補助金を交付して住宅を造ったり、空き家を買ったり、そういった方で、あともう一つ、移住支援金ということで、これは県外の方でございますが、そういった方で支援金を交付した方、あともう一つは地域おこし協力隊として定住する、これは町のほうでも当然把握はしておりますが、そういったことでございますので、ある程度定住が、長く住んでいただけるようなことを町としては定住者ということでカウントしておりますので、比較的転出というのは少ないのかなと思ってございます。
○議長（横山知世志君）　荒川議員。
○４番（荒川佳一君）　そうしますと、今、今年ももちろん半年が過ぎようとしていますが、その中

で、これ分かったらでいいのですが、439人のうち今年移住された方は、一応予定していた、想定していた人数と比較してどうでしょうか。増えていますでしょうか。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　大変申し訳ございません、現在までのちょっとつかんではございません。申し訳ございません。ただ予定された、予定した数値としてどうなのかということでございますが、本年につきましても目標どおり例年どおりくらいの数字は、今補助金等の実績なり、交付をしてございますので、比較的同様の数字は上がってくるのかなと思ってございます。

○議長（横山知世志君）　荒川議員。

○４番（荒川佳一君）　それでは、２点目の人口減少対策事業のことなのですけれども、答弁についてお聞きいたします。人口減少対策の事業については大変よく分かりましたが、町では移住する方に分かりやすく、「みさと暮らし」、移住、定住のガイドブックとか、あと「みさとネウボラガイド」などが町のほうで作ってあります。これ大変、私も見てみたのですが、細かい事業費とかなんかも入っていまして、移住者の方々からすれば大変参考になる冊子かなということで、かなり評価しております。ただ、それだけではやっぱりなかなか実際移住された方は、これだけではちょっとまだ不安ではないかなと思うのです。そこで、今現在令和５年度の会津地域移住促進・定住支援事業として県の会津振興局で、赤沢地区の集落の教科書の作成を今行っています。町の財政課も協力しているので、ご存じかと思いますが、それでは集落の教科書について簡単に説明しますと、地域の慣習及び住民の役割、あと共同作業、あとは区費、ごみの出し方など、移住者がそこで暮らす上で知っておくべき地域の実情やしきたりなどを、よいことばかりではなく、地域のリアルな状況を掲載してあるガイドブックがあるのです。これは、県事業なので、委託内容については触れませんが、赤沢地区の集落の教科書が本年度発行される予定ですが、町はこの教科書をどのように活用するのか、その点をお聞きしたいと思います。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　お答えします。

　集落の教科書、今、赤沢地区で作成中ということで情報は伺っております。これは、あくまでも県の事業ということで、町は一緒になって協力はしている状況でございます。これを完成後どのように使うのかということでございますが、やはりこれは当然その地域に住んでいる方の再発見もありますが、やはり多くは移住、定住される方、県内町外に住んでいる方に大きなＰＲになるのかなと思っております。今後は、我々の政策財政課内の人口対策の係のほうと、先ほど申し上げましたＴＯＲＣＨのほうにも情報共有化いたしまして、この集落の教科書を活用していきたいと思っております。

　以上でございます。

○議長（横山知世志君）　荒川議員。

○４番（荒川佳一君）　私もこの事業に参加しているわけなのですけれども、改めて先ほど課長申し

ましたように、村のしきたりというのですか、そういうことを知ったということもありますし、試みとしてはすばらしいものだなということで、私もそういう教科書作りに携われることについて大変うれしく思っております。ほかの地区でも移住者を増やしたいという考えがあれば、ほか集落の教科書について町でも作る考えはありますでしょうか。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　お答えします。

他の地区、ほかの地区についても集落の教科書を作る考えはということでございますが、現在町では集落カルテというものを既に作ってございます。これは、移住、定住を進めるために、全地区、地域の美里町全地域の集落カルテということでございまして、これは令和元年度に調べたものでございます。そこの中身でございますが、今議員おっしゃったように、例えば区費の状況、共同作業といいますか、いわゆる人足の時期あり、なしとか、あと例えば反則金があるのか、ないのかというように、いい面、悪い面ではございませんが、そういった負担しなければいけないことということで、なるべくそういったお金に関すること、さらには共同作業、さらにはその地域のお祭りとか、そういったもののいわゆる今、赤沢で作っている教科書の簡易版というようなことで考えてもらえば結構だと思います。そういうのを作っております。先ほど申し上げました令和元年度にこれ作っておりますので、５年経過いたしますので、大分情報のほうもかなり変わってきておりますので、さすがに今、赤沢で行っているような教科書を全地区というのはこれはなかなか困難かなと思っておりますが、簡易版である集落カルテの見直しというようなことで、これについては来年度ちょっと考えて、改定というか、見直しを考えてございますので、そういった形で情報を、新たな情報をやって移住、定住につなげてまいりたいと考えてございます。

○議長（横山知世志君）　荒川議員。

○４番（荒川佳一君）　私も恥ずかしながら今カルテ、令和元年ということで、カルテのほうが作られていたということ、今初めて聞いたような感じをしております。それですので、今言ったように見直しをかけたいということでもありますので、例えば今、赤沢地区の教科書の項目の中で確認して、必要なものがあればその中で一応参考にしてもらって対応していただくという方法で、これも移住、定住の方々のためにということでもありますので、ひとつそういうことでやる思いがあるのかどうか、その辺も参考にしていただきたいということで確認したいと思います。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　完成したら内容を見させていただいて、非常に有効な情報であれば今後の新たな集落カルテ作成に加えたり、さらには内容を修正したり、活用していきたいと考えております。

○議長（横山知世志君）　荒川議員。

○４番（荒川佳一君）　それでは、３番目の質問に移ります。

会津美里町第３次総合計画基本構想・後期基本計画の中で目標人口と人数の考え方は聞きましたけれども、聞いたのは、目標は高く、人口を増やすべきだということではなくて、自然減、今言うように自然に減っていく人数なのですけれども、人口なのですが、健康寿命を延ばしていく方針を取っていくことで遅らせることができるのではないでしょうかということの一つの提案なのです。また、社会減については、様々な方策を取りまして努力した結果の数字なのか、その数字を設定した理由について再度確認したいと思います。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　まず、１点目の自然動態の件でございます。当然出生者、いわゆる生まれてくる子供、さらには亡くなられる方が、生まれてくる方が多ければ当然そこで増えるわけですが、残念なことに今増減ではマイナスというのがずっと続いているというような状況でございます。特に出生につきましては、このコロナ禍があってからかなり落ち込んでいるというような状況でございます。ちなみに、令和４年につきましては81名、令和３年につきましては90名ということで、現在の令和５年の途中ではございますが、７月末で44名ということで、これは目標100人としているところでございますが、なかなか目標には達しないというような状況でございます。特にあと町長答弁でもありました事業の大きな４つの目標がございます。そこの中の３つ目の目標がここに当たるのかなと思っております。結婚、出産、子育ての希望をかなえるということでございます。もう一つ、健康に長生きをしていただくという事業につきましては、４つ目の目標とする質の高い安心して暮らすことができる体制でございますので、そこの中で医療体制の充実とか、そういった事業を掲げておりますので、議員おっしゃられたとおり、自然動態でそこでの増減を極力減らしていくというようなことは当然かなと思ってございます。

２点目の社会動態の件で人口の推計でございます。先ほど町長答弁で申し上げましたが、国の示された計算式がございますので、そこの中で計算したものでございます。何も事業なり対策をしない場合についての数字、さらに様々な対策をした場合の数字というのを計算して、この目標値にしたということでございます。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　荒川議員。

○４番（荒川佳一君）　今ほどの人数の考え方について、分かりました。実際のところそういう計算式があるということですので、それについて正しいとか、こうしてくださいということは、この場では言いませんけれども、また先ほど私も言ったように、できるだけその目標人数については、プラスにしろと言っているわけではないのです。できるだけ緩やかに、減っていくにしても緩やかな勾配で減っていくような努力をすべきではないのかなということでございます。あと移住者の立場になってきめ細かい支援を行いまして、町にはよいところがいっぱいあります。もっと魅力のある町にして、現在住んでいる方も含めまして、移住者の方に住んでよかったと思ってもらえる町に、皆さんのため

に、思いで、そういうような形でしていきたいということで思いますので、ひとつそれに向けて思いを課長、ひとつお願いしたいと思います。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　お答えいたします。

移住者にとって、ただ単に数字を伸ばすということだけではなくて、当然この町に愛着を持ち、長く住んでいただけることが重要なのかなと思っております。当然長く住んでいただけるということは、やはりこの町の魅力を感じて、いい町だなと思えばこそだと思っております。そういった情報の発信、いわゆる移住者の声ももう少し工夫をしながら発信をしたいと考えてございますので、そういった取組をしながら移住者の数を増やし、さらには長く住んでいただける施策を展開したいと考えてございます。

○議長（横山知世志君）　荒川議員。

○４番（荒川佳一君）　ありがとうございました。

それでは、大きな１番終わりまして、大きい２番の森林環境譲与税と森林整備について再質問をしたいと思います。まずは、１点目の事業費と事業内容の答弁についてですが、質問したいと思います。森林環境譲与税の金額は年々増加の傾向がありまして、事業費については当初は森林環境基金への積立てが多くあったようですが、その後順調に活用されているようです。事業内容ですが、集積計画等は町民の方が直接に関わることがあるのかどうか、その点について確認したいと思います。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　集積計画の策定につきましては、森林管理計画ですか、そういったものをつくるに当たりまして、まずは森林所有者等の意向調査、こういう計画をつくりますけれども、こういったものに参加していただけますかということで周知しまして、申込みがあった方々からこういう事業化していきますので、当然そういうところで参画していただくということになります。

○議長（横山知世志君）　荒川議員。

○４番（荒川佳一君）　そうしますと、その方々については、計画に上がった方々だけ連絡が入るということですかね。それとも、あとほかの地区ですか、地区の方々にも連絡が行くというようなことでやっているのでしょうか。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　ただいまの質問につきましては、基本的には森林管理計画とかにつきましては、森林経営管理計画の策定に当たりましては、人工林を対象としていまして、特に整備が行われていないような地域を対象として、そこに計画をつくって事業化していきましょうという話になりますので、当然町内に広く周知をするといったようなことになります。

以上です。

○議長（横山知世志君）　荒川議員。

○４番（荒川佳一君）　分かりました。実際その地区とかなんかについては、特に何か所あるかなんていうのは、今現在分かる範囲内でお答えしていただければと思うのですが。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　まず、一番最初の入り口となります経営管理の意向調査というのですか、こういった事業に実施、参画しますかといったところにつきましては、町内で６地区ございまして、面積でいいますと1,016.37ヘクタールということで調査を行っています。調査の中身にしましては、意向調査ということで、大体調査の結果で７割ぐらいの方がこういった調査を取り組みたいということで回答をいただいています。それから、２段階目に行きますと、経営管理の実際に策定に入っていくという２段階目の段階があるのですが、そこは経営管理権集積計画の作成ということになるのですが、そういうところについては、現在のところ３地区がありまして、いろいろ作業を行ってございます。最終的な事業計画につきましては、今のところ２地区、それが計画をつくっている段階ということでございます。
　以上でございます。
○議長（横山知世志君）　荒川議員。
○４番（荒川佳一君）　今の管理移行計画ということで６地区ということで、あとはほかに３地区で、今現在は２地区の実施しているということです。特に問題なく進めているということでいいのかどうかということなのですが、実際特に問題とかなんかというのは、大きい問題はなく、順調に進んでいるということで理解してよろしいでしょうか。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　森林経営管理計画の策定につきましては、意向調査と、あと測量とか、あと境界とか、確認とか、そういうことになっておりますので、特に大きな問題はなく進んでおります。
○議長（横山知世志君）　荒川議員。
○４番（荒川佳一君）　それでは次に、森林資源活用のビジョンということなのですが、これについてはどのような業務なのか、またどのような森林整備を目指す計画なのか、その点ちょっと教えてください。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　森林資源の活用ビジョンの策定につきましては、この計画は町内の森林資源を有効に活用し、林業の振興を目的とした官民連携の持続的、かつ経済性を確保した民間事業者が主体による森林資源の活用の取組の具現化ということを目的に策定の、今入ってございます。そういう中で、業務内容につきましては、森林資源に関する今現地調査などを行っているところでございます。そして、これから森林資源に向けた分析課題などを整理しまして、今月中ぐらいに森林資源の活用に関する検討委員会なども設置して協議していくということで取組が進んでおります。この

ビジョンの最終的なものについては、中身につきましては、森林資源活用の将来像、目標を定めるということと、あと森林資源活用事業推進の方策、取組を定めると。なお、あと森林資源活用推進に当たり、推進体制なども、そういったものを定めるというようなところで、森林資源が持続的に収益が上がるような取組というのを模索していくといったものでございます。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　荒川議員。

○４番（荒川佳一君）　かなり大きなビジョンというか、大きな計画だと思います。これあまり、ビジョンのほうの枠についてはしっかりとした、美里全体の中で進めていくということの話なのでしょうけれども、それについてはあまり大きく、大きく薄くならないように、かなり絞って、エリアはもちろん美里町全体のことを考えて構わないのですけれども、絞った中で、美里町についてはこういうことをすれば今の森林整備ができるのですよというような一つの特色をつくり上げるような、そういうビジョンを考えてほしいなということで思います。その点どうでしょうか。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　今の議員ご意見のとおりに、ビジョンをつくるに当たりましては、やっぱり具現化できるというのですか、しっかり実効性のあるようなビジョンでなければいけないと思っていますので、今お話しされたようなところも十分参考にしてビジョンの策定に取り組んでいきたいと思います。

○議長（横山知世志君）　荒川議員。

○４番（荒川佳一君）　それでは、２点目の未登記になっている土地の進め方ですが、森林の土地所有者になったら届出は必要であることについて、事業課としてどのように周知していくのか、その点伺います。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　森林土地所有者の届出制度につきましては、平成23年より必要になってございまして、こういったことにつきましては、ペナルティー等も実際はあるような形になっています。実際にペナルティーが科されるかどうかは別としまして、制度的な中にはそのようなものも入ってございまして、これにつきましては、やはり適正に森林を所有した方は届出を出されるように、広報等などにより、あとホームページですとか、その辺はしっかり周知していきたいと考えております。

○議長（横山知世志君）　荒川議員。

○４番（荒川佳一君）　いきますではなくて、どのように周知をしていますかということなのですけれども、その点よろしくお願いします。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　今現在でも広報のほうに１ページですか、林業の周知などもちょっ

と子供でも分かるような形の文なんかも出していたりとか、そういう周知も行っていますので、引き続きそういった周知を行って、今までも行ってございます。
○議長（横山知世志君）　荒川議員。
○４番（荒川佳一君）　それでは、ここに書いていますように、答弁にありましたように、不動産登記が令和６年度より義務化されるということなのです。そうすると、現在未登記の場所は事業の中ではどこまで、事業のエリアに入った場合どこまで町が支援するのか。何かそういった形で支援する予定とか何かというのは、考えはあるのかどうか確認します。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　ただいまの質問についてお答えいたします。
　未相続、未登記の森林などについても、森林環境税を活用して森林整備に取り組むことというのはできます。相続登記がされていない森林につきましては、相続人全員の共有となるため、相続人全員、相続人から同意を得ることというのを条件によりまして森林整備などをすることができます。あとは特例等も、これがなかなか難しい場合は特例等もありますので、特例などの活用もアドバイスというか、そういったものも使いながら森林整備を行っていきたいと考えております。
○議長（横山知世志君）　荒川議員。
○４番（荒川佳一君）　それでは、今最後に特例ということなのですけれども、これは森林整備は土地の売買ではないのですが、今言ったように救済措置があるということなのでしょうか、特例というと何か特別なことということで感じるのですけれども、その救済措置ということで理解してよろしいのでしょうか。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　特に相続人等が不明などの場合はやはり公告などをして、こういった公告なども行って、行方不明だとしても森林整備はできるといったような、そういったものもございますので、そういったものも活用していきたいと考えております。
○議長（横山知世志君）　荒川議員。
○４番（荒川佳一君）　それでは、３番目の今後の森林環境譲与税の活用した森林整備についてお聞きしたいと思います。森林環境基金ですが、令和４年度末で約2,700万ほどあるわけなのですが、有効に使っていただきたいと思います。あと森林整備と、その促進に充てるとしていますが、具体的な活用の仕方を示していただきたいと思います。ただ、また元年から現在までの、５年目になるのですけれども、なかなか事業の進み具合が目に見えてきません。町民の方にも分かるような森林をつくることはできませんかということなのですが……
〔何事か言う人あり〕
○４番（荒川佳一君）　もう一度言います。元年から現在まで５年たっているのですね、環境譲与税をいただいて５年になっているのですが、なかなかその進み具合が目に見えないということなので、

町民の方でもすぐに、あっ、あそこでやっているなとか、見て分かるような森林整備をすることはできないのでしょうかということで、例えば森林環境税で遊歩道を整備するとか、あと癒やしの森とか、森林浴とかということが、そういう皆さんにすぐに身近に分かるような施設も整備することが可能かどうかの確認です。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　今ほどの質問にお答えいたします。

まず、積立てを行っている森林環境税の今後の活用の仕方につきましては、やはり引き続き森林経営管理法に基づいた森林整備が必要であると考えております。また、先ほど申しましたが、森林活用のビジョンに基づいた取組というのですか、そういったものが必要と考えてございます。あと、もともと森林環境譲与税の目的につきましては、やっぱり森林整備というところが大きな目的でありますので、今先ほどおっしゃいました遊歩道ですとか、何かというものにつきましては、それよりはやはり森林整備のほうを優先したいというふうに考えております。ただし、福島県の森林環境交付税などもありますので、そういったものを使って環境整備というのですか、目に見えるような整備というのも考えていきたいと思います。

○議長（横山知世志君）　荒川議員。

○４番（荒川佳一君）　森林環境譲与税については、使って今の癒やしの森とか、遊歩道たしかできるはずなのです。できるはずなのですけれども、それよりも森林整備のほうをまずやってということであるならば、そのほか事業でも対応できるということで理解をしたのですけれども、できれば町民の方々が納める税金でぜひやったものを１つでも２つでもつくっていただきたいなと思っております。最後に町長にお聞きしますが、森林環境税を令和６年度から町民より徴収します。森林環境譲与税を活用しましてどのように森林整備をするのか、町長の考え方をお聞きします。

あとまた、交付金の配分が森林面積、あとは人口、あとは林業の従事者数によって各自治体……

〔何事か言う人あり〕

○４番（荒川佳一君）　それは分かります。

○議長（横山知世志君）　休憩します。

休　憩　　（午後　３時３４分）

再　開　　（午後　３時３４分）

○議長（横山知世志君）　再開します。

荒川議員、続けてください。

○４番（荒川佳一君）　今の各自治体への配分が異なりますね。今の人口とか、森林面積、あとは林業の従事者数によって変わります。町へ重点に配分されるように制度の変更を国や県に働きかけをお願いしたいということのお願いでございます。

以上です。

○議長（横山知世志君）　町長。

○町長（杉山純一君）　お答えをさせていただきたいと思います。

森林整備、我が町もそうですけれども、本当に重要な課題であるというふうに思います。県土の70％も森林、我が町も同じように70％ということで、国も県も、特に県も、交付税の話もありましたけれども、やっぱり地主の方、土地を持っている方々が自分の境界が分からないというような状況、外材に押されて木材が下落して林業従事者のなりわいが立たなくなったのが一番の原因なのですけれども、それを重く見てこういった森林環境税も創設されてきたという経緯がございます。ということで、森林整備に関しては、先ほど答弁したとおり、そういった流れの中でしっかり森林整備が長年行われて、森林を対象に先ほど言ったように経営管理権集積計画の作成業務を進めていきたいなというふうに思っていますので、ご理解をいただきたいというふうに思います。

あと森林環境譲与税ですけれども、これ私も県議時代に当然そういう話になって議論をして、国に申入れをしてきた経緯もございます。今林野庁のほうで見直しかかっているようですけれども、どうしても人口の多いところに配分されてしまうと、これやっぱりおかしいことでありますので、今までも国には申し上げてきましたけれども、特に森林の多い首長で国なり、機会あるごとに申入れ、要望していきたいというふうに思います。よろしくお願いします。

○議長（横山知世志君）　荒川議員。

○４番（荒川佳一君）　質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（横山知世志君）　これで荒川佳一君の質問は終わりました。

ここで15時50分まで休憩します。

休　憩　　（午後　３時３７分）

再　開　　（午後　３時５０分）

○議長（横山知世志君）　再開します。

次に、通告第５号、９番、渋井清隆君。

〔９番（渋井清隆君）登壇〕

○９番（渋井清隆君）　それでは、通告に従い、質問させていただきます。

１問目、行政財産の管理及び処分に係る効力について。本件事件は、令和４年12月15日、賛成多数により可決された新鶴温泉健康センター及び宿泊施設ほっとぴあ新鶴土地建物等の売買に関わる本件契約は、適正な対価なくして譲渡する内容の契約締結であるが、条例廃止の施行日は令和５年４月１日からである。そこで、地方自治法の定めについて、(財産の管理及び処分)、地方自治法第237条第１項には、この法律において「財産」とは、公有財産、物品及び債権並びに基金をいう。第２項には、第238条の４第１項の規定の適用がある場合を除き、普通地方公共団体の財産は、条例又は議会の議

決による場合でなければ、これを交換し、出資の目的とし、若しくは支払手段として使用し、又は適正な対価なくしてこれを譲渡し、若しくは貸し付けてはならないと規定されている。その（行政財産の管理及び処分）、同法第238条の４の４第１項には、行政財産は、次項から第４項までに定めるものを除くほか、これを貸し付け、交換し、売り払い、譲与し、出資の目的とし、若しくは信託し、又はこれに私権を設定することができない。そして、第６項には、第１項の規定に違反する行為は、これを無効とする旨規定されている。すなわち、法令が効力を発揮するのが施行日の令和５年４月１日からであり、地方自治法第238条の４第１項は、その効力について規定されている。そこで、本件仮契約書について、この契約は、地方自治法第96条第１項第６号の規定により、会津美里町議会の議決を得たときに、何ら手続を要することなく本契約書となり、当該議決日を当該本契約の成立日とすると記載されている。

以上、前述したように、本契約は廃止条例の施行日以前に契約締結が成立していること、そのことを踏まえ、次の住民訴訟請求事件に関わる地方自治法第238条の４、違反の有無及び効果の判断について、判例、令和３年４月28日、福岡地裁判決、平成29年（行ウ）29号「きららの湯」をただでやるな！糸島市住民訴訟請求事件では、行政財産のままでは譲渡することができず、廃止条例の施行に伴い、議会の議決の時点（本契約の時点）で行政財産から普通財産に変更されている場合には譲渡することが認められる。とする旨の判断が示されている。そのようなことから、議会の議決の時点において普通財産化になっていることが必須の条件である。しかし、本件事件は、行政財産のまま議会に上程し、賛成多数により可決された。したがって、地方自治法第238条の４第１項の規定に違反すると判断する。よって、本件事件の売買に係る本件契約は、第６項の規定に該当し、無効であると考えられること。当局の見解と判断について見解を伺う。

２問目、副町長の答弁について。さきの定例会６月会議における副町長の答弁に、総務省が間違った見解を出す場合もあると述べられたが、いついかなるときにあったのか、その具体的な事例及び根拠について伺う。

３問目、住民監査請求、住民訴訟について。１点目、住民監査請求とはどのような制度なのか、２点目、住民監査請求の制限期間の起算点について、３点目、住民訴訟とはどのような制度なのか、４点目、住民訴訟提起の期間制限について、５点目、住民訴訟の請求類型はどのように規定されているのか、以上５点について伺います。

よろしくお願いします。

○議長（横山知世志君）　答弁、町長、杉山純一君。

〔町長（杉山純一君）登壇〕

○町長（杉山純一君）　９番、渋井議員の一般質問にお答えいたします。なお、住民監査請求、住民訴訟につきましては、代表監査委員から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

初めに、行政財産の管理及び処分に係る効力についてでありますが、糸島市の住民訴訟の判例につ

きまして、福岡地方裁判所判決、平成29年（行ウ）第29号は、条例に基づいて設置されていた建物等の無償譲渡等に対する住民訴訟であります。この住民訴訟においては、地方自治法第238条の４第１項に違反しているかが争点の一つとなっております。内容は、行政財産として供用していた時点で締結した建物等の無償譲渡契約等により、行政財産の用途廃止後に普通財産に変更し、無償譲渡等を行いました。原告住民は、本件施設等は、本件各契約の効力が生じる直前まで通常どおり営業が続けられていたのであり、本件無償譲渡等の前後で本件施設等の実施に何ら変更がなく、本件施設が公共の用を廃したとは言えないことを主張しましたが、福岡地方裁判所は、糸島市が行政財産から普通財産に切り替えた期日をもって、公共の用に供する行政財産としての性格を失うことを認めた上で、用途の変更が許されない理由はないし、本件施設等の営業実態に事実上大きな変更がないことは、公共の用に供する行政財産としての性格が失われることと矛盾するものではない。原告住民らの主張は独自の見解であって、採用することができないとして、原告住民の主張を棄却しております。その上で、福岡地方裁判所は、地方自治法第238条の４に違反するとは言えないことを明記しております。また、判決文において、渋井議員の質問内容にありました「行政財産のままでは譲渡することができず、廃止条例の施行に伴い、議会の議決の時点（本契約の時点）で行政財産から普通財産に変更されている場合には譲渡することが認められる」という文言は確認することができませんでした。本町においては、「将来における行政財産としての用途廃止後に普通財産に切り替えた上で売り払う内容の契約であって、契約締結後の事情変更等にも支障なく対応できる限り行政財産として供用している間に契約を締結することが可能であるとした」平成30年３月26日付、総務省自治行政局行政課長通知に即して民間売却を行っているため、地方自治法第238条の４第１項には違反しないと判断しております。

次の副町長の答弁についてでありますが、定例会６月会議において、副町長の総務省が間違った見解を出す場合もあるとの答弁につきましては、ある事案を例として答弁したものではありません。あくまで一般論として答弁したものであります。

私からは以上であります。

○議長（横山知世志君）　答弁、代表監査委員、小島隆一君。

〔代表監査委員（小島隆一君）登壇〕

○代表監査委員（小島隆一君）　９番、渋井議員の一般質問にお答えいたします。

住民監査請求、住民訴訟についてでありますが、１点目の住民監査請求とはどのような制度なのかにつきましては、地方自治法第242条の規定により、普通地方公共団体の住民は、当該普通地方公共団体の長若しくは委員会若しくは委員又は当該地方公共団体の職員について、違法若しくは不当な公金の支出、財産の取得、管理若しくは処分、契約の締結若しくは履行若しくは債務その他の義務の負担がある（当該行為がなされることが相当の確実さをもって予測される場合を含む。）と認めるとき、又は違法若しくは不当に公金の賦課若しくは徴収若しくは財産の管理を怠る事実（以下「怠る事実という。）があると認めるときは、これらを証する書面を添え、監査委員に対し、監査を求め、当該行

為を防止し、若しくは是正し、若しくは当該怠る事実を改め、又は当該行為若しくは怠る事実によって当該普通地方公共団体の被った損害を補填するために必要な措置を講ずべきことを請求することができる制度であります。

２点目の住民監査請求の制限期間の起算点についてにつきましては、地方自治法第242条第２項の規定により、住民監査請求は、当該行為のあった日又は終わった日から１年を経過したときは、これをすることができない。ただし、正当な理由があるときはこの限りでないとなっております。

３点目の住民訴訟とはどのような制度なのかにつきましては、地方自治法第242条の２の規定により、普通地方公共団体の住民は、住民監査請求をした場合において、同条第５項の規定による監査委員の監査の結果若しくは勧告若しくは同条第９項の規定による普通地方公共団体の議会、長その他の執行機関若しくは職員の措置に不服があるとき、又は監査委員が同条第５項の規定による監査若しくは勧告を同条第６項の期間内に行わないとき、若しくは議会、長その他の執行機関若しくは職員が同条第９項の規定による措置を講じないときは、裁判所に対し、同条第１項の請求に係る違法な行為又は怠る事実につき、訴えをもって請求をすることができるという制度であります。

４点目の住民訴訟提起の時間制限についてにつきましては、地方自治法第242条の２第２項において、第１号では、監査委員の監査の結果又は勧告に不服がある場合は、当該監査の結果又は当該勧告内容の通知があった日から30日以内、第２号では、監査委員の勧告を受けた議会、長その他の執行機関又は職員の措置に不服がある場合は、当該措置に係る監査委員の通知があった日から30日以内、第３号では、監査委員が請求をした日から60日を経過しても監査又は勧告を行わない場合は、当該60日を経過した日から30日以内、第４号では、監査委員の勧告を受けた議会、長その他の執行機関又は職員が措置を講じない場合は、当該勧告に示された期間を経過した日から30日以内と規定されております。

５点目の住民訴訟の請求類型はどのように規定されているかにつきましては、地方自治法第242条の２第１項において、第１号では、当該執行機関又は職員に対する当該行為の全部又は一部の差止めの請求、第２号では、行政処分たる当該行為の取消し又は無効確認の請求、第３号では、当該執行機関又は職員に対する当該怠る事実の違法確認の請求、第４号では、当該職員又は当該行為若しくは怠る事実に係る相手方に損害賠償又は不当利得返還の請求をすることを当該普通地方公共団体の執行機関又は職員に対して求める請求、ただし、当該職員又は当該行為若しくは怠る事実に係る相手方が第243条の２の２第３項の規定による賠償の命令の対象となる者である場合には、当該賠償の命令をすることを求める請求、以上の４類型と規定されております。

私からは以上であります。

○議長（横山知世志君）　渋井議員。

○９番（渋井清隆君）　町長、私が判決文について質問内容がありません、確認することができませんとありますが、きちんとありますよ、読んでいたらば。読み方が違う、できなかったのかな。違反

事件の有無ということで、同日付で行政財産の用途が廃止され、行政財産が普通財産に変更されたというべきで、本施設は無償で譲渡、貸し付ける云々と、ここちゃんとあります。それはそれでいいですよ、言っても、ありますから。同日付というのは、本来契約というのは、仮契約があって本契約を新たにまた結ぶわけです。それを省いて議会の議決をもってやっているのですよ、これ。１問目の行政財産の管理及び処分の契約について、基本的なことから伺います。では、仮契約と本契約の違い、必然化について見解を伺います。いかがですか。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　お答えいたします。

仮契約と本契約の違いということでして、仮契約につきましては、議会の議決を要する契約は、議会の議決があって初めて契約締結の権限が付されるというふうに解されております。もともと議会の議決があるまでは、町長がもともと権限がないということで、あくまでこれについては、民法上の予約とは異なるような内容を持つということで整理されているということでございます。

○議長（横山知世志君）　渋井議員。

○９番（渋井清隆君）　ちょっと意味が分からないのかな。仮契約と本契約の違い、私のほうから言いますか。仮契約と本契約の違いは契約の効力です。本契約をもって効力が発するのです。仮契約はあくまでも仮なのです。そして、仮契約とはと、ここは後で出てきますが、将来に正式な契約を結ぶことを前提に、事前に合意して結ぶ仮の契約を意味するのです。いわゆる準備行為です、事前準備の一種なのです。本契約とは、これこそが法律に基づいて正式に結ばれる契約のこと、そういうことなのです。いかがですか。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　地方財務大典によりますと、仮契約は、地方自治法の運用として事務処理の必要上考え出されたものであるということで、ここにいう仮契約とは、双当事者は予約完結権を有するという民法上の予約とは異なる内容を持つということとされています。仮契約の法的性格については、議会の議決を解除条件、または停止条件とする解除条件付契約、または停止条件付契約であるという説もありますが、条件付契約のそれが本契約であるというところにおいては、条件を付さない契約と異なるところではないということで、そもそも議会の議決がない間において長は契約を締結する権限がないわけですから、準備行為というものではないというふうに考えてございます。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　渋井議員。

○９番（渋井清隆君）　今言ったように、述べていますよ。仮契約は、恐らくこれを見て言っていると思うのですが、仮契約、先ほど言いましたけれども、これは停止条件付契約と、仮ですから、停止条件付。停止条件付の契約と解除条件付契約、２通りあるけれども、静岡地裁のやつの云々については国の売買契約です。ここではどう言っているか、議会の議決を停止する条件の本契約を予約である

と解するのが相当である。これに対して、仮契約は議会の議決を停止条件、または解除する条件をする本契約であるとする説があるが、これでは議会の議決前に契約が成立することとなって、前記法上の趣旨に反することになるので、相当ではない。そういうことで、恐らくそれ読んでいるのでしょう。いかがですか。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　お答えいたします。

今お話しされました議会の議決があったときから効力を発生するという記載につきましては、これは本契約締結の予約たる仮契約ではなくて、停止条件付本契約と解されると、これは認められないとしております。地方財務実務提要より。認められるのは、議会の議決があった場合に本契約となる旨の記載をしますと、仮契約はあくまで仮契約と締結し、その後議会の議決を得て本契約を締結する際に仮契約をそのまま本契約として使用する意味するものということで、こちらは有効というのですか、先ほどの停止条件付の本契約とは異なるというような実務提要に記載がございます。

○議長（横山知世志君）　渋井議員。

○９番（渋井清隆君）　それで、今いろいろやりましたけれども、本件契約の贈与の契約、糸島市の、これを見ますと、仮契約の後に本契約をつくって、そこで契約の効力をきちんとここに発しています。町の場合は、議会の議決をもって本契約とする、そこが効力の日ですね、本契約の。糸島のやつはきちんと契約は別につくっていますから、本来契約書を作るのを省いているわけだから。それでもって、議会の議決があったとき何ら要することなく成立する云々、こう書いてあるのです。ですが、糸島のやつは新たな契約書、本来は契約書が作成から始まるわけですから、お互いに判こ押したときに成立はするわけ、契約は。ただ、仮は効力は発しない、あくまでも仮なのです。だから、糸島市の場合は効力を発する日はきちんと生ずると、この契約は平成29年４月１日をもって効力を生じる。この効力の日が要は廃止条例の施行日と同日付であると。よって、住民からの請求を退けたという判決なのです。よく読んでください。負けた理由はそこなのです。私のほうの場合は、いいですか、美里町の場合は、条例の廃止の施行日は令和５年４月１日です。契約の効力は、令和５年４月１日施行、本契約の効力は令和４年12月15日、逆転しています。糸島のやつは、この日が同日付だから、いいのだと言っているのです。それでもって棄却すると言っているのです。読み方が違っていませんか。

〔「同じものなのか」と言う人あり〕

○９番（渋井清隆君）　同じものなのです、私言っているの。ここに書いてあるのです、効力。

○議長（横山知世志君）　休憩します。

休　憩　　（午後　４時１７分）

再　開　　（午後　４時３０分）

○議長（横山知世志君）　再開いたします。

渋井議員。

○９番（渋井清隆君）　それでは、今いろいろやっていたって先に進まないので、また今度の機会もやられるときありますから、先々と行きます。では、この仮契約書に、最初の、なっている承諾事項の意味について見解を伺います。承諾事項とはどういうものなのか。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　第２条に記載してあります、前条の売買は、令和５年４月１日以降、新鶴温泉健康センター及び宿泊研修施設ほっとぴあ新鶴の行政財産としての用途を廃止し、普通財産とした上で行うものとするということで、承諾をしているというふうな内容でございます。

○議長（横山知世志君）　渋井議員。

○９番（渋井清隆君）　いわゆる承諾事項というのは、他人の依頼とか、要求に対し、納得して引き受けるということなのです。つまりその行為を自分がする場合、譲渡用語としての使い方の表現であって効力ではないですよ、これは。効力ではないですよ。ただこの意向でないとやりませんよということなのです、これは。効力ではないのですよ。先ほども見せましたように、効力というのは、ちゃんと新たな契約を作成してやった場合はきちんと入っているのです。それが本契約だから効力が発するわけです、法律的に。町の場合は、印紙税とか、そういうのを省くために、仮契約をもって議会の議決を得てあれをやると、成立すると書いてある。あれが効力なのです。解釈がちょっとおかしいのではないの、何でもそうだけれども。承諾事項が効力だということはないですよ。あくまでもこういうふうにしたいのですが、いかがでしょうかと相手が確認を取っているだけなのです、これ。いかがですか。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　今ほどの件についてでありますが、この契約の効力については、本契約の日から効力は発生しているということで理解しております。

○議長（横山知世志君）　渋井議員。

○９番（渋井清隆君）　だから、仮契約を本契約がなるということは、遡って遡及して、仮契約のときから今度出てくるのですよ、効力が。その約束なのです。先行行為、引っ張るのですよ、それ。一つ一つ読んでいるのです。それが一連の行為ということ、本契約まで、仮から、その一連の行為、先行行為に違法があれば、またこれも違法だというのは、そういうのは先行行為の違法性というでしょう。違法な行為をやった場合は、地方自治法の第167条ありますが、町長は議会の議決があったとき３日以内とか送ります。10日以内に再議に付する義務もあるのです。その義務を怠ったということになってくるのですよ、今度そういうことになると。地方自治法をよく読んでください。この後いろいろ私もまだまだ続くと思いますので、なぜならばこの後に出てきますけれども、これはここで一応止めておきますけれども。

それで、２問目の副町長の答弁なのですが、総務省が間違った見解を出す場合もあるとの答弁です

が、ある事案を例として答弁したのでありますが、あくまでも一般論として答弁したと。一般論といったってこういう実例があるのですか。一般論として答弁したものでありますと、どういう解釈で、書くほうも書くほうだけれども。

○議長（横山知世志君）　副町長。

○副町長（佐々木吉一君）　町長答弁のとおり、一般論としてその可能性としてそういう場合もあるということで答弁させていただきましたけれども、一つの例として今回の例えば総務省の通知の関係、昭和58年に行政実例として総務省は全国の自治体に、行政財産として使用中のものに対する売買契約等は締結しては駄目ですという見解を出しております。ところが、平成30年にはそれを撤回して、行政財産として使用中でも売買契約等は締結して可能です。同じ総務省が180度違う見解を出しております。その１点を見ただけでも一つの一般論として成り立つのではないかなというふうな考え方でございます。

○議長（横山知世志君）　渋井議員。

○９番（渋井清隆君）　その解釈は違うと思いますよ。要は、本契約と仮契約は、先ほど言っているように、あくまでも技術的助言であって、妥当性のこと言うと、法律行為ではないというのは国会でも明確に言っています。のりを越えて出したものは違法ですよと。だから、運用の範囲の範疇の中で出しているのですから、180度は変わっていません。確認してみますか、総務省に、それ確認した上で言っているのですよね、あなた、はっきりしてください。

○議長（横山知世志君）　副町長。

○副町長（佐々木吉一君）　総務省に確認はしておりません。あくまでも行政実例として、先ほども申し上げましたけれども、58年当時は、行政財産で使用中は駄目だと言っているのです。でも、平成30年には、いいですよと言っている。180度違う。当然法的効力はございません、あくまでも技術的助言ですから。地方自治法の条文も一切変わっておりません。でも、総務省の見解は180度変わっています。だから、そういう部分もあるということでお話し申し上げた部分でございます。ただ、もっと法律的なことどうなのだとなった場合においては、やはりこれは昭和59年５月30日、最高裁判所での決定がございます。これについては、やはり過去の行政実例に従った自治体が敗訴した事例がございます。これについては、大津市が市民税の滞納者に対して、地方税法及び国税徴収法により、貸金債権を差し押さえた上、その債務者に対して簡易裁判所に支払い命令を申し立てたことについて、債務者が異議申立てをしました。借りたほうが申立てをした。その申立てについて議会の議決が必要かどうかということが争われまして、訴えの提起は本来地方自治法第96条第１項の規定により議会の議決を必要とされるが、支払い命令の申立ては訴えの提起に該当しないと行政実例が出たということで、議決をしなかったと。それに対して債務者が訴えを出しました。それで、普通地方公共団体の申立てに基づいて発せられた支払い命令に対し、債務者から適法な異議の申立てがあり、民事訴訟法第442条、現行法では第395条の規定により、同支払い命令の申立て時に訴えの提起があったものとされ

る場合においても、地方自治法の規定により議会の議決を得なければならない。当初総務省は議会の議決要らないですよと言っていたのですけれども、結局裁判にやった結果最高裁判所では、議会の議決を得なければ駄目だという、要は総務省が負けたという一つの事例でございます。ですから、これを想定してどうのこうのではないのですけれども、総務省のほうの見解も間違う場合もあると、一つの可能性としてそのようなお話というか、答弁をさせていただいたということでございます。

○議長（横山知世志君）　渋井議員。

○９番（渋井清隆君）　今言っているのは、内容的には総務省と言っていますけれども、この技術的助言についてのことではないです、あくまでも。技術的助言というのは、これは地方分権一括になって、各自治体がそういうものがいろいろ、いっぱい合併になったとか、そういうものでいろんなものを整理するためにやる手法としてできたものなのです。したがって、行政財産のままやってもいいというのはあくまでも仮契約の準備行為としてやっていいということ、仮契約そのものが準備行為だから。しかしながら、施行日になってからでないと駄目ですよというの、施行日にならないと。これからいろんなことが30年前も、今契約して30年後もやってもいい、そういうふうになってきます。廃止日を決めておけば、何年先の。ずっと今度、そんな法律ないと思いますよ。おかしいと私は思います。その解釈論一つで本当にそれがいいのかと。もともと普通財産はそれこそ制約ございません。行政財産はなぜあるかというと町民の財産だからあるのです。いろんなところに、普通財産の制約がないでしょう。ただ、普通財産は総務課長が管理するだけです。課長、いかがですか。

○議長（横山知世志君）　総務課長。

○総務課長（金子吉弘君）　お答えいたします。

普通財産の管理につきましては、当然総務課のほうで管理すべき財産であるというふうな認識でおります。

○議長（横山知世志君）　渋井議員。

○９番（渋井清隆君）　町にもその管理の要綱ですか、何かありますよね、ちゃんと。そうしますと、それと今やっていることは真逆なことになるのです。行政財産ができるのだなんていうこと、無権限行為ではないですか、行為そのものが。普通財産にやらないうちに担当課長がやるなんていうことができるなんて書いてあるものはないですよ、ありますか。それこそ無権限行為でないのですか。いかがですか。

○議長（横山知世志君）　副町長。

○副町長（佐々木吉一君）　大変申し訳ないのですけれども、質問の趣旨がちょっと私つかめていないのですけれども、具体的にどういうご質問だか、もう一度言っていただけますか。

○議長（横山知世志君）　渋井議員。

○９番（渋井清隆君）　要するに、行政財産の処分の引渡し、いろいろある、要綱がありますよね。その中には、普通財産になったときは総務課長が管理するわけです。今の場合は、行政財産のままで

きるなんていう要綱はないですよ、引渡し、要綱、要領というのですか、町の、ありませんよ。
○議長（横山知世志君）　副町長。
○副町長（佐々木吉一君）　渋井議員おっしゃるとおりで、行政財産のまま売渡しとか何かという、そういう要綱は一切ございません。
○議長（横山知世志君）　渋井議員。
○９番（渋井清隆君）　だから、引渡しの要綱だか、要領だかある、私ちょっと持ってこなかった、あるのです。そこにはちゃんと列記してあるのです。分かっているはずです。そうなってくると、今回やっていることそのものが無権限行為になりますよ、権限がないのですから。いかがですかと。要領あるかないか、それだけでいいですから。
○議長（横山知世志君）　副町長。
○副町長（佐々木吉一君）　大変申し訳ないのですけれども、要領のある、なし、何の要領でございましょうか。
○議長（横山知世志君）　渋井議員。
○９番（渋井清隆君）　財産の引渡しが書いてある要領はあるのでしょうというの、あるはずですよ。引継ぎというか、所管替えというか、そういうタイトルであるはずです。
○議長（横山知世志君）　副町長。
○副町長（佐々木吉一君）　その要領だとございます。
○議長（横山知世志君）　渋井議員。
○９番（渋井清隆君）　あるのでしょう。だから、それを見れば無権限行為になるのではないですかと、私言っている。権限がない人がやるということは無権限行為ですから。
○議長（横山知世志君）　副町長。
○副町長（佐々木吉一君）　その無権限行為というのがいまいち把握できないのですけれども、原則論として普通財産は管理は総務課長となっておりますけれども、あくまでも原則論であって、町長が認めれば、産業振興課長が行政財産から普通財産になったものを管理しても別段それは構わないものだというふうに解釈しております。
○議長（横山知世志君）　渋井議員。
○９番（渋井清隆君）　それをねじ曲げてそういうのを言うこと自体がおかしいのです。ちゃんとそういうものがあるのですから、なったときに、結論から言いますと、そういうふうになったときに議会の議決は総務課長がやるのでしょう。本郷の場合はちゃんと手順追ってやりましたよ。ここに来てこういうことになっているのです。本郷のときはちゃんとやっていますよ、順序追って、金子課長が。普通財産にしてから売買契約も皆。これがおかしいのです。今回で終わりでないですから、これはこの辺でやっておかないと、言った、言わない、言った、言わない、いつまでたってもあれなので、一応ここでけりつけまして、それでは住民監査請求の件に入らせていただきますと。

制度とか、そういうのは分かりました。では、制限期間ですが、制限期間の起算点は１年と言いますけれども、この１年というのは、終わった日から１年ということで、継続性のない単発的ならそれでいいと思います。継続性のある場合は終わった日は継続性の最終の日でしょうか。

○議長（横山知世志君）　代表監査委員。

○代表監査委員（小島隆一君）　監査請求の中で、言われました終わった日というのは、私有地、公有地使用貸借契約の例えば満了した日などのように、貸借契約を結んでいて、その貸借契約が終わった日ということの捉え方で認識しております。

○議長（横山知世志君）　渋井議員。

○９番（渋井清隆君）　私聞いているのは、そういうばかりでなく、それは単発的に終わったものはそれでいいかもしれません。ただ、しかしながら、有料でもって分納でやっている場合が多い、私聞いているのです。１年目、２年目、３年目ではないですが、12か月の間に納めるとか、何か月で納めると、何か月後、終わってから金を納めると、収納の日は終わった日というのは一番最後の日でいいのでしょうと聞いている。それと、この温泉センターは、簡単に言うと所有権移転が関わっているのです。売った日云々でなく、所有権移転の日、それが終了したのでと考えていいのでしょう、これ。いかがですか。

○議長（横山知世志君）　代表監査委員。

○代表監査委員（小島隆一君）　終わった日の捉え方なのですが、いわゆる貸借契約を、例えば土地の貸借、建物貸借契約を結んだ場合に、契約を定めながら当然貸したりする形になろうかなと思います。契約日が終わった日、満了した日、例えば何年の３月31日で終わるというふうにうたってあればそれはその終わった日、３月31日をもって行為の終わった日というふうに捉えてよろしいかなと私は思っております。

○議長（横山知世志君）　渋井議員。

○９番（渋井清隆君）　それは分かったってさっきも言っているのです。所有権の移転とか、そういうのあった場合はその日をいうのでしょうって言っている。または、支払いがある程度、その履行として何回かに分かれている場合あるでしょう、分納契約によって。最終日になったのが、ときが終わった日と計算していいのでしょうと。ここにちゃんと書いてあるのだ。確認しているだけなのだ、私。

○議長（横山知世志君）　代表監査委員。

○代表監査委員（小島隆一君）　行為のあった日、または終わった日ということで、この規定の中で、自治法の中で言われておりますが、あった日というのは違法、または不当な財務会計上の行為のあった日の中で、公金の支出をした日や契約を締結した日などのように、一時的な行為のあった日を、あった日と指しております。終わった日については、今ほどご説明申し上げたような形になるかなと思います。

○議長（横山知世志君）　渋井議員。

○９番（渋井清隆君）　何かすごく先さ行かないのだな。私言っているのは、行為があった日は、それは分かりました。財務会計上の一連の手順によってなされる場合は、契約行為の違法性を問題とする。監査請求の制限期間は、一連の行為の最終段階においてなされる行為の時点、いわゆるここでいう所有権移転登記がなされた日をもって当該行為のあった日、または終わった日と見るべきであると。そこをなぜ言わないの、はぐらかしてばっかり。単発的なことではないですよと俺聞いている。町のやつはなぜ私聞いているかというの。町の所有権移転は５年４月３日に所有権移転がなされているのです。そうしますと、そこから１年間は有効期間があるということなのです。そこを私聞いているの。まだ終わっていないでしょう、だから。いかがですか。

○議長（横山知世志君）　代表監査委員。

○代表監査委員（小島隆一君）　住民監査請求につきましては、請求をされる方が、対象者は誰かとか、請求の行為とはどういうものか、何を対象にするかということで始まる期日が決まってくるのかなというふうに捉えております。ですから、今回のこの所有権移転に伴うものを捉えたときに、その行為、いわゆる請求者の申し出る行為というのがどの行為を指すのかによって変わってくるかなというふうに感じております。いわゆる仮契約行為自体が違法な行為だというふうに捉えれば仮契約を締結した日、これが違法の日でございますので、ここから１年以内というような捉え方で認識しております。

○議長（横山知世志君）　渋井議員。

○９番（渋井清隆君）　今言っているのは逆に類型のほう、住民訴訟のほう言っていると同じです。その類型を言っているのです。それは、１号請求、２号請求、３号請求、これを選択するのはまず住民監査請求前置主義と、住民監査請求をやらなければ却下なのです。分かりますか、却下って。棄却というのは１回審議してもって、補正命令なんかのためにやった場合は棄却。却下ですよ、門前払い。それをもって結果を受けて30日以内に地方裁判所、住民監査請求というのは、地方裁判所は第１審は県庁所在地の福島なのです。２審が仙台、３審が最高裁、普通の云々の場合は、１審が若松なのです。仙台で終結するのです。そういうふうになっているのです。私やっているから分かるのですよ、はっきり申し上げますと。そのとき私に違法だって町が出されたのだ、最高裁、仙台で。だから、そういうところ分からないと、住民監査請求が出たときに正式な対応ができなくなるのではないですかって私は心配している。全部この制限期間というのは皆あるのです。これが最低の条件なのです。いかがでしょうか、それ、私言いましたが。

○議長（横山知世志君）　代表監査委員。

○代表監査委員（小島隆一君）　住民監査請求を出された請求者の方がその結果をもって上の不服だということで、住民訴訟制度に移るというのは一つの自治法で定められた請求人の権利であると思っております。仮に住民請求が出された場合に、監査としましては４つの結果が想定される。今ありましたように１つ目は勧告でございまして、出された請求理由があると認められた場合には、議会や町

長に対して、この請求事案に対してこういう措置をしたほうがよいと、公的な形で告げて実行を求めるということでございます。２つ目は、今ほどありました棄却で、請求が理由がないと認められた場合には請求の無効の言い渡しをするということになります。３つ目は合議不調で、現在私ともう一名の議会選出の監査委員がおりますが、この２人の考え方が一致しなければならないということで定められておりまして、これが一致しないことにより監査の結果が出すことができない場合は合議不調で、それを不服として出すことができると。４つ目は却下で、請求人は住民票であるとか、事実証明書、こういった監査をするための内容の要件が整っているかということの審査をします。こういった自治法で定められた正規の要件を満たしていない場合には、請求人に差戻しをするというような形になりまして、こういった請求を出された場合の手続、結果について、今後こういったものが出された場合にはそれを頭に入れながら処理をするというような形になるかなと思います。

○議長（横山知世志君）　渋井議員。

○９番（渋井清隆君）　今言ったとおり、なった場合は、そういうのを適合していろいろなことになった場合は町に対して勧告もできること。それで、今言った却下もできる。却下というのはある程度補正命令をかけて、その期間にその手続上の書類が不備だったから出してくださいよとか、あと期間とか、１年過ぎたものについては期間とかという、様々そういう手続はあります。でも、私が言っているのは最低条件上の期間を聞いていたのです。その上でいろいろこれは違法かつ不当だとか、そういう請求でもって誰々にそれを勧告せよって出すのです。また、今度は別なとこに行ったら１号から住民訴訟は、またその内容が違ってくるのです。しかしながら、前置主義をやらないと門前払いの、そういうシステムなのです。そのシステムが、これはアメリカの納税書票といって、これは昭和22年に制定された地方自治法の改正の際に、アメリカの納税書票制度に倣って導入したものだとなっている。だから、納税者のために見習っているのです。だから、住民側を大事にしているということ。官に誤りなしではないのですよ。官にだって誤りがあるから、こういう制度ができるのです。だから、私だってできるのですよ、まだ、住民監査請求だってやれば、訴訟まで。何でかんで弁護士頼まなくてもできるのです。私は弁護士頼まないでやったのだから。これさえ送れば簡単にできるのです。

だから、大事な公有財産を、私監査委員に申し上げたいのは、そういう監査は、今会計ばかりやっているのではなく、法律的なあれもやることができるわけだから、そういうものをちゃんとやっていただきたいがゆえに、私この住民監査請求の前置主義を申し上げたのです。やる、やらないはこれからの考え方なのですが、これは全部、誰でもできるのです、資格は持っているのですから。そういうことで、いつまでもこれやっていたってしようがないので、監査委員もそこら辺をよく理解していただいて、万が一住民監査請求が出た場合はきちんと法に従って、照らして、その前にはやはり自分からどうであろうかということも調べておいた上で、おいたほうが私はいいのではないか。

○議長（横山知世志君）　渋井議員、ちょっと待ってください。

お諮りします。５時になったのですが、今質問終わるまで延刻したいと思いますが、よろしいです

か。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　再開します。

渋井議員、どうぞ。

○９番（渋井清隆君）　間もなく私も終わりますので。

そういうことで、やはりきちんとした代表監査委員ですから、やっていかないとこれからますますこういう事態がいっぱい出てくるのです。不要財産、合併した町村は特にありますから。やはり目をよく向けてください。会計ばかりでなく、そういうところの事務処理も監査委員の今権限になっていますよね。

○議長（横山知世志君）　渋井議員、質問を終わりましょう。

○９番（渋井清隆君）　以上で終わります。ありがとうございました。

○議長（横山知世志君）　これで渋井清隆君の質問は終わりました。

○延会の宣告

○議長（横山知世志君）　お諮りいたします。

本日の会議はこれで延会したいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認め、本日はこれで延会いたします。

延　会　　（午後　５時０２分）

定 例 会 ９ 月 会 議

(第　３　号)

令和５年会津美里町議会定例会９月会議

議事日程　第３号

令和５年９月７日（木）午前１０時００分開議

第１　一般質問

本日の会議に付した事件

　議事日程に同じ

○出席議員（１６名）

１番	櫻井幹夫君	９番	渋井清隆君
２番	大竹惣君	１０番	星次君
３番	小柴葉月君	１１番	堤信也君
４番	荒川佳一君	１２番	鈴木繁明君
５番	山内豪君	１３番	根本謙一君
６番	長嶺一也君	１４番	根本剛君
７番	村松尚君	１５番	横山義博君
８番	小島裕子君	１６番	横山知世志君

○欠席議員（なし）

○説明のため出席した者

町長	杉山純一	君
副町長	佐々木吉一	君
総務課長	金子吉弘	君
政策財政課長	國分利則	君
会計管理者	松本由佳里	君
町民税務課長	猪俣利幸	君
健康ふくし課長	平山正孝	君
産業振興課長	小林隆浩	君
建設水道課長	加藤定行	君
教育長	歌川哲由	君
こども教育課長	渡部雄二	君
生涯学習課長	福田富美代	君
代表監査委員	小島隆一	君

○事務局職員出席者

事務局長	児島隆昌	君
事務局次長 兼総務係長	歌川和仁	君

開　議　　（午前１０時００分）

○開議の宣告

○議長（横山知世志君）　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりであります。

○一般質問

○議長（横山知世志君）　日程第１、昨日に引き続き一般質問を行います。

通告第６号、７番、村松尚君。

〔７番（村松　尚君）登壇〕

○７番（村松　尚君）　それでは、通告に従い質問させていただきます。

１点目であります。物価高騰に対する町の支援についてであります。昨今の円安やエネルギー価格高騰などの影響で、ガソリン価格や食料品、生活必需品など、様々な物価が軒並み値上げをしています。この価格上昇は、この先も続くものと連日マスコミなどでも報道されているところであります。しかし、給与所得のアップについては決して多くの企業ができることではなく、先日の新聞では所得格差が過去最大との報道もなされました。また、夏休みを含めた小中学校の休校中は、その保護者にとっても給食がないことから、経済的な負担は非常に大きいものがあると推察します。現状認識と考え方について伺います。

１点目、現在の物価高騰に対し、どのような認識を持っているのか。また、町としてどのような取組が必要と考えているのか。

２点目、子育て世帯にとって、今般の物価高騰は非常に大きな影響があると考えるが、夏休みなど学校給食が長期間休みになるときなどの影響など、小中学校でアンケートをしているのか。

３点目、高齢世帯や子育て世帯、また大学生を対象にした幅広い支援策が早急に必要と考えるが、町の考え方は。

質問事項２、地元商工業の現状認識と観光誘客対策、その将来像についてであります。商工会は、平成21年旧３町村が合併をし、現在に至ります。当初の会員総数は569事業者でありましたが、廃業や事業承継ができないなどの理由から年々会員数は減少傾向にあり、直近の令和５年は会員総数が459事業所まで減少しております。その内訳を見ますと、旧新鶴商工会につきましては合併前の部会が２部会で運営していた点もありますが、商業に従事する会員が110事業者の減少とほとんどが商業に従事する会員であります。この会員数の減少傾向は、少子高齢化が進む中で廃業が続くのではないかと非常に危惧するところであります。この問題は事業者の努力だけでは解決できず、観光客の増加が問題解決の一つと考えます。商店街がにぎわいを取り戻すことで新規事業者が増え、商店街から笑い声が聞こえることで地域コミュニティーの一助を担うと考えることからも、以下のことについて伺います。

１点目、現在の商店街に対し、どのような認識であるのか。また、町として商店街を維持する上で必要なこととはどのようなことであると考えているのか。

２点目、商店街の魅力を発信することは必要であり、昔ながらの地域コミュニティーとしての魅力も発信することで観光客が気軽に立ち寄ることができ、また購入していただくことで些少でも収益につながることが商店街の維持にもつながると考えるが、町の考えは。

３点目、住民を対象にしたなりわいも大切だが、観光客を対象にしたなりわいもこれからの商店街を維持する上で必要になることは当然だが、観光客が観光地だけではなく、商店街に入ってくる仕掛けが必要である。そのためには観光協会や関連団体と連携することが必要になってくるが、現在どのような連携をし、観光客や住民に対し誘客や商店街の魅力を発信しているのか。

質問事項３問目です。今夏の猛暑の影響についてであります。今夏は例年にないほどの猛暑や異常気象の影響で、西日本では台風による洪水、東日本では連日の猛暑により、水田や畑などで水不足が起こっておるとの報道がなされております。住民の方々から猛暑の影響を様々伺うことがありました。そこで、町内において現在どのような影響が出ているのか、また影響が出ているのであればどのような対策をなされているのかを伺います。

以上、３問よろしくお願いします。

○議長（横山知世志君）　答弁、町長、杉山純一君。

〔町長（杉山純一君）登壇〕

○町長（杉山純一君）　７番、村松議員の一般質問にお答えいたします。なお、物価高騰に対する町民の支援についての２点目、学校給食が長期間休みになるときの影響などの小中学校へのアンケートにつきましては教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

初めに、物価高騰に対する町の支援についてでありますが、１点目の物価高騰に対する認識と取組の必要性につきましては、現在のエネルギー価格や物価の高騰は、国際情勢の変化や急速な円安が主な要因と認識しており、今後も引き続き予断を許さない状況が続くものと見込んでおります。また、エネルギー価格や物価高騰に対する取組につきましては、激変緩和などの短期的な対策と町民の生活様式や事業者の経営体質の転換を促す中長期的な対策がそれぞれ必要であると考えております。これらの対策を講じるため、国の交付金等を活用し、様々な取組を行っているところであります。

３点目の幅広い支援策の考えにつきましては、これまで全ての町民や高齢者世帯、子育て世帯、大学生に対し、現金や商品券の給付、特産品の送付など、様々な支援を行っております。なお、高齢者世帯や子育て世帯のほか、幅広い対象への支援策につきましては、１点目でお答えいたしましたとおり、国や県からの十分な財源措置が必要であり、今後の国、県の動向を踏まえて検討をしてまいります。

次の地元商工業の現状認識と観光誘客対策、その将来像についてでありますが、１点目の商店街の現状認識と必要な対策につきましては、商店街の現状については以前から衰退が見られる状況である

と認識しております。大型店やネットショッピングの全盛による消費者動向の変化、事業者の高齢化、後継者不足、コロナ禍、景気動向など、本町のみならず、全国どの商店街も苦戦している状況にあります。本町が現在取り組んでいる高田地域まちなか賑わい創出プロジェクトにおいても、まさにその課題に取り組んでいるところであります。必要な対策として、現在も営業している事業者を継続して支援していくことは前提に挙げられますが、新たな対策として商店街に新たな魅力をつくり出し、人の流れを呼び込むことが挙げられます。観光で誘客に努め、地域のコミュニティーによって人の流れをつくり出していくことが有効な対策だと考えられますので、高田地域まちなか賑わい創出プロジェクトの中で協議を進めてまいります。

２点目の商店街の誘客に向けての情報発信と収益化につきましては、昔ながらの商店街やお祭りなどのコミュニティーの魅力を発信していくことは、誘客につながる可能性はあると考えます。現在も観光協会や地域おこし協力隊を中心にＳＮＳを活用した情報発信をしておりますので、商店街のイベントや旬な食品や物産などタイムリーな情報を投稿し、さらなる誘客を図ることで収益化につなげてまいります。

３点目の商店街と各種団体の連携につきましては、これまでの商店街は町内向けの需要で成り立ってきたため、町内に新聞広告などを出すことはあっても町外に向けての誘客を積極的に行ってきたとは言えず、近年においては観光協会などの関連団体とも積極的な連携が不足していたと分析しております。女性プレーヤーの皆さんが中心となって仕掛けたあやめ祭りでのまちかどマルシェのように、ＳＮＳを活用し、商店街に人の流れをつくり出した成功事例もありますので、地域の特性を生かした新たなにぎわいをつくり出すために商工会や観光協会と連携して取り組んでまいります。

次の今夏の猛暑の影響についてでありますが、例年にない少雨による渇水や高温が続き、町内においても８月に入り一部の地域で農業用用水が十分に確保できず、水稲の高温障害による品質の低下が懸念されております。また、ソバや園芸作物、果樹についても、高温による発芽不良、成育不良、収穫量の減少といった被害の情報が関係機関から寄せられているところであります。高温や渇水の対策につきましては、７月末から８月の水稲の出穂時期に水不足が想定されたため、下流域にも水が回るように関係機関等との情報の収集、共有に努め、適正な取水を呼びかけるなど働きかけをしてきたところであります。来年度以降も地球温暖化による気象状況の変化により、水不足になることも考えられるため、引き続き高温・渇水対策を調査、検討してまいります。

私からは以上であります。

○議長（横山知世志君）　答弁、教育長、歌川哲由君。

〔教育長（歌川哲由君）登壇〕

○教育長（歌川哲由君）　７番、村松議員の一般質問にお答えいたします。

物価高騰に対する町の支援についてでありますが、２点目の給食がない夏休み等における食生活に関する小中学校へのアンケートにつきましては、教育委員会から小中学校へ依頼して実施しているも

のはありません。各学校では、学級担任が児童生徒からの聞き取りや生活アンケート、また教育相談を通して夏季休業中の生活について情報収集に努めております。特に児童生徒の家庭環境や交友関係等に大きな変化がなかったか、本人に不安や心配事がないか、２学期のスタートに当たり丁寧に児童生徒を見取り、適切に対応するよう指導し、その状況把握に努めておりますが、現段階では懸念される報告は受けておりません。今後は、町内の代表校長や養護教諭で構成する保健衛生推進委員会において、これまでの健康に関するアンケートを基に食生活に関するアンケート項目を増やし、児童生徒の心身の健康状態や食生活に関する状況把握に努めてまいります。

私からは以上であります。

○議長（横山知世志君）　村松議員。

○７番（村松　尚君）　一定のご答弁ありがとうございました。それでは、再質問させていただきます。

１点目、こちら物価高騰に対する支援というものは、確かに国や県などの交付金がないとなかなか財源上厳しいというのは、ある程度質問のときに分かっております。ただ、毎月のように、今回９月も2,000品目以上のものの値上げが決定したと。ただ、これも昨年に比べれば比較的落ち着いてはきていますが、ただ今回の2,000品目の中には、乳幼児に対するミルクであったり、そういった本当に間近なものの価格が非常に上がっていると。そういったところを見ると、昨今のガソリンの値上げもそうですが、やはり町独自として何らかの支援策が必要ではないか。また、その支援に対しては、所得制限であったり、国や県などで行っている線引きというものがするべきではないと、やはりこういった厳しい状況下の中で町がやはり支援することというのも必要だと思うのですけれども、再度答弁のほうお願いいたします。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　それでは、お答えします。

町の独自の支援が必要ではないかというおただしでございますが、確かに町が支援を行い、町民に対して支援を行いということにつきましては、確かに効果があるものと考えております。しかしながら、町長答弁にもあったように、今１万9,000人弱でございますが、全員に対する支援となりますとそれ相当の財源が必要ということでございます。現在取り組んでおりますのは、あくまでも国の交付金を活用しまして、さらに町の一般財源も付け足しながら今支援をしているというような状況でございます。支援の状況につきましては、現在やはり所得制限、例えば非課税世帯を中心に、さらには子育て世帯、そういった対象をある程度絞った中で支援をしているというような状況でございます。

ちなみに物価の状況でございますが、現在８月の下旬に国の発表によりまして、この９月には新たな経済対策を実施するというような報道も発表されております。さらに、昨日ではございますが、ガソリン価格についても発表がございました。本日からガソリンの補助に対する補助金も少し上乗せをするというようなことで、ガソリンも今186円ですか、６日発表になりましたが、これも過去最高だ

ということで、かなり高騰しているという状況は認識しております。これについても、今日から補助を拡充するということでございますので、徐々にではございますが、下がってはいくのかなと思ってございます。繰り返しになりますが、国の財源を活用し、やはり全体的な支援を行うには財源が必要でございますので、この秋に国が発表する経済の対策を、情報を早急につかみながら検討してまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　村松議員。

○７番（村松　尚君）　確かにガソリン価格、ガソリンに対する補助も段階的に引き上げていくと国のほうでもお話ししているのは分かります。しかしながら、ガソリン価格がではそれだけ大きく下がったのかといいますと、そんなに大きな下がりではないわけです。175円をめどにしていきたいと、その程度をめどにしていきたいというお話でもありますし、実際のところ170円でも十分高いと思います。

田舎に住むということは、どうしても車が必要になってくるのです。どうしてもやっぱりガソリンは必要になります。確かに今エコカーであったり、ハイブリッドの車、電気自動車であったり、そういった意味合いで今低燃費化が進んでいますけれども、それでもやはりこの会津美里町に住む上では車はなかなか手放せないと。そういったところも踏まえれば、確かに国の動向または県の動向というものも見る必要はあると思うのですけれども、やはりこれでは足りないという部分があればやっぱり町独自としても常に考えてやるべきではないのかなと。これは今現在ばかりの考え方ではなく、灯油自体も今120円くらいまで上がっているわけですね、大体配達すれば。原油が１つ上がれば全てのものが上がってきますから、これからだんだん、だんだん寒くなる先のことを見据えながら、やると決めてすぐできるものではないです。そういったものの変化、季節の変化であったり、様々なものを想定して、やはり国だけでは足りないと思ったならば、町独自として様々な方策を講じていく必要があると思うのですけれども、その辺の考え方お伺いします。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　再度のおただしでございますが、町独自の支援ということでございますが、繰り返しになりますが、財源が必要ということは認識しておりますので、当然やはり国なり県の財源を活用しというのが必要かと思っております。ただ、やはり議員おっしゃるように、このガソリン価格の高騰につきましては、これから冬当然灯油も値上がりというようなことになっておりますので、何がしの対策が必要ではないかというおただしだと思います。例えばでございますが、現在今実施しておりますプレミアム商品券、これは今後これから秋から冬に向けて使用できるものになっておりますので、ぜひその辺を活用していただければなと思っております。ただ、プレミアム商品券につきましては全員が買えるものではございませんので、そういった中での対策の確かに一部にはなると思います。それをやはり１万9,000人弱の町民全体に支援を行き渡らせるというのは、なかなか

厳しいのかなと思っております。ただ、やはり議員おっしゃるように、必要なときがあれば、当然それは町としても一般財源を活用して必要があればやる必要があると思っておりますが、現在ではまだその段階ではないと考えてございます。

○議長（横山知世志君）　村松議員。

○７番（村松　尚君）　国のほう今、非課税世帯であったり、子育て世代であったり、こちらのほうは基本的に現金なのですよね、給付というのは。そういったところそれを今町から出しているような形だと思うのですけれども、その現金というのは実際地元にはどのくらい下りるかというのは分からないのですよ、現金というのは。今ほど課長答弁にもありましたが、今プレミアム付商品券、こちらについてはもう町内の商品券、少なくとも町内関係でしか消費ができないと。ある程度の枠組みを区切った上で販売しているわけです。そういったところを考えたときに、このものというのが住民に対して仮にそういった給付なのか、商品券の配布なのかという部分はこれはなかなか難しいですけれども、そういったものであれば比較的使われる先も見える、そういったところも考えられると思うのです。また、当然ガソリンスタンドも町内にもありますし、そういったところでも使っていただける。そういったものをやはり先々の上で考えていく必要があるのではないかなと。プレミアム付商品券は基本的に現金でしか購入ができないものですし、先ほど言った低所得者であったり、そういった方々に対してはなかなか手が届かないものなのかもしれないです。ただ、そういった方々には現金の給付があるのです。ただ、現金の給付はどこで下りるか分からないです。そういったところをある程度把握できるものという部分で今回私は町の中で使えるような商品券、そういった意味合いでの経済対策という部分を町の支援が必要ではないかという部分で質問させていただいたのですけれども、その辺これから先、今ほど課長が、繰り返しになってしまうのかもしれないですけれども、そういったような考え方というのはいかがなものか、再度答弁お願いします。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　お答えしたいと思います。

プレミア商品券、確かに地元にお金が下りて、当然商工業の活性化にもつながるというようなことで、非常に有効な手段であると考えております。当然町としてもこの数年間、３年程度ですか、毎年プレミア商品券を発行してやってございます。確かにプレミア商品券については町内だけということで、使い道もある程度決まってきますので、確かに効果はあると思いますが、やはり町民の方にとっては以前、令和２年度でございますか、１人当たり10万円の給付を行った際にもその検討はなされました。結果的には、町は10万円の現金ということで給付をさせていただいたところでございます。そういった経緯もありまして、やはりこのプレミア商品券がいいのか、現金がいいのか、なかなかここは非常に難しい問題なのかなと思っております。でも、やはり地元の商工業の振興、さらには生活者の支援と考えれば、商品券については非常に有効な手段であると考えてございます。

質問の冒頭にありました子育て世帯や非課税世帯への支援というようなことでございますが、今年

から町では新たに事業といたしまして、いわゆる小学校の入学、中学校の入学時、中学校の卒業時、これにつきましては一定程度のやはりお金が必要だというようなことで新たに今年から支援の制度も始めてございます。そういった全体ではございませんが、やはり必要に応じた、必要であるという世帯なり、そういう対象にはそういった助成も必要なのかなと思っておりますので、繰り返しになりますが、商品券の支援については確かに効果もあると思いますので、先ほど申し上げましたが、この９月に発表されます国の支援策を検討しながら内容を精査してまいりたいと考えております。

○議長（横山知世志君）　村松議員。

○７番（村松　尚君）　そうですね、国の動向を見ないとなかなか独断で決められないという部分も当然あると思いますので、その辺は９月の発表を待って、やはり先を見ながら、極端な話、これが12月の例えば先の一般質問でまた同じようなことで、では経済対策どうですかというような話にならないように、そういったフットワークの軽いところで足りない部分は早急に応援できるような体制をお願いしたいと思うのですけれども、そこを確認１点させてください。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　まずは、その国なり県の情報をいち早くつかみまして、どのような支援策があるのか、まずここが肝要になるかと思います。そこの中でどういった支援ができるのか、その選択肢の一つとしてやはり商品券というのもあると思います。そういった中で検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　村松議員。

○７番（村松　尚君）　それでは、１点目については終わらせていただきます。

では、次は２点目です。給食のない夏休み等における食生活のアンケートということで、今ほどまた今後項目を増やしていくというお話があったのですけれども、その状況把握に努めていく上での増やしていくと、項目を増やすというお話ですけれども、どういった項目を増やすお考えであるのか、少しその内容もしあるのであればその辺何わせてください。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

保健衛生推進委員会に任せておりますので、具体的にどのようなものを増やすかというのは今後検討が必要かというふうに思っておりますが、実は食生活に関するアンケートというのは、食育習慣であったり、あるいは早寝早起き朝御飯に関する調査であったりということで、期間を区切って学校や園で様々な調査をしております。ただ、これ年間通してというのはなかなかできないことでございますので、期間を区切っているわけですが、今回議員おただしの夏休みに特定したというものもなかなかやりにくいというのはご理解いただけると思います。ただ、日常的にそういう食がきちんと取れているかどうかとか、そういうことについて聞き方を検討しながら調査項目に入れることは可能かなと

いうふうに思っております。子供に聞くわけですから、直近のものしか覚えていないというのは事実あると思いますから、常日頃なのかどうかちょっと分かりませんけれども、今得られるデータを有効活用していくことも今後考えていかなくてはならないと思っております。加えまして、学校では定期的に子供の発育測定なんかもしておりますから、体重の減少がないかとか、そういうことからも子供の健康状態、食育の状態なんかも、摂食の状態なんかもきめ細かく調査して把握しているところというふうに認識しております。

○議長（横山知世志君）　村松議員。

○７番（村松　尚君）　食事は３食取ったほうがいいとよく学校関係では、これは小中高、高校行ってもずっと朝御飯はしっかり食べるようにというようなことをよくお話しされます。極端な話このアンケートというのは、逆に夏休み明け、春休み、新学年に入ってすぐとか、そういった長期間の休みのとき比較的聞きやすいのかなと思うのです。逆に言えば確かに前のことは覚えていないのですけれども、夏休み明けのアンケートで夏休み中どういったような食生活を送ってきたのか、またそういったところで質問内容等、その質問を聞き取る時期という、そこら辺をもうちょっとうまく調整することである程度の内容みたいなものは若干つかめてくるのかなと思うのですけれども、その辺お考えいかがでしょうか。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

その時期的なものにつきましては、保健衛生推進委員会の中でどのような取組を今後していくか不明なところございますけれども、学校がやれる時期というのはある程度決まっておりますので、多忙な中でやっていくわけですから、そこについてはこういうものをやりなさいという決め方ではなくて、多分期間を設けて調査していくようなことになるのではないかなというふうに思いますし、結果を有効活用していく上でもばらばらな時期にやってもあまり意味はありませんから、ある程度の期間を定めてやっていくことになると思いますが、今私どものほうから明言することはちょっと困難かなというふうに思っております。

○議長（横山知世志君）　村松議員。

○７番（村松　尚君）　そうですね、確かにこの場でいきなりどうのということはないのですけれども、ただやはり家庭環境、長期間休みになる、これは子供たちが、悪い考えになってしまうのですけれども、ひょっとしたら１日に１食しか食べない子供もいるのではないか。また、家庭環境というものがなかなかこれやはり把握しにくい時代にもなってきていますので、ぜひとも教育長はじめちょっと質問事項等々中身はぜひご協議いただいて、少しでも把握をしていただけるような、そういったところでどういった指導ができるのか、どういったことができるのかという部分、ぜひとも調査のほうをアンケート調査等々でお願いしたいなと思います。２点目は、回答は結構でございます。

では、３点目になります。先ほどお話しいただきました高齢世帯や子育て世帯、特に子育て世帯に

対しては、町独自の卒業生、入学生に対しての助成が始まっているという部分は私も当然知っております。こういった大学生に対する支援というのは前にも行っていましたが、ふるさと産品みたいなのを登録すれば送るよというようなのもやっていたと思うのですけれども、今年度に対してもそういったところ、大学生に対する支援と、今回のような中での支援というのは、町独自の支援というのは何かなされていらっしゃるのか確認させてください。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　お答えしたいと思います。

大学生に対する支援でございますが、議員今ほど述べられたように、これまでは大学生に対してふるさと産品を送ったり、そういった事業を取り組んでまいりました。現在のところ何かあるのかということでございますが、特に今現在のところ大学生を対象とした支援というのは考えてございません。

○議長（横山知世志君）　村松議員。

○７番（村松　尚君）　そうすると、大学生に対する支援と、そういったような、例えば交流みたいな、町から送ることによって町からの支援というふうなものを感じれば、そういったものが地元に対する愛情にもつながるのではないかなという前にも話ありましたけれども、なぜやらないのかその辺お伺いさせてください。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　まず、なぜやらないのかということではなくて、つまり大学生だけを対象とした支援は実施していないということでございますので、現在行っておりますのはあくまで非課税対象者とか、昨年度から今年度にかけては子育て世帯、これは国の交付金を活用して１人５万円の支援を行っておりますので、そういったことで大学生を特出ししてやっていないということではなくて、やはり必要であると、そういう世代だったり、そういったところでは支援しているというようなことでございますので、ご理解いただきたいと思います。

○議長（横山知世志君）　村松議員。

○７番（村松　尚君）　これ大学生を対象にしたと、その考え方の、見方によってこれ様々な多分意見が出ると思うのですけれども、やはり大学生を対象にして、そういったやっぱり地元から今大学生活を送っている子供たちに対して、特に県外に出ていっている子供たち、これは極端な話任意でもいいと思うのです。何でかんでそれを、要らないというものを送るわけにもいきませんから、例えば地場産品のこういうようなもの大学生対象にしてあるよと、こういう制度もあるよと、ぜひとも利用したい方いらっしゃいませんかというようなことも、それで農産物であったり、そういったものを町と離れて暮らす大学生、未来がある子供たちに対しての橋渡しみたいな形でパイプをつくっておくということも必要だと思うのですけれども、その辺お考え伺います。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　お答えします。

確かに大学で、例えば町外、さらには県外に出ておりますので、地元の産品などを送って地元の愛、地元愛を育ててということで、最終的には地元に戻ってきたいという思いがあると思います。確かにそういったことであれば私非常に有効な事業であるとは認識しておりますが、やはりこれはあくまでも経済対策というよりは、どちらかといえばＵターンだったりＩターン、さらには移住、定住の施策なのかなと思っております。確かに大学生に対してそういった支援を送ることは有効な手段の一つでは考えておりますが、やはり現段階でやるというようなことは考えてはございません。

○議長（横山知世志君）　村松議員。

○７番（村松　尚君）　現段階では考えていないということですけれども、やはり先を考えればそういうところというのは、私は子供たちに対してそのときに、例えば先ほど課長のほうからもお話しになりましたけれども、Ｉターンだったり、戻ってくる一つのきっかけになるというお考えもあるのであれば、やはりこの物価高騰という部分もありましたから、そういったところを踏まえて町のほうから、町の今現状取り組んでいる内容であったり、そういった部分も、パンフレットなんかも一緒にしながらそういうふうにして送ってあげる。確かに今アルバイト生活している大学生も当然多いです。親からの仕送りだけでやっていられる人なんてほとんどいないはずです。そういった中で、ああ、町から食材を送ってもらったから今日１日アルバイトを休んでちょっとゆっくりしようという大学生も出てくるかもしれません。そういった部分がやはり地元に対する思いであったり、そのときに入っているパンフレットを見ながら、ああ、よかったなと思うきっかけにもなると思うので、ぜひとも現在は考えていなくても、これは必要なものだと思いますので、その辺お考え最後にお尋ねします。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　確かにそういった事業の取組というのは有効な一つの手段だと思っております。やはり大学生に対しては、そういったふるさとの産品を送るというようなことも確かに効果的ではあると思いますが、やはり地元の情報をいかに、町のやっている事業、さらには町の魅力を発信する情報を学生の皆様にはお伝えすることで一定の効果があるのかなと思っております。でございますので、やはりそういった情報をいかにその大学生のほうに伝えるのか、さらにはそれによってＩターンだったり、Ｕターンを増やしていきたいと考えておりますので、情報の発信に努めてまいりたいと考えております。

○議長（横山知世志君）　村松議員。

○７番（村松　尚君）　情報の発信だけであれば子供たちはもっと違うものを見る可能性も大きくなると思いますので、やはり先ほど言ったように町から送るものがあるからこそ、その中に町の情報が入っていると、それをいやが応にも開けることによって確認していただけるという部分もあると思いますので、その辺は現在今のところは考えはないということでありますけれども、先々見据えてぜひともご検討いただきたいと思います。

それでは、２問目のほう入らせていただきます。商店街の活性化と商業の部分でありますけれども、

今高田地域まちなか賑わい創出プロジェクトが始まろうとしておりますけれども、これはやはりなかなかプロジェクト自体が走り始めてみないと内容的な部分というのはこれつかめないと思います。ただ、それにも、人間はいやが応にも年を取っていくのですよ、プロジェクト中に１つでも２つでも。そうなったときに、商店街の方々がひょっとしたらもう廃業しようと思うのだという人も出てくるかもしれません。そういったところで、１点目、やはり協議というものはスピーディーに進めていかなければいけないと思いますけれども、このプロジェクトの中で協議していく中の構成メンバーというのは大枠が決まっているのか、その辺伺います。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　ただいまの質問にお答えいたします。

高田地域のまちなか賑わい創出の協議会につきましては、７月14日に第１回を開きまして、８月31日に２回目の会議を開いております。その中で、委員につきましては18名の委員から構成しておりまして、その中には商工会の事務局長の経験者ですとか、あとは大学の先生、それから自治区長、金融機関、あと商工会にも所属しているような事業者の方、観光協会の方、あとは地域づくり関係の方、さらには公募として18名中８名の方が入っております。その公募の方も実際に商店街で事業をやっている方というのが半分近くいまして、そのほかにも農業ですとか、福祉関係の方とか、どちらかというと50歳以下の方という方が入っているような状況でございます。そのようなことで、今委員会ですか、取り組んでいるところでございます。

○議長（横山知世志君）　村松議員。

○７番（村松　尚君）　それだけの規模、ましてや地元で商店をやっていらっしゃる方が入っているのであれば、それなりの商店街を維持していく上でのこれからのことというのは十分話し合っていけるのではないかなと思います。

では、１点目の確認は以上とさせてもらって、２点目のほうに入ります。２点目についてですけれども、こちらについて確かに観光協会、地域おこし協力隊でＳＮＳ、情報発信をしているという話もしていました。ただし、なかなかそれが伝わりにくい。それがもし伝わっているのであれば、商店街にも十分観光客の方、また地域の住民の方々も当然それで、発信で見て来ているのであれば十分商店街としての形成が成り立っていくのではないかなと思うのですけれども、それがなかなか成り立たない。また、やはり気軽に立ち寄れるかどうか、そのフランクさというのですか、すごく初めて来た人が店に入りやすくなるような、やっぱりそういうような部分、そういった情報を、またこれもプロジェクトの中でのその会議の中でそういった意見も出てくるのかもしれないのですけれども、やはりそういった部分も必要ではないかなと思うのですけれども、その辺のお考え伺います。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　ただいまのご質問についてでありますが、今２回開催している中でそういったような話も出ていまして、やはり委員の皆さんから大体共通してくるのは、居心地のいい

ようなコミュニティー、そういうものに集まるようなものを形にしていけば、当然やっぱりそれにつられて居心地のいい場所であれば、観光客なりそれ以外の方も来てくれるのではないかと。そういうのをベースにして居心地のいい場所ということになりますと、やっぱり現在商店街に足りないような機能も当然必要ではないかという話、考えもありまして、やはり何か直売所みたいな、お店みたいなの併設ですとか、落ち着いて休んでお茶を飲めるようなスペースですとかそういったものが、やはり人がゆっくりとくつろげるようなスペースなどそういったものも必要ではないかとか、そういう話が出ています。まずコミュニティーの場所というのが一番大切だということを前提にして、そしてやはり観光のほうのやっぱり客も入ってくるような仕組みが必要ではないかということで協議、話は出ております。

○議長（横山知世志君）　村松議員。

○７番（村松　尚君）　そうですね、今非常にいい課題がプロジェクトの中でも出ているみたいなので、ぜひともそういった部分を先にどんどん広げることでそのコミュニティーのできるような場所をつくっていただくなり、今ほど様々な課題が出ていますので、しっかりとその辺は取り組んでいただきたいなと思います。

　では、２点目の質問も終わらさせていただいて３点目になります。３点目は、まちかどマルシェ、こちらのほう当然あやめ祭り期間中に開催されていたのはよく分かっております。イベントというのが、これも一つのイベントだと思うのですけれども、イベントで、これなかなか酷なことを聞くようですけれども、プロジェクトの中で確認を取ったかどうかお伺いしたいのですけれども、このまちかどマルシェ、課長のほうからの答弁もありましたのでお聞きしますが、まちかどマルシェでどのくらいの割合の方々が商店街を活用されたか、その辺というのはご存じかどうか、ちょっとその辺伺わせてください。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　まちかどマルシェの商店街の影響とか収入とかという効果につきましては、そこまでは、具体的に金額等までの調査は行ってございません。ただし、街なかの人の町民の方たちの話なんかを聞いたりはしているのですけれども、やはりすごい昔のにぎわいを思い出したようだと。こういうイベントであれば、本当にもう年間何回も行っていただきたいというような商店街に、普通の住民の方からも同じような声は聞いております。

　以上でございます。

○議長（横山知世志君）　村松議員。

○７番（村松　尚君）　当然一般の住民の方々からすれば、こういったようなイベントというのはたくさんやってくれというのは多分多いとは思います、特に商店街関係であれば。ただ、３点目にお伺いしたのは、観光地だけではなくて観光客がやはり街なかに入ってきてお金を落とすシステム。ただ、この中でやはり観光協会や様々な団体と連携して、まちかどマルシェなんかも人の流れをつくり出し

たという一つの事例として挙がっているものですから、回答の中で挙がっているものですから、新たなにぎわいという部分と、これなかなかイベントというと店舗が出るのですね、様々な店舗が。そうすると、これ総体的にいうとなかなか店舗には、今回キッチンカー関係が非常に多かったと思うのですけれども、キッチンカー関係に人寄りますけれども、ではそれがなりわいをやっている方々のところにまで波及していくかというと、これちょっとまだイコールではない部分もあります。それにはやはり当然様々な仕組み、これも最終的にはプロジェクトの中でこれやっていくことなのかもしれないですけれども、そういったところのイベントを開催したときの商店街の位置づけみたいな部分をやはりしていかないと、観光客の人たちは、どうしてもキッチンカーは道路沿いに入りますから、その裏側、歩道側のほうを歩くような形にしてもらわないと商店街の活性化というのはなかなかちょっと難しいのではないかなと思うのですけれども、その辺の話なんていうのは、これからのお考えなんていうのを伺います。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　ただいま、まちかどマルシェの話が出ましたので、私からお答えしたいと思います。

今回のまちかどマルシェにつきましては、協力隊、さらには女性プレーヤーということで、女性の団体が主になって美里町初めての試みでございます。当初準備の段階で様々な混乱があったということで協力隊のほうから報告受けております。そこの中で、やはり最初はなかなか地元の商店街の方も協力には少しちょっと距離を置いていたのですが、それ１か月、２か月だんだん間近になって、商店街のほうに協力隊なり女性の団体の方が何度かお伺いをして、最終的にはではうちの前でやってくれよと、うちの駐車場を貸すからとか、そういったことで好意的に協力していただいたという経過がございます。

確かにそういった売上げはどうなのかという話でございますが、正確な数字は取っておりません。ただし、やはり先ほど産業振興課長が述べたように、多くの方がいらっしゃいまして、かなり商店街のほうにも波及があったものと認識しております。やはり一番大きかったのは、確かに人の流れが多かったというのが１つでございます。

もう一つあそこの商店街が、横町なり商店街が一つになってやはりやったというようなことで、当然これは皆さんの、商店街の協力なくして、キッチンカーなりを場所を借りてやりますので、できませんので、そういったことが今回大きな成果なのかなと思っております。なおかつ、今後も、あっ、こういうことをやればこれだけの人が集まるのだというような一つのきっかけづくりなのかと思っておりますので、これが完成形ではございませんので、新たな試みとしては今回なかなかこれはよかったのかなと思っております。

なので、先ほど議員がおっしゃるように、これからどうするのか、どういうふうにして人を呼び込んでお金を落とす仕組みかと、これからはやはり商店街の皆様なり地域の人がこれから考えていく。

ただ、そういった今まちかどマルシェのような仕組みづくりを我々行政としても支援をして、新たな事業の掘り起こし、そして商店街なり地域の皆様の連携と、これがやはり必要なのかなと思っております。

○議長（横山知世志君）　村松議員。

○７番（村松　尚君）　まちかどマルシェを否定しているわけではないのです。否定はしていないのです。人を呼び込む一つのツールとして全然悪くないです。ただ、その波及状況というものがどうなのだろうと。そこだけなのです。それがどういうふうに流れるのか。確かにお店の中に入って、限られた商店街ですから、限られた商品しか取り扱っていませんし、やはりそういったところで売上げに結びつくというのはなかなか難しいと思います。ただ、新たな商品を開発しようであったり、新たな商品を販売してみよう、そういったような意識がやはり出てくれば、また商店街というものは少しずつモデルチェンジしていくのではないかなと思って今ちょっとその質問をさせてもらいました。ぜひとも、そういったある程度ちょっと細かな部分になってしまいますけれども、やはりそういったイベントをやることからの波及、そういった部分を、それがやはり常日頃イベントをやっていない日でも観光客の方々が入りやすいという部分にもつながってくると思いますので、ぜひともその辺しっかり取り組んでいただきたいと思うのですけれども、最後にそこだけ確認させてください。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　ただいまの質問にお答えします。

今ほど議員おっしゃるとおり、地元の商店街の人って、本当にやり方次第ではこんなに人が集まるのだなということを気づいたというか、すごいいいきっかけということになっています。今後やっぱりそういう場所の中で人が集まることが分かれば、商店街の人もそこで何か店の前で物を出して売るとかそういうこともいろいろできると思いますので、本当にきっかけにしまして商店街に波及効果があるような取組というか、そういうことを行ってまいります。

○議長（横山知世志君）　村松議員。

○７番（村松　尚君）　では、２問目の質問については終わらさせていただきます。

３問目、今夏の猛暑の影響についてであります。これ特に水田なんかは、まだよほどよかったのかなと。よかったとは言えないのかもしれないですけれども、特に畑関係、畑のものに対する影響という部分はよくお話伺いました。水不足というのは、一応答弁の中にもありますけれども、取水を呼びかけるなど行ってきたという部分でありますけれども、この高温の調査というのは今のところはまだやっていないということの確認でよろしいのでしょうか。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　現在での調査といいますのは、また例えば災害調査ですとか、県とかによるそういう調査までは行われておりません。ただし、やっぱり普及所を中心として今現在の会津管内での弊害というのですか、高温に伴う影響の状況の説明ですとか、情報交換とか、そういうの

を行っているような段階でございます。
○議長（横山知世志君）　村松議員。
○７番（村松　尚君）　それでは、まだまだ暑い日も続いておりますので、ある程度一定の涼しさが来て、農作物が一段落したならば、ぜひともやはり町内の今回の猛暑の影響という部分はしっかりと確認していただいて、それに対する様々な対策という部分をつくっていただきたいなと思いますが、最後にそこだけ確認させてください。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　そうですね、当然もう少したってみないとどのくらいの影響あったのかというのもやはり、実際に水稲につきましてもやっぱり稲刈ってみないとどのくらいあの中が、収量が落ちているかとか、割れ米などがあるかどうかというのは分かりませんので、そういったの、あと畑に関しても、確かに今この高温の影響と水不足がかなり出ているということは、そういう情報はたくさん入ってきていますので、そういうことをきちっと検証しまして、必要な取組は行っていきたいと考えております。
○７番（村松　尚君）　終わります。
○議長（横山知世志君）　これで村松尚君の質問は終わりました。
ここで、11時15分まで休憩します。

休　憩　　（午前１０時５８分）

再　開　　（午前１１時１５分）

○議長（横山知世志君）　再開いたします。
次に、通告第７号、３番、小柴葉月君。

〔３番（小柴葉月君）登壇〕

○３番（小柴葉月君）　通告に従いまして質問をさせていただきます。
質問事項１、現在の観光振興について。３月定例会にて、生み出した財源をどのように使えば町は豊かになるのかという観点から質問をいたしました。町長からは人口減少対策を優先したいとの答弁がありましたが、人口減少対策とは言わば総論であり、①、無駄を省く、②、財源を生み出す、③、特定分野に財源を落とすの③、各論までには至っておりませんとの主張の下、前回に引き続き③の特定分野の一つにつき提案をしていきます。ご答弁のほどよろしくお願いいたします。
（１）、現在の４大イベントについて。①、現在４大イベントとして、あやめ祭り、大俵引き、向羽黒山城まつり（ふれあい茶会）、ワインフェスが開催しており、既にブランド化への道をたどっているように思います。各イベントの事業費は幾らでしょうか、ご所見をお伺いします。
②、毎年イベント開催後のフィードバックを誰が、どのように行っているのでしょうか、ご所見をお伺いします。

③、観光振興計画書７ページに、町の観光の課題「多様な町民が観光関連事業に参加することで地域のよさを再確認するとともに、観光への理解が深まり、お客様をおもてなししようという気持ちの醸成につながる。また、観光事業の過程や成果を多くの町民が実感できるよう見える化することも重要」とありますが、この課題に対する具体的な取組は何か、ご所見をお伺いします。

④、５月28日に開催された向羽黒山城まつり（ふれあい茶会）のボランティア、スタッフの配置につき、どのような募集を行ったのでしょうか、ご所見お伺いします。

（２）、４大イベント以外の行事について。①、町内行事についての情報発信は、主に観光協会や振興公社、みさとねっと、地域おこし協力隊のホームページやインスタグラム、町の広報紙、ラインがあります。情報発信の媒体はどのような基準で振り分けているのでしょうか、ご所見をお伺いします。

②、今までに防災行政システムで行事開催のアナウンスは流したことはあるのでしょうか。ない場合は、流すことは可能でしょうか、ご所見お伺いします。

③、文化財保存団体活動補助金につき、対象となっている団体はどちらでしょうか、ご所見お伺いします。

（３）、美里町の歴史について。①、令和４年度より続く福島再生加速化交付金（地域情報発信交付金）の詳細と、現在までの取組についてご所見お伺いします。

②、平成24年から25年まで観光協会に委託していた天海大僧正顕彰事業の当時の目的と現在の取組についてお伺いいたします。

③、令和９年度に予定されている向羽黒山城跡整備資料室の廃止の件につき、現在までの進展についてご所見お伺いします。

以上、与えられた時間内において再質問させていただきます。ご答弁のほどよろしくお願いいたします。

○議長（横山知世志君）　答弁、町長、杉山純一君。

〔町長（杉山純一君）登壇〕

○町長（杉山純一君）　３番、小柴議員の一般質問にお答えいたします。なお、２点目、４大イベント以降の行事についての３つ目、文化財保存団体活動補助金の対象団体及び３点目、美里町の歴史についての３つ目、向羽黒山城跡整備資料室の廃止の件につきましては教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

現在の観光振興についてでありますが、１点目の１つ目、４大イベントの事業費につきましては、観光対策事業の補助金として一般社団法人会津美里町観光協会に支出し、観光協会が主体となって実施しております。観光協会の令和５年度当初予算で申しますと、あやめ祭りが661万7,000円、大俵引きが273万6,000円、向羽黒山城まつりが271万6,000円、ワインフェスが286万円、合計で1,492万9,000円であり、町の補助対象経費の合計が1,470万2,000円となっております。

１点目の２つ目、フィードバックの方法につきましては、観光協会が駐車台数などから入場者数を推定で割り出し、経年の誘客数の推移によって事業を検証しておりました。また、昨年度実施しましたワインフェスでは出店者にアンケートを実施し、売上げや改善点などの情報収集に努めております。今後も数字や金額などのデータを重視して、次の開催に生かしてまいります。

１点目の３つ目、住民参加型の観光の取組につきましては、大俵引きでの引き子や俵作りの担い手など、各種イベントでボランティアを募集し、有志の方々の協力を仰いでおります。また、イベントの開催や準備の段階などの様子を観光協会が中心となってＳＮＳに投稿し、広く周知しております。今後もさらに住民参加の機運が高まっていくように、ＳＮＳを中心に情報発信をしてまいります。

１点目の４つ目、向羽黒山城まつりのボランティア募集につきましては、一般の募集は実施しておりませんが、観光協会が主体となって声をかけ、会津工業高校や会津西陵高校の茶道部など各種団体を中心に声をかけてボランティアを募っております。

次に、２点目の１つ目、情報発信媒体の振り分けにつきましては、みさとねっとはまちづくり団体等の中間支援や集落、コミュニティー活動の支援を目的としているため、まちづくり団体やＮＰＯ法人の活動または地域の行事等について、ホームページや広報紙、ＳＮＳで情報発信を行っております。また、地域おこし協力隊については、協力隊が実施しているミッションに関するイベントや行事の情報をＳＮＳや広報紙への情報発信を行っております。町の広報紙については、町広報紙の記事掲載に関する要綱により、掲載できる記事の範囲を定めており、町が主催、共催または後援しているもの、町の事業に関連しているもの、町以外の官公庁の事業に関するもののいずれかに該当するものとしております。ホームページやラインについても、おおむね同じ基準で運用しております。

２点目の２つ目、防災行政システムのイベントのアナウンスにつきましては、記録が残る令和４年度、５年度について、防災情報システムでイベントのアナウンスを流した実績はありません。それ以前については、情報伝達の手段が防災情報システムに限られていたため、アナウンスを流していたこともありましたが、インターネットやＳＮＳなど情報発信の媒体が増えてきたことから、近年の利用はほとんどなかったと記憶しております。イベントの情報を流すこと自体は、会津美里町防災システム放送の運用に関する要綱により、外部団体等からでも公共的な内容である場合に限って使用が可能となっております。

次に、３点目の１つ目、福島再生加速化交付金事業につきましては、東日本大震災による原発被害を受けている福島県の風評払拭のために、魅力的な地域の情報を県外に向けて発信していくことを目的に令和４年度から復興庁の採択を受けて取り組んでいる事業であります。令和４年度実績が797万1,000円、令和５年度予算が840万3,000円となっており、補助率が２分の１で、残りの２分の１には特別交付税による財政支援があります。本事業は、日本最大級の向羽黒山城跡、大手のゲーム会社とのコラボレーションを大きな軸として、戦国武将のキャラクターやゲーム音楽を使用することで歴史ファンやゲームファンを取り込むことを目的にしております。令和４年度においては、情報発信の基

盤として専用サイトを立ち上げ、著名な歴史学者の解説や人気ユーチューバーによる山城の動画を掲載し、現在までに22万件の視聴を記録しております。山城を訪れる人は確実に増えており、観光協会が販売している御城印と併せて観光客が訪れる一つのきっかけになっていると分析しております。

３点目の２つ目、天海大僧正顕彰事業につきましては、天海大僧正の功績を広く知らしめることで子供たちや住民の郷土愛を喚起し、新たな観光資源として誘客につなげることを主な目的としておりました。これまでは資料の収集のほか、上野の寛永寺や川越の喜多院などの天海大僧正ゆかりの土地の関連組織と連携を深めていくことで天海大僧正の功績を確認してまいりました。また、関連グッズや地元の酒造会社と連携した日本酒を販売するとともに、各地でパネル展を実施し、広く天海大僧正の功績を知らしめることに取り組んでおります。

私からは以上でございます。

○議長（横山知世志君）　答弁、教育長、歌川哲由君。

〔教育長（歌川哲由君）登壇〕

○教育長（歌川哲由君）　３番、小柴議員の一般質問にお答えいたします。

現在の観光振興についてでありますが、２点目の３つ目、文化財保存団体活動補助金の対象団体につきましては、太々神楽保存会、西勝彼岸獅子舞保存会、佐布川早乙女踊り保存会、蛇ぶち保存会、高橋虫送り保存会、御田植祭祭典委員会、永井野甚句保存会、本郷郷土芸能保存会の計８団体であります。

次に、３点目の３つ目、向羽黒山城跡整備資料室の廃止の件につきましては、４月に会津美里町観光協会及び関係課と今後の方向性について協議を行ったところであります。この協議において、関係課と連携しつつ、周辺施設の活用も含め、今後も協議を継続することとなっております。

私からは以上であります。

○議長（横山知世志君）　小柴議員。

○３番（小柴葉月君）　一定のご答弁ありがとうございました。再質問させていただきます。

まず、（１）の①と②を併せて再質問させていただきます。観光協会に令和５年度、今年度の予算書ベースで見ますと3,976万円の補助金を町から出しています。観光協会の運営は、全体の約95％が町の補助金で成り立っているのが現状です。これは、数字を見て分かるとおりです。こちらの４大イベントの答弁にもありましたとおり、この４大イベントの運営についてもこちらの補助金が使われております。全体の3,976万円のうち、約３分の１がこの４大イベントに使われているというのが分かってきます。

ここで質問なのですけれども、これだけ多額のお金を費やしてこれらのイベントを行う目的、今まで継続してきていますが、それらの継続する意味は何なのか、答弁お願いします。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　イベントを継続する意味ということでございますが、やはりあやめ

祭り、大俵引き、向羽黒山城まつり、ワインフェスというのは、合併前から行っている本当に各自治体の中心的なお祭りでして、当然観光客の方もたくさん来ますが、あやめ祭りなり大俵引き、地元の方のお祭りでもあります。ですから、そういうのも含めてやはり継続というのですか、できるだけ継続していきたいという考えではおります。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　小柴議員。

○３番（小柴葉月君）　答弁ありがとうございます。地元の方のため、あとは先ほどの同僚議員の一般質問にもありましたけれども、やはりお金を落としていく仕組みづくりということで、これ観光振興計画の中にも入っている言葉なのですけれども、消費に結びつく仕掛けづくりをするということが書かれております。こういった面でもイベントを行っていくという意味があると思われます。先ほどの一般質問聞いていても、お金を落としてもらうという言葉が聞こえてくるのですけれども、さっきいただいた答弁の中で、ワインフェスに関しましては、売上げの情報を見ているというふうにありましたが、費用対効果的視点からイベントの分析は行っているのでしょうか。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　ただいまの質問にお答えします。

費用対効果というところからですが、当然やはり事業をやる上で無駄をなくして収益を上げるというところは意識はしております。この４大イベント等につきましては、今回の今の観光振興計画の中でマンネリ化というものがあったものですから、リニューアルをどんどんしていこうということになりまして、特にワインフェスは一番先に今リニューアルの対象となって、ワインフェスというような形で去年開催しまして、一定の成功を収めたということで、当然そのときは売上げとか、そういったものも報告していただきまして、どのくらいの経済効果があったかということも算出しております。当然この費用対効果って大事なことですので、ほかのこれからイベント、リニューアルとかしていく中でも、やはりこういう検証は大切であるという認識をしているところでございます。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　小柴議員。

○３番（小柴葉月君）　承知しました。リニューアルという言葉があったのですけれども、つまりそれはワインフェスであれば、リニューアルというのは具体的にどういうことなのでしょうか。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　ワインフェス前はワイン祭りということで開催していたのですが、それは事前にチケットを買って、極端に言えばバーベキューをやるといったようなお祭りでした。そして、毎年ある程度もう固定、お客さんもたくさん来てはやっていたのですが、ある程度同じようなメンバーでこれ毎年バーベキュー的なものをやっているというイベントもありましたので、もっと多く、たくさんの方がさらに来ていただけるような、お子さんですか、そういった方も来てほしいとい

うことで、今のようなワインフェスということでリニューアルをしたというようなことでございます。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　小柴議員。

○３番（小柴葉月君）　分かりました。私が見させてもらったのは去年のワインフェイスなのですが、ワインフェスは出店者も多く、ワインは単価も高いために売上げとして数字は多くなってくると思います。ワインフェスは出店者が多いので、数字を分析しやすいと思うのですけれども、ほかのイベントに関しましてはやはり数字的な費用対効果を見るという情報の取り方がなかなか難しいのかなと思っております。できればそういう今回ワインフェスをリニューアルしたというふうにおっしゃっていましたが、ほかのイベントも今後費用対効果的な側面から、どういうふうな経済効果が見られるのかという側面からイベントをどんどん企画していっていただきたいなと思います。再度答弁お願いします。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　フィードバックというのですか、そういう検証につきましては、本当に何をやるにも必要であると考えてございます。今後イベントを行うに当たりましては、より正確に分析するためにやはり数字等々の把握が必要であると考えております。参加人数や売上げなどの数値化というのをつかんでいくということで、ただいきなりでなく、段階を追っていろいろ進めていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　小柴議員。

○３番（小柴葉月君）　先ほど同僚議員さんの質問の中でもありましたが、今回のあやめ祭りと同時に行われた民間団体によるあやめまちかどマルシェ、同時開催されておりました。いい影響があったと答弁もありましたけれども、私の体感でもかなりの反響があったのかなとすごく感じております。つまりここで見えてきたのは、露店が増えれば人も増えるのではないかなという仮説が１個できたのではないかなと思っています。ぜひ今回町を盛り上げたいと立ち上がった方々の努力を次のステップ、次のステップというのは具体的に、先ほどの一般質問でもありましたけれども、町内事業者だったり、商店にも消費の足が向くような工夫を、民間団体だったりとか外部団体と、町と協力をしながら取り組んでいっていただきたいなと思います。ここは先ほどの一般質問とかぶってくるので、答弁は結構です。

まとめに入りますが、イベント開催に多額のお金を使うならば、費用対効果の視点から分析をすること、また分析ができるようにお金を使える場をつくること、これを観光協会や外部団体と協力をしながら今後も取り組むべきです。期待しております。最後に、確認のため所見をお伺いします。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　お答えいたします。

費用対効果を図るには当然数値による分析は必要と思いますので、そういったことはしっかりやっていって、費用対効果とそれを見ながらいろんな事業の実施に反映していきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　小柴議員。

○３番（小柴葉月君）　では、次に移らせていただきます。（１）の③と④についての再質問です。

観光振興計画書のこの７ページの部分に、町民が観光関連事業に参加をして何かしらの成果を実感すること、またそれを町が見える化すること、そして課題が挙げられております。今回の向羽黒山城まつりでのボランティアの募集についてなのですけれども、一応私これ話で聞いていたのは、観光協会から社会福祉協議団体のほうに問合せをして、何名かボランティアセンターに所属している方を要請できないかという依頼を投げたという話を聞いておりました。実はそういう要請をしたのが初めてだったそうで、私はそこにちょっと驚きを持ったのですけれども、ボランティアってまさに参加から成果を味わえるプログラムだと私は思っています。しかし、町民からは、美里町のボランティアセンターは機能していない、ボランティアセンターって社会福祉協議団体の事業だと思うのですけれども、という声が結構前から私は聞こえてきています。社会福祉協議会に直接お話を伺ったところ、幸いなことに美里町は災害が少ないため、災害ボランティアの活動が少ないのですと。だから、今後はイベントボランティアにも力を入れていきたいのだというふうに伺いました。社会福祉協議会へは、令和５年度の予算ベースで1,780万円の補助金を出しています。町として業務に対しての指示ができないことは承知しておりますが、補助金を出した先に責任を持たなければなりません。ここはぜひ産業振興課でも社会福祉協議会と協力をして、観光協会をはじめとした外部団体との横のつながりを生むべきだと思います。ご所見をお伺いします。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　このたびのボランティアの件につきましては、議員のお話ししたとおり、ボランティアセンターを通じて募集をしたところ、ボランティアをしていただいた方が数人集まったということで、なかなか今のボランティアについても、本当に以前のお祭りですと結構ボランティアの方ってたくさん協力いただいたのですが、やっぱり以前から協力してきた方というのが結構高齢化している方がありまして、ちょっとボランティアの方の減少というか、そういうのも出ましたので、今後ボランティアセンターのほうとも協力してボランティアの方々を呼びかけていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　小柴議員。

○３番（小柴葉月君）　ぜひ窓口をボランティアセンターだけに託すのではなくて、例えばイベント開催時にイベントのポスターに同時にスタッフ、ボランティア募集しますよとか、そこはやはりイベントを主催する側と社協とのかけ橋となるようなサポートは町としてできるのかなと思うので、ぜひ

町民参加を促すためにもそういったところサポートを期待しております。

それでは、次の質問に移らせていただきます。もう一点町民からかなり多くの声をいただく点があったので、それについて補足させていただきます。実は私すごく多く聞くのは、最近はイベントに出席する職員が減ったとか、職員は町の事業に関心がないという言葉を私物すごくよく聞くのです。恐らく昔はイベントごとが直営だったから、直接イベントに行けば職員の顔がうかがえるという環境だったのかなと思うのですけれども、今って環境がやっぱり昔と違うので、そういったギャップが生じてくるのかな、見られ方がなってくるのかなというふうに私は今感じております。

そこで、私は議員として、職員はもっと町の行事に参加すべきだなんてことは言えないのですけれども、やはり私もそうなのですが、率先して外に出向くと町民の安心と信頼につながるのだなということは間違いなく体感はしております。昨日の同僚議員の一般質問の中でも、地域貢献活動休暇の話もありましたが、まさにこの話がばっちりとマッチしてくるのではないかなというふうに思いますので、繰り返しにはなりますが、ぜひこれを機に観光とボランティアの距離をぐんと縮めて、職員も含め幅広く町民参加を促すよう期待しております。再度答弁をお願いいたします。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　お答えいたします。

無償ボランティアということになりますと、やはり強制的に職員入れていただくというわけにはいかないと思います。では、どうしたらいいかというと、やはりそのイベント等の魅力を高めて、そこに参加してみたいという、そういうようなイベントが、そういうところに参画して一緒にイベントを盛り上げていくというような形にすれば、職員も出てくる方もいると思います。実際この大俵引きの俵作りにつきましては、あれ毎年毎年作っているのですが、そのときは結構職員の方もやっぱり珍しいといいますか、ああいう俵作る機会ってあんまりないので、珍しいということもありまして、結構協力してくれる職員などもいます。ですから、そのようなことでまた参加したいなと思えるような魅力あるイベントをできるよう取り組んでまいります。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　小柴議員。

○３番（小柴葉月君）　答弁ありがとうございました。すごいデリケートな難しい話だと思うのですけれども、私もさっき言ったように、昨日の地域保健活動休暇の話もあって、私そこ初めて聞いた話だったので、ぜひここも検討していただきたいと私のほうからもお願いがありましたので、質問させていただきました。

では、次の質問に移ります。（２）です。①と②併せて再質問します。町内行事の情報発信をする主な目的として、２つあると考えています。１つ目は、やはり集客のためです。行事には人が来ないと成り立ちません。この場合、発信の仕方について検討が必要です。こちら答弁見ますと、ＳＮＳとか広報紙とかというふうに書いてあって、結構ＳＮＳとかホームページというネット上での媒体がか

なり多く答弁の中で返ってきたのですけれども、まずここで検討しなければいけないのが、ネットを使うか使わないかで、使う場合はインスタグラムなのか、ラインなのか、ホームページなのか、ＳＮＳといってもいろいろあるのですよね、ご存じのとおり。その各ニーズを把握してちゃんと発信していかないと効果的な集客は見込めないと思うのですけれども、このような視点から町内行事の発信については考えているのでしょうか、ご所見お伺いします。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　それでは、情報発信についてお答えしたいと思います。

確かに議員おっしゃるとおり、情報の発信の仕方によってその集客なりは変わってくると思います。ですから、何を、誰を、どの世代をターゲットにしてどういった方に周知するのか、これによってやはり周知の方法はおのずと変わってくるのかなと思っております。例えば若い世代を対象とするようなイベントであれば、当然ＳＮＳだったり、ラインだったり、そちらのほうにやはり力を入れるべきかなと思っております。やはり広報紙の情報発信につきましては、月１回というのございます。でも、これは紙でございますので、やはり１度目にして何度も見返すことができますので、これも一つの大きな情報発信の手段だと思っております。ただ、紙でございますので、やはり情報の伝達力の素早さはございませんので、やはりタイムリーな情報の発信にはなかなかつながらないと思っております。ですから、先ほど議員がおっしゃるように、いわゆる紙であったり、その電子媒体を、どういう情報をどの媒体に載せる、これは非常に大事だと思っておりますので、例えばその担当課のほうからいろいろ相談ございます。この行事の広報を出してくれとか、ラインで出してくれとありますので、そこの内容をよく聞きながら、どの発信が効果的なのかというようなことを検討させていただいて発信をしているというような状況でございます。

○議長（横山知世志君）　小柴議員。

○３番（小柴葉月君）　よく分かりました。私が考えている話もそうなのですけれども、ラインと例えばインスタグラムってＳＮＳって言葉でまとめられると思うのですけれども、ラインを利用している年代とインスタグラムを利用している年代というのは、全国的にも数字で出ているのですけれども、もう違うのです。簡単に言えば、ラインに関してはもう60歳以上、70歳以上でもみんな幅広く使っていますよというのが分かっているし、それに比べてインスタグラムって本当に20代が中心で、60代以上というのは一番利用率が少ないですよというふうに言われているのです。だから、私は結構いろいろなＳＮＳを拝見しますので、みさとねっとでの情報だったりとか、地域おこし協力隊の情報だったりとか、かなりタイムリーで情報を拾えているという状況はあるのですけれども、やはり上の世代の人たちというのはなかなかインスタグラムまでたどり着けていないのだなというのがすごく体感しております。

この②の質問、今までに防災行政システムで行事開催のアナウンスしたことありますかって私今回質問させていただいたのですけれども、何でこんなこと聞いたかというと、これもやっぱり町民から

言われたことで、何でそんなことを聞くのですかと聞いたら、やっぱり自分たちが主催している行事をもっと知ってほしい。もっと町内の人たちに知ってほしいし、もっと町内の人に来てほしいのだと言っていたのです。私からしてみれば、いや、それＳＮＳでも発信しているしなと思ったのですけれども、やっぱりさっきのこと考えてみると、みんな別にインスタグラムとか見ていないしという話で、やっぱり年配の方たちというのは広報紙というのがメインなのだなというのがすごく体感したという話です。なので、やはり今後ともさっき答弁にありましたとおり、ＳＮＳの中でもラインなのかインスタグラムなのかというところで、利用年代というのをちゃんと気にしながら情報発信を今後とも引き続きしていっていただきたいなというふうに思います。再度答弁お願いします。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　お答えします。

実は現在、町が公式的に使っておりますのは主に広報紙で、あと町はラインを使ってございます。そのほかのＳＮＳにつきましては、実は協力隊等のほうはインスタをやってはおります。なので、ですから町の公式な広報としましては、広報紙とラインとホームページがございますが、それをメインにやっております。その他補完的にほかのＳＮＳ、例えばインスタだったり、フェイスブックだったり、そういうのはやっておりますというのが１つございます。確かに議員おっしゃるとおり広報紙の重要性は認識しておりますので、情報の全面的なリニューアルもさせていただきました。なので、その広報紙についても各課からいろいろな情報を事前に集めて、効果的にそういった広報紙の充実、さらには見やすさを図っているところでございますので、そういった紙面の工夫もしていきながら情報発信に努めてまいりたいと考えてございます。

○議長（横山知世志君）　小柴議員。

○３番（小柴葉月君）　ありがとうございました。ぜひそのように取り組んでいっていただきたいと思います。

③に移りまして、文化財保存団体活動補助金についてです。こちらは、もう言うことは１つなのです。まず１つは、補助対象になっているその団体さんに対して、お金のサポートだけで満足しないで、さっき言った情報発信の部分でそのフィールドで活躍している人たちにもスポットライトを当てて、町一丸となってどんどん発信してほしい、今の話さっきの質問とかぶってくるのですけれども、そういった視点で情報発信を行っていただきたい、バックアップする姿勢を見せていただきたいということです。この文化財保存団体に入っている行事も、入っていない行事も、同時進行で町内の文化としてどんどん発信をしてやっていただきたいということで質問をいたしました。確認のため答弁お願いします。

○議長（横山知世志君）　生涯学習課長、福田富美代君。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの小柴議員の再質問にお答えします。

確かに町としましては、こちらの保存団体については補助金を交付ということで、いろんな課題等

の相談等は受けておるところでありますが、今ほどのお祭りとかそういったものの開催に向けての情報発信というものについては、確かにやる前というのはなかなかできていなかったところであります。確かにこういう地域でありましたよとか新聞で結果で報道されるということが多々多くありますので、このお話を受けまして地域の意向も確認しながら情報発信に努めてまいります。

○議長（横山知世志君）　お諮りいたします。

今、質問の途中でありますが、小柴議員の質問が終了するまで延刻したいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

延刻します。

小柴議員。

○３番（小柴葉月君）　よく分かりました。文化は町の観光要素だと考えています。文化を観光的視点からぜひ見ていただきたい。私みたいな移住者は、昔よりも行事減ったなとか夏祭り減ったなという感想よりも、生歌でやる盆踊りってすごいなとか、町でこんなにそこらじゅうでお祭りやるのかというぐらいの勢いで私はここの町の文化をこの夏初めて見ました。それぐらいよそ者にとっては、今ではなかなか消えてきた文化かもしれないけれども、まだまだ残っている文化ですので、ぜひそういう視点でお祭り、行事を見ていただきたいなと思っております。

では、次に移ります。（３）の①です。美里町の歴史的な話です。令和４年度から復興庁の地域情報発信交付金が交付されております。こちら答弁にもありましたとおり、今回この交付金で創ったユーチューバーへお願いしたユーチューブ動画が、何と11万回再生と22万回再生して２本創って、どちらもかなりの好成績を残されています。ユーチューブで10万回以上再生されている動画って本当に僅かで、全体の１％未満と言われているぐらいごくまれなものなのです。美里町のその情報が今このようにネット上でなっているというすごい状況を町長どう考えていますか。

○議長（横山知世志君）　町長。

○町長（杉山純一君）　お答えさせていただきます。

ユーチューブの再生回数の記録、それがそういうことになっているというお話を今いただきました。実際にこれ、このゲームだったり、そういったものがそれだけのというのは私はっきり申し上げて分かりませんでしたけれども、今ユーチューバーが増えてきて、それでその拡散というのは非常に大きくなっている状況ですから、そういった中でそういう実績を残しているというのは、町の向羽黒、天海大僧正だったり、そういったものを知らせる上においても大きな意義があるものというふうに考えてございます。

○議長（横山知世志君）　小柴議員。

○３番（小柴葉月君）　私もそのように思っています。今まであんまり私歴史に関してすごい無頓着

だったのですけれども、この一件があってから本当に驚いて、この動画を私も見たのですけれども、すごい面白かったです。これ本当にチャンスで、歴史好きというターゲットを絞ってそこに力を入れるって、まさにこれ私が何度も申し上げた特定分野に絞って力を入れましょうねということなのです。

今回、向羽黒山城まつりというふうにお茶会の名前も変わったくらいですから、ぜひこれ今後本当にこのお祭りに力を入れていくべきだと私は思っています。この地域情報発信交付金、すごく率が物すごい。100％出るのですね、これ。なので、ぜひこれ有効活用、１年後でマックス2,000万出るので、有効活用していただいて、情報発信をすれば多分使えるので、このお祭りを盛大に、これチャンスですので、やっていただきたい。答弁お願いします。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　ただいまの再質問に答弁させていただきます。

本当この動画につきましては、私が見てもすごい面白いですし、また勉強になりますし、そういった動画だと理解しております。復興交付金につきましては、今最大2,000万と言いましたが、当然審査とかそういう国の予算もありますので、満額来るわけではございませんが、これ令和４年度から始まっていまして、４年間この事業使えますので、この事業の中で山城の情報発信、お客様が来るような情報をしっかりと発信していきたいと考えております。

○議長（横山知世志君）　小柴議員。

○３番（小柴葉月君）　ぜひこのチャンスつかんでいただきたいと思います。

では、次の質問に移ります。②です。天海大僧正の顕彰事業についてなのですけれども、こちらはやっぱり10年前から行っている事業でして、私うわさに聞く限りでは、最終的目標はミュージアムみたいな資料館を造るのだというようなことが現地では結構聞こえてくる。最終目的はミュージアムを造るのだという声がかなり強く聞こえてきています。もしかしたら多分当時そういった話があったのかななんていうふうに思うのですけれども、この事業、この10年間、１年間に二、三百万使ってきました。私は３年前に移住してきましたので、既に町全体から天海大僧正の存在を感じるくらいでした。もう周りがみんな知っていて、天海大僧正推していますということがもう明らかに伝わってくる状況でした。事業設立時にはまだ天海大僧正を知る人は少なかったという話を私は伺って本当に驚きました。つまりこの10年間で天海大僧正の誕生の地としてブランド化するという目標が、もう一個これは成功になっていると言っても過言ではないという雰囲気が私はしているのですけれども、どうでしょう、所見お伺いします。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　お答えいたします。

長年にわたって観光協会のほうにこの天海大僧正の事業ということで実施していただいていますが、今後の着地点につきましては議論をしていく必要があると考えております。今現在主体となって取り組んでいる観光協会の意向も伺いながら、今後協議を進めていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　小柴議員。

○３番（小柴葉月君）　よく分かりました。観光協会が多分10年間の間にかなり資料だったりとか情報を集めてきたのではないかなというふうに思います。これだけちゃんともう町を挙げてブランド化しようといってちゃんと形になっているものですから、資料館とかってそういう箱物があるかどうかではなくて、やっぱりそういう集めてきた情報をちゃんと披露できる場を用意しなければならないというのは私も同じ考え、観光協会と同じ考えです。でなければこの10年間投資してきたお金が全くの無駄になってしまうので、やはりそこはやったほうがいい。ただ、やっぱり当時の状況と今の状況ってもう国的に違うので、その建物を造りましょうとか、そういったことって結構難しいと私は考えています。

そこで、これが③の話につながってくるのですけれども、この向羽黒山城跡整備資料室の廃止が決まっておりますが、天海大僧正とその向羽黒山というのは歴史的にちゃんとつながりもありますし、すごくタイミングもいいので、これに２個を１個に考えても私はいいのではないかなと思っています。所見お伺いします。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　お答えいたします。

議員おっしゃるとおり、当然資料室を廃止したとしても、何らかのやっぱり普及とか広報する施設というのは当然必要だと、用意しなければいけないと思っています。それが新築なのか、例えば今ある建物とか何かを活用するのかという議論はありますが、そういう中でもそういうのを含めて全体的に議論していきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　小柴議員。

○３番（小柴葉月君）　両方ともやっぱり大切というか、絶対なくしてはならないし、形にしなければならない問題だと思うので、ここ２点別々ではなくて、併せて考えるという視点からも検討していただきたいなというふうに思います。

以前同僚議員の一般質問の中の町長答弁の中で、本郷インフォメーションセンター近隣を候補地として再建設というふうにお話ありました。これなのですけれども、参考程度でいいのでお伺いしたいのですが、本郷インフォメーションセンターの別館として見られてもおかしくない、むしろ私は同じ建物だったと思っていたくらい近くにある。副町長が代表取締役社長を務めている振興公社の建物ありますよね。こちら、私３年前に移住してきたので、そのときなかったのですけれども、過去にレストランをやっていたよなんて話を聞いたことあるのですが、現在はそちらに空きスペースなどあるのでしょうか、ご所見お伺いします。

○議長（横山知世志君）　副町長。

○副町長（佐々木吉一君）　私のほうからでは答弁させていただきたいと思いますけれども、あそこのところ空きスペースというのは今現在ございません。１階部分は本郷駅の展示室になっておりまして、２階には弁当屋さんが入っておりますので、そこ空きスペースというのはございません。

○議長（横山知世志君）　小柴議員。

○３番（小柴葉月君）　ありがとうございました。私あそこ一緒の建物だと思っていたぐらい近くの施設なので、すごく立地的にはいいのではないかなと思ったのですけれども、空きがないということで承知しました。空いているスペースをどんどん見つけていって、無駄のない運営をしていっていただきたいなというふうに思っております。とにかく話まとめますと、この天海大僧正の話と、あと向羽黒山資料館の話、これは絶対になくしてはならないですし、ちゃんと形にしていかなければならないので、ぜひ今後とも協議を進めていっていただきたいなというふうに思っております。

最後まとめに入ります。現在まで続く町の行事の取り組み方を費用対効果的側面から見直しをし、町民にスポットライトを当てていくことが町のさらなるブランド化になるということ、そして歴史分野が今とっても熱いので、力を入れるとブランド化につながるという視点からの質問でした。次回は、ブランド化できた後、外から人を呼びましょうという視点から質問をしていきたいと思っております。町長、今後ともお付き合いのほどよろしくお願いします。

以上です。

○議長（横山知世志君）　これで小柴葉月君の質問は終わりました。

ここで、昼食のため、午後１時10分まで休憩いたします。

休　憩　　（午後　零時０７分）

再　開　　（午後　１時１０分）

○議長（横山知世志君）　再開いたします。

次に、通告第８号、２番、大竹惣君。

〔２番（大竹　惣君）登壇〕

○２番（大竹　惣君）　それでは、通告に従いまして質問をさせていただきます。

まず、質問事項１、伝統行事の保存についてであります。町内には複数の伝統行事がありますが、少子高齢化によって将来的に開催が困難になることが懸念されます。この伝統行事の保存について２点伺います。

①、町は現在どのような形で伝統行事に関わっているのかを伺います。

②、要望があった場合には、行事への参加者を公募することや、資料映像を作成することで後世に残す取組をすべきと考えますが、所見を伺います。

続いて、質問事項２、新規就農者の受入れについてであります。本町の農業担い手不足解消のためには新規就農者を増やすことが重要であり、重点的に取り組むべきでありますが、就農後に離農しな

いような工夫をし、持続的な農業ができる環境を整えることも必要であると考えます。そこで３点伺います。

①、年間の新規就農希望者の相談件数と、実際に受け入れた件数。

②、この10年間の就農者の中で、離農した農家の件数と、その中での親元就農と移住就農の割合。

③、新規就農者の定着率を上げるために現在どのような工夫をしているのかを伺います。

続いて、質問事項３、農業用水の安定確保についてであります。今年も降雨量が少なかったために、農業用水が足りない地域がありました。水田や露地栽培の園芸作物には大きな影響が出ております。農業には水の確保が最重要であります。この農業用水の安定確保のため、２点伺います。

①、農業用水の安定確保のためには、井戸水の利用が現状最も現実的で効果的であると考えます。この井戸水利用を促進することで干ばつ時の備えになります。町として、井戸掘り工事の支援をし、奨励していくことが必要であると考えますが、所見を伺います。

②、一部の地域では、毎年水田の水の確保が厳しいという現状があります。取水のためにパイプラインを引くことや地域連携した井戸掘りをすることが必要であると思います。所見を伺います。

続いて、質問事項４、集落人足の人員確保についてであります。少子高齢化によって、近い将来集落の人足に必要な人員の確保が困難になることが懸念されます。近隣の農業法人や建設会社、人材派遣会社等を活用した人員の確保ができる環境を整えることが必要と考えますが、所見を伺います。

質問事項５、本郷小・中学校の連結計画についてであります。現在、義務教育学校開校に向けて、本郷小中学校の間にあります道路を学校用地化し、閉鎖することを計画しておりますが、一部地域住民への理解が進んでおりません。地域とともにある学校づくりを目指す上では、地域住民が納得した上で進めるべきと考えております。そこで２点伺います。

①、地域住民の同意を得るために今後どのような取組をしていくのかを伺います。

②、この道路を封鎖してでも学校用地化し、連結することで得られるメリットを具体的に伺います。

以上、よろしくお願いします。

○議長（横山知世志君）　答弁、町長、杉山純一君。

〔町長（杉山純一君）登壇〕

○町長（杉山純一君）　２番、大竹議員の一般質問にお答えいたします。なお、伝統行事の保存について及び本郷小・中学校の連結計画につきましては教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

初めに、新規就農者の受入れについてでありますが、１点目の就農希望者の相談件数と実際に就農をした件数につきましては、令和２年度は５名より相談があり、うち１名が就農しております。令和３年度については22名のうち７名、令和４年度については９名のうち２名となっており、３か年で36名から相談を受け、10名が認定新規就農者となっております。

２点目の過去10年間の離農件数と親元就農、移住就農の割合につきましては、離農件数につきまし

ては10年間で２件となっており、２件とも親元就農となっております。

３点目の定着率を上げるための工夫につきましては、認定新規就農者の場合は青年等就農計画を策定し、町の認定を受ける必要があるため、青年等就農計画の策定作業を進めていく中で、耕作予定地や営農形態、さらには将来的な設備投資や資金計画等について、会津坂下農業普及所や県農業経営・就農支援センターと連携し、繰り返し面談を行い、本町に定着し、自立した農業経営ができるよう取り組んでいるところであります。

次の農業用水の安定確保についてでありますが、１点目の井戸掘り工事の支援につきましては、近年の気象状況は、局地的な豪雨や記録的な猛暑、少雨傾向等毎年の気候変動が大きく、本年においては７月以降の猛暑と少雨により、農業用水が不足するなどの影響が出ている地域もあります。このような気象状況の中、農業用水の安定確保には、県、関係土地改良区と連携しながら対応してきたところですが、全ての農地に十分な水量を確保することは困難な状況であります。降雨量が少なく、水不足であっても安定的に農業用水を確保するには、地下水の利用は効果的であると考えております。また、少雨による水不足に限らず、安定的な農業用水の確保という観点からも、令和６年度に向けて農業用井戸に対する支援策を検討してまいりたいと考えております。

２点目のパイプラインや地域連携した井戸掘りにつきましては、現在農業用水は、ダム、ため池、頭首工などの農業水利施設から取水した水を水路を通じて農地へ供給しております。そのため、水路の上流地域と下流地域では水量の差があることも承知しておりますが、パイプラインの設置には多額の費用がかかり、受益者負担もあることから難しいものと考えております。町といたしましては、水の確保が難しい地域もあることから、関係土地改良区を通して水資源の有効活用について周知徹底を図るとともに、地域連携した井戸掘りにつきましては、１点目で答弁しました令和６年度に向けた農業用井戸に対する支援の中で検討してまいります。

次の集落人足の人員確保についてでありますが、人員の確保ができる環境の整備につきましては農業用水路や農道などの地域資源の管理や自然環境の保全、良好な農村景観の形成は、これまで地域の方々の取組により、管理、保全されてまいりました。しかし、農村地域の過疎化や人口減少、少子高齢化、地域に対する意識の希薄化などから、地域活動に対する人員の確保につきましては年々難しくなってきております。また、人員不足により共同活動が困難になることにより、農用地、水路、農道等の地域資源の保全管理に対する担い手農家の負担の増加も懸念されております。このような状況ではありますが、地域資源や自然環境の保全は地域の方々の共同活動や農村環境に対する意識の醸成により守られるものであると考えております。そこで、町といたしましては、国、県の補助金を活用しながら地域の共同活動として地域資源の維持管理や自然環境を守ることができる多面的機能支払交付金事業を継続して推進してまいりたいと考えております。本事業は、以前から比べますと草刈りや水路の泥上げ、農道の砂利敷きなども外部委託が認められ、要件が緩和されており、取り組みやすくなっております。また、農業者のみだけでなく、地域全体の活動として農村環境保全に活用できること

から、現在取り組んでいない地域にも制度の周知を図り、持続可能な地域資源の管理、自然環境の保全につなげてまいりたいと考えております。

私からは以上でございます。

○議長（横山知世志君）　答弁、教育長、歌川哲由君。

〔教育長（歌川哲由君）登壇〕

○教育長（歌川哲由君）　２番、大竹議員の一般質問にお答えいたします。

伝統行事の保存についてでありますが、１点目の町はどのような形で伝統行事に関わっているのかにつきましては、後世へ継承すべき貴重な伝統行事は無形民俗文化財として指定し、伝統行事に関する運営補助金を交付しております。また、随時各保存団体と行事の保存や継承について相談を行っております。

２点目の後世に残す取組につきましては、各保存団体との相談において、映像資料の作成や子供たちが伝統行事に触れる機会をつくるなどこれまでも取り組んでおりますが、必要としている支援を確認し、町教育委員会としてさらなる支援について検討してまいります。

次の本郷小・中学校の連結計画についてでありますが、１点目の同意を得るための今後の取組につきましては、対象道路の学校用地化の前提としまして、周辺自治区長から道路の学校用地化に関する承諾が必要になることから、６月中旬に該当となる自治区長に対し、道路の学校用地化に関する趣旨等を説明するとともに、７月23日に対象自治区の住民の方に対し、地区説明会を開催させていただいたところです。説明会では多くの貴重なご意見をお寄せいただきましたが、特に十分にご理解を得られなかった方々には個別に訪問させていただき、内容を詳細にご説明申し上げ、ご理解をお願いしたところです。引き続き周辺地区の方々のご理解を得るべく、丁寧に進めてまいりたいと考えております。

２点目の連結のメリットにつきましては、義務教育学校は校舎一体化が開校の必須条件になるわけではございませんが、本郷小中学校が一つの学校となり、一貫した教育課程を実施していくことで中学校専門免許を有する教諭の低学年に対する指導や、幅広い異学年の交流活動を推進するなどして高い教育効果を上げることが期待されます。それによって今まで以上に子供たちが校舎や敷地間を行き来することから、学校内を自由に、かつ安全、安心に移動できる環境を実現するためには、学校敷地の一体化と校舎の連結が非常に重要であると考えております。

私からは以上であります。

○議長（横山知世志君）　大竹議員。

○２番（大竹　惣君）　それでは、再質問をさせていただきます。

まず、質問事項１点目の①の部分であります。答弁の中で、随時各保存団体と行事の保存や継承について相談を行っているとありましたけれども、これはどのようなタイミングで相談受けているのか、そしてこれまでにどのような相談があったのかを伺います。

○議長（横山知世志君）　生涯学習課長、福田富美代君。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの大竹議員の再質問にお答えいたします。

どのタイミングでということでありますが、各保存団体には補助金をお出ししているところでありますが、その時点の申請または実績の関係書類の提出時など、窓口へおいでになった際に相談を受ける場面が多くございます。ただし、随時保存団体からの連絡等があり、対応する場面もあるところでございます。相談内容については、やはり保存団体の高齢化等ということで今後の継続を懸念することの内容が大半でございます。また、そのほかに各伝統行事に使われる古くなった用具等の更新であったり、用具の保管等に関する相談ということもございます。また、やはり作り手というところが高齢になり、また保存継承が難しいという場面もございますので、映像に残すための方法などについて相談を受けているところでございます。

以上です。

○議長（横山知世志君）　大竹議員。

○２番（大竹　惣君）　ありがとうございます。もう少し相談をしやすいような感じで、そういう相談がしやすい機会を増やしていったほうがいいのではないかなと思います。また、相談内容につきましては、私が町民の方から聞いたのと大体一緒でないかなと思います。この内容につきましては今後検討材料にしていただきたいと思いますが、取りあえず目の前の実用的な支援について今回は議論させていただきたいと思います。特に今答弁の中にありましたけれども、この伝統行事どうやって保存していくのか、そういった心配をされる方がたくさんおりますので、その点をこれからちょっと聞いていきたいと思います。

②の部分に移らさせていただきたいと思いますけれども、この資料映像の作成、これはこれまでも取り組んでいるというふうな答弁になっておりましたけれども、これは一部の行事ではないかなと思っています、私の認識ですけれども。これは町内の全ての行事に対してこれから行っていくべきだと思いますけれども、ちょっとその部分確認させてください。

○議長（横山知世志君）　生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの大竹議員の質問にお答えいたします。

確かに映像記録としましては、やはり一番大きなもので、国指定となりました御田植祭に関しての映像記録でございます。こちらについては、祭り全体の映像、ＤＶＤ作成、さらには後継者育成という部分の特化したＤＶＤ作成をしたところでございます。確かにそのほかに関しては映像記録というのは取り組んでいないところでありますが、今後地域の実情に合わせたような形でそういった記録を残すということの支援を行ってまいりたいと考えております。

○議長（横山知世志君）　大竹議員。

○２番（大竹　惣君）　やはり映像の記録は、やっぱりいざやってくれる方が一度途切れても、その後復活させるという部分ではかなり有効な手段になると思いますので、ぜひいろんな行事に対して資

料映像、その記録を残していくことをしていただきたいと思います。

あと、参加者を集める取組の部分での質問をさせていただきたいと思うのですけれども、伝統行事の参加者を集める取組の先進事例というものを見ますと、富山県の魚津市にあります魚津のタテモン行事という行事がありまして、魚津市は予算措置を講じて行ってきましたたてもん協力隊という事業が、今一定の成果を上げているということであります。これは行事に参加する協力隊員を募集するということで、市のホームページや広報などを活用し、申込書のついたチラシやポスターが市内の学校やスーパー、公共機関、また近隣市町村の公共機関、県内の大学などに配布され、提示されております。本町でも彼岸獅子の参加募集のポスターが、先ほど見たのですけれども、議場外のあそこのモニターの裏にも貼ってありましたけれども、このたてもん協力隊の参加範囲というのは市内だけでなくて、富山県内の市町村や県外にまで及んでおります。それで、家族での参加も少なくないということでありました。市がこの事業を20年以上続けてきた結果でありますが、近年ではリピーターが増えつつあるとのことでした。市は当初から継続的参加者を確保するために様々な工夫をしておりまして、例えば協力隊には毎年１人１枚たてもんＴシャツと諏訪神社のお守りが配布されるようなことをしているようです。本町においてもこのような行政支援今後、これも状況に応じてだと思いますが、検討していくべきだと思いますが、所見を伺います。

○議長（横山知世志君）　生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの大竹議員の質問にお答えします。

今ほど事例で魚津のタテモン行事というところで、国指定の行事になっているところでございます。今回町のほうと、美里町に置き換えますとちょっと大きな取組ではないところでありますが、今年西勝彼岸獅子においてはやはり後継者不足というところで、その育成のために踊り手を募集したというところで、町内のまた新たな方のお一人の申出があったということを聞いております。さらに、今回高橋の虫送りに関しましては、地元の小学校の４学年になりますけれども、総合学習の一環でそのお祭りに参加するというような新たな取組がされております。

こういったことを踏まえて、町教育委員会としては、「知ってる？会津美里の歴史」というところで副読本を小学校４年生以上にお配りしているところなのですが、文化係の活動としましてはそういった郷土学習であったり、また文化財巡りというところの学習支援を行っているほかに、地域学校協働本部事業の活動の一環で、そして今回高田中、以前コロナ禍前は、西勝の彼岸獅子、さらには早乙女踊りというところで総合学習の一環、さらには地域学校協働本部として地元の保存会の方が指導に伺ってというようなところで、地域皆さんでその伝統文化を継承するという活動をしてまいりました。コロナ禍で残念ながらこの３年間行われていないところでありますけれども、教育委員会としても今年再開できるような形で今働きかけをしているところであります。そういったところで、タテモンさんのほうとはちょっと違う活動にはなりますけれども、地域住民の方が学校に行く学習支援だけではなくて、学校から地域に入っていくという活動も広めていきたいと考えております。

以上です。

○議長（横山知世志君）　大竹議員。

○２番（大竹　惣君）　ありがとうございます。そうですね、学校のほうから積極的に地域に入っていくと、これはとても有効な手段だと思いますので、こういった新しい取組をどんどん広げていただいて、またそういうさっき私が話したように、先進事例もこれもしっかりと参考にしていただきたいと思います。

そして、この無形の民俗文化財というものは、人から人へ技や芸、その行事を伝えていくものでありますから、建造物や美術購入費等の有形文化財のように制作年代や作者が明確になるものも少なく、指定登録の手続もそうでありますが、保存することや次の世代に継承することが本当に難しいと思いますし、今後危惧するところでもあります。形がない上に保存が難しい、だからこそ町として保存活用の取組を進める必要があると思います。

国は平成31年に文化財保護法を改定しまして、都道府県には文化財保存活用大綱、市町村には文化財保存活用地域計画の策定に努めるよう通知をしております。本町においてもこの文化財保存活用地域計画、これを策定しているのかを伺います。

○議長（横山知世志君）　生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの質問にお答えさせていただきます。

町としての文化財保存活用地域計画については、策定はしておりません。ただし、向羽黒山城跡に関しての活用地域計画については、令和６年、７年度に計画を策定する予定でございます。こちら町全体の地域計画においては、会津美里町に関しましては平成31年３月、平成30年度に会津美里町歴史文化基本構想を策定しております。これにつきましては、本町の指定文化財、未指定文化財を含めた全体の文化財活用、保存を行うための方向性を定めた計画になります。あと、議員おっしゃる文化財保存活用地域計画については、それの実施計画、実現するための計画書となります。まずは教育委員会としては、令和６年度に行います向羽黒を優先させて計画を策定させていただきまして、今後町全体のこちらの計画については策定に向けて随時検討してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（横山知世志君）　大竹議員。

○２番（大竹　惣君）　これからということだと思います。令和６年、７年に向羽黒山城をまずやって、その後ほかの部分も検討していくということだと思うのですけれども、町内の様々な文化財、指定、未指定にかかわらず、やはり貴重な歴史文化遺産として保存、活用を進めるべきだと思いますので、しっかりとここは本当に前向きにやっていただきたいと思います。取りあえず質問事項１の質問は終わります。

続いて、質問事項２に移ります。まず、質問事項２、新規就農者の受入れについてでありますが、全て関連しておりますので、一括しての再質問とさせていただきます。答弁の中で３年間で就農者10人

ほどということでありますが、まだまだ伸び代があるのではないかなと思います。新規就農者を増やすためには現在町としてはどのような工夫をしているのか、そこをお伺いします。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　ただいまの質問にお答えいたします。

新規農業者を増やすため、工夫ということになりますが、農業研修者への研修準備に当たりましての支援ですとか、あとは移住しての農業研修の方に対しては家賃の支援、そのほか農業資材バンクを創設したり、新規就農しやすい環境の取組ということで行っております。農業に興味がある、またはやってみたいという考えだけで相談に来る方もいらっしゃいますが、そう安易に始めると離農してしまうなんてことにもつながりますので、そうすれば周辺の農地にも迷惑がかかるということもございます。ですから、面談は一、二年かけてしっかりと行っているというところがございます。さらに、国の制度を活用して農業研修をする場合は研修先が県の認定機関となる必要がございますので、町では認定研修機関を増やすために農業法人等に働きかけを実施しているところでございます。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　大竹議員。

○２番（大竹　惣君）　新規就農者を増やすためには、やっぱりもう少しアピールを強化すべきだと思います。本町の新規就農者の受入れ態勢というのは、私が様々な就農者にお話を聞きますとほかの自治体と比較しても充実しているのではないかと感じました。特に相談を親身になって聞いてくれるということや、就農後も何かと面倒を見てくれるというところが本町のいい意味での特徴だと思います。そういった強みもアピールすることができれば、さらなる新規就農希望者が増えると考えます。ＳＮＳ、ホームページなども全て活用してその周知徹底に力を入れ、町はこれだけ力を入れていますということ、そして充実した取組がありますということを、その発信の工夫をすべきだと思います。その部分の所見を伺います。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　議員のお話のとおり、町でも手厚い内容になっていると思いますので、そこはしっかり外部に発信していきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　大竹議員。

○２番（大竹　惣君）　そこら辺しっかり工夫をしていただきたいと思います。

また、離農者は過去10年間で２名ほどで、どちらも親元就農だったということですけれども、多分移住就農がここ10年間ではそんなにまだ、最近始まったことなのかなということでの数字だと思います。そして、就農者の定着率、これ上げるために取組として何度も面談を行うということで答弁あったと思いますけれども、その就農者の受入れ要件の精査という部分ももちろん大事だと思いますけれども、現在の実際の農業というのは毎日毎日同じ作業、苛酷な環境で労働を継続するということにな

ります。この苛酷な労働を継続できるかが離農しないことの一番の鍵となると思います。新規就農を受け入れる前に、例えば町内の大規模農家や農業法人等で実際に働いてみて、持続可能な人材なのかというのを見定めるような工夫も効果的と思います。現在、研修制度などもやっていると思いますが、あと農の雇用事業なども活用できます。この点について町としての所見を伺います。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　農業の場合、やはり農業の技術とか、そういうことが必要になりますので、国の農の雇用制度ですとか就農準備資金など、やっぱり研修制度を活用するのが大変有効であるというふうに思いまして、そういったものも推進していきたいと思っております。ただし、国の制度は研修後就農しない場合は補助金返還のリスクなどもありますので、制度を活用する前には農業の取り組み方の面談等しっかりしていきたいというふうに考えてございます。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　大竹議員。

○２番（大竹　惣君）　そうですね、しっかりとした精査というのをもちろんやっていただいて、ぜひそういった取組はどんどん今後広げていただいて、効果的に多くの就農者を増やす環境ができることを期待します。

続いて、質問事項３に移ります。まず、先ほどの同僚議員の質問とちょっと重複することもありますけれども、まず今般の水不足によって、一部の水田の稲、そして露地野菜が枯れてしまっているという現状があります。町としてこの現状、先ほど同僚議員の質問の中では今調査中だというような答弁だったと思うのですけれども、実際被害があるということはある程度の把握はしているのか、その部分確認させてください。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　確認したところといいますのは、関山ですとか、西勝ですとか、竹原、そういったところにおいてやはり立ち枯れみたいなのが起こっているといったところは確認してございます。水稲の場合、そういった確認はしておりまして、あとこれからの話になりますが、やはり高温が続いたために胴割れ米等の発生なども、いわゆる品質低下などもあるのではないかということは、普及所からのそういった情報はいただいております。あと、大きな被害の情報については寄せられておりません。関係機関に今後確認するなどして情報の収集に努めていると、そういったような段階でございます。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　大竹議員。

○２番（大竹　惣君）　そうですね、水稲に関しましては本当に水の便が悪いような一部の地域でありますけれども、逆にそういう地域は本当に被害を被っておりまして、排水路からのポンプアップというのも、もう何日もかけてやっておりました。

そこでなのですけれども、柳津町では今般の渇水対策のためにそういったポンプアップに使用したポンプの燃料代、これを今回支援するということになっておりますけれども、本町でもこれ同じような支援をすべきだと思いますけれども、所見を伺います。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　確かに今回ポンプなどを使って水をくみ上げたとか、そういう話も聞いております。これにつきましても、近隣自治体でも今いろいろ情報収集を行って、助成制度とかそういったことも構築するかどうかというのも考えている段階だと思いますので、うちの町についてのもう少しちょっと状況を調査しまして、こういったところは判断していきたいと考えております。

○議長（横山知世志君）　大竹議員。

○２番（大竹　惣君）　そうですね、本町は本当に基幹産業農業というところもありますので、他町村に負けないようにしっかりと前向きに検討していただきたいと思います。

そして、①の部分の答弁の中で、井戸掘りの支援を前向きにというか、検討しているという答弁で、前向きな答弁だと受け取りましたが、この井戸掘りの支援が決定いたしましたら、これはもう分かりやすい方法で周知するべきだと思います。例えばですけれども、今回干ばつ対策のために井戸掘りの補助事業を設けました、干ばつが起こる前に常日頃から準備が大切なので、ぜひ活用してくださいといったようなアピール、こういったことを広報紙などの特集記事などを活用するとか、そうやって見せ方を工夫しながら発信すべきだと思いますが、もちろん要件などもきちんと伝えることも必要と思いますが、その点所見を伺います。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　今の井戸掘りに対する支援についてでございますが、こちらにつきましては令和６年度に向けてということで、これから検討していくという段階ですので、概要についてはまだ決まっていないということ、実施をするかどうかも含めてまだ全体的には決まっていないというところでございます。しかしながら、今回の水不足というのですか、そういう中でこの幹線、大川土地改良区なり、宮川土地改良区なり、幹線の水路のところにつきましては水は最終的にはこれ流れていたということで、用水路から来ないような場合になっても排水には流れていて、それをポンプアップしたという話もありますので、そういうところはまず水回し、そういうのをきちっとルール化が必要なのかなというふうに思っておりまして、ただしため池水系のところはやはり本当に去年の７月半ばからあんまり雨が降らなかったので、最後お盆過ぎにはもう空になっていたというようなところもございます。あと、さらには畑についても、やっぱり作物ですか、今のところでかなり水不足でやっているようなこともございますので、そういうところについてはやはり何か農業用井戸の支援などもぜひ必要ではないかなというふうには考えているところでございます。そういう中で、もしこういった支援を行うということになりましたら、当然制度の周知につきましてはお知らせできる段階になったら町ホームページ、広報紙などで周知を図っていきたいと考えております。また、農業者の方

には直接周知できる方法なども検討していきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　大竹議員。

○２番（大竹　惣君）　丁寧なご答弁ありがとうございます。農業関係の補助金でよく町民からご指摘を受けるのが、やはり周知の仕方、見せ方がいまいちだということです。今後はそういった部分もしっかりと工夫して、このこと以外でもそうですけれども、周知の方法の改善をしていただきたいと思います。

そして、②のほうに移ります。井戸掘りに対しては町としては取組を検討していただけるということで、パイプラインのほうはやはり受益者負担の部分もあって非常にハードルが高いという部分ではあるのですけれども、もちろん地域連携して井戸掘りというのを行うためには、やはり土地改良区で事業化することとなると思うのです。土地改良区側の話を聞きますと、適正な水管理をすれば間に合う分の水量は常に流しているとのことでした。しかしながら、その適正な水管理を全員に徹底していただくのは大変困難であります。忙しくて水田になかなか行けない方や、とにかく自分の田んぼに水を引いてしまうことを優先する方もいますし、様々な方がいらっしゃいます。この適正な水管理を推進するために水番の役割分担を徹底するなど、今後地域計画の策定のために集会等でいろんな機会を利用して適正な水管理をしてくださいと説明し、その重要性を説明して各地区での意識の醸成を図ることが必要と考えますが、ご所見を伺います。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　適正な水の管理につきましては、議員もお話しのとおり、土地改良区が主体となって、各整理委員会で水利使用規則等により配水計画を作成し、理事会が決定して実施しているところでございます。町といたしましては、現在行っている地域計画の策定のための集会等において説明することは、ちょっと話がずれてくるので、難しいかなというふうには考えておりますが、機会を捉えて地域や農業者の方々へ水の使い方や水不足に対する対策についての周知は図っていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　大竹議員。

○２番（大竹　惣君）　ぜひ機会を捉えて周知を図っていただきたいと思います。

チラシの配布などで啓発活動はしていると先ほど同僚議員の質問の答弁の中にもあったと思うのですけれども、実際にはこの問題解決に至らないので、今後はもっとそこに力を入れていくべきだと思います。

そして、この適正な水管理を徹底するためには、やっぱり水が少ない地域では土地改良区の職員が見回りをして、水番等をしてほしいという声があります。水利費を支払っているのに改良区のほうできちんと対処しないと納得ができないという農家もおりました。町長は理事長にもなっておりますの

で、そういった声があることを土地改良区側に伝えるとともに、指導または改善要望を出していくべきだと思いますが、町長の考えを伺います。
○議長（横山知世志君）　町長。
○町長（杉山純一君）　お答えをさせていただきたいと思います。
　今年の水不足は、昨年の雪不足の状況から見て予想されておりました。という中で、私は土地改良区の理事長も兼ねておりますので、春先当初からその水管理についてはしっかりしてほしいということを土地改良の職員から地元の方々にお話ししていたところです。その後、やっぱり予想どおりといいますか、雨も降らない中で、直接私に対しても水が足りないという声がありました。そういった中で、町の職員にも申し上げましたし、土地改良区の職員にも申し上げましたが、現場に行ってしっかり、またその水管理も含めて、水番まではちょっと今のところ考えておりませんでしたけれども、しっかり対応するようにと、現場に出向いて対応するようにということで私から指示をさせてきたところであります。その水番のことも今後、職員のこともありますので、できるかどうかは分かりませんけれども、検討材料にさせていただきたいと思います。
○議長（横山知世志君）　大竹議員。
○２番（大竹　惣君）　町長のほうも同じ問題意識を持っているということで確認できましたし、今後も前向きに対応していただけると思いましたので、ぜひお願いしたいと思います。
　続いての質問に移ります。質問事項４の部分で、答弁の中でありましたが、多面的機能支払交付金の活用で人足作業の外部委託ができるとのことでしたが、現時点でその委託先業者はある程度決まっているのか、その点伺います。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　人足作業等の外部委託につきましては、まだその業者等は特に決めているという段階ではございませんが、想定としましては町の建設事業者等を考えております。
　以上でございます。
○議長（横山知世志君）　大竹議員。
○２番（大竹　惣君）　これから人手不足がどんどん加速していくことが予想されます。受皿となる委託業者は、これはもっと増やすべきではないのかなと思います。例えば農業法人や個人農家、人材派遣会社等、今からどんどん声がけしていって受皿を増やす取組が今から必要と考えますが、所見を伺います。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　外部委託の受皿につきましては、建設会社以外でも、もしそういう何か組織をつくったりとかして受けられるという人がいれば、そういったところも頼りにしていくといいますか、そういったところも活用していくというようなことで進めたいと思っております。
○議長（横山知世志君）　大竹議員。

○２番（大竹　惣君）　そうですね、ちょっと受け身の答弁、受け身な感じだなと思いましたけれども、私の中では町側からどんどんそういった業者を探していくくらいの気持ちでやっていただきたいと思いますので、ご検討のほどよろしくお願いします。

そして、この多面的機能支払交付金を活用すれば外部委託が可能であるということを知らない方も実際いらっしゃいます。人足の人手不足が懸念される場合は、町で相談に乗ること、また外部委託業者の紹介もできること、これも発信すべきだと考えますが、所見を伺います。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　多面的機能の支払交付金につきましては、町のホームページにおいて事業の概要なども周知しております。掲載しております。今後も広報紙等を活用しながら周知を図っていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　大竹議員。

○２番（大竹　惣君）　町のホームページはやっているということですけれども、やはりホームページ見ない方もいらっしゃいますので、ぜひ今おっしゃったように広報紙活用していただきたいと思います。

あと、この多面的支払交付金についての課題というのが、やはり事務作業が面倒だという理由で敬遠されている地区もあります。地区役員が高齢者ばかりだとパソコンに自信がないということで、逆に若い人ばかりということだと仕事と家庭で大変忙しくてそのような手間をかけたくないなど、理由は様々ですけれども、これ町からも事務手続の支援をすべきだと考えますが、所見を伺います。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　多面的支払交付金の事務作業につきましては、現在活動している組織において、会計処理や実績報告、活動記録など事務作業について分からないことがある場合は町と相談しながら進めている状況でございます。また、現在活動していない組織につきましても、取組意向のある地区から相談や出前講座などの制度概要についての要望がありましたら説明などを行ってきております。今後も引き続き制度の周知や支援を行い、この事業を推進していきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　大竹議員。

○２番（大竹　惣君）　現在でも事務手続についての町がバックアップしているということであると思うのですけれども、これ今答弁にもありましたけれども、周知する必要があると思います。これもしっかりとアピールしていただきたいと思います。

そして、最後にもう一つですけれども、多面的機能支払交付金の事務手続の効率化を考えますと、広域的に取り組むのが最も効率的だと思います。土地改良区でまとめて手続すべきだと考えます。事

務経費が十分に与えられる形であれば、改良区側に新たな職員も雇うこともできます。町長は土地改良区のこれも理事長を務めておりますので、ぜひこういった要望が寄せられていることを伝えていただき、多面的機能支払制度を最大限に生かせる環境づくりをすべきだと思いますが、これもちょっと町長の所見を伺います。

○議長（横山知世志君）　町長。

○町長（杉山純一君）　お答えをさせていただきたいと思います。

この多面的機能の支払交付金、非常に地域農業をしている方にとっても、地域にとっても有効な制度であります。これももう10年ぐらい以上になるのかなというふうに思っています。その中で、なかなか取組をできないというか、なかなか手を挙げない地域、やっぱり議員おっしゃるように事務手続の面で負担を感じたり、やっぱりパソコンだったり、写真撮ったりいろいろなものありますから、それがあるのでできないという方も、地域もあるのかなというふうに思っています。実は土地改良区でも、そういった事務作業、人を雇って、その中から賃金を支払ってやっているという土地改良区も中にはありますので、私就任した当初にそういうことできないのかという話をさせていただきました。その後できるという返事はなくて、何がネックかというと、やっぱり制度の特別なものもあったりするので、なかなか人が指導しなくてもできるようになるまでは相当な時間がかかるだろうと。それには今の職員の中でやっぱり指導をしなければいけないというその時間的な問題だったりがあるので、なかなか入っていけない状況がありますという話も聞きました。であれば、できる方法を考えるべきでないかというようなことで今いろいろ検討を重ねているところでありますので、ご理解をいただければというふうに思います。

○議長（横山知世志君）　大竹議員。

○２番（大竹　惣君）　ありがとうございます。町長も同じような問題意識を持って実際に行動を起こしていると確認できましたので、様々な課題があると思いますけれども、集落の方、ひいては老築化して破損した用排水路の修繕がお金がないから間に合っていないということを土地改良区は言います。そういった現状を抜本的に解決できる取組というものもあると思いますので、今後理事長である町長がしっかりとリーダーシップを取って実現させていただくことを期待してこの質問は終わります。

続いて、質問事項５に移ります。答弁書の中で、これは表面ですけれども、自治区長からの承諾が必要になると書いてありました。道路の学校用地化に関する承諾が必要になるということが書いてあります。これは少数の反対意見で事業が進まない場合は政治判断で強行することはないという認識でよいのか、その辺確認させてください。

○議長（横山知世志君）　こども教育課長。

○こども教育課長（渡部雄二君）　それでは、ただいまの再質問についてお答えさせていただきたいと思います。

今回の対象道路の学校用地化の対象となります区につきましては３区ございます。３区の区長さんに対して、区の皆様方の意見を取りまとめて８月いっぱい内諾いただけるかどうか、承諾いただけるかどうかということで、期限を設けてお願いをしたところでございます。３つの区のうち、１つの区は承諾をいただきまして、もう一つの区につきましては条件付の承諾でございます。現在、もう一つの区につきましては承諾をいただいていない状況でございますが、当然３つの区全ての承諾ということでございますので、１つの区の反対というか、承諾いただけていない状況でございますので、今の状況では学校用地化を進めるということはございません。

○議長（横山知世志君）　大竹議員。

○２番（大竹　惣君）　分かりました。地域とともにある学校づくりの実現のためには、やっぱり今回のことに関しては少数の意見でも無視するべきではないと思っておりましたので、その点においては安心したところであります。

②の部分に移りますが、中学校の教諭が低学年に指導したり、幅広い学年、異学年の交流活動を推進するためのメリットがあるということですが、この部分についてもう少し具体的に、どういう活動で行き来するのか、また休み時間なども行き来することになるのか、その辺もうちょっと具体的に教えてください。

○議長（横山知世志君）　こども教育課長。

○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまの再質問にお答えいたします。

議員おただしのとおり、専科教員が小学校に移動して英語を教えたりとか、いろいろ想定されますけれども、あとは子供たちにおきましては共通の行事なんか予想されますので、そういったときに具体的に今予想されるものにつきましては、例えば小学生が中学校にある山浦ホールへの移動であったりとか、中学生につきましては小学校にあります本の郷図書館であったり、プールへの移動、そういったものが予想されます。当然休み時間においての移動というのもこれから増えていくようになると思います。ただ、具体的には来年の先生方の人事異動によって、先生方がどういった免許をお持ちか、そういったところでもかなり変わってくるかと思いますが、今よりはかなり子供たち、先生、両方行き来する回数は増えていくというふうに予想しております。

○議長（横山知世志君）　大竹議員。

○２番（大竹　惣君）　例えばですけれども、先進事例としてほかの学校では、こういった交流の仕方があって行き来していますとか、そういうのがお示しできればちょっと教えていただきたいのですけれども。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

先進事例といいますか、本郷義務教育学校、本郷学園でも考えていることでございます。例えば清掃作業、掃除がありますね、校舎の。こういうものを異学年が一緒になってやる。例えば９年生が１

年生の面倒見ながら一緒に掃除をやるとか、そんなことも当然想定されますし、やっている学校もございます。

それから、学び合いということで、学年の近いところの学び合いというのはちょっと難しいのですけれども、例えば７年生と４年生が総合的な学習で同じテーマをして、一緒に何か活動したり、調べたりとか、あるいは指導したりということも当然出てきます。そういうふうな学年を超えた学び合いとか清掃活動であったり、それから課長が答弁しましたように、学校行事、これも全体でやるのもありますし、学年が集まって一緒にやる。先進事例では、上学年と下学年の子供たちが一緒に何かをやってつくり上げていくという活動を結構やっているところございます。それによって社会性や人間性を広げていくとかということで効果を上げているところがありますので、そんなところも今後考えられると思います。

基本は、やっぱり授業での行き来というのが一番想定されます。ご存じのとおり、小学校高学年の教科担任制というのは国も力を入れておりまして、令和４年度から４年間で約3,800人の教員の加配をつけるということで今進めていますが、これも先日の文部科学省の概算要求で、１年前倒しして６年度、来年一気に３、４年分もつけていくというふうな勢いになっております。ここには小中一貫教育が最も親和しやすい教育制度でありますので、中学校教員が小学校に行って教えるだけではなくて、子供たちが行って一緒に中学校の教員に習ったりとか、逆に中学校が小学校に子供と一緒に行って何か交流しながら一緒に学ぶとか、様々なカリキュラムが想定されます。今後小中学校が話し合いながら具体的なものは決めていくと思いますが、課長答弁のとおり、来年度の人事異動の目鼻が立って、どんな免許を持った教員が何人ぐらい配置されるかによってカリキュラム変わってきますので、ぜひ安全に配慮しながら、なるべく多く行き来をしながら、教員が最大限の力を発揮できるような環境をつくっていきたいというふうに思っているところであります。

○議長（横山知世志君）　大竹議員。

○２番（大竹　惣君）　丁寧な説明でありがとうございます。今答弁いただいたような本当に丁寧な先進事例ですか、ほかの事例、こういったものをもうちょっと一般の方にも周知するというか、説明するような形で、この校舎間を行き来することの目的やメリットの部分、これも何度も言いましたけれども、挿絵などを入れて分かりやすく文書化するなどして、これ関係者全員にそれを配布してアピールする、そういうことをすればもっともっとやるべきだという町民からの声がどんどん上がってくると思うのですけれども、そういったアピールをすべきだと思いますけれども、その辺について所見伺います。

○議長（横山知世志君）　こども教育課長。

○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまのご質問でございますが、これから学校と協議をしながら前向きに検討してまいりたいと思います。同時に、今議員おただしの文書化してアピールすること当然重要だと思っております。我々教育委員会としましては、やはり同時に子供たちの安全対策につ

いても併せて検討してまいりたいと考えております。
○議長（横山知世志君）　大竹議員。
○２番（大竹　惣君）　もちろんその安全対策という部分一番大事な部分でありますので、その辺も含めたアピールでよろしいかと思いますので、ひとつアピールのほう力を入れていただきたいと思います。
あと、昨日の同僚議員の質問にもありましたけれども、先日の産業教育常任委員会で視察に訪れました信濃町、ここでは義務教育学校に向けて一番大切なのは住民との対話だったと聞きました。本町は時間のない中、駆け足で進めております。そういったことなどで多くの反発が予想されます。説明する機会を増やしていくことで理解をしていただくことも必要だと考えます。
また、昨日の同僚議員の質問でも、ペーパー化して各戸配布すべきだという提言がありました。私も同じ思いです。様々な例えばアンケート調査の質問とその回答の内容とか、そういったものもメールとかそれだけではなくて、ちゃんとペーパー化して、全ての保護者に伝わるようにすることでより理解が進むと思います。
あと、説明会ではやっぱり聞こえてこない声がたくさんあります。そういった声は私とかの地元の議員に直接届けられるのですけれども、こういった丁寧な取組で広い意味での対話、今のペーパー化してみんなに伝える、こういったもの広い意味での対応の一つだと思いますので、最後にこの対話の重要性と様々な形で対話をする機会をできる限り増やすことについて、これ確認の意味で所見を伺います。
○議長（横山知世志君）　教育長。
○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。
ご指摘のとおり、対話の重要性というの私ども認識しております。様々な全国を見ますと、この義務教育学校化、小中一貫教育の事例でございますけれども、多くは非常に統廃合を伴う義務教育学校化といいますか、小中一貫教育の導入というところで、その統廃合のために長い時間とエネルギーを使っているところが非常に多くあります。そこの統廃合を進めるための看板に義務教育学校を掲げたりということで、その統廃合に関するエネルギーというのはやっぱり私ども今回ないわけでありますが、義務教育学校化あるいは小中一貫教育についてのご理解を深めていただくというのは今後ご協力を得ていく上で非常に大事だと思います。我々も説明いたしますし、広報にも書かせていただいたようなレジュメとか、プリントとか、ああいうもの用いて、さらなるご理解を深めるための取組は進めていくつもりではありますけれども、私一番期待しているのは学校運営協議会が今、年５回くらい開きながら活動しておりますけれども、そこのやっぱり一番の目玉は私は熟議だと思っております。今、昨年度始まったばかりですから、非常に学校運営協議会のメンバーあるいはプラスアルファだけの狭い範囲での熟議が行われていますけれども、ここにもっと多くの保護者の方、教員、それから地域住民の方が入って、例えば本郷義務教育学校の運営についてもっとみんなで話し合って知恵を出してい

くとか、新鶴の小中一貫教育についてこんな方向性でいきましょうなんてことをもっとみんなで議論すると、そういう機会をつくっていくことが私は一番大事だというふうに思っております。ぜひ参加型の対話、そういうところでご理解を深めていただきながら学校の応援団を増やしていく、そんなふうな方向性も試行してまいりたいというふうに考えているところであります。

○議長（横山知世志君）　大竹議員。

○２番（大竹　惣君）　ありがとうございます。その熟議、多くの方が集まって議論される参加型の対話ということで、私大変それは有効な手段だと思いますので、今後はさらに丁寧な対話を重ねて地域とともにある学校づくりが達成できることを期待して私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（横山知世志君）　これで大竹惣君の質問は終わりました。

ここで、午後２時30分まで休憩します。

休　憩　　（午後　２時１７分）

再　開　　（午後　２時３０分）

○議長（横山知世志君）　再開します。

次に、通告第９号、10番、星次君。

〔10番（星　　次君）登壇〕

○10番（星　　次君）　それでは、一般質問に入る前に、質問事項の３番目の移住・定住事業の促進についての下から３行目「情報をいち早くチャッチして」と、この「チ」ではなくて「キ」にひとつ訂正をお願い申し上げます。では、議長、よろしいですか。

○議長（横山知世志君）　はい、ありがとうございます。

○10番（星　　次君）　それでは、通告に従い一般質問をさせていただきたいと思います。

質問事項１、生涯スポーツの充実と第３期地域福祉計画について。第３期会津美里町教育振興基本計画において、生涯スポーツの充実が必要であると述べていますが、実際にスポーツを行っている人の割合はどのように把握しているのか伺います。また、目標値があまりにも低く設定されていますが、このままでよいのか併せて伺います。多くの町民がスポーツをすることで健康が維持できると考えますので、体育施設の在り方と施設の充実については、今の考え方で進行していくのか伺います。誰もが身近にスポーツを行うには地区の体育施設は必要と考えるが、見解を伺います。

次に、第３期地域福祉計画では、スポーツ、レクリエーションへの支援を通じた町民の健康づくりや町民同士の交流の機会づくりに誰もが、いつでも、どこでも、気軽に参加できる環境整備に努めると述べておりますが、どのように町民に理解を求め、実践していくのか伺います。運動することは生活習慣病の予防と医療費の抑制にもつながると思うので、ぜひとも各課横断的に情報を共有して実施すべきと考えるが、見解を伺います。

質問事項２、大規模林道整備事業についてでございます。今年の雪のために、大岩観音入り口から品窪沢までの区間で道路ののり面の陥没箇所が13か所ありますが、既にご承知と思われますが、この災害の復旧工事は今年度行われるのか伺います。国、県の補助事業で取り組むのか併せて伺います。また、新設工事は幅員が狭いように考えますが、今年度以降も継続して工事は進められるのか伺います。

質問事項３、移住・定住事業の促進についてでございます。本町も人口減少対策として空き家を活用した移住者事業を行っていますが、今年８月末までの移住者は何世帯で何人なのか、年度ごとに過去５年間示してください。移住、定住を促進するためには、移住者の声をもっと町外に情報発信することで本町の魅力が移住希望者に伝わると考えるが、見解を伺います。国、県の補助事業やふるさと回帰支援センターの情報をいち早くキャッチして希望者に提供することとともに、働く場所も併せて紹介すれば生活の不安が払拭されると考えるので、見解を伺います。

以上、よろしくお願いします。

○議長（横山知世志君）　答弁、町長、杉山純一君。

〔町長（杉山純一君）登壇〕

○町長（杉山純一君）　10番、星議員の一般質問にお答えいたします。なお、生涯スポーツの充実につきましては教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

初めに、生涯スポーツの充実と第３期地域福祉計画についてでありますが、地域福祉計画は社会福祉法第107条の規定に基づき、本町における地域福祉を推進するための基本的な施策の方向を明らかにするものであり、それぞれの具体的な取組については個別計画等に位置づけ、毎年度取組内容の整理と評価を行い、進捗管理を行っているところであります。スポーツ、レクリエーション活動の推進については生涯学習課が取組の中心になっていますが、地域コミュニティーの活用など複数の課が連携することにより、より効率的、効果的なものもありますので、互いに情報共有を図りながら町民の方々に運動の重要性をご理解いただけるよう、各種事業を実施しているところであります。

次の大規模林道整備事業についてでありますが、１点目の災害復旧工事につきましては、大岩観音入り口から品窪沢までの区間で現在発生している路面のクラック、路肩の陥没、沈下等の復旧工事は、令和５年度においては実施の予定はありません。また、国、県の補助事業についても、該当しないものと考えております。大規模林道の災害復旧工事につきましては、新鶴側の起点から1.3キロ地点及び3.6キロ地点における道路崩落による通行不能箇所を優先的に実施し、その後現場状況や危険性などを考慮し、路肩の陥没、路面沈下等の復旧工事を行う予定であります。また、通行に支障のある箇所につきましては、安全に通行ができるよう表示を行い、対応をしてまいります。

２点目の道路幅員と今後の工事予定につきましては、既設の林道は国が事業主体となり、工事を行ってまいりましたが、未開通区間の開設工事は県営山のみち地域づくり交付金事業として工事を行っており、事業の計画見直しにより、道路幅員が７メートルから５メートルとなったところであります。

また、未開通区間の開設工事は約1.3キロありますが、継続して工事を進め、早期開通に向けて県へ要望をしてまいります。

次の移住・定住事業の促進についてでありますが、１点目の今年８月末までの移住者の世帯数と人数につきましては、令和５年度は３世帯５人となっております。過去５年間に移住した世帯数と人数についてでありますが、平成30年度は13世帯32人、令和元年度は21世帯72人、令和２年度は30世帯100人、令和３年度は31世帯91人、令和４年度は37世帯118人となっております。この数は町が移住者として把握している数であり、移住に関する住宅取得補助金や移住支援金などを活用した方及び地域おこし協力隊として着任した方を対象としております。

２点目の移住者の声を町外に情報発信することにつきましては、町の移住、定住サイトにおいて移住に関する様々な情報や移住者の声などを発信しております。今後は動画を多く取り入れるなど、より町の魅力が移住希望者に伝わる情報発信に努めてまいります。

３点目の移住希望者への情報提供につきましては、移住、定住ポータルサイトであるみさとぐらしを活用し、移住に関する情報発信を行っております。今後は、ふるさと回帰支援センターなどの情報源の活用や国、県などの補助事業、就職情報等を掲載するなど、よりきめ細やかな情報提供に努めてまいります。

私からは以上でございます。

○議長（横山知世志君）　答弁、教育長、歌川哲由君。

〔教育長（歌川哲由君）登壇〕

○教育長（歌川哲由君）　10番、星議員の一般質問にお答えいたします。

生涯スポーツの充実と第３期地域福祉計画についてでありますが、スポーツを行っている人の割合につきましては、会津美里町第３次総合計画の指標に対する町民アンケートにより、34.5％と把握しております。

また、目標値の設定につきましては、現在は第３次総合計画の期間中であり、目標値の見直しは考えておりませんが、今後の総合計画の改定に当たり、さらなる実態の把握に努めるとともに、適切な目標値を検討してまいります。

体育施設の在り方につきましては、社会体育施設整備計画に基づき順次廃止してまいりますが、既存施設のさらなる利活用を図るとともに、身近な集会施設等を利用した軽スポーツの普及を図るなど、気軽にスポーツに親しめる環境の確保に努めてまいります。

私からは以上であります。

○議長（横山知世志君）　星議員。

○10番（星　　次君）　それでは、質問事項の１番目から再質問をしたいと思います。

答弁書によりますと、目標値に対して実績が34.5％というふうに把握はしておりますが、目標値の設定につきましては第３次総合計画の改定ということでなってはいませんが、教育委員会で出してい

るこの本には、第３期会津美里町教育振興基本計画には目標値が34.5％です。目標値は達成しておりますが、私質問しているのがなぜこんなに目標値が低く設定されたのかということです。努力はしませんというような感じではしようがないではないですか。34％ですよ。これが50％ぐらいの目標だったら分かりますが、その辺の考え方をちょっとお聞かせください。

○議長（横山知世志君）　生涯学習課長、福田富美代君。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの星議員の再質問にお答えいたします。

実際にスポーツを行っている人の割合、先ほどの星議員34.5％というところであったのですが、一応７年の目標は41.8％ということで４割強を挙げているところでございます。実際計画策定の際には平成30年度の実績値を現状値としまして、今回目標値41.8％に向けて取り組んできたところでありますが、コロナ禍におきましてかなり数字は落ち込んでいるというところは認識しております。少し令和３年度より若干回復傾向にはございますが、さらなる生涯スポーツというところでの充実を図る必要があるとは考えておるところでございます。

以上です。

○議長（横山知世志君）　星議員。

○10番（星　　次君）　今、課長から答弁ありましたが、私の調べたところの資料ではそうなっていたものですから質問させてもらいましたが、若干数値は上がっているということで、47％ということでありますので、その辺については理解を示しております。

この教育振興計画によりますと、スポーツの施設というか、これは高田、新鶴の施設については総合型の地域スポーツクラブに指定管理をして、ノウハウを行っていただいているということでございますが、教育委員会として考え方、あまりにも依存度が、依存されている度合いが大きいのではないかというふうに伺うことができるのです。町はこの指定管理者に建物の管理運営ということだけで、そのほかのスポーツを親しむ町民はこのようなことで、もっとやっていただきたいというような指導、助言あってもしかるべきと思うのです。それで、この管理運営に当たりましても、やっぱりこういうスポーツお願いしたいというふうなこともやっぱりあってしかるべきと思うのですが、その辺は全然この文章からすると見えてこないのですが、どのような指導をしているか教えてください。

○議長（横山知世志君）　生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの星議員の質問にお答えいたします。

総合型地域スポーツクラブとの関係ではございますが、実際高田地域の体育施設の管理業務としまして、指定管理として総合型スポーツクラブ、クラブ衆への委託をしております。さらには、新鶴地域については振興公社、本郷地域については直営で本郷生涯学習センターのほうで運営をしているところではありますが、クラブ衆に関しましては独自事業としまして、いろんな様々なスポーツクラブ、さらには文化活動まで幅広く独自に活動しております。さらに、様々なスポーツイベント等も行っているところですので、それについては町としても評価しているところでございます。町としては、施

設の指定管理の部分だけではなくて、いろんな、今回９月16日に行われますふれあいウオークに関しての受付業務など一部の業務委託をしておりまして、また令和５年度においてはスポーツ少年団の登録事務などを委託しております。そういったところで、こういった事業をやってほしいというところの投げかけはなくとも、独自にクラブ衆については取り組んでいるということで認識しているところでございます。

以上です。

○議長（横山知世志君）　星議員。

○10番（星　　次君）　それでは、課長、基本計画持っていると思うのですが、23ページちょっと開いていただきたいのですが、ここでスポーツ少年団や体育協会の加盟団体の活動を支援しましたとなっております。今、課長がスポーツ少年団のその後の声がちっちゃかったものですから、何を支援したのか聞き取れなかったのですが、再度この活動を支援したというのはどんなことを支援したのかちょっと具体的に教えていただきたい。

○議長（横山知世志君）　生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　失礼いたしました。先ほどお答えしました関連ですけれども、クラブ衆に委託している事業としまして、スポーツ少年団の登録事務というところでお話しさせていただきました。ただし、町からクラブ衆に対して支援というところについては行ってはいないところではございます。

〔何事か言う人あり〕

○生涯学習課長（福田富美代君）　失礼いたしました。スポーツ少年団に対しましては、活動の補助金ということを交付しているところでございます。

○議長（横山知世志君）　星議員。

○10番（星　　次君）　そうすると、体育協会の加盟団体には補助金だけで支援したというふうなことなのですか。その補助金だけでなくて、もう少しこのスポーツに関して指導、助言、先ほど来言っていますが、こういうスポーツをやっていただきたいとか、例えば今ニュースポーツ推進しているところだけれども、これを指定管理者の中で全町民的に取り組んでいただきたいというふうな考え方で指導はしなかったのか、この支援というのがちょっと理解できないので、再度お願いしたいなと思います。

○議長（横山知世志君）　生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　失礼いたしました。今ほどの議員のご質問でありますけれども、地域におけるスポーツ活動の支援というところで目標のほうに掲げている内容がございます。こちらについては、地域におけるスポーツ事業でありましたり、そういったところで町のスポーツ推進員を派遣したり、さらには地域リーダーの核となっている各地区で実行委員会でスポーツ事業を展開しているかと思います。そういったところで、スポーツ活動が住民主体で開催できるような体制について

の支援を行っているというところでございます。

以上です。

○議長（横山知世志君）　星議員。

○10番（星　　次君）　それでは次に、地域の実情に合ったスポーツ事業の内容見直しというふうになっております。このスポーツ事業の内容の見直しというのは、具体的にどんな見直しされたのかちょっと分からないので、教えていただきたい。

○議長（横山知世志君）　生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの質問にお答えします。

スポーツ事業に関しましては、町で行っているふれあいウオーク、さらには各生涯学習センターにおいて各地域を対象としたスポーツ事業がございます。この３年間のコロナ禍において、多くのスポーツ事業ができておりませんでした。この後、感染症対策を踏まえた気軽に皆さんが参加できるようなニュースポーツ教室への実施に向けての検討であったり、また行政区、区長さんを交えたその地域の方々の意見を踏まえてそれぞれの地域において検討をして、今回４年ぶりに運動会が開催されていたところもございます。また、運動会は開催しないけれども、ウオークとして地域の中でウオーク事業を行おうというところで率先して地域で意見がまとまって、それの実行に向けてというところもやっているところはございますので、そういった町がこうやりましょうということで強制的にやるのではなくて、各地域のご意見を踏まえながら、それが地域の実情に合ったような形でできるスポーツ事業、町民の方のスポーツできる環境づくり、またきっかけづくりというところで取り組んでいるところでございます。

以上です。

○議長（横山知世志君）　星議員。

○10番（星　　次君）　大体分かりましたが、やはりこのスポーツをされる人口というのをよく把握して、数値化して次の目標に向かって、それで計画を立てるというふうな仕組みづくりをやっていかないと、毎年同じような行事というか、そういうふうになってしまうので、スポーツ人口を増やす方策として生涯学習課ではどんな考えを持っているのか、今後もっともっとスポーツ人口を増やす方策あったら教えてください。

○議長（横山知世志君）　生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの議員のご質問にお答えします。

当町としては、スポーツといいますとやはり競技スポーツということ頭に浮かぶかと思うのですけれども、今回の教育振興基本計画の中でも健康のための運動等というところで、子供から高齢者まで全ての町民が実践できる身近な健康づくりということを意識して、常日頃から継続的に取り組む運動、健康のための運動というところも重点として掲げているところでございます。先ほど運動教室であったり、ニュースポーツであったりというところも含め、そういったところも広くスポーツというのは

競技だけではないのだというところを町民の方のほうに周知をしまして、目標値をさらに高めるような形で検討してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（横山知世志君）　星議員。

○10番（星　　次君）　やはりそのとおりだと思うのです。課長、その考え方をさらに伸ばしていただいて、スポーツ人口を増やしていただきたいなというふうに思っております。

それで、今課長が地域全体でスポーツ活動を推進するのだというふうにおっしゃいました。それで、各地域にスポーツ推進員という方が委嘱されていると思うのですが、この方々が地域のリーダーとなって育成、指導者の育成というのはこの方と、あとどのような方が指導者として、そして指導者を育成していくつもりなのか、その辺ちょっと教えていただきたいと。

○議長（横山知世志君）　生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの質問にお答えいたします。

まず１点、スポーツ推進員が地域のリーダーとしての役割を担うというところで、町としまして今現在申し訳ありません、17名だったかと思います。大変失礼いたします。実際の数値があれだとはっきり申し上げられないのですが、町としてスポーツ推進員として委嘱しております。その中でやはり各地域の地区で行われるスポーツ事業であったりに関しても積極的に参加していただきまして、運動の町民に対するスポーツの機会というところで動いていただいているところでございます。さらに、指導者の育成の一つには、スポーツ少年団の指導者の育成というところがございます。こちらについては、それぞれのスポーツ少年団の指導者となる方が研修の機会というところがございます。また、登録にも経費がかかるというところに対しまして、補助金として対応させていただいているところであります。スポーツの指導、そうですね、育成のために講習会をやったりというところは実際やっていないところではあるところなのですけれども、スポーツ推進員を核としまして、それぞれの地域に入った町民の皆様へのスポーツの指導というところには拡充していきたいと考えているところでございます。

以上です。

○議長（横山知世志君）　星議員。

○10番（星　　次君）　やっぱりその指導者の育成というのがスポーツ人口を増やす一つの方策だと思うのです。それと、美里ではやった記憶はあると思うのですが、中央のアスリートとか、そういうスポーツを実際やっている方を呼んで、小中学校も含めた一般町民にスポーツはこういうふうにするのだというふうな、そういうふうな指導者の講演会とか講習会、これもやっぱりスポーツ人口を増やす一つの方策だと思うのですが、その考えはどうですか。

○議長（横山知世志君）　生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの議員のおただしに関しましてなのですが、実際地域総合

型スポーツクラブのほうで実際オリンピック選手というか、指導者に当たっている方を招致しまして、各スポーツ少年団に対する講習会を開催したりというところをやっているところであります。町のほうとしては実際やっていないところではありますけれども、今後ともそういった地域スポーツクラブとの連携を図りながら、スポーツ人口を増やすための施策というところも展開していきたいと考えております。

以上です。

○議長（横山知世志君）　星議員。

○10番（星　　次君）　それでは次に、そのスポーツするための施設について伺いたいと思いますが、体育施設を通じてやっぱり交流を図られるというふうな、交流の場での施設でもあるというふうに私は認識しているのですが、それで新鶴地域にある、ふれあいの森公園の中にある競技場、トラックですね。これを私は全天候型のトラックにして、交流の場の拠点として、大学生の合宿とか、大会等の誘致とか、そういうふうなことで整備すればいいなというふうに考えるのですが、そういう先のことも視野に入れながら整備してやるべきだと思うのですが、私の質問に対してもこれ同じような管理でやっていくのかというふうな質問についてあまり明確な回答が得られませんでしたので、再度お願いします。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

非常に前向きですばらしいご提案があったかというふうに思いますが、確かに既存のそういうスポーツ施設をリニューアルして利用度を高めていくということは、大事な観点かというふうに思います。先頃の議会で副町長のほうからの例えばスポーツ観光のためになんていうふうなお話もありましたので、町全体として有効に活用できるようなプランをつくっていくものと私は認識しているところでございます。

○議長（横山知世志君）　星議員。

○10番（星　　次君）　教育長に答弁もらったのですが、この施設の整備というのはやはり町部局の町長が、町が整備をする、それと新しいものを造るというのは町部局の仕事であるというふうに私は思っているのですが、教育委員会は地方教育行政の中の範囲であって、その施設を造るとか整備をするというのは町側の仕事だというふうに思っているのですが、その点で町長の考え方ちょっと差し支えなければお願いしたいなと思います。

○議長（横山知世志君）　町長。

○町長（杉山純一君）　お答えさせていただきたいと思います。

町の体育施設の中で、今いろいろ壊したり、今考えているところです。合併によってそれぞれ同じような施設がありますから、これを整理していくというのは必要なことだというふうに思っています。その中でも一例を挙げて申し上げますと、今議員のほうから出た新鶴地区の運動場、400トラックで

す。これはさきの議会でも私も申し上げましたが、あそこを核とした様々なものを造っていきたいと、やっていきたいと。あそこには本当に運動施設そろっていますし、ワイナリーがあったり、温泉施設があったりということで、例えば大学の合宿を誘致するにも非常に優れた土地柄であるというふうに思っておりますので、そういったことで今いろいろ検討しながらいい方向で進めるようにするということで今検討を重ねているところでありますので、ご理解願います。

○議長（横山知世志君）　星議員。

○10番（星　　次君）　それでは、地域福祉計画の中で今一定程度答弁していただきましたが、毎年度取組内容の整理と評価を行い、進捗管理を行っているところというふうになっておりますが、これは個別計画の内容を言っているのか、今第４期地域福祉計画を策定中の中でこういうことをやっているのか、その辺ちょっと教えていただきたいと思います。

○議長（横山知世志君）　健康ふくし課長。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　地域福祉計画の関わる部分でこの評価をしているのかというご質問かと思います。

　まず、評価につきましては、地域福祉計画のこれですと基本目標４という部分に属するもので、各課横断的に事業のほうを抽出しております。回答をいただいております。町長答弁にもございますように、このスポーツ、レクリエーションに関しては主管課が生涯学習課ということで、生涯学習課の評価を事業単位でやっているということでございます。

○議長（横山知世志君）　星議員。

○10番（星　　次君）　それでは、誰もが、いつでも、どこでも、気軽にできるというふうなことで環境整備を図るのですが、福祉の面で見ますと60歳以上というふうな捉え方で記載になっているのですが、やはり福祉はこれだけでなくて、町民全般の福祉というふうに捉えてもいいのではないかというふうに思っておりますので、もう少し幅広い年齢層の運動に、スポーツ、レクリエーションに活動する人口を増やすべきというふうに考えております。それで、福祉部門で運動するということは、やっぱり認知症にならないとか、ここに私も書いておきましたが、医療費の抑制とか、それから平均寿命を延ばすというふうな目的があると思うのです。それには、今健康ふくし課で進めているのかその辺分かりませんが、町民の歌を利用したじげん体操というのをやっているのです。課長は既にご存じだと思うのですが、とってもいい体操なのです。この言葉どおり、いつでも、どこでも、誰でもできる。スマホの中にも入っているのです。アプリが入っていて、それでもできます。私たちの集落ではＣＤもらって、それでやっているのですが、テレビに映して。こういう本当にすばらしい、町の歌も全部暗唱できるし、そしてやれると。課長、実際は知っていますか。

○議長（横山知世志君）　健康ふくし課長。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　はい、じげん体操知っております。実際に集いの場等でも取り入れてやっていたこともございます。

○議長（横山知世志君）　星議員。
○10番（星　　次君）　それでは話しやすいのですが、これを町民の人が、スマホできない人が、やはりうちでもやりたいからＣＤをこれ買うのだかもらうのだかその辺は分かりませんが、譲っていただけないかというような質問があるのですが、それはどんなふうに手続すれば手元に入るのか教えてください。
○議長（横山知世志君）　健康ふくし課長。
○健康ふくし課長（平山正孝君）　じげん体操のＣＤということなのですが、今ちょっと手元のほうに資料等もございません。調べて後ほど回答させていただくということでお願いしたいと思います。
○議長（横山知世志君）　星議員。
○10番（星　　次君）　では、それは分かりました。
　次に、２点目、大規模林道の整備事業についての再質問をさせていただきたいと思います。この事業は５年度は復旧作業はしません、国の補助事業も該当しないものと考えているということでございます。しかしながら、13か所の陥没している場所が実際あるのです。課長も御覧になっていると思うのですが、このまま放置して冬を越すのかどうか。そうしたらこの陥没面積が広くなって、事業費がまたかかります。その辺を理解しての答弁なのか、ちょっと理解に苦しむのですが、単独事業だったらその分かった時点で政策財政課長と予算折衝とか、こういうふうなというような相談とか協議されたのか。課長も今回の決算で分かると思うのですが、４年度の繰越しがあんなにあるのですよ、億。これ単独でもできるはずです、今年。来年だって見通し分からない状態です。その辺ちょっと考え方教えてください。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　ただいまの質問にお答えいたします。
　大規模林道の災害復旧工事、今13か所ということで、当然私ども確認してございます。セーフティーコーンは立てておきまして、クラックとか入ったところ立てておいて、片側通行ができるような状況だということで理解しております。そういった中で、まず本当に今年度は新鶴方面の道路崩壊箇所というのがもう３か所ございますので、そちらのほう、その１か所目と２か所目にもう勢力をかけてそちらを直して、あと来年度その３つ目の崩落箇所を直しますので、そちらを優先させていただいてから次にこちらの13か所のほう、そちらに入りたいというふうに考えてございます。
〔「議長」と言う人あり〕
○議長（横山知世志君）　ちょっと待ってください。ちょっとごめんなさい。健康ふくし課長に申し上げます。先ほどＣＤの件、確認したいのですが、準備大丈夫なのですか、今日中に。
〔何事か言う人あり〕
○議長（横山知世志君）　では、暫時休憩します。
休　憩　　（午後　３時１３分）

再　開　　（午後　3時１６分）

○議長（横山知世志君）　再開します。

それでは、先ほどの件について、健康ふくし課長。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　申し訳ありませんでした。

じげん体操のＣＤの件につきまして、包括支援センターのほうで補助金を活用して作ったということでございます。今、在庫幾つか残っているということ、あと足りないような場合には焼き増しをしてお渡しすることは可能だということで確認をしております。

○議長（横山知世志君）　よろしいですか。

○10番（星　　次君）　はい、了解です。

○議長（横山知世志君）　では、先ほどに引き続き質問を続けください。

星議員。

○10番（星　　次君）　それでは、大規模林道の幅員が７メートルから５メートルに変更になって、県営の山のみち地域づくり交付金事業で工事を行っているというふうなことでございますが、この山のみち地域づくり交付金ということで幅員が狭まったというのは、この工賃の内容というか、交付内容の中でそういう幅員が今よりも狭くするというような内容が盛り込んであるのかどうか、その辺がちょっと分からないので、教えてください。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　幅員が狭まった理由としましては、山のみち地域づくり交付金事業ということではなくて、まずは未開通部分を通すというのですか、ちょうど1.3キロぐらい未開通になっているのですが、そこを、未開通区間を解消して開通させるということを趣旨として、幅員は狭くなりますが、そういうことで今工事を進めているところでございます。

○議長（横山知世志君）　星議員。

○10番（星　　次君）　では、この交付金を使うのですけれども、今課長の答弁だとその1.3キロを早く開通するために、事業費の圧縮等をするために７メートルから５メートルになったということですか。その辺ちょっと分からない。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　事業費の圧縮ではなくて、７メートルでこれ造ろうとすると保安林解除が必要になります。保安林解除がなかなか、もうここずっと、平成の初め頃からですか、保安林解除ができないでずっと今までに至ってきているという経緯があります。その中で、あくまで今度作業道ということで道路を開通させますと保安林解除は必要ありませんので、まずはそういうことで未開通区間を解消させたいということで取り組んでいるものでございます。

○議長（横山知世志君）　星議員。

○10番（星　　次君）　大体分かりました。保安林解除がなかなか容易でないということでございますが、作業道としてというわけですが、これは舗装にはなるのでしょう。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　当然舗装になります。
　あと、先ほどの事業費の話ですけれども、これは県が行っておりますので、町は負担金を出すといったような形になってございます。
○議長（横山知世志君）　星議員。
○10番（星　　次君）　それでは、最後の３番目、移住・定住事業の促進についてを再質問させていただきたいと思います。
　移住する方がやっぱり心配なのが、仕事、住まい、暮らしという３要素だと思うのです。特に例えば会津美里に行っても仕事できるのかなというふうな……
〔何事か言う人あり〕
○議長（横山知世志君）　今、質問中ですので、私語は慎んでください。すみません。
○10番（星　　次君）　それで、仕事について、美里町は突っ込んだ情報発信というのがいまいち少ないかなというふうな思いがありますので、その辺再度仕事の紹介というか、どういうふうな情報発信しているのか伺います。
○議長（横山知世志君）　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　お答えします。
　仕事の紹介ということでございますが、仕事の紹介につきましては当然ハローワークの情報を紹介をしてございます。
○議長（横山知世志君）　星議員。
○10番（星　　次君）　それは一般的な企業への就職であって、農家に就農したいというのもハローワーク通すのですか。やはり農業をやりたいとか、いろんな職種があると思うのです。そういう業種も併せてやっぱり情報発信していくべきだなというふうに思うのです。やはり仕事、美里に来ればこういう仕事があって魅力的だよというのを発信するべきだと思うのです。その辺どうですか。
○議長（横山知世志君）　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　仕事のそういった農業であっても、例えば法人に就職するとか、そういった分についてやはりハローワークを通すということが原則になっております。ただ、やはり自分でこの美里に来て、農業を自分でやりたいと、そういうことであれば、先ほど産業振興課のほうで今実施しております新規就農、そういった支援体制ございますので、そちらのほうを紹介することとなっております。やはりただ、そういった細かい情報が今のみさとぐらしにサイトはございますが、そこまで詳しい情報は載っておりません。確かにそういった情報をもう少し丁寧に情報発信するということで考えてございます。

○議長（横山知世志君）　星議員。
○10番（星　　次君）　それで、先ほど答弁書の中に住宅取得補助や移住支援金ということで、本当に美里町もすごいなというふうな関心はしているところでございます。
それで、この前総務厚生常任委員会で氷見市に行ってきたのです。氷見市は、この移住者の目標、年間の目標は何人ともう決めているのです。それ目的達成のためにやっているのです。こういう数字化することがやっぱり成功につながっているのではないかなというふうに思っております。
それと、氷見市は年間の雪の降るのが５回程度で、そんなに積もらないというふうなことですが、移住者の自動車運転支援補助金というのを出しているのです。うちのほうは、氷見市に比べたらもう３倍も４倍も降るのです。そういう雪道に慣れるための、教習所に通うためのこういう支援金を出しているのです。こういうところもやっぱり魅力の一つではなかろうかなと思いますので、よく調べておいてほしいなというふうに思います。
それと美里町も、会津地域全体で行ったのかなと思うのですが、移住者の交流会やったようでございますが、これについて若干美里町バージョンでやったことあるのかどうかひとつお願いします。
○議長（横山知世志君）　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　ただいまのおただしでございますが、実は今年から新たな事業として移住者同士の交流会を開こうということで企画しておりました。たまたま初め４月当初に実は会津若松市のほうから相談ございまして、若松市と一緒にやらないかという話がございまして、それで今若松と美里一緒になって、若松の移住者、美里の移住者一緒になって交流会を、今１回目が６月に開いたところでございます。この後、２回目が９月の下旬、いわゆる会津まつりのときに開催するというような運びになっております。確かに町単独でやるというの非常に有効だと思いますが、ちょっと今回初めてでございますので、せっかくですから隣の若松市の移住者との交流も深めて、町だけではなくそういった交流の輪が広がればなと思っております。
○議長（横山知世志君）　星議員。
○10番（星　　次君）　やっぱりそれが大事だと思うのです。今こちらに来て、不安払拭するためにも交流の、移住者の生の声を聞いてやるというのは大事だなと思います。やはり美里町もこのように移住者が増えてきているので、やっぱり移住者の声を主体に、移住者の促進というか、移住者をもっともっと呼び込むというような、移住者の声を情報発信するというのが一番の手だてだと思うのです。そういう考えが、答弁書にも若干触れましたが、再度そういうふうな移住者の声をどのように反映するのかお聞かせください。
○議長（横山知世志君）　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　お答えします。
やはり移住者の声、一番大事だと思っております。確かに美里町に来て、その移住された方の生の声がやはり次の方、例えば美里に移住してみたい人がどういった、実際暮らしている方の意見という

のが非常に大事なのかなと思っております。確かに町としても、今年は30名ということで目標は設定しております。ただ、やはり昨日も申し上げましたが、一人でも多くの移住者に来ていただくというのがいいことだと思います。

ただ、もう一つ大事なのは、その人がずっとやはりこの美里にとどまって、いわゆる住んでいただけると、そういったことも大事だと思っております。そのために先ほど申し上げましたが、交流会などを通して移住者同士の情報といいますか、交換、さらには地域にいかに溶け込めるか、地域の中で１人移住者来た場合ですとやはりそこにどう溶け込めるかというのが大事になってきますので、そこで今町は移住者の支援業務というのもやっておりますので、そういった移住者の不安、悩み、そういった相談する仕組みづくりもやっておりますので、そういった様々な工夫をしながら移住者を、多くの方に来ていただいて、さらに長く住み続けていただきたいと考えております。

○議長（横山知世志君）　星議員。

○10番（星　　次君）　ちょっとお聞きしたいのですが、会津美里町は魅力のある町だからという今画面で見て、いろいろ調べて行ってみたいというような気持ちはあるけれども、移住まではいまいち、もうちょっとというところで、短期間の移住体験、例えば１か月とか、１週間とか、その体験できる施設は美里町はあるのかどうかお伺いします。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　お答えします。

移住を中長期に体験できる場所があるのかというご質問でございますが、現在のところございません。

○議長（横山知世志君）　星議員。

○10番（星　　次君）　私は前にこの移住、定住にも質問させてもらったのですが、隣の下郷町なんかもう５年前ぐらいからこういうのやっているのです。だから、やっぱり美里でも町が空き家を借り入れて、町がそういうふうに移住予定者というか、希望する人に短期間でもいいから体験してみませんかというような、そういう施設も必要ではないかというふうに思っているのですが、次年度以降の考え方ちょっとお聞かせください。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　確かにそういった移住を体験する場所があるというのは、一つの強みなのかなと思っております。今ご紹介ありました下郷町で、隣の会津坂下町にも同様の施設があります。そういった施設の状況をちょっと調査させていただきました。どのくらい入っているのか、それがどのくらい移住につながっているのかというお話を一番近い隣町で聞いたのですけれども、確かに利用はそれなりにあるという回答でございました。それが移住につながっているかどうかということについては、ちょっと疑問が残るというようなことでございました。ただ、議員おっしゃるように、今美里町におきましては宿泊施設等も若干少ないような状況でございますので、そういった町が移住

に関する施設を造るのか、管理するのかというのは、今後ちょっと調査、検討させていただきたいと思います。

○議長（横山知世志君）　星議員。

○10番（星　　次君）　それがつながるかどうかという、そういうふうなのでなくて、やはりその熱意なのですよ、移住者は。ああ、美里町はこういうことで大歓迎しているのだという、そういうような情報発信していくのも大事だと思うので、それを研修というか、体験できるのがあればいいというふうなことも視野に入れながらやっぱり移住、定住を進めていってほしいなというふうに思っております。

以上で質問を終わります。

○議長（横山知世志君）　星議員、ちょっと待って。産業振興課長からちょっと答弁訂正したいということです。

○産業振興課長（小林隆浩君）　申し訳ありません。答弁の修正をさせていただきたいと思います。

先ほどの答弁で、未開通区間について作業道として整備を行うというふうに申し上げましたが、７メーターの道路、この場合、保安林の解除が必要であるのですが、解除の許可が困難だということで、５メーターの林道であれば保安林内の作業許可で開設ができるということで、あくまで保安林内の作業許可で林道として整備を行うというふうに答弁の訂正をお願いいたします。

○議長（横山知世志君）　よろしいですか。

○10番（星　　次君）　はい、議長、分かりました。

○議長（横山知世志君）　これで、星次君の質問は終わりました。

これにて一般質問は終了いたしました。

○散会の宣告

○議長（横山知世志君）　以上で本日の議事日程は全部終了いたしました。

本日はこれで散会いたします。

散　会　　（午後　３時３４分）

定 例 会 ９ 月 会 議

(第 ４ 号)

令和５年会津美里町議会定例会９月会議

議事日程　第４号

令和５年９月８日（金）午前１０時００分開議

第　１　報告第１２号　専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）
第　２　報告第１３号　専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）
第　３　報告第１４号　株式会社会津美里振興公社経営状況報告について
第　４　報告第１５号　会津美里町一般会計継続費の精算報告について
第　５　報告第１６号　地方公共団体の財政の健全性に関する比率の報告について
第　６　報告第１７号　会津美里町教育委員会事務管理及び執行状況の点検及び評価報告について
第　７　議案第４５号　令和５年度会津美里町一般会計補正予算（第４号）
第　８　議案第５３号　財産の処分について
第　９　議案第５４号　訴訟の提起について
第１０　同意第　１号　会津美里町教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて
第１１　同意第　２号　会津美里町農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて
第１２　同意第　３号　会津美里町農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて
第１３　同意第　４号　会津美里町農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて
第１４　同意第　５号　会津美里町農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて
第１５　同意第　６号　会津美里町農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて
第１６　同意第　７号　会津美里町農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて
第１７　同意第　８号　会津美里町農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて
第１８　同意第　９号　会津美里町農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて
第１９　同意第１０号　会津美里町農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて
第２０　同意第１１号　会津美里町農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて
第２１　同意第１２号　会津美里町農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて
第２２　同意第１３号　会津美里町農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて
第２３　諮問第　１号　人権擁護委員候補者の推薦について
第２４　諮問第　２号　人権擁護委員候補者の推薦について
第２５　総括質疑
第２６　議案の常任委員会付託について

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

○出席議員（１６名）

１番	櫻井幹夫君	９番	渋井清隆君
２番	大竹惣君	１０番	星次君
３番	小柴葉月君	１１番	堤信也君
４番	荒川佳一君	１２番	鈴木繁明君
５番	山内豪君	１３番	根本謙一君
６番	長嶺一也君	１４番	根本剛君
７番	村松尚君	１５番	横山義博君
８番	小島裕子君	１６番	横山知世志君

○欠席議員（なし）

○説明のため出席した者

町長	杉山純一	君
副町長	佐々木吉一	君
総務課長	金子吉弘	君
政策財政課長	國分利則	君
会計管理者	松本由佳里	君
町民税務課長	猪俣利幸	君
健康ふくし課長	平山正孝	君
産業振興課長	小林隆浩	君
建設水道課長	加藤定行	君
教育長	歌川哲由	君
こども教育課長	渡部雄二	君
生涯学習課長	福田富美代	君
代表監査委員	小島隆一	君

○事務局職員出席者

事務局長	児島隆昌	君
事務局次長 兼総務係長	歌川和仁	君

開　議　　（午前１０時００分）

○開議の宣告

○議長（横山知世志君）　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりであります。

○報告第１２号の議題、説明、質疑

○議長（横山知世志君）　日程第１、報告第12号　専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）を議題といたします。

ここで、当局より内容の説明を求めます。

建設水道課長、加藤定行君。

〔建設水道課長（加藤定行君）登壇〕

○建設水道課長（加藤定行君）　報告第12号　専決処分の報告についてでありますが、議案書１ページ、２ページです。提出案件資料１ページ上段も併せて御覧ください。提出案件資料にてご説明させていただきます。

損害賠償の額を定めることにつきましては、令和５年２月19日午後７時30分頃、町内字御蔵南地内の町道を自動車が走行中、舗装面の老朽化によるアスファルト破片が跳ね上がり、車両の一部を破損させる物損事故が発生いたしました。その後、令和５年５月30日、相手方Ｓ氏と物損事故に係る損害賠償金について、２万4,310円を支払うことで示談が成立しましたので、専決処分したことを報告するものであります。

以上、よろしくお願いいたします。

○議長（横山知世志君）　説明が終わりました。

質疑があればこれを許可いたします。質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

これをもって報告第12号を終了いたします。

○報告第１３号の議題、説明、質疑

○議長（横山知世志君）　日程第２、報告第13号　専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）を議題といたします。

ここで、当局より内容の説明を求めます。

生涯学習課長、福田富美代君。

〔生涯学習課長（福田富美代君）登壇〕

○生涯学習課長（福田富美代君）　報告第13号　専決処分の報告について（損害賠償の額を定めるこ

とについて）ご説明申し上げます。議案書３ページ、４ページ、併せまして提出案件資料１ページ中段を御覧ください。

本件は、令和５年５月13日正午頃、ふれあいの森公園において、相手方のお子さんがベンチで休憩し、立ち上がる際にベンチが倒れ、右足ふくらはぎが下敷きになり、負傷する身体事故が発生いたしました。その後、令和５年６月26日、相手方Ｎ氏と身体事故に係る損害賠償金について、町が6,749円を支払うことで示談が成立し、地方公務員法180条第１項の規定により専決処分をいたしましたので、同条第２項の規定により報告するものであります。なお……

〔「地方自治法」と言う人あり〕

○生涯学習課長（福田富美代君）　失礼いたしました。地方自治法180条第１項の規定により専決処分をいたしましたので、同条第２項の規定により報告するものであります。なお、本件事故を受けまして、転倒のおそれのあるベンチは撤去しましたことを併せてご報告申し上げます。

説明は以上です。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（横山知世志君）　説明が終わりました。

質疑があればこれを許可いたします。質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

これをもって報告第13号を終了いたします。

○報告第１４号の議題、説明、質疑

○議長（横山知世志君）　日程第３、報告第14号　株式会社会津美里振興公社経営状況報告についてを議題といたします。

ここで、当局より内容の説明を求めます。

政策財政課長、國分利則君。

〔政策財政課長（國分利則君）登壇〕

○政策財政課長（國分利則君）　それでは、報告第14号　株式会社会津美里振興公社経営状況についてご説明いたします。議案書５ページ、提出案件資料１ページ、別冊となりますが、報告第14号別冊、株式会社会津美里振興公社経営状況報告書を御覧いただきたいと存じます。

まず、議案書５ページでございますが、株式会社会津美里振興公社の経営状況につきまして、株式会社会津美里振興公社代表取締役、佐々木吉一から報告がありましたので、地方自治法第243条の３第２項の規定により報告をするものでございます。

別冊の報告書によりご説明申し上げます。まず、１ページでございますが、令和４年度事業報告でございます。令和４年度の概況でございますが、令和２年１月から続く新型コロナウイルス感染症は第６波、７波、８波と立て続けに発生し、経済活動に大きな影響を及ぼすものとなりました。そのよ

うな厳しい状況下において、せせらぎ公園のオートキャンプ場はキャンプブームの影響により業績を伸ばすことができ、また宿泊施設においても福島県民割などにより前年度より売上げを伸ばすことができました。しかしながら、世界情勢の変化により、原油価格の高騰や電気料等の値上げが影響し、営業利益に大きなマイナスとなりました。また、指定管理の温泉施設においては、施設売却や廃止に伴い、貯蔵品等の償却も行い、今期の経常利益は217万8,000円の黒字計上となったところです。

次に、１の従業員数でございますが、合計で117人でございます。前年度が113人でありましたので、４人の増加となっております。これは、令和４年度からデマンド交通事業を実施したことによるものでございます。

続きまして、２ページをお開き願います。令和４年度組織図でございます。前年度と同様に４課６係体制で実施いたしました。

次の３ページから９ページまでは、それぞれの部門ごとの状況について記載しております。主なもののみご説明申し上げます。３ページを御覧願います。温泉施設でございます。まず、１の営業日数でございますが、コロナ対策を行いながら営業を行い、令和４年度は臨時休館がなかったことにより、昨年度と比較いたしまして表のとおりそれぞれ施設において増加しております。

次に、２の入館者数でございます。全国的にコロナウイルス感染症による行動制限が緩和されたこと、また福島県民割の実施などによりまして、表の下から４段目の日帰り温泉全体で14万1,276人、前年度と比較しまして３万2,516人の増加。また、ほっとぴあ新鶴につきましては、5,344人で前年度より1,950人の増加となりました。

４ページをお開き願います。３の売上げでございます。まず、指定管理の受託料でございますが、３施設の合計で昨年度と同額の7,040万。

次に、表の下から４段目の施設・物販につきましては、３施設の合計で前年度より2,903万6,000円増額の１億1,516万3,000円となりました。

なお、６ページから９ページは、温泉以外の指定管理施設でございます。あやめ荘、保健センター、新鶴、せせらぎ公園、また受託事業等の自主事業の状況が記載されております。

続きまして、10ページをお開き願います。令和４年度第28期の決算報告書でございます。それでは、概要を説明させていただきます。

まず、11ページをお開き願います。貸借対照表、資産の部でございます。第28期の流動資産は8,159万4,565円で、前期より2,519万722円の減となりました。これは主に現金、預金の減や施設売却等に伴う商品や貯蔵品を償却したためでございます。

次に、固定資産は6,495万6,347円で、前期より９万3,418円の増となってございます。一番下の資産合計でございますが、１億4,655万912円となってございます。

12ページを御覧願います。貸借対照表の負債の部でございます。まず、流動負債につきましては4,398万3,718円で、前期より78万2,533円の減でございます。固定負債につきましては3,019万8,200円

で、前期より2,638万4,606円の減でございまして、長期借入金の返済により減少したもので、負債合計は7,418万1,918円でございます。

次に、純資産の部につきましては、利益剰余金が4,811万8,994円で、前期より206万9,835円の増、純資産合計は7,236万8,994円、負債及び純資産合計で表の一番下でございますが、１億4,655万912円でございます。

続きまして、13ページを御覧願います。損益計算書でございます。まず、表の上段、売上高は５億1,896万9,870円でございますが、15ページの部門別損益計算書をまず御覧願います。上段の収入の部でございますが、合計の列の売上高の内訳につきましては、まず指定管理委託料が１億215万3,000円、売上高が３億6,229万414円、補助金等が5,452万6,456円でございます。なお、前期から9,484万6,973円増加してございます。これはコロナウイルス感染症による行動制限が緩和されたことによりまして、温泉の利用客の増加及び令和４年度から自主事業でございますデマンド交通事業を新たに開始したことによるものでございます。

次に、13ページにお戻り願います。販売費及び一般管理費は４億8,514万296円で、詳細は先ほど御覧いただきました15ページの部門別損益計算書、支出の部、一般管理費に計上してございます。

次に、営業利益でございますが、売上総利益から販売費及び一般管理費を差し引いた84万9,192円の赤字となったところでございます。主な理由といたしましては、施設管理等における燃料費や電気料等の高騰によりまして、高田、新鶴温泉施設におきましてそれぞれ赤字となったことによるものでございます。

次に、経常利益でございますが、営業利益と営業外収益の合計から営業外費用を差し引いたもので、217万7,938円の黒字となったところでございます。

次に、第28期の当期純利益でございますが、経常利益に特別利益を加えまして、特別損失、法人税、住民税及び事業税を差し引き、206万9,835円の黒字となったところでございます。

次に、16、17ページは、株主資本等変動計算書でございます。

19ページにつきましては、監査の報告書でございます。

続きまして、20ページをお開き願います。これは、令和５年度事業計画でございます。新型コロナウイルスやウクライナ問題等により、経済環境が厳しいものが続くと懸念されます。そのような中で、指定管理者でありました温泉施設等がなくなり、大幅な売上げの減少が余儀なくされ、今期を公社の新たな年と位置づけ、地域にとって必要とされる公社として継続できるよう事業展開を推進することとしてございます。そのために、まず指定管理者制度に基づく公共施設の管理運営業務の受託、用務員、保育士等の業務受託、地域商社事業、町デマンド交通事業を主要な事業として実施するものとしております。

次に、20ページにつきましては、公共施設事業計画書でございます。指定管理制度に基づいて受託しております公共施設につきまして、サービスの向上……

〔「違うな。ページ違う」と言う人あり〕

○政策財政課長（國分利則君）　失礼いたしました。21ページを御覧ください。公共施設事業計画書でございます。指定管理制度に基づきまして受託しております公共施設につきまして、サービスの向上、経費削減、危機管理体制の確立、施設の利用促進のための基本姿勢等が各項目に記載されております。

続きまして、執行体制でございますが、執行体制につきましては、令和４年度につきましては４課６係の体制でございましたが、職員数117名で行っておりましたが、温泉施設等の指定管理業務がなくなったことによりまして組織を見直しまして、３課69人の職員体制で執行することとしたものでございます。

次に、令和５年度の事業別収支予算書でございます。これにつきましては、経営改善に努めまして、表の左の一番下の経常利益を御覧いただきたいと思います。合計で219万7,363円を見込んだところでございます。

株式会社会津美里振興公社経営状況の報告については以上でございます。よろしくお願いいたします。

○議長（横山知世志君）　説明が終わりました。

質疑があればこれを許可いたします。質疑はありませんか。

６番、長嶺議員。

○６番（長嶺一也君）　７ページのせせらぎ公園の利用状況について質問いたします。

せせらぎ公園にドッグランという施設があったかと思うのですが、それについて記載がないのですけれども、それについてお伺いいたします。

○議長（横山知世志君）　建設水道課長。

○建設水道課長（加藤定行君）　７ページの一番下段の３番、誘客の欄なのですけれども、10月９日、ドッグランオープンという記載がしてございます。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　６番、長嶺議員。

○６番（長嶺一也君）　そうではなくて、利用状況欄にドッグランの利用者数が記載されていない理由について聞いたのですが。誘客のところではないです。

○議長（横山知世志君）　建設水道課長。

○建設水道課長（加藤定行君）　ドッグランにつきましては、無料で開放している関係上、利用状況の人数等把握していないのが現状でございます。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　よろしいですか。

○６番（長嶺一也君）　分かりました。

○議長（横山知世志君）　13番、根本謙一君。
○13番（根本謙一君）　５年度の事業計画について伺いたいと思います。あわせて、事業別収支予算（抜粋）となっておりますけれども、その表のところで伺いたいと思います。

概して見ますと、いわゆる温泉施設が指定管理から抜けたことで少し身軽になられたのかなというふうに決算書あるいは５年度の予算の表からうかがい知れます。ただ、そういう中で、これ先ほど説明された経常利益、これは結局は営業外収益で何とか辛うじて持っているというところなのです。この事業計画の上段のところで、地域が潤う事業展開を推進してまいります、少しリセットしてしっかり取り組んでいきたいという意思は感じているのですけれども、大幅な売上げの減少が余儀なくされますと。これは間違いないことだと思います。

そういう中で、コロナ禍も落ち着いてきているというところで入り込み数も増えている、そういう状況がありますから、今後の推移をもう少し見なければならないと思いますけれども、本来の事業の在り方からすると、この収支予算の中身、これについてはバランス的にどのようなふうに町としては考えているのかなと。最終的に黒字になっているからいいでしょうという話では私はないと思っていまして、やはり自主事業の中でしっかり営業利益を出していくような形になっていってもらいたいなという基本的な考え方からお尋ねしたいと思います。
○議長（横山知世志君）　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　お答えします。

確かに温泉施設がなくなりましたので、金額的にはかなりの金額が減少しているという状況でございます。そもそも振興公社につきましてはまずこの温泉管理から始まったものと聞いてございますので、その本施設がなくなったことにより、こういったことが起こるということでございます。指定管理施設におきましては、新鶴、さらにはせせらぎ公園の管理で、自主事業でございますが、これにつきましては先ほども申し上げましたが、保育所なりの受託業務、さらには地域商社で、本年度からでございますが、デマンド……失礼しました。令和４年度からデマンド交通を実施してございますので、そういった事業が新たに加わったということでございます。

予算書の中で経常利益を219万7,000円ということで、確かに議員おっしゃるとおり、今まで赤字の要因でありました温泉施設がなくなったことにより、経営状況については身軽になったのかなと思ってございます。本来の公社の業務であります地域振興なりにつきましては、新たに町民の足となるデマンド交通等の受託といいますか、実施するようになりましたので、その辺で公社としての本来の姿が出てくるのかなと思っております。これからも新たないろいろな業務をやりながら、経常利益を生むようにやっていくものかなと思ってございます。

以上でございます。
○議長（横山知世志君）　根本議員。
○13番（根本謙一君）　課長の言われることは理解はできます。ただし、この地域商社事業、ここに

私はもっと力を入れてほしいなと常々思っております。ここがなかなか見えない。それから、ここで生み出した商品が多々あります。その売上げ状況を見ますと、それから販路先を見ますと、なかなか広がっていかない。そのところでもう少し傾注して力を入れる必要があるのではないかなというふうに思っていますので、町としての考え方、それを伺いたい。

もう一つは、このデマンド交通事業で補助金事業というふうに書いてありますけれども、その中で②の事業内容で、医療福祉や教育関連への利用展開の促進を図る、意欲的な項目だなというふうに思っているのですけれども、イメージ的にはちょっと分かりづらい。これを具体的に説明いただいて理解を深めたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　まず、１点目でございますが、地域商社でございますが、別冊資料の８ページをちょっと御覧いただきたいと思いますが、そこの中で令和４年度の地域商社事業の内訳、下のほうでございますが、あります。令和４年度につきましては1,172万2,000円ということで、令和２年度と比較いたしましても百数十万若干伸びたかなというようなところでございます。議員おただしのとおり、もう少しここに力を入れてやるべきだろうと、私も当然そう思っております。ただ、やはり見ていただくと、この主な得意先の中で和僑ホールディングスというようなことで、ここは会津のそばだったり、会津産のコシヒカリというようなことで、ここが一番の大口になってございます。さらには、道の駅のあいづ、さらには猪苗代ということで、やはりこの辺をもう少し充実して、地元の産品をもう少しＰＲして販売していただければなと私は思っております。それにつきましても、やはり温泉事業がなくなったことにより、公社も新たな年を迎えると、考えていくということになっておりますので、やはりこういった外販なり、地域商社事業も一つの大きな事業となっていくよう、町としても支援なり、一緒になって方向性を定めていきたいと考えてございます。

以上でございます。

〔何事か言う人あり〕

○政策財政課長（國分利則君）　続きまして、２点目のデマンド交通事業の②でございます。

医療福祉や教育関連への利用展開の促進を図るということでございます。これにつきましては、現在デマンド交通システムをもともとは商工会が実施していたところを今公社が実施しているというような状況でございます。教育関連への利用展開の促進を図るといいますのは、これはあくまでもまだ内部の検討段階ではございますが、そういった今はなかなか利用されていない高校生なり、そういった利用も少し図ってはどうかという考えでございます。医療福祉関係につきましてもその利用展開の促進を図るといいますのは、今現在少し病院への利用拡大と申しますか、それをちょっと検討しております。端的に申しますと、今まだ検討段階ではございますが、域外、いわゆる町外の運行というのも今検討をしているというような状況でございます。そういった状況をここに記載したという内容でございます。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○13番（根本謙一君）　今の説明何かちょっと分かりづらいなと思っています。医療福祉と教育関連、高校生にも利用してもらいたい。どういうふうな働きかけを想定しているのか、もう少し分かりやすくされたほうが、各議員の皆さんも理解が進むと思います。お願いしたいと思います。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　大変申し訳ございません。再度の質問でございますが、まず医療福祉と申しますのは、現在先ほど申しましたが、町外への運行ということで今検討してございます。それにつきましては、デマンド交通運行当初から要望がございました今会津坂下厚生病院のほうへのデマンド交通を運行するというようなこと今検討をしているというような状況でございます。そこがまず１点でございます。

もう一つ、教育関連のというようなことでございますが、これ先ほど私高校生等というようなことでございます。当然高校生にも足となっていただけるように、これについても町外への運行をちょっと検討していると、そういう内容でございます。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　ほかにありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

これをもって報告第14号を終了いたします。

○報告第１５号の議題、説明、質疑

○議長（横山知世志君）　日程第４、報告第15号　会津美里町一般会計継続費の精算報告についてを議題といたします。

ここで、当局より内容の説明を求めます。

政策財政課長、國分利則君。

〔政策財政課長（國分利則君）登壇〕

○政策財政課長（國分利則君）　それでは、報告第15号　会津美里町一般会計継続費の精算報告についてご説明いたします。議案書６ページ、７ページ、併せまして提出案件資料１ページを御覧いただきたいと存じます。

本件は、令和３年度、４年度の２か年で継続費を設定いたしました郷土資料館整備事業が終了したことから、地方自治法施行令第145条第２項の規定に基づきまして報告するものでございます。

議案書７ページを御覧いただきたいと存じます。令和４年度会津美里町一般会計継続費精算報告書でございます。まず、列でございますが、左から款、項、事業名、全体計画では年度、年割額、財源

内訳、実績では支出済額と財源内訳、比較として年割額と支出済額の差、その財源内訳を記載しております。

９款教育費、４項社会教育費、事業名、郷土資料館整備事業でございます。工事監理委託料、施設改修工事及び施設備品について、継続費として設定をいたしました。全体計画の年割額の計でございますが、３億3,213万4,000円に対しまして、実績の支出済額の計が３億300万3,800円でございまして、比較の年割額と支出済額の差の計が2,913万200円となったところでございます。年度別の支出済額、財源内訳などにつきましては、記載のとおりでございます。

説明は以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（横山知世志君）　説明が終わりました。

質疑があればこれを許可いたします。質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

これをもって報告第15号を終了いたします。

○報告第１６号の議題、説明、質疑

○議長（横山知世志君）　日程第５、報告第16号　地方公共団体の財政の健全性に関する比率の報告についてを議題といたします。

ここで、当局より内容の説明を求めます。

政策財政課長、國分利則君。

〔政策財政課長（國分利則君）登壇〕

○政策財政課長（國分利則君）　それでは、報告第16号　地方公共団体の財政の健全性に関する比率の報告についてご説明いたします。議案書８ページをお開きください。あわせまして、提出案件資料１ページ、別冊の報告第16号資料を御覧いただきたいと存じます。

まず、議案書８ページでございます。本件は、令和４年度決算に伴いまして、地方公共団体の財政の健全化に関する法律第３条第１項及び第22条第１項の規定により、健全化判断比率としまして、実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率及び資金不足比率を報告するものでございます。

まず、１の健全化判断比率につきましては、別冊の報告第16号資料によりご説明いたします。なお、この資料でございますが、福島県に回答しております地方公共団体の財政の健全化に関する法律における健全化判断比率及び資金不足比率の算定様式を使用してございます。

まず、１ページは、健全化判断比率及び資金不足比率でございます。それぞれの比率につきましては、表の上段が令和４年度、その下が令和３年度、さらにその下の段が比率の増減となっております。まず、実質赤字比率でございますが、一般会計における赤字の大きさを標準財政規模に対する割合で

表したものでございます。一般会計に赤字が生じてございませんので、バー表示となっております。

次に、連結実質赤字比率につきましては、公営企業を含む全ての会計の赤字の大きさを標準財政規模に対する割合で表したものでございまして、連結実質赤字が生じてございませんので、バー表示となってございます。

次に、実質公債費比率でございますが、一般会計が負担する借入金の返済額の大きさを標準財政規模に対する割合で表したものでございます。３か年平均では4.9％であり、令和３年度より0.3ポイント減少、単年度の比較では約0.66ポイント減少しております。

この実質公債費比率の分析でございますが、資料の２ページをお開き願います。太線で囲んでおります表の上段が分子、下段が分母でございます。表の２列目が令和４年度、３列目が令和３年度、右端が令和４年度から令和３年度を差し引いた増減額及び増減率となっております。令和４年度の一番下を御覧願います。単年度の実質公債費比率が4.6％でありまして、前年度と比較いたしまして約0.7ポイント減少しております。この減少の要因でございますが、右側の増減の列を御覧願います。まず、分母におきましては、⑬、普通交付税が標準財政需要額の算定に係る人口の減少及び補正係数等の変更によりまして１億2,454万円の減。また、⑭、臨時財政対策債発行可能額が地方交付税の法定率分の財源に不足が生じなかったため、１億9,340万円減少したことが要因となり、対前年比で３億1,288万7,000円が減少いたしました。しかし、分母におきまして、①の元利償還額の額が国営会津宮川土地改良事業の繰上償還を行ったことで2,948万8,000円と大きく減少したことから、対前年比で5,706万1,000円減少したことが主な要因でございます。

次に、資料１ページにお戻りいただきまして、今ほどご説明いたしました実質公債費比率の右側、将来負担比率でございます。将来負担比率につきましては、町の借入金など現在抱えております負債の大きさを標準財政規模に対する割合で表したものでございます。将来の負担額に対し充当可能な特定財源が上回っているため、令和４年度におきましてもバー表示となっております。

この将来負担比率の分析でございますが、資料の３ページをお開き願います。上から２段目の将来負担額でございます。148億7,571万円に対しまして、表の中ほどから少し下でございますが、充当可能財源等が204億3,645万1,000円でございまして、将来負担額を55億6,074万1,000円上回っているため、バー表示となったものでございます。

議案書８ページのほうにお戻りいただきたいと存じます。次に、その下の２の資金不足比率についてでございますが、公営企業における資金の不足割合を示すものでございますが、資金不足が生じておりませんので、バー表示となったところでございます。

なお、町監査委員によります健全化審査意見書におきましては、健全化判断比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類は、いずれも適正と認める。実質赤字比率、連結実質赤字比率及び将来負担比率については、算定されなかった。実質公債費比率については、昨年度より減少しており、早期健全化基準を大きく下回っていることから、健全であると判断する。将来負担比率については、将

来負担額が充当可能額を下回ったため、算定されなかった。

また、公営企業経営健全化審査意見書におきましても、資金不足比率、その算定の基礎となる事項を記載した書類は、いずれも適正と認める。各公営企業会計における資金不足は生じていないとの意見をいただいているところでございます。

説明につきましては以上でございます。よろしくお願いいたします。

○議長（横山知世志君）　説明が終わりました。

質疑があればこれを許可いたします。質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

これをもって報告第16号を終了いたします。

○報告第１７号の議題、説明、質疑

○議長（横山知世志君）　日程第６、報告第17号　会津美里町教育委員会事務管理及び執行状況の点検及び評価報告についてを議題といたします。

ここで、当局より内容の説明を求めます。

こども教育課長、渡部雄二君。

〔こども教育課長（渡部雄二君）登壇〕

○こども教育課長（渡部雄二君）　報告第17号　会津美里町教育委員会事務管理及び執行状況の点検及び評価報告についてご説明いたします。議案書９ページ、提出案件資料２ページ上段、別冊、令和４年度会津美里町教育委員会事務管理及び執行状況の点検及び評価報告書を御覧ください。

本案は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第１項の規定により、令和４年度の会津美里町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について行った点検及び評価の結果について報告するものであります。

別冊の点検、評価報告書を御覧ください。本報告書につきましては、会津美里町の教育行政の充実を図るとともに、町民の皆様へ理解していただくことを目的に、令和４年度の教育委員会の活動と第３期会津美里町教育振興基本計画の進捗状況について点検、評価を行い、有識者会議の意見を付して教育委員会として報告書にまとめたものであります。

構成につきましては、次のページの目次を御覧ください。目次のⅠ、教育委員会点検及び評価の概要から、Ⅴ、会津美里町教育振興基本計画の指標まで、大きく５項目に区分しております。

まず、１ページから４ページまでにつきましては、Ⅰ番、教育委員会点検及び評価の概要として、点検及び評価の趣旨、教育委員の構成、教育委員会の組織、点検及び評価の仕組み、項目、スケジュール、有識者会議の委員の構成について記載をしております。

次に、５ページから13ページまでは、Ⅱ番、教育委員会活動の点検及び評価として、教育委員会活

動の点検及び評価の観点、教育委員会の活動状況について記載をしております。

14ページから15ページにその活動に対する自己評価を、16ページから17ページには有識者会議の意見を付しております。

次に、Ⅲ番、第３期会津美里町教育振興基本計画の進捗状況についてとしまして、18ページから24ページに子ども教育の充実について、25ページから27ページに生涯学習の充実について、28ページから29ページに生涯スポーツの充実について、30ページから32ページに地域文化の振興について記載をしており、それぞれの基本施策について主な成果と課題並びに有識者会議の意見を付しております。

次に、33ページから36ページに、Ⅳ番、会津美里町第３次総合計画の指標並びにⅤ番、第３期会津美里町教育振興基本計画の指標についての令和４年度の実績値を記載しております。

33ページ上段の子ども教育の充実では、標準学力検査（ＮＲＴ）の偏差値において、小学校６年生は現状値を下回りましたが、中学校３年生は現状値、目標値とも上回りました。肥満傾向の割合は、小学校６年生は現状値、目標値とも下回りましたが、中学校３年生は現状値を上回りました。将来人の役に立つ人間になりたいと思う生徒の割合は、現状値、目標値とも下回っております。

35ページの教育振興基本計画の指標については、小学校６年生の平日の家庭学習時間と自己肯定感、中学校３年生学級満足度において現状値を上回っておりますが、中学校３年生の平日の家庭学習時間と自己肯定感、小学校６年生の学級満足度、小学校と中学校の不登校出現率ともに現状値を下回っております。標準学力検査（ＮＲＴ）の偏差値につきましては、小学校６年生は英語の偏差値が低かったことが現状値を下回る要因となっており、中学校３年生は５教科全てで50を超えております。肥満傾向の割合については、令和４年度の小学校６年生では、スクールバスを利用する児童のほうが少し肥満傾向にあるという結果が出ておりますが、因果関係を明らかにするのは容易ではなく、関連を含めまして分析し、改善を目指して調査をしてまいりたいと思います。将来人の役に立つ人間になりたいと思う生徒の割合が現状値を下回った理由としては、自分にはよいところがあると思う割合が低かったことなどから、自己肯定感が少し低いことが影響したと考えております。

33ページ中段の生涯学習の充実では、コロナ禍においても感染対策を踏まえ、事業を実施してまいりましたが、生涯学習講座に参加している人の割合は前年度より増加したものの、目標を持って学習を行っている町民の割合は横ばい状態となっており、どちらも現状値を下回りました。36ページ上段の教育振興基本計画での、生涯学習の充実の指標については、対象別各種講座において地域を越えて合同事業を実施した結果、前年度より増加したものの、現状値より下回っており、図書等の貸出冊数は開館初年度の現状値や感染症対策により、貸出冊数を増やした例は３年度より下回っております。

33ページ下段の生涯スポーツの充実及び36ページ中段の教育振興基本計画の生涯スポーツの充実の指標については、施設利用団体の活動が活発となり、スポーツ施設や学校体育施設の利用は前年度より増加しておりますが、スポーツ団体への加入が減少しており、またコロナ禍により、一部の地域を除いてはスポーツ関連の事業がほとんどできなかったことにより、実際にスポーツを行っている人の

割合は前年度より下回り、また全ての指標において現状値を下回りました。

34ページの地域文化の振興では、向羽黒山城跡整備資料室の開館や天海大僧正を知ろう授業など計画どおりに実施できたこともあり、全ての項目において前年度より上回る結果となりました。町内文化財の保存、活用事業の件数や地域の歴史や文化財に親しむ機会を持った方の人数については現状値を上回ることができましたが、町の歴史、文化に興味、関心のある町民の割合は現状値を下回る結果となりました。

さらに、36ページ下段の教育振興基本計画の地域文化の振興については２つの指標は現状値と同じですが、文化団体協議会加盟団体数は高齢化による団体の構成員減少等による解散が多く見られ、現状値を下回りました。

令和４年度の点検、評価の結果、コロナ禍でできなかった事業もありましたが、教育委員会としましては第３期会津美里町教育振興基本計画に沿い、おおむね事業を行うことができました。また、有識者会議委員からは課題に対する提言もありましたが、多くの肯定的な意見を得られました。今後も第３期教育振興基本計画に基づき、課題解決に取り組みながら各種事業を推進してまいりたいと考えております。

説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○議長（横山知世志君）　説明が終わりました。

質疑があればこれを許可いたします。質疑はありませんか。

13番、根本謙一君。

○13番（根本謙一君）　まず、よく整理されているなということで、まずは評価を申し上げたいと思います。昨年もそうでしたけれども、７点についてちょっとお尋ねしたいと思います。内容理解を深めていきたいと思っております。

まず、１点目は、14ページの総合教育会議について。議長、これ７点まず項目先申し上げます。

○議長（横山知世志君）　はい。

○13番（根本謙一君）　次、18ページの子ども教育の充実、19ページの「確かな学力」の育成、それから同じく19ページの「心豊かなこども」の育成、20ページのどの子も学べる環境づくり、25ページの生涯学習の充実、31ページの芸術・文化活動の推進と７点、項目多いですけれども、ひとつよろしくお願いいたします。

まず、１点目の総合教育会議のところです。自己評価されております。この有識者会議のご意見の中にもあります意欲的な姿勢がうかがえるということで、協議時間のさらなる確保が必要だという自己評価の中で、それを受けて意欲的だというふうに評価されているようですけれども、私も会議録はちょこちょこ見させていただいております。内容的なところともかく、語弊があるかもしれませんけれども、もっともっと内容的にいろんな委員の方が、かんかんがくがくといいますか、ご意見を交わし合っているのかなというふうに思ったのですけれども、ああいう要約の仕方のせいか分かりません

けれども、あまり活発な議論されているというふうにはうかがえていないのです。そこで、この評価の中で、町政全般における教育行政に対する十分な理解と積極的な配慮を求めるべく、協議時間のさらなる確保が必要と考えるというふうに評価されましたので、これはどういうことを意図しているのかな、指しているのかなというところで教えていただきたい。

〔「議長、議事進行」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　どういうあれですか。

○６番（長嶺一也君）　８月28日開催全員協議会の中で、総括質疑に関しましては所属常任委員会所管の案件に対しての質疑はしないということを我々議員全員意思統一だったのですが、今の質問事項につきましては、産業教育常任委員会の委員長の発言と質疑につきましては、産業教育常任委員会所属ですので、質疑はしないというルールに従って議事を進めていただきたいと思います。

○議長（横山知世志君）　これは総括でありませんので。議案審議ですので。

○６番（長嶺一也君）　分かりました。

○議長（横山知世志君）　答弁は、こども教育課長。

○こども教育課長（渡部雄二君）　それでは、ただいまのご質問にお答えいたします。

協議時間が不足しているのではないかというような審議事項でございました。昨年度１回総合教育会議を実施しておりますが、議員ご存じのとおり、開催時間が11時からということで１時間程度の内容でございました。議題につきましても、部活動の地域移行と各施設の申請方法の統一及びシステム導入についてという２つのテーマでございまして、特に部活動の地域移行をメインに協議をしたところでございますが、本町の部活動の地域移行についてもまだあらあら進んでいない状況ということもございまして、なかなかテーマ的に委員の皆様から活発な意見をいただくまでの熟度といいますか、そういったところが進んでいなかったものが主な要因かなというふうに思っております。今後につきましては、できるだけ皆様が活発に意見をできるようなテーマを考えながら、さらに時間もゆとりを持って設定したいというふうに考えております。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○13番（根本謙一君）　一定程度の説明で、もちろんテーマを設けて、それで意見交換するわけですので、それは理解できます。ただ、今この先、いわゆる小中一貫教育、義務教育学校、大きなテーマがあるにもかかわらず、それがこの総合教育会議の中であまり議論されていない。あるいは、理解を深めるような意見の交換が私見えていないなというふうに思っているのですけれども、その点はしっかりやられたのでしょうか。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

ご存じのとおり、総合教育会議は町部局と教育的課題等について調整を図るというのが大きな役目であります。もちろんプロジェクトについても十分ご説明をさせていただいて、十分ご理解いただい

ているというふうに認識しております。常日頃から様々な部分で報告等もしておりますので、改めて総合教育会議の中で議題として取り上げる必要のない部分も多いかなというふうに考えております。町部局との調整必要なところに限ってテーマを設けて議論をさせていただくと、調整をさせていただくということで昨年度進めております。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○13番（根本謙一君）　分かりました。そのまま受け止めておきたいと思います。

　では、次に参ります。18ページです。子ども教育の充実のところで、幼児教育の充実……子ども教育の充実は大きなくくりですよね。その中の基本施策１、幼児教育の充実のところで、成果と課題でまた相反するような評価と課題が載っております。２つ目の白丸と黒丸２つあるうちの下の部分、ここは評価されている部分と、下では課題として挙げている部分がございます。これは、どういうふうに理解すればいいのかなと。もう少し分かりやすく教えていただけたらありがたい。

○議長（横山知世志君）　こども教育課長。

○こども教育課長（渡部雄二君）　それでは、質問にお答えしたいと思います。

　まず、２つ目の白丸につきましては、今まであまり取り組んでいなかった教育委員会主催のフリー保育参観なんかを積極的に立ち上げたといいますか、実行をしまして、新たな施策といいますか、対応として広がってきたのかなということで、白丸での記載をしたところでございます。ただ、そういったいろんな取組を増やしたところではあるのですが、やはりコロナ禍によって若干参加率であったりとか、そういったところでのコミュニケーションがあまり密にできなかったというところで表現的には相反するような表現になってしまってはいるのですけれども、確かに両面あるということでご理解をいただきたいと思います。

　以上でございます。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○13番（根本謙一君）　分かりました。

　次に参ります。次に、基本施策３の「確かな学力」の育成でございます。この成果と課題の中で、先ほどもいろいろ学力検査の偏差値の結果が出ておりました。確かに小学生、６年生は少し落ちていまして、中学生は上がっているというふうになっている。これの評価についてはどういう捉え方しているのか、この中に何の表現も表示もされていませんので、確かな学力の育成と言っているわけですので、ここでこの検査結果をどう見ているのか、評価しているのか、課題はそこで何を見ているのかという表示がここの中に私はあってしかるべきではないかなというふうに考えることですので、お伺いしたいと思います。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答え申し上げます。

　確かに指標には標準学力テストの結果、偏差値について掲げております。このことについて、基本

施策３の成果と課題の中で触れていないというご指摘でございますので、そのとおりであるというふうに思っております。指標に掲げております偏差値につきましては、いわゆる町内の学年全体の子供の平均値でございますので、これについては指標として掲げておりますが、それに至るまでの各学校、学級での取組がベースにあるということは、当然ご理解いただけるものと思います。ですから、上げるためにその各学校、学級でどんな取組をしたかということについての成果と課題をここに掲げさせていただいているということでございます。確かに全体的に学力が指標値に達しなかったためにこのようなことを取り組んできたということで成果と課題ここに書くことは可能かと思うのですが、その数字に表れる数の、日常の教育活動の取組についての成果と課題がここに掲げさせていただいているということでご理解いただければというふうに思います。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○13番（根本謙一君）　いや、教育長の言わんとするところは分からなくはないのですけれども、いわゆる全体を包含しているような表現の仕方難しい部分があるかもしれませんけれども、こういうところに力を入れる必要がある。学校によってはこの部分研究したいとか、この点がなかなか課題として見ているとか、そのぐらいの表現は私あってもいいのではないかなと思います。そこはいかがでしょうか。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　ご指摘いただいたことを理解申し上げますが、ただこの点検、評価に書き込む部分、ここだけ膨大に細かく書くわけにもなかなかいかないところがありますので、各学校の取組をいろいろ取り寄せて、こんな成果があった、あるいは各学校の取組はこんなふうなところが課題だったというのを集約して書かせていただいておりますので、このような表現にとどめているということでご理解いただければというふうに思います。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○13番（根本謙一君）　これ以上は言いませんけれども、そこはご検討いただきたいなというふうに改めて申し上げて終わります。

次に、基本政策４です。「心豊かなこども」の育成のところで、成果と課題の２つ目の丸ポツ、Ｗｅｂ　Ｑ―Ｕを活用し、特別支援教育専門指導員を交えた校内研修を行いということで、一応の成果としてこの取組を挙げております。このＷｅｂ　Ｑ―Ｕの活用という部分も含めて、もうちょっと分かりやすくご説明いただきたいと思います。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答え申し上げます。

そもそもこのＱ―Ｕテストというのは、学級満足度調査と言い換えてもいいような中身でありまして、子供たちが自分の所属する学級の中でどのくらい満足度を持っているかというふうな尺度で子供たちの状態を調査するものでございます。本町では、オンライン形式でコンピューター上で答える形

のＷｅｂ　Ｑ―Ｕを採用しておりまして、１学期末と２学期末の年２回実施しまして、その変異を見ております。特に分析の中では学級に不安を持っている子供たちが明らかになりますので、その子供たちに対してその不満の原因を聞き取ったり、そして課題を解決してあげたりして満足度を上げ、学級集団を高めていくというふうな取組に非常に有効なものというふうに考えているところでございます。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○13番（根本謙一君）　分かりました。これ年２回実施で、変異を見ている、ああ、なるほどというふうに分かりました。では、これはこれで終わりたいと思います。

次に、20ページの政策６です。どの子も学べる環境づくりというところで、手前みそですけれども、特別支援教育の充実のところで私が一般質問で一部取り上げさせていただきましたけれども、ここで言うといろんな取組がされているということが改めて確認できまして、本当にご苦労さまですと言いたいと思います。ここで、本町のいわゆる特別支援学級に入られている子供さんが56名全体でいるというふうに数を計算してみました。随分多くの子供さんがおられるのだなということで、町の支援教育しっかり取り組まれているということもうかがい知りました。

そういう中で、このスペシャルサポートルーム、ＳＳＲ、これもちゃんとつくられているということですので、全体的にこのＳＳＲというのが使われているのか、ある特定の学校に置かれていることで必要性があって使われているのか、その辺のところを教えていただきたいと思います。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

スペシャルサポートルームの制度につきましては、当初は県教委が特定の不登校の多い学校に対してスペシャルサポートルームの加配教員を１人配置しまして、その教員が対象となるのは、何とか学校には来れるけれども、教室には入れないというような子供を対象にして、子供たちの相談や学びのアシスタントをするというような形で始まったものでございます。令和元年、２年頃、高田中学校は非常に不登校多い時期でございまして、そのために県教委からＳＳＲの指定を受けまして、１つ部屋を確保してそこに専任の教員を入れて不登校生徒の対応をしてきたところでございます。現在、県教としてもどんどん拡充の方向ではいっておりますけれども、まだまだ数は少のうございます。そういうＳＳＲの知見を活用しながら、例えば本町であれば次に中学校で不登校の多い本郷中学校は県教委からの指定とか加配はございませんけれども、独自に空き教室を利用して、空いている先生方が不登校の生徒に対応をするというようなことをやっております。ほかの小中学校でも、当然ながら不登校の子が登校したときには誰か空いている先生が行って対応するなんてことは日常的にやっておりますので、制度があって利用しているか、学校独自にやっているかの別はありますけれども、ほとんどの学校で対応しているものというふうに理解をしています。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○13番（根本謙一君）　分かりました。大変すばらしい取組なのだなということが分かりました。

実は信濃町の小中学校の支援教育の仕組みも見てきましたけれども、あそこはまたすごいのですよね、取組が。もう行き届いているといいますか、アシストルームとかいろんな部屋を取りそろえて、独自に町で先生を、特別支援員を６人採用して取り組んでおりました。そういうのを見てきたので、ではこの町は、本町はどうなっているのかというところで少し分けてご説明をいただきました。今後ともしっかり取り組んでいただきたいなというふうに思います。

次に参ります。25ページです。生涯学習の充実、基本施策１で、家庭教育の推進のところで、地域学校協働本部についてでございます。課題として挙げております。ここで内容を見ますと、いわゆる地域の人に学校の応援をしてもらいたい、そのためにはこういうのがある、ああいうのがあるということで何か５つに分けてありますね、本町は。５つに分けてあるのですけれども、よその事例見ますと、具体的に言いますと西会津町の教育委員会はやはり５つの部会を持っているのです。その中で、西会津町にあってこの町にないのが家庭教育支援です。この部分が教育委員会のほうから頂いた資料を見ましてもどこにも出てきていない。この部分はどういうふうに考えておられるのかなというところで教えていただければありがたい。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

地域学校協働活動の中には、本部としてやるべき、やったほうがいいという事例が全国的にいっぱい、たくさんございます。ただ、その市町村で可能な部分、あるいは学校の地域で可能な部分とそうでない部分ございますので、よその好事例を参考にどんどん間口を広げていくというやっぱりやり方なのかなというふうに思っております。議員今ご指摘になられました家庭教育支援、例えば空き教室を利用して地域学校協働本部の脇にママカフェを造ったりとか、子育て中のお母さんがちょっと寄って、そこに相談以外で家庭教育についての悩みを聞いてあげるとか、そんな取組をしているところもございますけれども、やっぱり将来的にそういうものも本当に実現できたらいいなと私は個人的には思っておりますけれども、今後学校の空き教室なんかを活用してそこに地域学校協働活動の本部を入れると。地域の方が自由にそこに寄せ集まって子供たちの活動の支援をしてくださったり、情報交換をしてくださったり、その中に保護者の方が入ったり、あるいは保護者ではないけれども、まだ子育て赤ちゃんを育てているような若い例えば親さんが来ていろいろ相談したりとか、そんな環境ができていったらすばらしいなとは考えているところでございます。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○13番（根本謙一君）　いや、まさに教育長、そういうビジョンをお持ちならば実現してください。西会津町はこれ2017年です。もう先駆けのその先を行ってこういうこと取り組んでいるのです。こころのオアシスという別名をつけて、いつでも誰でもどうぞというところで相談受けているのです。まさに学校と地域の中間に立って、いろんな内容充実を図っているのです。これこそ私、地域を核にし

た学校づくりの核だと思うぐらいです。何も部活の先生に何とかお願いできるように登録者名簿を作るとか、そんな話で私はないと思っています。ぜひそういう方向で努力していただきたいなと、検討していただきたいなというふうに思いますけれども、再度のお考えを伺いたいと思います、恐縮ですが。

○議長（横山知世志君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　将来の話でございますので、簡単にとどめたいと思いますが、この実現に向けて構想はちょっと私も持ってはおりますけれども、今後条件の許す範囲で目指していきたいなとは考えております。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○13番（根本謙一君）　では、最後にします。

31ページです。31ページの施策３、芸術・文化活動の推進のところで、白丸の３つ目です。公共ホール音楽活性化事業ってあります。これも私はもう大変評価しております。ああいう本物を子供に見てもらえる、町民の皆さんに見てもらえる、これは大事なことだと思います。ただし、名前がこうだからこれでまたいってしまうというおそれもあることを考えて、ほかに選択肢は持てないのかというところでこの芸術、文化という大きな捉え方で、例えば大沼高校では演劇部がすばらしく成績を上げていますよね。ああいうのを見てもらう、そして町外から、あるいは県外から、日本のすばらしいところから演劇をお呼びして見てもらう。以前にわらび座、秋田の。わらび座が来て……

○議長（横山知世志君）　根本議員、ひとつ集中してお願いしたいと思います。

○13番（根本謙一君）　はい。選択肢広がるということは考えられませんか。

○議長（横山知世志君）　生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの根本議員のご質問にお答えします。

町のほうの独自のホール活用事業として、実は毎年予算を若干ではありますが、計上させていただいております。これまでちょっとコロナ禍で実現できておりませんが、今回今年も公共ホール音楽活性化事業を行いますが、そのほかに１つ実施したいと考えているものがありますので、そういったことでより多くの方に芸術、文化に触れる機会というところの提起を図ってまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○13番（根本謙一君）　確認ですけれども、音楽だけではないというふうに受け止めてよろしいですね。

〔「はい」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　ほかにございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

これをもって報告第17号を終了いたします。

ここで、11時30分まで休憩します。

休　憩　　（午前１１時１８分）

再　開　　（午前１１時３０分）

○議長（横山知世志君）　再開いたします。

○議案第４５号の議題、説明、質疑

○議長（横山知世志君）　日程第７、議案第45号　令和５年度会津美里町一般会計補正予算（第４号）を議題といたします。

ここで、当局より内容の説明を求めます。

歳入歳出について、政策財政課長に説明を求めます。

政策財政課長、國分利則君。

〔政策財政課長（國分利則君）登壇〕

○政策財政課長（國分利則君）　それでは、議案第45号　令和５年度会津美里町一般会計補正予算（第４号）につきましてご説明いたします。予算書と併せまして、提出案件資料６ページから28ページ、提出案件参考資料１ページを御覧いただきたいと存じます。

まず、今回の補正の概要でございますが、一般会計等の各会計の決算及び人事異動等に伴います人件費並びに決算剰余金を財源とした繰上償還に係る予算の補正を行うものでございます。また、新型コロナウイルス感染症対応事業といたしまして、エネルギー食料品価格等の物価高騰の影響を受ける生活者の支援を行うことから、事業概要を提出案件参考資料として添付させていただいたところでございます。

それでは、予算書表紙を御覧願います。第１条におきまして、歳入歳出予算の補正でございます。既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ５億2,332万7,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ123億1,609万5,000円とするものでございます。

第２条は債務負担行為につきまして追加の補正を、第３条は地方債につきまして変更及び廃止の補正をするものでございます。

２枚おめくりいただきまして、第２表、債務負担行為補正でございます。これは追加でございまして、除雪機械整備事業につきまして新規の除雪車購入に１年以上の納期が見込まれることから、期限が令和５年度から令和６年度まで限度額4,600万円の債務負担行為を設定するものでございます。

１枚おめくりいただきまして、第３表、地方債補正でございます。補正の理由でございますが、県より過疎対策事業債の起債協議可能額が示されたことから、起債限度額の変更及び緊急防災減災事業

債へ振替対応するものでございます。

次に、歳入歳出補正予算の内容につきまして、事項別明細書によりご説明申し上げます。なお、各課の補正内容につきましては、提出案件資料に記載させていただきましたので、主な内容のみご説明いたします。

１ページおめくりいただきまして、３ページ御覧願います。歳入でございます。９款地方特例交付金、１項地方特例交付金、１目地方特例交付金134万9,000円の減額につきましては、交付決定額によるものでございます。

次に、10款地方交付税、１項地方交付税、１目地方交付税１億140万9,000円の増額につきましては、普通交付税の交付決定によるものでございます。これによりまして普通交付税決定額が47億8,140万9,000円となりまして、令和４年度決算額と比較しまして決定額で5,466万3,000円、率にして約1.1％の減となったところでございます。

次に、14款国庫支出金、２項国庫補助金、１目総務費国庫補助金1,738万円の減額につきましてはデジタル基盤改革支援補助金でございまして、地方公共団体システム機構から補助金の交付となったことから、14款国庫支出金から20款諸収入へ組替えするため、皆減するものでございます。

続きまして、３目衛生費国庫補助金8,115万9,000円の減額につきましては、新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業補助金でございまして、秋に開始するワクチン接種につきまして集団接種会場を活用した体制から、個別医療機関を中心とする体制へ移行することから減額するものでございます。

４ページをお開き願います。15款県支出金、２項県補助金、２目民生費県補助金410万9,000円の増額につきましては、物価高騰対応生活困窮世帯緊急支援事業補助金でございまして、電力、ガス、食料品等の物価高騰に直面し、影響を特に受ける低所得者世帯に対して１世帯当たり6,000円を給付するため、新たに予算措置するものでございます。

次の４目農林水産業費県補助金646万円の増額につきましては、ふくしまならではの畑作物産地づくり推進事業補助金でございまして、畑作物の新たな産地形成と複合経営による農業経営の安定化を図るため、麦、大豆の収量、品質の向上に取り組む農業者に対して補助金を交付するため、399万円を新たに予算措置するものでございます。

次に、17款寄附金、１項寄附金につきましては、令和５年度７月31日まで寄せられた各寄附金でございまして、まず１目一般寄附金は５件で34万円、３目民生費寄附金２件で５万円、４目教育寄附金で６件で30万円、合わせて69万円をそれぞれ増額するものでございます。

５ページを御覧願います。18款の繰入金、１項特別会計繰入金2,214万5,000円の増額につきましては、各特別会計の決算確定によります精算のため、増額するものでございます。

次に、２項基金繰入金、４目公共施設等整備再生基金繰入金878万6,000円の増額につきましては、新鶴庁舎大会議室の空調設備改修及び本郷体育館の機械警備撤去、消防施設移転工事に充当するため、

増額するものでございます。

次に、19款繰越金、１項繰越金、１目繰越金４億5,344万6,000円の増額につきましては、前年度繰越金の確定によるものでございます。

次に、20款諸収入、４項雑入、３目雑入1,609万2,000円の増額につきましては、まずコミュニティ助成事業助成金でございまして、一般コミュニティ助成事業におきまして申請した３件のうち１件が採択とならなかったことから200万円を減額し、またデジタル基盤改革支援補助金につきまして、14款国庫支出金でもご説明申し上げましたが、地方公共団体システム機構からの補助金の交付となったことから組替えするため、新たに予算措置するものでございます。

６ページをお開きください。21款町債、１項町債につきましては、先ほど３表、地方債補正でご説明申し上げた内容でありまして、１目総務債から８目教育債までそれぞれ増額または減額するものでございます。

続きまして、歳出でございます。７ページを御覧願います。なお、各款項目にございます１節の報酬、２節の給料、３節の職員手当等及び４節の共済費の人件費につきましては、主に令和５年度当初の人事異動に係るもの及び会計年度任用職員の任用に係るもの並びに一部業務におきまして業務量の増加が見込まれることから、時間外手当につきまして補正するものでございます。なお、人件費の補正内容につきましては、提出案件資料及び給与費明細表を御覧いただきたいと存じます。

それでは、人件費以外の主な内容についてご説明申し上げます。８ページをお開き願います。２款総務費、１項総務管理費、２目自治振興費33万6,000円の減額につきましては、まず11節の広告料につきまして、地域おこし協力隊募集に係る広告の強化をするため64万円を増額し、また18節の地域おこし協力隊起業支援補助金につきましては活用者が増えることから100万円を増額、コミュニティ助成事業助成金につきましては歳入でもご説明しましたが、申請した３件のうち１件が不採択となったため、200万円を減額するものでございます。

次、６款財産管理費２億4,756万4,000円の増額につきましては、まず14節の維持改修工事につきまして、歳入でもご説明しましたが、新鶴庁舎の大会議室、空調設備を改修するため増額するものでございます。また、24節の積立金でございますが、財政調整基金積立金につきましては、普通交付税の算定における人口減少対策分を今後の重点事業に充当するため１億8,000万円を、ふるさと振興基金積立金につきましては一般寄附金及びふるさと納税寄附金合わせまして301万4,000円を、公共施設等整備再生基金積立金につきましては令和４年度基金繰入額確定による充当残額と長期財政計画に基づく積立てとして5,400万円を、過疎地域持続的発展基金積立金につきましては令和４年度基金繰入額確定による充当残額をそれぞれ積み立てるため増額するものでございます。

次に、７目企画費112万8,000円の増額につきましては、18節の磐越西線災害復旧市町村負担金でございまして、令和４年８月に発生いたしました豪雨災害により被害を受けた磐越西線復旧費用として40万1,000円を新たに予算措置するものでございます。また、24節の企業版ふるさと納税基金積立金

につきましては、令和５年７月31日まで寄せられました企業版ふるさと納税につきまして基金へ積み立てるため、新たに予算化するものでございます。

１枚おめくりいただきまして、10ページをお開き願います。３款民生費、１項社会福祉費、１目社会福祉総務費1,851万5,000円の増額につきましては、歳入でもご説明いたしましたが、10節の印刷製本費から18節の物価高騰対応生活困窮世帯緊急支援事業補助金までが新型コロナウイルス感染症対応事業の低所得世帯への支援事業でございます。

提出案件資料の18ページ、提出案件参考資料の１ページを御覧願います。説明は、参考資料にてご説明いたします。まず、事業名でございますが、総合福祉支援事業、物価高騰対応生活困窮世帯緊急支援事業でございます。

事業概要でございますが、原油価格や物価の高騰に伴い、生活困窮世帯への影響を緩和するため、電気やガスなどの光熱費等を支援することにより、生活の安定と福祉の向上を図るものでございます。

支援の対象といたしましては、令和５年４月１日現在、町内に住所を有し、世帯全員が令和５年度の町民税が非課税である世帯でございます。ただし、市町村民税均等割が課税されている者の扶養親族のみで構成されている世帯を除くものでございます。なお、世帯に未申告の者がいる場合につきましては、申告後に世帯全員が非課税であることを確認できれば申請により支給することとしております。また、世帯に令和５年１月２日以降の転入者で町が課税情報を持たない者がいる場合につきましては、前住居市町村が発行いたします令和５年度非課税証明書を添付し、申請することで支給いたします。なお、単身の場合は、前居住市町村で受給済みでないことを条件とするものでございます。

支援の内容でございますが、１世帯当たり6,000円を支給するものでございます。

期間は、令和５年10月１日から同年12月31日まで。

事業費といたしましては、物価高騰対応生活困窮世帯緊急支援事業補助金で1,900世帯分、そこに事務費を含めまして1,220万4,000円を見込むものでございます。

予算書11ページを御覧願います。27節の国民健康保険特別会計繰出金は、令和４年度国民健康保険特別会計の決算額確定及び人事異動に伴う人件費といたしまして802万8,000円を増額するものでございます。

次に、２目障がい福祉費1,212万8,000円の増額につきましては、令和４年度自立支援給付事業費等の確定に伴い、22節の国庫・県支出金返還金について増額するものでございます。

次の４目、高齢者福祉費36万3,000円の減額につきましては、４節のイベント謝礼から13節の諸車借上料まで、敬老会を中止し、代替事業を行うことから、それぞれ増額または減額するものでございます。また、27節の介護保険特別会計繰出金につきましては、令和４年度低所得者保険料軽減負担金及び人事異動に伴う人件費といたしまして502万2,000円を減額するものでございます。

１枚おめくりいただきまして、13ページを御覧願います。４款衛生費、１項保健衛生費、２目予防費5,802万8,000円の減額につきましては、歳入でもご説明いたしましたが、秋に開始いたしますワク

チン接種につきまして、集団接種会場を活用した体制から個別医療機関を中心とする体制へ移行することから、11節の通信運搬費から18節の新型コロナウイルス、ワクチン個別接種促進支援金までそれぞれ増額または減額するものでございます。また、22節の国庫・県支出金返還金については、令和４年度、新型コロナウイルスワクチン接種事業費等の確定に伴い、新たに予算措置するものでございます。

14ページをお開き願います。５款農林水産業費、１項農業費、３目農業振興費440万5,000円の増額につきましては、18節のふくしまならではの畑作物産地づくり推進事業補助金でございまして、歳入でもご説明いたしましたが、畑作物の新たな産地形成と複合経営による農業経営の安定化を図るため、麦、大豆の収量、品質の向上に取り組む農業者に対して補助金を交付するため、399万円を新たに予算措置するものでございます。

１枚おめくりいただきまして、17ページを御覧願います。７款土木費、３項河川費、２目河川整備費96万4,000円の増額につきましては、準用河川上平川における倒木の撤去、河床整正を行うため、修繕料について増額するものでございます。

次に、４項都市計画費、２目公園費228万3,000円の増額につきましては、あやめ苑公園管理におけるアヤメの株分け及び補植の追加作業が必要となったことから、公園管理委託料について増額するものでございます。

１枚おめくりいただきまして、18ページ御覧願います。８款消防費、１項消防費、２目消防施設435万2,000円の増額につきましては消火栓設置工事負担金でございまして、水道老朽管更新に伴います消火栓設置工事について、工事対象区域内の消火栓の増加等によりまして増額するものでございます。

１枚おめくりいただきまして20ページを御覧願います。９款教育費、５項社会教育費、６目文化財保護費67万4,000円の増額につきましては、郷土資料館の開館記念事業の実施や開館周知のため、７節の協力者謝礼から11節の広告料までそれぞれ増額するものでございます。

21ページを御覧願います。６項保健体育費、２目保健体育施設費251万円の増額につきましては、本郷生涯学習センター移転に伴いまして、本郷体育館単独での施設運営を行うため、12節の施設管理委託料を106万9,000円増額し、また歳入でもご説明いたしましたが、機械警備撤去及び消防施設移転に伴いまして、14節維持改修工事を104万5,000円増額するものでございます。

次に、11款公債費、１項公債費、１目元金３億3,826万円の増額及び２目利子452万8,000円の減額並びに22ページに参りまして、３目公債諸費16万5,000円の増額につきましては、令和４年度借入金の額の確定及び決算剰余金を財源といたしました繰上償還を行うため、それぞれ記載のとおり計上するものでございます。

次に、12款の諸支出金、１項公営企業費、１目公営企業会計出資金1,750万円の減額につきましては、下水道事業会計の期末現金預金見込み増によりまして下水道事業会計出資金を減額するものでございます。

また、２目公営企業会計補助金1,502万2,000円の減額につきましては、下水道事業会計の各処理施設における運転維持管理委託料の減少等により、下水道事業会計補助金を減額するものでございます。

歳入歳出の説明につきましては以上でございます。よろしくお願いいたします。

○議長（横山知世志君）　説明が終わりました。

これより質疑に入ります。歳入歳出を一括しての質疑はありませんか。

４番、荒川議員。

○４番（荒川佳一君）　それでは、２点ほど質問させていただきたいと思います。

まずは、歳出、18ページの８款消防費、１項消防費、２目消防施設費、18節負担金補助及び交付金の中です。あともう一点は、歳出の21ページ、９款教育費、６項保健体育費、２目保健体育施設費の12節の委託料、施設管理委託料について質問させていただきたいと思います。この２点です。

それでは、まず１点目なのですけれども、これは消火栓の工事ということで今説明を受けたのですけれども、実際これ箇所数が何か所なのかということと、あとは形状について一応質問します。形状というのは、地下式なのか、地上に出ているものなのかということで、その点お聞きしたいと思います。

○議長（横山知世志君）　総務課長。

○総務課長（金子吉弘君）　それでは、お答えいたします。

消火栓の設置工事に伴いますまず基数でございますが、当初は６基だったわけでございますが、今回水道管の更新箇所が増えたということで対象基数が１基増えまして、合計７基でございます。その内訳でございますが、地下式が２基でございます。地上式が５基というふうなことになります。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　荒川議員。

○４番（荒川佳一君）　それでは、これなのですが、消火栓工事をちょっとよく私も確認したいと思うのですけれども、負担金ということでしているのはこれ建設水道のほうの関係で負担金ということの名目で上げているのか、これ工事費にはできない理由は何か、その辺確認したいと思います。

○議長（横山知世志君）　総務課長。

○総務課長（金子吉弘君）　それでは、再度のおただしにお答えいたします。

この負担金工事とさせていただいている理由でございますが、まず水道管の老朽管の更新工事と同じ位置といいますか、エリアにございまして、これを一緒に実施することによって経費が軽減されるというふうなメリットがございます。当然消火栓も古いものになってきておりますので、一緒に実施をさせていただいて、経費をしっかりと軽減させていきたいというふうに考えて負担金工事というふうなことでお願いしているところでございます。

○議長（横山知世志君）　荒川議員。

○４番（荒川佳一君）　それですと、例えばそういう水道の関係がなくて、上物の消火栓であれば工

事費で対応するということでよろしいですね。

○議長（横山知世志君）　総務課長。

○総務課長（金子吉弘君）　お答えいたします。

当然そのようになろうかなというふうに思います。

○議長（横山知世志君）　荒川議員。

○４番（荒川佳一君）　それでは、２つ目に行きたいと思います。

この委託料ということで、先ほど説明もありましたけれども、本郷の体育館ということでその辺は分かりましたが、これの施設管理委託料ということで106万9,000円。これは、変更増ということなのですか。実際にこれ何に使われるのか、その辺詳細な説明をお願いしたいと思います。

○議長（横山知世志君）　お諮りいたします。

間もなく昼食の時間になるのですが、荒川議員の質問が終わるまで延刻したいと思います。よろしいですか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　では、生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの荒川議員のご質問にお答えいたします。

令和６年１月から、本郷生涯学習センターが本郷庁舎のほうに移転します。それによりまして、これまで本郷生涯学習センターと本郷体育館、一体的に管理というものをしてまいりました。夜間、休日等につきましても今現在シルバー人材センターのほうに委託しているところでありますが、今回職員が１月から本郷庁舎のほうに移転しますと、本郷体育館のほうの管理の部分というところが別枠で必要になったために、これに関しまして計上させていただいたところでございます。

以上です。

○議長（横山知世志君）　荒川議員。

○４番（荒川佳一君）　了解しました。

以上です。

○議長（横山知世志君）　では、ここで午後１時まで休憩とします。

休　憩　　（午前１１時５６分）

再　開　　（午後　１時００分）

○議長（横山知世志君）　再開いたします。

先ほどに引き続き、質疑を行います。質疑ございませんか。

13番、根本謙一議員。

○13番（根本謙一君）　３点お願いいたします。

まず、８ページ、総務費、自治振興費の中の地域おこし協力隊起業支援補助金について、２点目が

17ページ、土木費、公園費の公園管理委託料について、３点目が21ページ、教育費、保健体育施設費、施設管理委託料について、お聞かせいただきたいと思います。

まず、１点目です。案件資料を見ますと、２つの使い道が出ております。応募業種に特化した募集を行うと。これ具体的にどういう課題に取り組むということなのか伺いたいと思います。

２点目の起業支援補助金、活用者が増える見込みということですので、内容についてお願いしたいと思います。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　それでは、ただいまのおただしに対してお答えしたいと思います。

まず、１点目のこれは広告料のことでございますが、次年度新たに農業関係、さらにはこれまでも行っておりましたが、焼き物関係の協力隊を募集することとしております。それで、農業関係であれば特にその農業関係で特化した広告の会社がございまして、そちらが他町村の先進事例を聞いたところ非常に有効だということがございまして上げるようにしました。

もう一点、そういった工芸関係、焼き物関係の特化した広告の業者があったため、そういった農業、さらには伝統工芸、焼き物の特化した広告会社といいますか、そちらのほうにお願いするということで今回やったものでございます。

もう一つの起業補助金のことでございますが、内容につきましては協力隊がこの美里町に残ってそのまま生活していただくために起業補助金という制度がございます。卒隊した方が新たな事業を起こすときに様々なそういった、100万が上限でございますが、機器を買ったり、様々な活動をするための補助金ということで100万ということで、当初予定はしておりませんでしたが、活用したいという申出がございましたので、今回100万円の補正をお願いするものでございます。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○13番（根本謙一君）　いや、具体的な中身知りたいのです。まだ言える段階ではないということなのですか。こういう分野でこういう課題に取り組む協力隊を募集しますよという具体的内容を出すわけですよね、募集かけるのですから。ですよね。こちらから課題は出していくわけですよね。その課題は何ですかと、どういうことに取り組んでもらうことなのですかというふうに、農業にしろ、焼き物にしろ。焼き物だったら後継者育成だとか、それから、いや、販路開拓だとか、いろいろあるではないですか。それが全然見えていないのでお願いしたいなという。

２つ目の起業ですけれども、どういう起業をするのだということを言えないわけですか、現段階では。でも、目的はもうはっきり申請してあるわけですよね、100万使ってということですから。どうしてそれを初めから言っていただけないのかなというのはちょっと疑問です、両方そうですけれども。お願いします。

○議長（横山知世志君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　それでは、再度お答えしたいと思います。

まず、広告料に関しましては、農業及び焼き物関係については、まず焼き物関係については当然後継者といいますか、そのまま焼き物の事業を今後起こしたい方ということでございます。農業に関しましては当然農業の後継者ということで、新規就農に当たる方というミッションでございます。

補助金の内容でございますが、内容につきましてはこの地元に残って様々な事業をしたいということで、具体的な中身としましてはこの町の中でいろんな編集だったり、イベントなり、そういったものを携わっていきたいということで、それに関連する機器なりを補助対象としたいということで申出があったため、今回補正をお願いするものでございます。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○13番（根本謙一君）　何か奥歯に物が挟まったような言い方しているので、もうこれでやめます。

では、２点目に参ります。土木費で公園管理委託料、これ委託するわけで、場所は当然計画にのっとってということだと思うのですけれども、業者はどちらに委託なのでしょうか。

○議長（横山知世志君）　建設水道課長。

○建設水道課長（加藤定行君）　委託する業者につきましては、ＮＰＯ法人会津中高年雇用福祉事業団でございます。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○13番（根本謙一君）　分かりました。そうかなとは思いましたけれども、いわゆる若松の業者以前頼んでいますよね、前の計画の中では。でも、先達から伺うに限り、あまりよく分かってもらっていなかったなというようなことがありましたので、ちょっと心配になっていました。ＮＰＯさん、分かりました。しっかりご指導いただいて、きちっと進められるように願っております。場所は、全体をやるということですか。

○議長（横山知世志君）　建設水道課長。

○建設水道課長（加藤定行君）　場所につきましては、この間一般質問時に説明したと思うのですけれども、あやめ苑維持管理計画というものを策定をいたしました。策定した中では３区画に分割した上でローテーションで行いますよという説明したわけなのですけれども、その中で一部やっぱり今年がどうしても作が悪かったところ、そこに関して重点的に行う予定で今回の予算を要求するものでございます。

以上です。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○13番（根本謙一君）　加えて聞きます。これ補植ということ植え替えだけですか。土は替えないのですか。これが肝腎だと思いますし、そのときに対処、どういうものを使うかということもすごくこの後影響してきますし、それもしっかり分かった方がやらなければまた元のというふうになってしま

うので、そこはしっかりやっていただきたいなというふうに思いますけれども、再度お願いします。
○議長（横山知世志君）　建設水道課長。
○建設水道課長（加藤定行君）　今現在行ったところでは土壌改良等も、全部土のほうも入れ替えた上での作業を行っているところなのですけれども、その土壌改良につきましては委託業者、別の業者さんにお願いした上で入替え等を行っているところです。今回お願いするＮＰＯ法人の方には補植と、あとは株分け等のお願いをして、あとさらには除草等もお願いするようなことで補正予算をお願いしたものでございます。
　以上です。
○議長（横山知世志君）　根本議員。
○13番（根本謙一君）　見守っていきたいと思います。
　では、３点目に参ります。施設管理の委託料です。本郷体育館で、説明見ますと本郷体育館単独の施設運営を行うためというふうになっておりますけれども、単独で施設運営というのどういうことなのか理解できかねますので、先ほど同僚議員の説明に対する答弁でもちょっと聞こえないところもありましたし、ちょっと理解できないところなので、よろしくお願いします。
○議長（横山知世志君）　生涯学習課長。
○生涯学習課長（福田富美代君）　根本議員の質問にお答えします。
　先ほど答弁、ご質問にお答えした中身も、もう少し詳細というところでご説明したいと思います。今回当初予算においては、本郷生涯学習センターについては本郷生涯学習センターと隣の本郷体育館というところで、施設管理委託というところでシルバー人材センターのほうに委託しておりますが、１月に本郷庁舎のほうに移転することによりまして、本郷庁舎における生涯学習センターの夜間管理業務については引き続きシルバーのほうに委託する予定でおります。しかしながら、離れますと本郷体育館がちょっと離れた場所にあるということがございますので、そこに、シルバー人材センターのほうに業務委託をしたいと考えて今回計上しているものでございます。
　当初予算のほうの保健体育費のほうに計上しております施設管理事業やはりありますが、これについては本郷第二体育館のみの業務委託に関して上げさせていただいているところでありましたので、今回新たに本郷体育館の分の業務委託として計上させていただいたところでございます。
　以上です。
○議長（横山知世志君）　根本議員。
○13番（根本謙一君）　そうしますと、第二体育館と本郷体育館を一緒に見てもらうのではなくて、それぞれ別個に依頼すると、シルバーセンターに管理をお願いするということですか。
○議長（横山知世志君）　生涯学習課長。
○生涯学習課長（福田富美代君）　質問にお答えいたします。
　そのように、本郷体育館、本郷第二体育館はそれぞれに業務委託のほうを考えております。

○議長（横山知世志君）　14番、根本剛君。
○14番（根本　剛君）　私からは１点であります。
　７ページの一般管理費の中の報酬126万円、会計年度任用職員報酬、これ減額になっているのですけれども、提出案件資料によりますと地域おこし協力隊として当町にとっては重大な観光コーディネーターとして活動していただくわけだったのですが、中途で退職されたという説明書きがあるのですけれども、もうちょっとこれ詳しく教えていただきたいと思います。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　お答えさせていただきます。
　観光コーディネーターとして活動していた地域おこし協力隊なのですが、一般的な企業に勤めたいとか、そういうような意思が強くなったということで、以前からちょっと就職試験とか受けていたのですけれども、そういったところで企業の採用が決まったので、そっちのほうの道を選んだというようなことでございます。
○議長（横山知世志君）　根本議員。
○14番（根本　剛君）　そうしますと、前任の方の替わりというか、替わりの人のことはどのように今後考えていくのですか。今年度はやらないのですか、観光コーディネーター。
○議長（横山知世志君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　すぐに次の協力隊の方を採用するというわけにはいきませんので、ただ観光コーディネーターとしていろんな体験ツアーになるようなちょっと企画ですとか、いろんなものを残していかれましたので、そういったものを私たちで活用していきたいと考えております。
○議長（横山知世志君）　根本議員。
○14番（根本　剛君）　そういうデータを残されたということで、本町にとりましても観光情報発信等重大な、最大な課題でありますので、真剣に頑張っていただきたいと思います。
○議長（横山知世志君）　６番、長嶺一也議員。
○６番（長嶺一也君）　では、私のほうからは、提出案件資料のほうからちょっと質問させていただきます。２点、質問させていただきます。
　まず、18ページなのですが、行旅死亡人に係る葬祭扶助費22万3,000円についてと、28ページの郷土資料館の開館記念事業の開会イベントのことについて、２点質問させていただきます。要は行旅死亡人、いわゆる行き倒れの方だと思うのですが、たまたまそういう方の事案が発生したということでしょうか。
　あと、葬祭扶助費につきましては、県費での交付、負担するものなのですけれども、一旦これ町が立て替えてその22万3,000円を県からいただくというか、そういった流れを考えているのか、その確認です。
○議長（横山知世志君）　健康ふくし課長。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　行旅死亡人の件でお答えさせていただきます。

まず、こちらにつきましては、確かに行旅、旅行途中で亡くなった方ということもありますが、身元引受人がいない方も一応対象という形でなっております。町内で例えばの話で独り暮らしの方在宅で亡くなって、葬祭等やる方がいないといった方に対して、町のほうで死亡、火葬とかもやるという形。ただ、その後追跡調査全部行います。身内の方がいらっしゃるかどうかという確認も全部取ります。財産があればその財産を町の収入として入れるということが１つ。

あと、何もなければ県のほうから、先ほど議員が言われたように、補助金というか、負担金というか、そういう形で歳入として入ってくるという形になっております。一義的に町のほうで一旦お支払いをすると。最低限の内容についてお支払いするという形でございます。

○議長（横山知世志君）　長嶺議員。

○６番（長嶺一也君）　分かりました。

次に、郷土資料館の開館イベントについてなのですが、今現在話せる範囲でお聞かせいただきたいと思います。

○議長（横山知世志君）　生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの長嶺議員の質問にお答えします。

開館イベントとしまして、まず10月１日に郷土資料館開館オープン式を開催したいと考えておるところでございます。オープニング式と併せまして、愛称募集、今現在300件ほどの愛称のほうの応募がございまして、今最終選考しているところでありますが、そちらの方への記念品贈呈、さらに本郷焼とちょっと生け花のコラボ事業ということでイベントを想定して今準備したいと考え、今回予算のほう計上させていただきました。

以上です。

○議長（横山知世志君）　長嶺議員。

○６番（長嶺一也君）　新しい施設でありますので、しっかりとＰＲして、お客さんがいっぱい来るような形で進めていただきたいと思います。

以上です。

○議長（横山知世志君）　ほかにございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　ないようですので、質疑なしと認めます。

これをもって質疑を終了し、議案第45号を終了いたします。

○議案第５３号の議題、説明、質疑、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第８、議案第53号　財産の処分についてを議題といたします。

ここで、当局より内容の説明を求めます。

産業振興課長、小林隆浩君。

〔産業振興課長（小林隆浩君）登壇〕

○産業振興課長（小林隆浩君）　それでは、議案第53号　財産の処分についてをご説明申し上げます。議案書19ページ、併せまして提出案件資料の２ページ下段から次のページを御覧いただきたいと存じます。

この案件につきましては、高田工業団地内の販売用地を売却することにつきまして、地方自治法第96条第１項第８号及び会津美里町議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第３条の規定によりまして議会の議決をお願いするものでございます。

内容についてでございますが、まず土地の所在地につきましては、福島県大沼郡会津美里町字宮里96番３でありまして、地目が宅地でございます。

地積につきましては4,500平方メートルで、売却価格は4,500万円でございます。

相手方につきましては、福島県会津若松市門田町工業団地７番地の１、株式会社古賀セミコンテクノロジー代表取締役、伊藤旭でございます。

説明は以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（横山知世志君）　説明が終わりました。

質疑があればこれを許可いたします。質疑はありませんか。

10番、星次君。

○10番（星　　次君）　それでは、若干ちょっとお聞きしたいのですが、この会社なのですが、恐らく会社からすると製造業でないかなというふうに感じるのですが、その業種について教えていただきたいことと、あと雇用の予定人数というのは何人だったのか、何人予定しているのか。あと、もう一点、資本金についてお伺いしたいと思います。

この３点についてよろしくお願いします。

○議長（横山知世志君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　お答えいたします。

業種につきましては、生産用機械器具の製造業でございます。従業員につきましては現在５名でして、今後毎年３人程度を雇用する予定でございます。資本金については、1,000万円でございます。

以上でございます。

○議長（横山知世志君）　ほかにございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　ないようでありますので、質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより議案第53号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を原案のとおり決することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

○議案第５４号の議題、説明、質疑、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第９、議案第54号　訴訟の提起についてを議題といたします。

ここで、当局より内容の説明を求めます。

建設水道課長、加藤定行君。

〔建設水道課長（加藤定行君）登壇〕

○建設水道課長（加藤定行君）　それでは、議案第54号をご説明いたします。議案書20ページ、提出案件資料３ページ上段、参考資料２ページも併せて御覧ください。議案書にてご説明させていただきます。

本案は、町営住宅の明渡し及び滞納家賃等の支払いを求めるため、会津若松簡易裁判所に訴訟を提起することについて、地方自治法第96条第１項第12号の規定により議会の議決を求めるものであります。訴訟の相手方は、本町在住のＫ氏でございます。

事件の要旨につきましては、Ｋ氏が町営住宅の家賃等を長期にわたり滞納しており、再三にわたる催告にもかかわらず、これを支払わなかったため、町営住宅の明渡し等を求めるものであります。

請求の趣旨につきましては、被告に対し町営住宅の明渡しを求めるもの、滞納した家賃等の支払いを求めるもの、訴訟費用の負担を求めるものの３点でございます。

訴訟の遂行方針としましては、１つ目としまして、Ｋ氏から家賃等を完納する旨の申出があり、かつその履行が見込まれる場合は和解するものとし、２つ目としまして、第１審または第２審の判決の結果、必要と認めた場合は上訴することといたします。

また、訴訟提起に至るまでの経過は、参考資料のとおりでございます。

説明は以上です。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（横山知世志君）　説明が終わりました。

質疑があればこれを許可いたします。質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより議案第54号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を原案のとおり決することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

○同意第１号の議題、質疑、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第10、同意第１号　会津美里町教育委員会委員の任命につき同意を求めることについてを議題といたします。

これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

これをもって質疑を終了いたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許可します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより同意第１号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を原案のとおり同意することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり同意されました。

○同意第２号～同意第１３号の議題、質疑、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第11、同意第２号から日程第22、同意第13号の会津美里町農業委員会委員の任命につき同意を求めることについてを一括議題といたします。

これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

これをもって同意第２号から同意第13号までの質疑を終了いたします。

これより討論に入ります。

まず、同意第２号に対する反対討論の発言を許可します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより同意第２号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を原案のとおり同意することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり同意されました。

次に、同意第３号に対する反対討論の発言を許可します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより同意第３号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を原案のとおり同意することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり同意されました。

次に、同意第４号に対する反対討論の発言を許可します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより同意第４号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を原案のとおり同意することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり同意されました。

次に、同意第５号に対する反対討論の発言を許可します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより同意第５号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を原案のとおり同意することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押して

ください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり同意されました。

次に、同意第６号に対する反対討論の発言を許可します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより同意第６号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を原案のとおり同意することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり同意されました。

次に、同意第７号に対する反対討論の発言を許可します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより同意第７号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を原案のとおり同意することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり同意されました。

次に、同意第８号に対する反対討論の発言を許可します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより同意第８号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を原案のとおり同意することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり同意されました。

次に、同意第９号に対する反対討論の発言を許可します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより同意第９号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を原案のとおり同意することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定します。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり同意されました。

次に、同意第10号に対する反対討論の発言を許可します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより同意第10号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を原案のとおり同意することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり同意されました。

次に、同意第11号に対する反対討論の発言を許可します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより同意第11号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を原案のとおり同意することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり同意されました。

次に、同意第12号に対する反対討論の発言を許可します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより同意第12号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を原案のとおり同意することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり同意されました。

次に、同意第13号に対する反対討論の発言を許可します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより同意第13号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を原案のとおり同意することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり同意されました。

○諮問第１号の議題、採決

○議長（横山知世志君）　日程第23、諮問第１号　人権擁護委員候補者の推薦についてを議題といたします。

お諮りいたします。本件は、お手元に配付しました意見書のとおり答申したいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

よって、諮問第１号はお手元に配付した意見書のとおり答申することに決しました。

○諮問第２号の議題、採決

○議長（横山知世志君）　日程第24、諮問第２号　人権擁護委員候補者の推薦についてを議題といたします。

お諮りいたします。本件は、お手元に配付しました意見書のとおり答申したいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

よって、諮問第２号はお手元に配付した意見書のとおり答申することに決しました。

○総括質疑

○議長（横山知世志君）　日程第25、総括質疑を行います。

総括質疑については、まず質疑事項を告げ、その後質疑事項ごとに一問一答方式で行います。総括質疑は、所管ごとの議案順に一括して審議したいと思いますが、これに異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

それでは、認定第２号　令和４年度会津美里町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について、認定第３号　令和４年度会津美里町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について、認定第４号　令和４年度会津美里町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定についてを一括審議に付します。

質疑はありませんか。

13番、根本謙一君。

○13番（根本謙一君）　私は、認定第２号について、１点お尋ねしておきたいと思います。

施策評価シートからです。今までコロナ禍にあって、健診の受診率が減少してきているのは理解するところでありますけれども、過去この受診率の向上に対しては所管のほうで一生懸命努力しているというのは評価しているところでありますけれども、それだけでのなかなか伸びない状態なのか、いわゆるそれなりに分析はされていると思います。その中で、受診勧奨とか再勧奨についていろいろ努力をしているようですけれども、その内容について少し詳細なところを出していただきたいなというふうに思います。よろしくお願いします。

○議長（横山知世志君）　健康ふくし課長、平山正孝君。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　健診の受診の勧奨及び再勧奨という点についてのご質問でございます。

町のほうで行っている勧奨は、４月皆様のほうに日程、健診のスケジュール等の入ったチラシ、あと健診の申込書がついたものをまずお送りしております。それがまず１回目の勧奨ということになります。その次に、申込書に基づいて受診録を皆様のほうに、該当する方にお送りさせていただいております。その後、６月、７月に町の広報において、健診の必要性、重要性を周知し、健診を受けてくださいという形で健診の勧奨をしているところでございます。広報の中には、家族のために健診を受けてくださいと、そういった健康というのが大事ですよ、家族のためにも大切なのですよということ

を記載した内容で出させていただいております。その後、ずっと受けていない方、何年かに１回受ける方というのを、昨年もご説明させていただきましたが、業者のほうに委託をして、ＡＩを使ってそういう方を抽出して、勧奨通知をそのタイプの方に合った内容で直接通知をさせていただいております。そういう形で再勧奨もさせていただいております。次に、集団健診の期間が過ぎた後については施設健診について、施設健診がまだ受けられますよという形の勧奨を行っております。基本的に健診については、集団健診、施設健診、人間ドック、いろいろ受けられる体制を整えております。自分の都合のいいときに受けていただけるように、常に勧奨に努めているところでございます。

以上です。

○議長（横山知世志君）　根本議員。

○13番（根本謙一君）　そうしますと、それは特段４年度に限ってやったことではなくて、今まで何年かそういうのを続けてきたということなのか。今お話しされたのは４年度、特にＡＩを使ってという、たしか去年聞いたかどうかちょっと記憶ないのですけれども、申し訳ない。改善策はまだあるのかないのか、考えていくのか、その点だけ伺っておきたいと思います。

○議長（横山知世志君）　健康ふくし課長。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　ＡＩを活用したものについては、２年度から先進的な自治体を参考にさせていただいて取組をさせていただいております。新たな取組といたしましては、人の集まる場所、例えば公民館であったり、大型のスーパー、そういったところに健診のポスターを貼らさせていただいて、目につくところに貼らさせていただいて、健診の必要性を訴えて、受診してくださいということに取り組んでおります。５年度よりそういった形のものは取り組んでおります。

○議長（横山知世志君）　６番、長嶺一也議員。

○６番（長嶺一也君）　私も特定健康診査の受診率向上についてのちょっと質問をしたいと思います。

健康診査の日程なのですが、７月、８月の暑い時期に実施、集団診査やっております。暑い時期ということもあって受診率がよくならないのかなというふうなことも原因かなと考えております。日程を変えることは困難かと思いますが、その辺どう考えているのかちょっとお聞かせ願います。

○議長（横山知世志君）　健康ふくし課長。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　健診の日程ということで、令和４年度７月、８月で実施させていただきました。まず、健診につきましては、業者のほうに委託をして行っております。その業者につきましては、会津管内の市町村全てが委託しております。かつ、民間の企業のほうもそちらのほう活用しております。全てにおいて、日程がやはりがちがちの状態になっております。うちのほうの町が日程を変更することによって全てのスケジュールに影響を来すという状況になっておりますので、なかなか日程を変更することは難しいものと考えております。そのためにも、施設健診や人間ドック、都合が悪ければそういった部分を使っていただくという形の体制を取っているところでございます。あと、集団健診においてはクーラーの効く施設、なるべく涼しくできる施設を選んでやっております

し、あと感染症予防対策にも徹底しながら取り組んでいるところですので、ご理解いただきたいと考えております。

○議長（横山知世志君）　長嶺議員。

○６番（長嶺一也君）　今、課長の説明で、涼しい環境の下で健診を実施しているというお話でした。また、健診に行って体調が悪くなったというようなことがないように、飲み水を準備したり、しっかりとクーラーをかけて、健診に来た人が具合が悪くならないような形で対応していただければというふうに思います。

○議長（横山知世志君）　ほかにございませんか。

〔「議長」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　健康ふくし課長、訂正ですか。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　はい。すみません、根本議員の質問でＡＩの開始年度なのですが、令和２年度より取り組んでいるところでございます。申し訳ございませんでした。

○議長（横山知世志君）　ほかにございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

次に、認定第５号　令和４年度会津美里町工業団地造成事業特別会計歳入歳出決算認定についてを審議に付します。

質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

次に、認定第６号　令和４年度会津美里町住宅用地造成事業特別会計歳入歳出決算認定についてを審議に付します。

質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

次に、認定第７号　令和４年度会津美里町水道事業会計決算認定について、認定第８号　令和４年度会津美里町下水道事業会計決算認定についてを一括審議に付します。

質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

次に、認定第９号　令和４年度永井野財産区特別会計歳入歳出決算認定について、議案第46号　令和５年度会津美里町国民健康保険特別会計補正予算（第２号）、議案第47号　令和５年度会津美里町介護保険特別会計補正予算（第２号）、議案第48号　令和５年度会津美里町後期高齢者医療特別会計

補正予算（第１号）を一括審議に付します。

質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

次に、議案第49号　令和５年度会津美里町工業団地造成事業特別会計補正予算（第１号）を審議に付します。

質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

次に、議案第50号　令和５年度会津美里町住宅用地造成事業特別会計補正予算（第１号）を審議に付します。

質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

次に、議案第51号　令和５年度会津美里町水道事業会計補正予算（第１号)、議案第52号　令和５年度会津美里町下水道事業会計補正予算（第１号）を一括審議に付します。

質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

以上で総括質疑を終了いたします。

○議案の常任委員会付託について

○議長（横山知世志君）　日程第26、議案の常任委員会付託についてを議題といたします。

お諮りいたします。本件は、別紙審査付託表のとおり各常任委員会に付託したいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

よって、本件は別紙審査付託表のとおり各常任委員会に付託することに決しました。

○散会の宣告

○議長（横山知世志君）　以上で本日の議事日程は全部終了いたしました。

本日はこれで散会いたします。

散　会　　（午後　１時５２分）

決 算 特 別 委 員 会

（第　２　日）

令和５年会津美里町議会（決算特別委員会）

第２日

令和５年９月１１日（月）午前１０時０２分開議

委員長　大竹　惣君　　副委員長　荒川佳一君

○出席委員（１４名）

１番	櫻井幹夫君	９番	渋井清隆君
２番	大竹惣君	１０番	星次君
３番	小柴葉月君	１１番	堤信也君
４番	荒川佳一君	１２番	鈴木繁明君
６番	長嶺一也君	１３番	根本謙一君
７番	村松尚君	１４番	根本剛君
８番	小島裕子君	１５番	横山義博君

○欠席委員（なし）

○説明のため出席した者

町長	杉山純一	君
副町長	佐々木吉一	君
総務課長	金子吉弘	君
総務課課長補佐	髙橋力也	君
総務課課長補佐	渡部充	君
総務課総務係長	國分政和	君
総務課管財契約係長	大竹克昌	君
総務課防災情報係長	齋藤優	君
政策財政課長	國分利則	君
政策財政課課長補佐	立川昇	君

政策財政課課長補佐	目黒　裕樹	君
政策財政課政策企画係長	鈴木　幸信	君
政策財政課財政係長	川田　浩泰	君
政策財政課人口減少対策係長	小林　一成	君
町民税務課長	猪俣　利幸	君
町民税務課課長補佐	阿部　満枝	君
町民税務課課長補佐	長峯　啓之	君
町民税務課生活環境係長	遠藤　　香	君
健康ふくし課長	平山　正孝	君
健康ふくし課課長補佐	星　　公子	君
健康ふくし課課長補佐	渡部　朋宏	君
健康ふくし課健康増進係長	栗城　嘉則	君
健康ふくし課社会福祉係長	佐藤　健太郎	君
会計管理者	松本　由佳里	君
産業振興課長	小林　隆浩	君
産業振興課課長補佐	宮下　　寛	君
産業振興課課長補佐	佐藤　文彦	君
産業振興課森林環境対策室室長	川田　勝博	君
産業振興課農政係長	横山　美代子	君
産業振興課農林土木係長	鈴木　聖崇	君
産業振興課商工観光係長	鈴木　俊幸	君
建設水道課長	加藤　定行	君
建設水道課課長補佐	佐藤　勝利	君

建設水道課 課長補佐	酒井　新一	君
建設水道課 管理係長	小林　正裕	君
建設水道課 建設係長	松本　健一	君
建設水道課 上下水道係長	谷澤　貞倫	君
教育長	歌川　哲由	君
こども教育課長	渡部　雄二	君
こども教育課 課長補佐	大竹　淳志	君
こども教育課 総務係長	菊地　建雄	君
こども教育課 こども教育係長	榎森　正典	君
生涯学習課長	福田　富美代	君
農業委員会 事務局次長	後藤　淳	君
農業委員会 総務係長	田邉　実千代	君
代表監査委員	小島　隆一	君

○事務局職員出席者

事務局長	児島　隆昌	君
事務局次長 兼総務係長	歌川　和仁	君

開　議　　（午前１０時０２分）

○委員長（大竹　惣君）　これから本日の会議を開きます。

決算特別委員会２日目を行います。

歳入、事務事業及び決算書の質疑は、歳入については一括して質疑をし、歳出については議会費と総務費、次に民生費と衛生費、次に農林水産業費、商工費及び土木費、次に消防費と教育費、最後に災害復旧費、公債費、諸支出金及び予備費の５回に分けて質疑をし、その都度休憩を取り、説明員の入替えをいたします。

なお、本特別委員会は、１質疑項目に対し答弁は３回までとし、質疑時間の制限はいたしません。

質疑者は、初めに全ての質疑のページ数と質疑項目を通告してから、１項目ごとに３回までの質疑を行ってください。質疑、答弁とも簡潔、明瞭にお願いいたします。

これより歳入の質疑を行います。

質疑者は挙手にてお願いします。

６番、長嶺一也委員。

○６番（長嶺一也君）　歳入決算書の16ページ、民生費負担金の滞納繰越分児童福祉施設入所費負担金。あともう一点が、32ページ、生産物売払収入の生産物売払収入、この２点につきましてお伺いいたします。

まず、滞納繰越分児童福祉施設入所費負担金のところなのですが、備考欄を見ますとこの入所費負担金の５万何がしの金額なのですが、何人分の金額になっているのか。子供が卒園しますと回収が困難になると思いますが、どのような手法で回収しているのかをお伺いいたします。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。

○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまのご質問にお答えいたします。

卒園した後での徴収というか、そういったご質問かと思いますが、なかなか卒園して遠くに行ってしまったりするような場合ですと非常に難しい部分はあるのですけれども、近くにいらっしゃるような場合であれば園長のほうから催促、督促をしたり、あとは場合によっては給与の差押えとか、そういった厳しいような対応を取るような場合もございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　こども教育課長に申し上げます。ちょっと答弁漏れがございます。何名分の金額かという部分をもう一度お答えください。

○こども教育課長（渡部雄二君）　申し訳ございません。もう一度質問をお願いしてよろしいでしょうか。

○委員長（大竹　惣君）　何名分の金額かという部分ですね。滞納繰越分保育所入所費負担金のこの金額は何名分であるかという質疑です。

〔「申し訳ありません、ちょっと……」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　暫時休憩します。

休　憩　　（午前１０時０７分）

再　開　　（午前１０時０９分）

○委員長（大竹　惣君）　再開します。

答弁、こども教育課長、渡部雄二君。

○こども教育課長（渡部雄二君）　大変失礼いたしました。

まず、滞納繰越分の保育所入所費負担金につきましては、３名分でございます。その下の滞納繰越分の認定こども園入所費負担金につきましては、１名分でございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　分かりました。

先ほどの最初の答弁で、町外に行った者からの回収は困難だというような答弁でございました。町外に行った方に対する回収につきましては、具体的にどのような手法で行っているのか教えてください。

○委員長（大竹　惣君）　こども教育課長。

○こども教育課長（渡部雄二君）　先ほど少しお答えしたところではございますが、まずは園長等のほうから電話催告とか、あとは例えば兄弟がいるような場合、園に来られた場合に催促をする、そういった対応をしておりますが、こども教育課としましても課としてまめに電話による催告、そういったものをしながら、あとは給与の差押えなんかもやっております。

〔「町外へ行った方に対して」と言う人あり〕

○こども教育課長（渡部雄二君）　町外へ行った方に対しては非常に困難ではございますが、遠くに行ってしまうという場合ですと、本当に他県とか遠くに行ったような場合ですと、なかなかコンタクトが取れないようなケースもございます。やはりそういった場合、居どころが分かるような場合であれば文書で催告したりとかそのような対応はしておりますけれども、本当に居どころも不明になっている場合ですとなかなか対応が難しい状況でございます。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　分かりました。公平性に欠けるようなことがないように対応していただければというふうに思います。

次に、32ページ、生産物売払収入の立木売払収入350万円のものなのですが、この立木、立ち木ですけれども、町所有の土地にある樹木を売っ払ったと思うのですが、場所はどこにあった樹木なのか教えていただきたいのですが。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　場所につきましては、尾岐地区の町の町有地でございます。
○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。
○６番（長嶺一也君）　町有地、面積的にはどのくらいあるのですか。
○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　面積的には、10.64ヘクタールでございます。
○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。
○６番（長嶺一也君）　すみません、今よく聞き取れなかったので、もう一度お願いします。
○産業振興課長（小林隆浩君）　10.64ヘクタールでございます。
○６番（長嶺一也君）　分かりました。
　以上で質問を終わります。
○委員長（大竹　惣君）　１番、櫻井幹夫委員。
○１番（櫻井幹夫君）　私は、１件お尋ねをいたします。
　31ページ、17款１項２目１節ふるさと納税寄附金についてお尋ねをいたします。3,356万1,000円の総件数は何件ですか。１件当たりの最高額と平均金額を教えてください。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。
○政策財政課長（國分利則君）　まず、ふるさと納税3,356万1,000円の中身でございますが、まず件数につきましては、令和４年度につきましては合計で1,610件となってございます。そのうち高額納税者の方がおりますので、その方の金額につきましては100万円を９回と申しますか、合計で900万円となっております。
　平均でございますが、申し訳ございません、ちょっと今その差っ引きで……ちょっとお待ちください。
○委員長（大竹　惣君）　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　そうしますと、残りの数になりますので、平均が約１万5,000円弱となってございます。
　以上でございます。
○委員長（大竹　惣君）　櫻井委員。
○１番（櫻井幹夫君）　承知しました。前年度も寄附をいただいた方、リピート数やリピート率というのは出ていますか。
○委員長（大竹　惣君）　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　リピート率というのですが、例えば前年度納税された方が今年もされているということでよろしいでしょうか。それにつきましては、件数で申しますと大体400名程度がリピートされているということでございます。
○委員長（大竹　惣君）　櫻井委員。

○１番（櫻井幹夫君）　終わります。
○委員長（大竹　惣君）　では、10番、星次委員。
○10番（星　　次君）　１点だけお聞きします。
　ページ数38ページ、20款諸収入、４項雑入、１目納付金、１節で給食費納付金の滞納繰越分の収入未済額が599万1,867円というふうになっておりますが、実は私６月の一般質問でも質問しましたが、この決算が出ないうちはちょっとなかなか質問事項にもならなかったのですが、この金額を今後教育委員会としてどのように分析して、どのようにこの解決を図っていくのか、ひとつお示ししてください。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。
○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまのご質問にお答えいたします。
　やはり滞納分につきましては極力回収といいますか、先ほどの議員さんのご質問にありましたとおり、やはり公平性の観点から極力回収したいというふうに考えております。やはり文書催告、電話催告、世帯訪問等をしながら、少しでも収納率のアップに努めていきたいと考えております。ただ、先ほどもお答えしましたとおり、滞納繰越分になりまして、遠くのほうに行ってしまわれて居どころが不明の方なども何名かいらっしゃいますので、そういった方については非常に徴収が困難な状況になってございますが、少しでも滞納金の整理に努めていきたいというふうに考えております。
○委員長（大竹　惣君）　星委員。
○10番（星　　次君）　今、課長の答弁、本当になかなか苦労して大変だというふうに分かりますが、それで教育委員会全体として考えていかなくてはならない部分と、あとは町部局側の今いろいろ収納の課ありますね。そういう方々とのやっぱり連携というのも必要だと思うのです。それで、教育長の考え方、ちょっと今後どういうふうに解決するのかお願いいたします。
○委員長（大竹　惣君）　星委員、今後のことは聞けません。
○10番（星　　次君）　いや、解決策をお願いしたいのです。
○委員長（大竹　惣君）　解決策……
〔「それも同じだろう」と言う人あり〕
○委員長（大竹　惣君）　星委員。
○10番（星　　次君）　いや、大変失礼しました。質問の仕方変えたいと思います。この滞納額に対して困難であるというふうに認識されているのか、その辺だけ１点お願いします。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、教育長。
○教育長（歌川哲由君）　困難であるというふうな認識とお尋ねなのですが、その回収が困難であるという認識ということでございますか。申し訳ございません。
○委員長（大竹　惣君）　星委員。
○10番（星　　次君）　そのように考えているのかどうかということで、認識ですね。

○委員長（大竹　惣君）　教育長。
○教育長（歌川哲由君）　ご指摘のとおり、私も課長説明のとおり、大変滞納金については本当に不公平なゆゆしき問題だと思っておりますが、今給食センターも含めて回収に全力で当たっておりますので、現在の方法を継続しながらできる限りの収納率を上げるように努力していきたいというふうには考えております。
○委員長（大竹　惣君）　星委員。
○10番（星　　次君）　公正、公平な部分でやっぱりこれを少しでも減らしていくというような努力は必要だと思いますので、今後ともひとつさらなる努力をお願いして終わります。
○委員長（大竹　惣君）　13番、根本謙一委員。
○13番（根本謙一君）　私は、32ページの先ほど同僚議員からも質疑ありましたふるさと納税寄附金についてお尋ねしたいと思います。
　前年度よりも伸びているということは、数字で出ております。その中で、リピート数もしっかり把握していると。そのほかの分析についてはどのようにしておりますでしょうか。どうして聞くかというと、関係人口を増加させるための一つのいわゆる力の入れ方をいつも述べておられますので、伺います。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。
○政策財政課長（國分利則君）　それでは、ふるさと納税のちょっと分析というようなことでございます。
　まず、返礼品から若干申し上げたいと思います。返礼品につきましては、昨年と同様順位に変動はございませんでした。ただ、昨年度、令和４年度につきましては、若干でございますが、お米の返礼品が増えたというのがまず大きな１点かなと思ってございます。
　あと、実は昨年度、令和４年度にいわゆるふるさと納税のインターネット上のサイトを増やしました、年度途中ではございますが。今までは１社でございましたが、昨年度１社から４つ増やしまして５社にいたしました。それで、実は件数のほうも若干ではございますが、令和３年度1,516件だったのが、令和４年度につきましては1,610件ということで、94件、100件弱ではございますが、件数は伸びているというふうな結果でございました。これにつきましては様々な理由があると思うのですが、やはり１つはインターネットサイトを増やしたことが多いのかなと分析しております。傾向を見ますと、個人の方がどのサイトを使うか、やはり個人によっていろいろそのサイト様々なポイントなりございますので、やはりそういった同じサイトを使う傾向があるという話でございましたので、そういったことでそういったサイトを増やした結果であると考えております。
　あともう一点、これちょっと昨年度も申し上げたのかなと思いますが、返礼品についてはモノからコトへというようなことでお話をさせていただきました。これは全国的な傾向だそうであるのでありますが、実際美里町の例を見ますとなかなかそういったことでコトへの件数が伸びていないというの

が１つ状況でございます。ちなみに本郷焼の体験、さらには宿泊施設等がございますが、なかなかそちらのほうが伸びていないというような状況でございます。

簡単でありますが、分析については以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　分かりました。返礼品を主に変えることに、あとはサイトを増やしたということで伸びているということが言えると。関係人口ですから、当然その分析を生かしてさらに、ふるさと納税を増やすばかりではなくて、広い意味での関係人口を増やすという施策の有力な一つだということは認識できました。これを生かしてしっかり次のステップに上がっていくことだろうと思っていますが、その辺の考え方を伺っておきます。

○委員長（大竹　惣君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　確かにふるさと納税、一つのこれは寄附金を町にいただきますので、貴重な財源ではございます。ただ、これが最終目的ではないのかなと私思っております。委員おただしのとおり、これを通して関係人口、いわゆる美里町とお付き合いが出ると、そういうきっかけづくりの一つと思っておりますので、そういったものを注意しながらこのふるさと納税の業務に努めてまいりたいと思います。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　９番、渋井清隆委員。

○９番（渋井清隆君）　私は、37ページ、38ページの先ほど同僚議員が申し上げました給食納付金、これについてお尋ねいたします。

収入があって未収金がこれだけあるということになっておるのですが、これ税外収入だと思うのですよね、税外収入。税金ではないですよね。そこでお尋ねしたいのは、まず、時効は何年なのか。あと、この収入に当たっての手続上、地方税法の例によるのかお尋ねします。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。

○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまのご質問にお答えいたします。

まず、時効についてのご質問でございます。時効につきましては５年ですね。時効については５年と。

〔「時効２年でないか……」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　暫時休憩します。

休　憩　　（午前１０時２６分）

再　開　　（午前１０時２８分）

○委員長（大竹　惣君）　再開します。

答弁、こども教育課長。

○こども教育課長（渡部雄二君）　大変失礼いたしました。先ほどお答えしましたとおり、時効は５年でございます。令和２年に法改正がございましたので、２年から５年に延長になってございます。ですので、税法との関係はございません。

○委員長（大竹　惣君）　渋井委員。

○９番（渋井清隆君）　そうしますと、税法との関係はないと言いまして、なおかつその中断の仕方が、まず督促とかそういうの発するわけですよね。督促を発しなかったらば時効中断にはならないと思うのだ。それが根拠になってくると思う。それと、納入に当たってその期間内に１円でも入れれば時効を中断すると、援用ね。また、そこから時効が発生するわけ。そういう人たちは中断で分納というか、入れている人はいなかったのかと、それを聞きたかったのです。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。

○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまの質問にお答えいたします。

正確な人数は今ちょっとお答えできないのですが、分納誓約をしている方はいらっしゃいます。

○委員長（大竹　惣君）　渋井委員。

○９番（渋井清隆君）　誓約でなく、効力を発するのは督促ではないですか。督促は発しなくていいのですか、このあれには。法的拘束力を持つのは督促ではないですか。納期限の何日以内に督促を発するとか、条例とかそういうのはないですか。そこを私聞いているのだ。

○委員長（大竹　惣君）　こども教育課長。

○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまのご質問にお答えいたします。

納期が来ましたらまず文書催告をしまして、その後督促状を出しております。

○委員長（大竹　惣君）　ここで、産業振興課長から先ほどの答弁で修正ございますので、答弁していただきます。

答弁、産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　先ほど立木売払収入の伐採面積についてですが、10.64ヘクタールと申しましたが、10.64ヘクタールにつきましてはこれ福島森林再生事業ということで森林整備を行っていまして、その事業面積でありました。実際に売り払った分の面積につきましては、間伐した面積ですけれども、8.5ヘクタールということで答弁の修正をお願いいたします。申し訳ございませんでした。

○委員長（大竹　惣君）　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　ないようなので、これをもって歳入の質疑を終了いたします。

説明員入替えのため、暫時休憩します。

休　憩　　（午前１０時３２分）

再　開　　（午前１０時３５分）

○委員長（大竹　惣君）　再開します。

次に、歳出の質疑を行います。

１款議会費、２款総務費の質疑を行います。

質疑者は挙手にてお願いします。

13番、根本謙一委員。

○13番（根本謙一君）　それでは、事務事業評価シートのほうからお尋ねしたいと思います。５点あります。

１点目は、公共交通利用促進事業、これは28ページになります。次、37ページの……

○委員長（大竹　惣君）　根本委員、もう少しゆっくりお願いします。みんながまだページ開けていないので、すみませんけれども、よろしくお願いします。

○13番（根本謙一君）　はい。28ページ、公共交通利用促進事業。２点目、37ページ、防災情報システム事業。３点目、200ページ、普通財産管理事業。４点目、209ページ、地域振興事業。５点目が窓口業務委託事業です。

○委員長（大竹　惣君）　最後のページ数お願いします。

○13番（根本謙一君）　214ページ、窓口業務委託事業。いいですか。

○委員長（大竹　惣君）　はい。

○13番（根本謙一君）　それでは、１点目からまいります。28ページです。公共交通利用促進事業。昨年末に新しいシステム導入になったわけです。それで、新しいシステムを導入したことによってどのように改善していったのか、分析どのようにされていくのか伺いたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　お答えします。

システムを新しく実施してございます。これは、ＡＩを活用いたしましたシステムでございます。これによって改善されたことでございますが、これまでデマンド交通につきましては、例えば地域ごとをまたぐ場合、一旦中間に待合といいますか、そこを経由しながら行っておりました。具体的に申しますと、例えば本郷地域から新鶴地域に行く場合、一旦高田のまってらん処というところございますが、そこを経由して行っておりました。要はデマンドタクシーとは言っているものの、フルデマンドではなかったというのがまず１点でございます。それをこのシステムに変更したことによりましてフルデマンド、要はどこの地域からも目的地にそのまんま行けると、そういうシステムでございます。それが一番大きな変化につながったのかなと思ってございます。

以上でございます。

○13番（根本謙一君）　いやいや、どういうふうに分析しているのですかということを聞きたいのだ。

○委員長（大竹　惣君）　政策財政課長、どういう分析をしているか、もう少しちょっと丁寧にお願

いします。

政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　分析でございますが、ですから先ほど申し上げたとおり、まず利便性が向上したものということで分析をしております。いわゆる直接目的地に行けるというようなことでございます。あと、アプリを使用している場合に限りますが、スマホ上であらかじめ予約できます。それが１点でございます。

あともう一点でございますが、そうしますとこれまではなかなか難しかった地域公共交通、例えばＪＲで、もう一つはバス路線ございますが、実はそのデマンドタクシーを使って例えばバスの停留所、例えば駅に向かう場合、なかなかその到着時間を指定するということがこれまで、今まではできなかったというのが１つございます。これがある程度出発時間なり到着時間を設定して予約なりができるということは、やはり接続といいますか、公共交通の接続ができるというようなことで、以上が分析ということで考えてございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　分かりました。利便性が向上したということは間違いないようです。それで、この利用目的も含めてその辺のデータもしっかり蓄積されてきているのか、そこ伺います。

○委員長（大竹　惣君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　データでございますが、毎月１度、町、さらには事業自治体、さらにはシステム会社を含めまして、毎月検討会なり実績の確認をしてございます。また、取り入れてからまだ１年たってございませんので、なかなかまだそういったデータがまとまっていないというような状況でございますが、逐次その翌月の反省点だったり、こうしたらいいのではないかとか、いろいろ運転手さん、実際タクシーを運転されている方の意見なども取り入れて、そういったことを毎月検討しているところでございます。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　毎月検討されているということですので、すごい進捗度はうかがい知れます。それによって課題は新たに見えてはいるのでしょうか。

○委員長（大竹　惣君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　課題と申しますか、まずは当初これが運行、このシステムから運行始まった当初は、やはりタクシーの運転手の方も新しいシステムに慣れていなくて、なかなか運転が大変だったというお話は聞き及んでおります。しかし、やはり間もなく、もうすぐで１年程度になりますけれども、現在は離れて特にそういった問題はなくなったというのが１点でございます。

あともう一つは、課題と申しますのはいわゆる乗合率と申しますか、先ほどメリットの一つにフルデマンド方式になったよということでご説明申し上げました。要は今までですとある程度時間を区切

ってやりましたので、例えば１台の車に２人、３人ということで乗っていくことができました。これが一つのデマンドのメリットでございますが、ただそれによってフルデマンド、自分が行きたい時間に行きたいところへ行けないというところがあります。そこは悪い点と申しますか、なかなかその乗合率の向上というのがいま一つ上がっていないというようなことが１つでございます。ただ、利用者も前年度を、まだ正確な数字でございませんが、今上回っているような状況ですので、やはりこのフルデマンドを行いつつ乗合率をいかに向上するかが課題かなと思っております。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　分かりました。ありがとうございます。

　では、２点目に参ります。37ページの防災情報システム事業です。この評価シートの案内見ますと、４年度に新たなシステム導入の方針を決定したというふうにされております。この内容については説明できますか。そこで何が改善されるのか伺いたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、総務課長、金子吉弘君。

○総務課長（金子吉弘君）　それでは、お答えをいたします。

　令和４年度に新システムへの移行に向けた方針を決定したというふうなところでございます。これにつきましては、従来の防災行政無線のいわゆる聞こえの悪さでしたり、やはり山があればどうしても反響してしまうとか、あとは時間帯によっては聞こえが悪いというふうなところが非常に多うございました。これを新システムにおいてはしっかりと改善をさせていただきながら、防災無線としての機能をしっかり果たすように取組を進めていくというふうなところで方針を決定したところでございます。

　以上です。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　そうしますと、今いろいろ課題を述べられました。その点は全て解消されるシステムなのだという受け止め方でよろしいのですか。

○委員長（大竹　惣君）　総務課長。

○総務課長（金子吉弘君）　再度のおただしでございますが、当然新しいシステムに変わるわけでございますので、聞こえの悪さの解消をしっかりとさせていただいて、今より確実に聞こえのよいシステムにしていくというふうなところ、そこを目指すということは間違いないところでございます。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　分かりました。では、３点目に参ります。

　200ページになります。普通財産管理事業です。旧高田庁舎跡地、その後といいますか、以前に分譲地の選択肢が実は説明受けたことございます、議会として。その後随分時間、月数もたっておりまして、４年度どのような検討されたのかその部分が載っておりませんので、可能な限りご説明いただきたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、総務課長、金子吉弘君。
○総務課長（金子吉弘君）　それでは、お答えさせていただきます。
旧高田庁舎跡地の利活用につきましては、以前にあそこのいわゆる都市計画の区域内であって、用途がやっぱり住宅地というふうなところもございまして、住宅を分譲したいというふうなところのお話は以前させていただいたところでございます。
令和４年度の進捗についてでございますが、基本的にいわゆる宅地造成をいたしまして、住宅用地として分譲したいというふうなところの基本姿勢は変わっていないところでございます。ただ、そのやり方でございますが、これにつきましては、従来どおり町が直営で建設をしてしっかり運用管理を行っていくというふうなところは、さすがにちょっと経費等の関係もございます。事務の効率化もございますので、そういったことではなくて、今現在考えております、今というか、令和４年度検討しましたのは、しっかり民間活力を導入させていただいて、民間の力をお借りして効率的な運営ができないかというふうなところで、実際民間事業者の提案等も受けまして、その中でしっかりと町の方向性を継続して話合いの下に進めているところでございました。
以上でございます。
○委員長（大竹　惣君）　根本委員。
○13番（根本謙一君）　当然その進捗状況は議会のほうにもタイムリーに説明いただけるということでよろしいですね。
○委員長（大竹　惣君）　総務課長。
○総務課長（金子吉弘君）　この計画に当たりましては、当然地域の住民の皆様方に影響するものでございます。さらには、そういった意味から議員の皆様方のほうにもリアルタイムにしっかり情報をお伝えするというふうなことが当然必要というふうに思っておりますので、これについては休議することなく、早めにというか、決まりましたらご連絡申し上げたいなというふうに思っているところでございます。
○委員長（大竹　惣君）　根本委員。
○13番（根本謙一君）　分かりました。
次に行きます。４点目です。209ページの地域振興事業についてです。ここで初めて未来創造塾というものができて、この中で２点伺いたいことがあるのです。活動実績で未来創造塾を創られて、パーパスという概念を勉強されてきて、大変有効な取組の基になっているということは伺ったことあります。これが、この創造塾が継続というふうに受け止めていいのかどうか。
それからもう一点は、まちづくり職員派遣研修活動のほうで２名行かれていますよね。この評価について伺いたいと思います。どのように評価されたのか。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。
○政策財政課長（國分利則君）　お答えします。

まず、１点でございますが、未来創造塾の今後継続するのかということでございますが、あくまでもこれは令和４年度までの事業でございますので、５年度につきましてはこういった研修については実施してございません。

次の研修の検証でございますが、この研修につきましては２名の職員が金沢大学のほうに研修に行ってございます。その成果といたしましては、金沢大学との連携を行いまして、今作成しております森林関係の計画づくりに大いに寄与されているのかなと考えてございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　２点目についてですけれども、これは課題を設けて研修に派遣したということのようです。これはたまたまこの４年度はそうであったということなのか、その辺の考え方ですね。そうですね、これ以上聞くとまた問題になるから。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　まず、未来創造塾でございますが、令和３年度、４年度２か年で実施してございました。そこの中で、一つの方向性としてそういった木材、森林、これだけ美里の７割は森林でございますので、これをやっぱり何とかすることが町の振興なり、活性化につながるだろうと。そこに職員でまとまりまして、ではどうすると、では次の段階どうするということで調べていたら、金沢大学のほうにそういった市民関係の造詣の深い方が、教授もいらっしゃったので、そちらのほうにアポを取りまして研修に伺ったというようなことでございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　分かりました。理解が深まりました。この創造塾のほうとつながりましたので、本来ですと４年度にそういう説明を我々にするべきだったと思います。この評価シートを見て初めて今ただせましたし、理解が深まったという、これは大変あなた方が一生懸命やっているにかかわらずもったいないことだと思いますので、早めの説明を要請しておきたいと思います。

次に参ります。５点目です。窓口業務委託事業について伺います。成果指標で①はすばらしいのですが、②で最終評価で見直しというふうに書かれております。評価見ますと、業務は減っているにもかかわらず、４年度は。でも、また見直すというふうになるようですので、その減らした理由と見直すというのはどういうふうにつながるのか、関係ないのか、伺いたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、総務課長、金子吉弘君。

○総務課長（金子吉弘君）　お答えいたします。

まず、成果指標の中で委託業務数は減っているにもかかわらず、さらに見直しをしてサービス向上図るというふうな点の矛盾でございますが、まずこの委託業務数が減っている部分に関しましては、令和３年度から委託業務のほうを複数年において発注したわけでございますが、この中で当初予定し

ておった中にはやはり専門性が高い業務が非常に多うございました。例えば合併処理浄化槽に関わる事務とかが１つ例を出すと入っておりました。こういったものに関してはかなり専門性が高くて、その法の理解が進まないとなかなか業務もできないというふうなところもございます。そういったところでほかに何点かございまして、145件だったものが136件へ減ってきたというふうなところでございます。

さらに、今後の方向性にありますとおり、業務の見直しを継続して行っていくという点についてでございますが、これについては非常に窓口業務に関しましては、委託事業者のほうで本当に町民の方に寄り添った対応をしていただいているというふうな、そういうお声が非常に多うございます。これは我々としても非常に大事な視点でございまして、しっかり今ある業務で民間事業者様のほうにお任せできるものがほかにも幾つも業務の中にはございますので、少しでもそういったものを民間のほうにお任せすることによって事務の効率、改善につなげてまいりたいというふうな意味でこのように見直しを継続して行っていくというふうな表現にさせていただいたところでございます。

○委員長（大竹　惣君）　では、６番、長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　では、私のほうから質問させていただきます。

決算書の46ページ、７節報償費。あと、歳出予算執行状況に関する説明書の１つ目の役務費。事務事業評価３ページの産廃物減量対策事業、28ページ、公共交通利用促進事業、39ページ、消防団員活動事業、188ページ、地域おこし協力隊事業、195ページ、移住促進事業、213ページ、戸籍住民基本台帳事業。以上です。

それでは、歳入歳出決算書46ページの７節報償費の備考欄、記念品と、こう書いてあるわけなのですが、この記念品についてですが、どのような対象者で、どのような物品を差し上げているのか、確認させてください。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、総務課長、金子吉弘君。

○総務課長（金子吉弘君）　それでは、お答えいたします。

この記念品の中身でございますが、まず対象者につきましては自治功労表彰の対象者、功労者表彰の部分が対象になってございます。中身につきましては、厚労省のいわゆるバッジ、さらには記念品。記念品につきましては、商品券になってございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　分かりました。

続きまして、歳出予算執行状況に関する説明書の１つ目の役務費の説明の欄、３行目「また、」以下なのですが、新規隊員の募集に当たり、雑誌への掲載を予定していた広告を無料のＳＮＳなどへの広告掲載としたため、不用額が生じた。事務事業評価を見ますと４年度に１名採用になったということだったのですが、応募は何名いたのでしょうか。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。
○政策財政課長（國分利則君）　応募の人数でございますが、３名でございます。
○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。
○６番（長嶺一也君）　応募３名のうち２名が不採用になったわけなのですが、合致する業務がなかったのか、それとも面接で評価で１名だけの採用だったのか、その経緯はどうだったのですか。
○委員長（大竹　惣君）　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　昨年度実施いたしましたのは、本郷焼の焼き物の継承というようなことで募集いたしました。そのミッションに対しまして３名の応募があり、選考の結果、当初から１名の予定してございましたので、２名については残念ながら辞訣となったというようなことでございます。
○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。
○６番（長嶺一也君）　分かりました。
　続きまして、事務事業評価のほうに移っていきます。３ページの廃棄物減量対策事業なのですが、２の事業実績の（３）、活動実績のところなのですけれども、黒ポツの４番目、不法投棄を抑制するために監視カメラ10基を設置したと記載になっております。これらの事業効果とか評価を教えていただきたいと思います。
○委員長（大竹　惣君）　暫時休憩します。

休　憩　　（午前１１時００分）

再　開　　（午前１１時０２分）

○委員長（大竹　惣君）　再開します。
　長嶺委員、これに関しましては衛生費になっております。款が違いますので、次回の質疑に回してください。
○６番（長嶺一也君）　失礼しました。担当課だけを見ていまして、すみません。
　では、続きまして、28ページ、公共交通利用促進事業ということなのですが、先ほど同僚議員の質問の中で運用に当たっては事業者とも協議しながらという、こんな話でございました。デマンド交通になった関係で運転手の負担が結構大きくなってきたのかなと思うのですが、その件に関しまして事業者のほうからどのような意見が出ているのでしょうか。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。
○政策財政課長（國分利則君）　運転者の負担でございますが、先ほども若干私説明いたしましたが、このシステムになって運行を始めた当初につきましては、やはりまず１点はシステムに慣れていない。この画面を通して実はルート出ますので、なかなかそれが慣れていないというのが１点でございます。
　あと、もう一点につきましては、フルデマンドになりましたので、当然なかなかその間の時間とい

いますか、今まである程度待合時間というのがございました。いわゆる何時から何時にある程度の発着時間決まっておりましたので、その時間がなかったというのが２点でございます。

当初やはり何か月かはそういったことで運転に慣れていない、さらにはそういった運転時間の休憩時間がなかなか取れないというお話をいただきましたが、現在ここ最近の打合せの中では徐々にそれも慣れて、運転手さんのほうもある程度この機械とうまく向き合えるようになったということで、当初のようなお話は伺ってございません。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　運用に慣れてきたということでよかったと思います。

あと、先ほど乗合率向上が課題というふうにもおっしゃいました。このＡＩシステムがちょっとよく私も分からないのですが、複数の乗車希望者がいて、その居住地を最短ルートで表示するとか、そういったシステムもあるのですか。

○委員長（大竹　惣君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　まさにそのとおりでございます。そこの中に、ルート上に、例えばＡ地点からＢ地点に行く場合、たまたまその路線に、その途中に１人の方が要望あればそこを乗り合わせていくとか、そういったシステムでございます。ただ、やはりそれにはフルデマンドであれば、希望される方につきましてはできれば時間どおりで、例えば10時であれば10時に出発したいという希望はあると思います。ただし、乗合率を高めるということは、例えばその間を10分なり15分にしたらいいのかとか、そういった課題もございますので、その乗合率とこのフルデマンドの利便性、これはしばらくどうすればいいのかというようなことがやはり課題だと思いますので、これは運用の中で徐々にいい方向に向かっていけるのかなと思ってございます。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　今現在、国交省でもタクシーの運転手不足の関係で乗合率についていろいろ検討しておりますので、その辺も参考になるものがあれば参考にしていただければというふうに思います。

続きまして、39ページ、消防団員活動……

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員、こちら消防費になっていますので、こちらも次回に回してください。

○６番（長嶺一也君）　失礼しました。

188ページに移ります。地域おこし協力隊事業、２の事業実績、（２）、指標の推移ですが、活動している隊員数の実績が７名のところ、卒隊後の移住隊員数が６というふうに１名ちょっと減っております。これにつきましては、定住促進のための町としてのサポートというのが足りないのではないかなとちょっと私はその辺思っているのですが、サポートはどのような形を取ってこられたのかお聞き

します。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。
○政策財政課長（國分利則君）　まず、この指標でございますが、７のＢが６となってございます。全国的に地域おこし協力隊の定住率と申しますか、これが大体６割から７割程度の発表がされております。美里はこれ以上でございますので、定着率については高いものかなと思っております。
　サポートでございますが、令和４年度のサポート体制としましては、民間１社、一般社団法人ございまして、その方は協力隊のＯＢ、ＯＧでもございますので、そういった方への、隊員でいる途中からいろいろな相談だったり、その定住に対する移住、定住の業務を行っておりますので、そういった相談体制を取って、例えば仕事をどうするのか、住まいをどうするのかと、そういった身近な相談もして定着率を高めているというようなところでございます。
○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。
○６番（長嶺一也君）　そのサポートは、ＴＯＲＣＨと協力隊だけではなくて、協力隊全員の集合でそんな意見交換をするとか、そういった場が設定されていますか。
○委員長（大竹　惣君）　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　令和４年度におきましては、定期的にそういった集まりは行っておりませんでした。不定期には行っておりました。そういった状況です。それを反省しまして対策を考えるというようなことでございます。
○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。
○６番（長嶺一也君）　その辺も踏まえて今後も進めていっていただければというふうに思います。
　次に、195ページ、同じく事業実績の指標の推移ですが、移住者61に対しまして定住者が57。この数字の差については、今の地域おこし協力隊の説明と同じになりますか。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　まず、ここの数字の内容でございますが、Ａの指標、移住者でございますが、町のこの移住の考え方は、町で現在移住者に対していろんな補助金を交付しております。その交付金を、補助金なり活用、さらには相談あった方についてのみを移住者としてカウントをしてございます。
　次のＢの定住者につきましては、現在町の若者定住住宅なり、そういった住宅政策も、定住に資するための補助事業を行っております。そういった事業を活用してここに、美里町に末永く定住された方をカウントしてございますので、協力隊につきましてはこれは町外からでございますので、あくまでも移住者というようなことでございますので、ここの数字の中には入ってございません。
○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。
○６番（長嶺一也君）　分かりました。
　最後に、213ページの戸籍住民基本台帳事業なのですが、２の事業実績、（３）、活動実績及び成果

のところなのですけれども、マイナンバーカードの件なのですけれども、令和４年度につきましてマイナンバーカードの健康保険証のひもづけの確認作業というのは実施したのかどうかちょっとお聞きします。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、総務課長、金子吉弘君。

○総務課長（金子吉弘君）　それでは、お答えいたします。

マイナンバーカードへの保険証のひもづけ作業でございますが、令和４年度においては実施はしておりません。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　分かりました。

以上で質問を終わります。

○委員長（大竹　惣君）　答弁の修正ありますか。

では、総務課長。

○総務課長（金子吉弘君）　答弁修正させていただきます。

すみません、保険証へのひもづけの作業はさせていただいておりますが、そのひもづけの確認作業がございます。これについては令和５年度で今実施しておるものですから、その部分についてはやっていないというふうなところでございます。大変失礼しました。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　分かりました。

以上で質問を終わります。

○委員長（大竹　惣君）　１番、櫻井幹夫委員。

○１番（櫻井幹夫君）　私からは、２点お尋ねをいたします。

55ページ、２款総務費、１項……

○委員長（大竹　惣君）　櫻井委員、どの書類のページ数だか教えてください。

○１番（櫻井幹夫君）　一般会計歳入歳出決算書。

○委員長（大竹　惣君）　どうぞ。

○１番（櫻井幹夫君）　55ページ、２款総務費、１項総務管理費、７目企画費、７節報償費、ふるさと納税謝礼、同じく13節使用料及び賃借料、ふるさと納税システム利用料について伺います。

ふるさと納税謝礼はいわゆる返礼品かと思いますが、返礼品で特に多いものは何でしょうか。

私が検索したサイトでは人気１位は馬刺しとなっていましたが、全体に占める割合はどのくらいでしょうか。

また、最高額、先ほどお伺いしました900万円を寄附いただいた方は返礼品として何を希望されたのでしょうか。

美里町のチョイスには、返礼品なし50万とか100万円というのを見ましたが、そういう方がいらっ

しゃるのでしょうか。

また、私が見たサイトでは、令和４年度のお米は終了となっていました。予定数がいっぱいになったということでしょうか。幾らを予定したのでしょうか。

先ほどリピート率を伺いましたが、繰り返し同じ返礼品を送っている先はありますか、お尋ねいたします。

○委員長（大竹　惣君）　櫻井委員、複数の質問なので、最後にまとめてもう一度伝えてください。まとめて１点何々、２点何々みたいな感じで。

○１番（櫻井幹夫君）　はい。１点は、返礼品で多いものをお願いします。馬刺しの全体に占める割合をお願いします。最高額を寄附された方の返礼品を教えてください。50万、100万という返礼品なしというのはあるのかどうかお尋ねをします。私が見たサイトではお米終了でしたが、予定数いっぱいなのでしょうか。予定数いっぱいであれば、幾らを予定されましたか。同じ返礼品を繰り返し送っている先というのはございますか。

以上です。

○委員長（大竹　惣君）　櫻井委員、６点でよろしいですか、６点の質問。

○１番（櫻井幹夫君）　はい。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　まず、返礼品で一番多いものでございますが、やはり馬刺しのセットでございます。割合としましてはあくまでも件数の割合でございますが、令和４年度につきましては57.5％、約半数以上が馬刺しというようなことでございます。件数は925件でございます。

あと、返礼品なしというのはあるのかということでございますが、先ほど申し上げました900万円の方につきましては返礼品はなしということで、寄附のみということでございます。

続きまして、お米のお話でございますが、終了ということで書いてあったということでございますが、あくまでも数量が幾らということではなくて、期間内に申し込んでいただくということであれば対応はできますので、期間を限ってございますので、いつからいつ、それ以外についてはちょっとできないということで終了というような形になります。

あと、リピーターの方、繰り返し送っていらっしゃる方いるのかということで、ございます。何件か毎年送られて、納付されている方いらっしゃいますので、そういった方はいらっしゃいます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　答弁者に申し上げます。ふるさと納税900万円、最高額を寄附した方は何の返礼品を求めていたかという部分。

○政策財政課長（國分利則君）　なしということです。

○委員長（大竹　惣君）　失礼しました。

櫻井委員。

○１番（櫻井幹夫君）　ごめんなさい、勉強不足で申し訳ないのですが、その返礼品なしというのは法的には何の問題もないのですか。
○委員長（大竹　惣君）　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　あくまでも個人の返礼品要らないということでございますので、問題はございません。
○委員長（大竹　惣君）　櫻井委員。
○１番（櫻井幹夫君）　すみません、繰り返しの方がいらっしゃるということでしたが、どのくらいいらっしゃいますか。
○委員長（大竹　惣君）　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　おおよその数でございますが、約410名程度が繰り返しということになります。
○委員長（大竹　惣君）　櫻井委員。
○１番（櫻井幹夫君）　承知をいたしました。
　続いて、システム使用料は、寄附金の額によって使用料が変動したりするのでしょうか。
○委員長（大竹　惣君）　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　当然利用額に応じた額ということになっておりますので、そういった今委員おっしゃるとおりでございます。
○委員長（大竹　惣君）　櫻井委員。
○１番（櫻井幹夫君）　変動するのであれば、幾ら上がるものなのですか。
○委員長（大竹　惣君）　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　その金額でございますが、実は令和４年度につきましてはサイトのほうを４つ増やして５つにしたということでございますので、その扱う会社、扱うサイトによっても率違いますので、幾らということではなくて、そのサイトごとに、その契約ごとにいろいろ変わりますので、一律ではございませんということでご理解いただきたいと思います。
○委員長（大竹　惣君）　櫻井委員。
○１番（櫻井幹夫君）　承知をしました。ちなみに高いところと低いところではどのぐらいの率が違うのでしょうか。
○委員長（大竹　惣君）　これ３回目ですね、２項目に分かれていたので。
　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　大体低いところで６％から、高いところで10％、その間で契約してございます。
　以上でございます。
○委員長（大竹　惣君）　３番、小柴委員。

○３番（小柴葉月君）　３点質問いたします。決算書48ページ、窓口業務委託料。２点目、決算書58ページ、あいづみさと移住支援金。３点目、同じく58ページ、若者定住住宅取得支援事業補助金、こちらと、２行下がって住宅取得支援事業補助金、こちらは併せて３点目で同時に聞かせてください。

では、１点目の決算書48ページ、窓口業務委託料についてです。こちら事務事業（事後）評価シート、214ページ見ますと、（３）の成果のところで、総合案内や証明書の発行等委託可能な窓口業務についてというところで書いてあると思うのですけれども、この証明書発行の部分で年間何件証明書を発行しているのか。これ別にトータルでいいので、何々証明書が何件とかでなくていいので、お聞かせください。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、総務課長、金子吉弘君。

○総務課長（金子吉弘君）　それでは、お答えします。

委託業務における証明書の発行件数についてでございますが、大変申し訳ございません、手元に詳しい資料を持ち合わせておりませんので、今の段階でちょっと詳しい件数について分からないといったところでございます。

○委員長（大竹　惣君）　小柴委員。

○３番（小柴葉月君）　承知しました。今すぐでなくていいので、後ほどできればまとめてもらって、資料いただければなと思います。何で私がこんなこと聞いたかというと、これ絶対に把握しておかなければいけないことだと思っていて、何でかというと、これからマイナンバーでコンビニ発行を行うではないですか。それで、この前提出してもらった資料で見ると、人件費のコスト削減を図るとおっしゃっているのだったら、窓口業務の証明書発行が年間どれぐらいで、１日どれぐらいで、１時間当たり何件来ていて、発行に当たって人件費が１枚幾らかかっているのかまで分かっていなければその提言はできないと思いますので、今後ちゃんとそこを見ていただきたいなと思います。後ほどでいいので、資料お願いします。ここ答弁結構です。

もう一点お伺いしますが、当初予算のときにおっしゃっていたことで、ゆびナビシステム導入とか、あと何かなるべく書かせないようにタブレット導入しますとかとおっしゃっていたような気がするのですけれども、私窓口で何回か行ったときにそんなことなかったので、これ実際にやっていたのかどうかだけ教えてください。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、総務課長。

○総務課長（金子吉弘君）　お答えいたします。

まず、お客様をお待たせしないような仕組みづくりの一環として、ゆびナビシステムということで導入してございます。ただ、これにつきましては、今のところの運用としましては、出生とお悔やみの部分だけでございまして、これを徐々に広げていけないかというところで今検討を重ねているというふうなところでございます。ですので、なかなか一般のその用途以外のお客様に見える化といいますか、そういったものがちょっとできていないのかなというふうに感じているところでございます。

○委員長（大竹　惣君）　小柴委員。
○３番（小柴葉月君）　承知しました。
　では、次に移ります。決算書58ページのあいづみさと移住支援金についてです。こちらが事後評価シートを見ますと195ページに入ってくると思います。先ほど相談件数とか交付件数があった場合のみ移住者カウントしますよと話があったと思うのですけれども、実際にこちらの支援金、支援事業を使った方が、相談数は何件あって、交付件数が何件あったのかお伺いします。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。
○政策財政課長（國分利則君）　相談件数と実績というようなことでございますが、それは３点でよろしい……
○３番（小柴葉月君）　これ１点目にしています。
○政策財政課長（國分利則君）　まず、移住支援金。
○３番（小柴葉月君）　そうです、あいづみさと移住支援金と。
○政策財政課長（國分利則君）　移住支援金につきましては、１件の方でございます。なので、相談も１件でございます。これは県外から美里町に移住される方の相談でございまして、そういった方が１件あったということでございます。
○委員長（大竹　惣君）　小柴委員。
○３番（小柴葉月君）　分かりました。これ相談数１件ということだったのですけれども、それは間違いないのですか。例えば問合せ部分とかでもいいのですけれども。何が聞きたいかというと、交付までは至らなかったけれども、これが活用できるのかな、私は対象になっているのかなという問合せあったかどうか。
○委員長（大竹　惣君）　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　実はこの事業につきましては福島県が行っている事業でございますので、例えば県外からの美里町に関する移住の相談はございます。ただ、この支援金をピンポイントでというのはなかなかいらっしゃらないということで、先ほど申し上げましたが、県外の例の相談に昨年度も、４年度についても相談行っておりますので、いろいろ相談受けておりますが、この支援金に関してはということで１件ということでご理解いただきたいと思います。
○委員長（大竹　惣君）　小柴委員。
○３番（小柴葉月君）　分かりました。何でこんなことを聞いたかというと、これやっぱり私何回見てもハードルが高いので、これは国がやっている事業だと思いますので、町で独自にというわけではないと思うのですけれども、やっぱりニーズに本当に合っているのかということが、確かなのかどうかというのが私はすごく疑問だったので、ちょっとここ詳しく聞いてみました。これで質問ここ終わります。
　最後３点目です。同じく58ページの若者定住住宅取得支援事業補助金と住宅取得支援事業補助金に

ついてです。こちらも同じく事後評価シート195ページに入ってくると思います。こちら２つ合わせて予算書、予算のときに合わせて27件の予定していますということだったのですけれども、結果、何件だったのか教えてください。

○委員長（大竹　惣君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　合計で申しますと34件でございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　小柴委員。

○３番（小柴葉月君）　分かりました。合わせて34件ということだったのですけれども、この実行評価シートの（２）のＡ、Ｂのところ見ると、23世帯と14世帯で合わせて37世帯になっていますけれども、あとの３世帯はどういう、後の３世帯は入っていないでしょうか。

○委員長（大竹　惣君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　あと、３件につきましては、空き家の購入された方ということになります。

○委員長（大竹　惣君）　小柴委員。

○３番（小柴葉月君）　ということは、ではここに入ってくる人たちはもうみんなお家を買った人……待ってくださいね。多分ここに入ってくる人たちは全員家を購入している人だと思うのですけれども、これ最後なので、ちょっと待ってくださいね。移住者が来たときに、家を建てるか、借りるか、実家に戻るかという３択が主にあると思うのですけれども、この結果を見ると全員家を建てるところに入っているというふうに見えるのですけれども、それは間違いないでしょうか。

○委員長（大竹　惣君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　そのとおりでございます。繰り返しますが、美里町は移住者の定義をそういうふうにカウントしているということでございますので、ですからこれが例えば県、国、ほかの市町村のここの数字は微妙に違っております。なぜかと申しますと、やはり例えば定住であれば、これはあくまでも町外の方が末永く美里に住んでいただくという数字でございますので、それには何かと申し上げたら、やはり家を新築なり、買ったり、そういうのが一番ではないかということで町はそういうふうにしているということでございますので、ご理解いただきたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　小柴委員。

○３番（小柴葉月君）　了解しました。町では定住とか移住とかの定義をそういうふうにしているよということだったのですけれども、町で置いている定義と現在のニーズが本当にマッチしているのかというのは改めて調査をしていかなければならないところだと思うので、そこを視野に入れながら今後期待しております。

以上です。

○委員長（大竹　惣君）　では、ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　ないようですので、これをもって１款議会費、２款総務費の質疑を終了いたします。

説明員入替えのため、11時45分まで休憩いたします。

休　憩　　（午前１１時３３分）

再　開　　（午前１１時４５分）

○委員長（大竹　惣君）　再開します。

次に、３款民生費、４款衛生費の質疑を行います。

質疑者は挙手にてお願いします。

１番、櫻井幹夫委員。

○１番（櫻井幹夫君）　３点お尋ねをいたします。決算書73ページ、３款民生費、１項社会福祉費、１目社会福祉総務費、18節負担金補助及び交付金の不用額、同じく79ページ、２項児童福祉費、１目児童福祉総務費、18節負担金補助及び交付金の不用額、同じく19節扶助費の不用額についてお尋ねします。

初めに、１項社会福祉費、１目社会福祉総務費、18節負担金補助及び交付金の不用額について、執行状況に関する説明書を見ますと、まず住民税非課税世帯に対する臨時特別給付金等として予算措置したが、家計急変のあった世帯数の申請件数が見込みを下回ったため、不用額が生じたとありますが、当初の見込件数と額、申請のあった件数と額を教えていただきたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、健康ふくし課長。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　不用残の内容についてということでお答えさせていただきます。

まず、給付金の中身についてでありますが、１つが令和４年度現年分の５万円の給付金、あと令和３年度繰越分として行いました過年度分という形になります。の給付金、こちらが10万円の給付事業になります。こちらの分について、まず4,500万分が過年度分で、1,700万分が現年度分という形の繰越しになります。細かい内訳の件数というのは、ちょっと数字持ち合わせておりませんでした。まず、現年度分について、351世帯分の１戸分が不用残が出たということでございます。あと、過年度分につきましては、令和３年度の事業ということで年度末近くに実施した経過がございます。繰越事業として申請者のほうが増えてくるだろうというふうにちょっと見越して繰越分を取ったのですが、申請者の方が３年度に多数申請されましたので、その分執行なしという形でなってしまったという形でございます。

○委員長（大竹　惣君）　櫻井委員。

○１番（櫻井幹夫君）　この申請に関しては、どのような周知を行ったのでしょうか。

○委員長（大竹　惣君）　健康ふくし課長。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　令和４年度事業につきましては、申請書該当する方にプッシュ方式という形で該当する方を抽出して、通知をさせていただきました。その際に申請書、承諾書、口座情報の提出をしていただくという形でやらさせていただきました。令和５年度とは若干違うやり方です。

○委員長（大竹　惣君）　櫻井委員。

○１番（櫻井幹夫君）　口座を届ければ自然に入金されるものなのか、その方法でよかったとお考えでしょうか。

○委員長（大竹　惣君）　健康ふくし課長。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　まず、申請をしていただかなくてもいいように、該当する方をこちらのほうで把握して、その方に対して口座情報が分からないという形がございますので、口座の申請だけをしていただければその指定の口座に振り込むという形。あと、家計急変世帯という方もおりました。その方については事前に把握することができませんので、申請をしていただいて、口座情報を教えていただいて振り込むという形に手続はなります。あくまで非課税世帯については事前に把握することは可能なので、その方については口座だけを教えてくださいねという形で対応をさせていただいたということでございます。

○委員長（大竹　惣君）　櫻井委員。

○１番（櫻井幹夫君）　次に移ります。

２項児童福祉費、１目児童福祉総務費、18節負担金補助及び交付金の不用額です。同じく説明書で、子育て世帯臨時支援事業として給付金対象世帯を最大限見込んだが、申請の実績が見込みを下回ったため、不用額が生じたとあります。見込んだ件数と申請のあった件数、金額を教えてください。

○委員長（大竹　惣君）　健康ふくし課長、平山正孝君。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　まず、子育て世帯生活支援特別給付金につきまして、見込んだ件数につきましては予算上で890世帯でございます。実際執行したのが710世帯ということになります。あと、そこに併せて過年度やはり繰越分というものがございます。その分については300世帯分ありまして、実際にあった……すみません。300世帯でありませんでした。30世帯ありまして、実際に申請があったのが３世帯というか、３人分ですね。申し訳ございません。世帯ではなくて、子育て世帯の場合は１人幾らという形で出しますので、まず現年分について890人分に対して711人分執行して、181人分が余ったと。過年度分については300万、30人分予算措置して、３人のみの申請であったということでございます。なお、過年度分というのは繰越事業の分になります。

○委員長（大竹　惣君）　櫻井委員。

○１番（櫻井幹夫君）　先ほどと似たような質問になりますが、周知はどのように行ったのでしょうか。

○委員長（大竹　惣君）　健康ふくし課長。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　こちらにつきましては、まず広報紙等でも周知は行っております。対象が一応児童手当と一緒なので、児童手当対象者と同じ方になっておりますので、広報等でも十分周知をして、もう対象者はこちらのほうで把握できておりますので、振込を直接児童手当に合わせて行っているという形でございます。
○委員長（大竹　惣君）　櫻井委員。
○１番（櫻井幹夫君）　把握して180件残ったというのは、対象ではない人がいたということでしょうか。
○委員長（大竹　惣君）　健康ふくし課長。
○健康ふくし課長（平山正孝君）　高校生の分になります。高校生について児童手当では把握できていないので、別途申請という形になりますので、その分が余ってしまったという形でございます。
○委員長（大竹　惣君）　櫻井委員。
○１番（櫻井幹夫君）　次に移ります。
　同じく19節扶助費の不用額についてですが、こちらが上記と異なりまして、説明書の記載がありませんでした。ご説明いただけますでしょうか。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、健康ふくし課長、平山正孝君。
○健康ふくし課長（平山正孝君）　扶助費についてでございますが、民生費、健康ふくし課の分とこども教育課に係る分２つございます。まず、5,500万の不用額につきましてはちょっと……申し訳ございません。載せなかった理由ということでございますが、内訳につきましては執行率が80％を下回っていないということで記載をしなかったということでございます。
○委員長（大竹　惣君）　ちょっと待ってください。健康ふくし課長、内訳の部分も答弁お願いします。
○健康ふくし課長（平山正孝君）　内訳はあっちなのです。こども教育課のほうでお願いします。
○委員長（大竹　惣君）　それでは、内訳の部分答弁お願いします。
　こども教育課長。
○こども教育課長（渡部雄二君）　こども教育課としましては、子どものための教育・保育給付費におきまして、当初予算と比較しまして1,000万程度の残額が出ております。この内容につきましては、子どものための教育・保育給付費につきまして、入園者の人数掛ける公定価格、そこから利用者負担額を引いて求められるものでございますが、入園児童者数の減少のためにこのように残額が生じたものでございます。細かく言いますと、やはりゼロ歳児とかの途中入園及び転入等について当初見込んでいたものより人数が減ったもので、予算の残が発生したものでございます。
　以上でございます。
○委員長（大竹　惣君）　櫻井委員。
○１番（櫻井幹夫君）　最初の答弁で執行率が80％を下回っていないから説明する必要がないという

ことだったので、今ご説明いただいたのも5,500万のうちの1,000万分しかなっていないのですけれども、これ以上は説明できないということになるのでしょうか。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　まず、この執行状況に関する説明書のほうから若干説明させていただきます。ここに記載するルールといたしましては、予算書における節単位で、執行率が80％未満かつ50万以上の執行未済がある場合は記載させていただきますので、例えばこの場合ですと節のそもそもの予算額が大きいもので、執行率について80％下回っていないということですので、記載していないということでございますので、この表の中には。説明しないということはまた別の次元でございますので、あくまでもこの表に載せなかった理由は以上のような理由でございます。ただ、中身についてはちょっと。それについては以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　お諮りいたします。

間もなく昼食の時間になりますが、櫻井委員の質疑が終わるまで延刻としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　それでは続けます。

櫻井委員。

○１番（櫻井幹夫君）　それでは、5,500万のうちの1,000万は理解したので、残り教えていただけませんか。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。

○こども教育課長（渡部雄二君）　先ほど櫻井委員のご質問で、私1,000万の差ということで答弁したのですけれども、予算と決算の差額は4,800万でございまして、1,000万というのは昨年度との比較でございました。大変失礼いたしました。

○委員長（大竹　惣君）　ここで、午後１時まで休憩いたします。

休　憩　　（午後　零時００分）

再　開　　（午後　１時００分）

○委員長（大竹　惣君）　休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

３款民生費、４款衛生費の質疑を引き続き行います。

質疑者は挙手にてお願いします。

６番、長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　それでは、事務事業評価の３ページ、廃棄物減量対策事業の監視カメラの部分について。あと……

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員、もう一度お願いします。

○６番（長嶺一也君）　事業評価の３ページ、廃棄物減量対策事業の監視カメラの部分。あと、59ページ、食育事業の「お米」に関する食育事業。あと、予算執行状況に関する説明書、２ページ目の一番上、負担金補助及び交付金の説明の「また､」以下の部分につきまして質問いたします。

まず最初に、廃棄物減量対策事業、２、事業の実績、（３）、活動実績の中で、不法投棄を抑制するために環境整備として監視カメラ10基を設置したというふうな実績が記載されていますが、このカメラを設置することによって不法投棄をしているような方を画像として映された実績はあったのでしょうか。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、町民税務課長、猪俣利幸君。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　お答えいたします。

町では、過去に不法投棄が複数回繰り返されている地域、または不法投棄の監視員が巡回して、ここはちょっとされやすい場所だというようなところに、そちらのほうに監視カメラを新たに設置してございます。やはりその抑止効果というものについてですけれども、やはりあえてカメラがついているところで本当に投棄されるというケースはほぼ皆無と言っていいような状況でございまして、これまでそのカメラに投棄された犯人等の画像というものは、そういうものは確認した実績はございません。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　抑止力効果が結構あるというような評価ですけれども、その抑止力効果について具体的にどのように判断されているのか改めてお願いします。

○委員長（大竹　惣君）　町民税務課長。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　お答えいたします。

監視カメラの設置を町で導入したと。始めたのが令和元年度でございます。それ以前につきましては、やはり不法投棄の件数が平成26年、27年頃なんかが100件を超えているようなこともございました。それはやはり全てが監視カメラの要するに抑止効果とは申しませんけれども、令和元年度以降は20の前半の件数に抑制されているというようなことでございます。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　分かりました。ありがとうございました。

続きまして、59ページの「お米」に関する食育事業なのですが、どういった内容で子供たちに教えていたのかちょっとお聞かせください。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、健康ふくし課長、平山正孝君。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　どういった指導の方法をしていたかという形だと思います。まず、食育の活動については子供だけではなく、成人のほうも行っております。子供に関しては、こども園等に出向いて事業の実施を行っているところでございます。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　分かりました。昨今米の消費が低迷している中で、米は太りやすいなんていうような誤った報道なんかもなされているものですから、それを抑止するための食育事業をやっているのかななんて思ったのですが、内容的にはそういったことはなかったのですか。
○委員長（大竹　惣君）　健康ふくし課長。
○健康ふくし課長（平山正孝君）　お米の栄養価とかそんな難しい話ではないですけれども、お米ができるまでとか、そういった子供たちに、こういった苦労があってできているのだよと、だからおいしく食べましょうねというような内容となります。
○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。
○６番（長嶺一也君）　分かりました。次に移ります。
　歳出予算執行状況に関する説明書の２ページ、「また、」以下なのですが、年度途中からの看護師配置となったが、不用額が生じたということだったのですけれども、これ年度途中のいつから配置になったものなのでしょうか。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。
○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまのご質問にお答えします。
　民間の認定こども園は２園ございますので、１園につきましては10月、あともう……どちらもですね。すみません。２園両方とも10月からの雇用になってございます。
○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。
○６番（長嶺一也君）　民間認定こども園が採用する看護師ですから、採用に当たって行政側はそんなに口出しはできない立場かとは思います。そうであっても、例えば予算ができた、可決された時期くらいに、事前に認定こども園と行政とが協議して、来年度から看護師配置の予算つけるから早めに採用手続というか、そういうのをやってくれというようなことはやっていなかったのですか。
○委員長（大竹　惣君）　こども教育課長。
○こども教育課長（渡部雄二君）　民間認定こども園との連携につきましては、できるだけ速やかに連絡を取っておりますので、当初予算が成立しましたらその旨お知らせしているところでございます。
○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。
○６番（長嶺一也君）　民間医療機関も看護師不足というのが叫ばれているわけなのですが、やはりそういう状況だからハローワークに採用の手続をやっても人が集まらなかったという評価ですか。
○委員長（大竹　惣君）　こども教育課長。
○こども教育課長（渡部雄二君）　今、委員おただしのとおりでございまして、なかなかハローワーク等に募集というか、かけましてもなかなか集まっていただけない状況でございまして、今ほど民間の認定こども園の病児保育の看護師さんにつきましては11月の雇用ということでお話ししたのですが……

〔「10月」と言う人あり〕

○こども教育課長（渡部雄二君）　すみません。10月ということで答弁したところなのですが、公立のほうも年度当初から募集をかけておりましたが、やはり７月ぐらいまで見つからなかったというのが現状でございまして、非常にこういった専門職の方の人材がなかなか不足しているというのが現状でございます。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　分かりました。

質問を終わります。

○委員長（大竹　惣君）　では、７番、村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　それでは、１点質問させていただきます。

決算書92ページ、衛生費の中で清掃総務費の18節負担金補助及び交付金の中の備考欄の中で、ごみステーション設置費補助金38万1,000円、こちらの件数を１点。

また、事後評価シートのほうから、（３）の活動実績の中で、生ごみ処理機等の購入に対する補助金として13件……

○委員長（大竹　惣君）　村松委員、ページ数お願いします。

○７番（村松　尚君）　すみません。事後評価シートは３ページです。３ページの廃棄物減量対策事業であります。その中の（３）番、活動実績の中においては、生ごみ処理機等購入に対する補助金13件、31万6,800円を交付したとなっております。こちらのほうは、電動生ごみ処理機とコンポストを合わせた金額なのか。

また、もう一点としては、これを行うことによって廃棄量、生ごみを出す量、そのごみの総体的な出る量というのはどのくらい下がったと効果を認識していらっしゃるのか、以上３点お願いいたします。

○委員長（大竹　惣君）　村松委員、ちょっと整理したいと思うのですけれども、最初に決算書の92ページのほうから通告がありましたけれども、これは……

○７番（村松　尚君）　こちらについては、補助金の中のごみステーション設置費補助金です。

○委員長（大竹　惣君）　では、これと事務事業評価シートのほうとはまた別な質疑ですか。

○７番（村松　尚君）　また別です、別です。

○委員長（大竹　惣君）　では、１点目からお願いします。

○７番（村松　尚君）　１点目としては、決算書の92ページ、負担金補助及び交付金の補助金の中のごみステーション設置費補助金38万1,000円、こちらのほうの申請件数を１点目教えていただきたいと思います。

２点目につきましては……

〔「１つずつ……」と言う人あり〕

○７番（村松　尚君）　１つずつですか。

○委員長（大竹　惣君）　はい、そうです、１つずつです。

答弁、町民税務課長、猪俣利幸君。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　お答えいたします。

ごみステーションの設置数ですけれども、全部で４か所でございます。４地区でステーションを新規に設置してございます。

○委員長（大竹　惣君）　村松委員。

○７番（村松　尚君）　１点目については確認できましたので、結構であります。

それでは、２点目でありますが、こちらは事後評価シートの３ページの（３）番、生ごみ処理機等購入に対する補助金13件、31万6,800円とありますが、こちらについては先ほどお話ししたとおり、電動生ごみ処理機プラスコンポストを含んだ総件数であるのか、それとも別々であるのか、内容を教えてください。また、それに併せて効果のほど、どの程度の効果が見込めたのか、その辺を教えてください。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、町民税務課長、猪俣利幸君。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　お答えいたします。

13件は、コンポストと電動生ごみ処理機の合計でございます。内訳でございますが、コンポストにつきましては５件、それから電動生ごみ処理機については８件ということでございます。

その次の生ごみ処理機の導入による効果ということでございますけれども、やはり燃えるごみが相当、３割から４割程度は生ごみというふうに言われています。その８割はやはり水分というふうに言われてございます。全体的なその導入の効果というものは、ちょっとまだこの時点で私ども実は把握はしてございませんけれども、いわゆる電動生ごみ処理機の効果ということでございますけれども、やはり乾燥型、電気で乾燥するタイプというのは、やはり生ごみを80％減量させるというような効果、２割まで減量させると。それから、ハイブリッド型ということで、こちらのほうは一旦熱で乾燥させて培養させると。それで、堆肥化ということで肥料にするというものについては、実は95％減量することができるというふうに言われています。残りの５％は肥料として堆肥として畑のほうで、菜園のほうに利用されるということで、実質ゼロになるというような効果がございますので、こちらについては強力に今年度も進めているところでございます。

○委員長（大竹　惣君）　村松委員。

○７番（村松　尚君）　強力に推し進める、当然最終評価としてもコストの方向性的には拡大というふうにうたっております。ただ、一つの家庭の中でどのぐらいの水分量が減ることによってごみの量がどのぐらい圧縮できるかという部分まで見据えていかないと、ただ単に台数は補助金出しているので、総数が減っていますではあまり身近に感じないと思うのですけれども、その辺についてどうお考えか伺います。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、町民税務課長。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　お答えいたします。

令和４年度の１日１人当たりのごみの排出量というものが、１人当たりやはり１キロくらいになるということでございますので、そのうち生ごみの量を４割というふうに想定した場合については、独り家庭というのはないでしょうから、３人の家族ということでございますれば、大体１日やっぱり1.2キロぐらいの生ごみが出されると。その電動生ごみ処理機を使うことによりまして、その８割から、本当にハイブリッド型ですと10割ということで、かなりの減量効果というものが期待できるというふうに考えてございます。

○委員長（大竹　惣君）　村松委員。

○７番（村松　尚君）　今ほど課長の答弁にもありましたとおり、やはりそれだけの効果がしっかり出ていると。ましてやコストの考え方だけでもやはり拡大の方向というふうにして見ている以上は、しっかりとしたそういう予算つける上で効果を身近に感じられるような周知方法、住民の方に対する周知の仕方ということが、やはり住民の方々がこういったコンポストであったり、電動生ごみ処理機購入の補助金を使おうという意識の変化になると思いますので、その辺をしっかりとやっていただきたいと思うのですけれども、最後にそこだけお伺いします。

〔何事か言う人あり〕

○７番（村松　尚君）　ちょっと難しいな。

○委員長（大竹　惣君）　要望だとそれで終わりにします。

○７番（村松　尚君）　では、いいです。

以上です。

○委員長（大竹　惣君）　13番、根本謙一委員。

○13番（根本謙一君）　質問させてもらいます。２点お伺いします。まず、成果説明書で28ページ、民生費、児童クラブ管理運営事業について。次が成果説明書の30ページ、衛生費、健康づくり推進事業について伺いたいと思います。

まず１点目いいですね。

○委員長（大竹　惣君）　はい。

○13番（根本謙一君）　児童クラブの管理運営事業で、実績を見ますと待機児童６名が出たということです。基準審査をした結果そうなったと。当然これは定数以上だからということだとも思われますけれども、少し詳細な説明をお願いしたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。

○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまのご質問にお答えいたします。

待機児童６名の詳細についてというご質問でございます。こちらの成果説明書に記載ありますとおり、高田児童クラブにおきまして高学年６名が待機児童という状況になってございます。高田児童クラブにつきましては、高田児童館、高田児童クラブ館、高田小学校ということで３か所を使ってやっ

てございます。定員につきましては合わせて115名でございますが、実際定員はおおむねということでやってございますので、それより若干多く登録をしているところでございます。ただ、この６名の児童につきましては、やはり審査票によりまして家庭の状況なんかを詳しく調べたところ、実際両親は当然お仕事されているわけでございますが、祖父母等が見れる状況にあるということで、こちらの６名については待機をしていただいているという状況でございます。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　待機をしていただいているという説明ですけれども、待機というのは空いたら入れますよという意味もありますよね。それから、家庭環境が変わった場合は入れますよというふうになるのか。ただ、この実績の説明見ますと、定数以上になったから基準審査した結果、６名が待機児童になったというふうに読めるわけです。定数内ではあるけれども、厳密な基準審査をしたら６名の待機児童が結果として出たということなのか、そこがきちんと見えない。それを聞きたかったのです。今の話ですと、待機してもらった。ということは、待っていてもらったという意味合いにもなりますから、そこを少し分かりやすく説明していただけませんか。

○委員長（大竹　惣君）　こども教育課長。

○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまの再質問にお答えいたします。

　非常に私の説明が分かりにくくて申し訳ございませんでした。待機児童６名でございまして、こちらの成果説明書に記載がありますとおり、定員よりはるかにオーバーしている状況でございまして、中でもその審査票によりまして審査をしたところ、こちらの６名の方、実際私の説明があれだったのですけれども、６年生でも入れている児童はいるのですが、そちらについてはやはりひとり親であったりとか、そういった状況がこの６名の児童と違いますので、実際は学年が上であっても何とか、定員オーバーしている状況でありますが、そこまで見られている状況ではあるのですが、この６名の児童については待機状況になっているという状況がございます。

○委員長（大竹　惣君）　こども教育課長、もう一度簡潔に分かりやすくお願いします。

○こども教育課長（渡部雄二君）　申し訳ございません。仮に空きが出れば、この６名につきましては入れる状況でございます。

○委員長（大竹　惣君）　ちょっと待ってください。こども教育課長、待機してもらっている状況になっているの、どういういきさつでなっているのかという部分ですか。厳密な審査をしっかり行ってなっているのか、それともそこまでしなくてもある程度数の上で決めてしまっているのかとか、その辺ちょっと具体的に教えてください。

　こども教育課長。

○こども教育課長（渡部雄二君）　審査はしておりまして、ただ定員に対してもちろん申請者は圧倒的に多い状況でございます。児童クラブのほうと協議をして、これだけは受け入れることは可能ですということで、その人数が実際の定員よりも若干多くなってございます。ただ、その中で細かく審査

をして、学年が上であっても、６年生であっても、お家でも誰も見れる方がいないので、はじかれているというのは言葉は悪いのですけれども、入れている。それより学年の下の４年生、５年生が、家庭の状況で入れていないというような結果になっているということでございます。

○委員長（大竹　惣君）　では、根本委員、もう一度質疑してください、回数には入れませんので。

根本委員。

○13番（根本謙一君）　ご配慮ありがとうございます。ちょっと答弁が混乱してきているなと思います。６年生で６名待機者がいますという説明だったと思います。それが今の説明ですと、４年生、５年生と言ったかな。で待機者が出ているのだという説明されたと思います。つまりここで押し問答したくはないのです。そんなこと私聞きたくて質問したのではなくて、結局基準があって、しっかり定数内でも基準に沿わなければ受け入れられないということってあり得るわけです。ところが、今の話だと定数ちょっとオーバーでもやっぱりその基準にかなって受け入れざるを得ないから若干多くは登録していると。ですから、受け入れる体制を取っていますと。これはすばらしいことだと思うのですね、対応は。柔軟にやっているなという印象です。その中で、３年度は待機児童ゼロといって出ているわけです。４年度は６名。ですから、この６名の詳細はどうなっているのですか、本当に基準でしっかりやられて、オーバーでも多少は受け入れるけれども、それでもやっぱり我慢してもらわなければならないのが６名だという受け止め方でいいのか、それも６年生というたしか説明されたと思いますけれども、そこをでは初めに確認させてください。

○委員長（大竹　惣君）　こども教育課長。

○こども教育課長（渡部雄二君）　大変分かりにくくて申し訳ございません。まず、待機児童の６名につきましては、４、５年生で６名でございます。６年生の待機はおりません。定員に対して先ほど委員がおただしのとおり、実際に登録している子はそれより10名近くオーバーしておりまして、できるだけ受け入れるというような体制を取ったところでございますが、それでも審査の結果、この６名につきましてはお家で見れる方もいるということで待機となっている状況でございます。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　もうこれでやめます。それならば基準に合っていないわけですので、それは待機とは言わないほうが私はいいと思います。それを待機と言ってしまうから何とかフォローしてあげられないのかなというふうに町民は思うし、我々も思うのです。そこは表現方法ちょっと変えられたほうがいいのかなというふうに思います。考えていただきたい。

○委員長（大竹　惣君）　こども教育課長。

○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまの待機児童の捉え方でございますが、こちら県の待機児童に関する調査の表現といいますか、そちらに合わせての待機という状況で捉えているところでございます。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　分かりづらいですよね。これは、考えていただくしかないと思います。分かりました。

　では次、２点目の質問に参ります。30ページ、成果説明書です。健康づくりの推進事業での説明見ますと、実績として見ますと、推進員がお二人おられて、地区担当の保健師と連携して相談事業、健康相談等を地区開催やられた。要望はなかったけれども、２回実施されたということだと思います。これ要望されないとやらないのか。コロナ禍ですので、どこでもというわけにいかなかったのでしょうけれども、そういうシステムには、仕組みにはなっていないのかどうか、４年度について伺います。

○委員長（大竹　惣君）　健康ふくし課長、平山正孝君。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　まず、要望がないとやらないのかという点、健康づくり推進員の活動の中にいろいろ事業がございます。どういうことをやりたいかという形のものをやはり言っていただく必要がありますので、一応要望という形で承っております。そういう形で事業の実施をしております。今コロナ禍のために、これは健康づくり相談、あと教室という形で、これ各２名なのですけれども、２地区、両方、２地区、２地区の４地区で４名の推進員さんが事業を実施していただけたということでございます。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　ですから、やっていることはすばらしいのです。もっとやってほしい。要望も上がってほしい。だから、そういうのを積極的に声かけて開催できるようなことに持っていってほしいのだと思うのですけれども、実際はこれ２地区でやったのですよね。でも、要望がないにもかかわらずやったのですよね。やられたのですよね。ですから、そのことを伺ったわけです。

○委員長（大竹　惣君）　健康ふくし課長。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　申し訳ありません。一応この４地区については、すみません、要望があった形です。申し訳ございません。ほかの地区、百二十何名健康づくり推進員さんいらっしゃいます。そのほかの部分について要望がやはりなかったという形のちょっと記載の説明が足りなかったということでございます。この４地区については、要望があって実施したということでございます。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　了解します。つまり要望がないとやらないというよりも、要望があってやる事業なのだというふうにやられてしまうとどうかなというふうにも考えます。その辺は課題として考えられないのでしょうか。いや、もったいない。内容はすばらしいのですから、やっていることは。そういう検討は４年度にやられなかったのか。

○委員長（大竹　惣君）　健康ふくし課長。

○健康ふくし課長（平山正孝君）　４年度につきましては、あくまで地域の自主的活動という形で捉えておりました。地区の皆さんと協議していただいて、どういうことを健康づくりとしてやりたいかということをまとめていただいてこちらのほうに要望していただく、そのニーズに応えるという形で

対応しておりましたので、そういった形で対応していました。

〔何事か言う人あり〕

○健康ふくし課長（平山正孝君）　今後、前年度についてはコロナ禍等もあって、過去３年間なかなか事業が実施できておりませんでしたので、どうしていくかということについては検討をしているところでございました。新たに内部で協議をして対応等は検討しております。

○委員長（大竹　惣君）　３番、小柴委員。

○３番（小柴葉月君）　２点質問させてください。決算書90ページ、アメシロ防除機格納庫開閉委託料。２点目が事後評価シートに移って３ページです。

　では、まず１点目の決算書90ページのアメシロの防除機について質問いたします。こちらアメシロの防除機自体が年間何回使われていて、１回の使用時間がどれぐらいなのかということと、あと土日、祝日、平日のいつが一番多いのかお聞かせください。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、町民税務課長。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　お答えいたします。

　アメシロの防除の作業でございますけれども、昨年76地区で実施しておりまして、基本的には年２回の実施になりますので、その倍の数字がこの貸出しを実施しているところでございます。

　あと、時間ですけれども、大体地区の大きさによりますけれども、半日です。時間については、約半日で作業が終了します。それから、やはり皆様も区長さんだとかいろいろお仕事もございます。役員の方もございますので、やはり土日に集中するというのが傾向でございます。

○委員長（大竹　惣君）　小柴委員。

○３番（小柴葉月君）　分かりました。やっぱり土日に集中するということで、76掛け２で150回ぐらい年間に使われるものが土日に集中してくるってことは、１回の貸出しにつき半日使うということは、結構土日に使いたいけれども、なかなか土日に使えない、都合が合わないってことが予測されるかなと思います。その点は実際どうなのでしょうか。

○委員長（大竹　惣君）　町民税務課長。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　アメシロ防除機につきましては、現在町で６台稼働してございます。６台の貸出しを実施してございまして、１台予備の機種がございますので、全部で７台を所有していますけれども、実際に動かしているのは６台ということでございまして、その中でこの申込みの受付が５月から開始します。役場の庁舎のほう各地区ごとに抽せん会というものを実施しまして、あらかじめ希望日を聞きまして、やはりちょっと複数がバッティングしてしまうと、重なってしまった場合については、申し訳ないけれども、そこは抽せん棒で抽せんを行ってその日にちを最終的に決定しているというところでございます。

○委員長（大竹　惣君）　小柴委員。

○３番（小柴葉月君）　実際にそれで問題が今のところないのであればいいかなと思うのですけれど

も、実際に今年からシルバーさんのところ使えなくなってしまったではないですか。多分今後もっと町で持っているアメシロ防除機を貸し出す回数がめちゃくちゃ増えてくると思うのです。そうなったときに、今抽せんで行っていて何とかトラブルなくできているところが、なかなかできてうまくいかないという部分が考えられるので、その点の対処方法を多分今一生懸命考えられていると思うのですけれども、今年みたいにかなりぎりぎりになってとかではなくて、前もって丁寧に説明するとか、そうした工夫をしていって、トラブルなくアメシロ防除に皆さんが努めるようになっていけるようにしていただきたいなと思います。答弁結構です。

次に移ります。事後評価シートに移りまして３ページです。こちらちょっと確認なのですけれども、（３）の活動実績のところの一番下の行に、事業系廃棄物減量のため、町廃棄物収集許可業者との意見交換会というふうにあるのですけれども、こちらは清掃総務費の具体的に何費に入っていて、内容としてはどんなものなのでしょうか。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、町民税務課長、猪俣利幸君。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　町の収集許可業者と予算書の清掃費等とのこの関係でございますけれども、こちらの関係はございません。と申しますのは、あくまでも予算書の塵芥処理費の収集運搬委託料につきましては、あくまでも許可業者というよりも町の業務を１社に委託しているということでございます。収集業者に委託しているということでございます。また、ここにある町廃棄物収集業者、許可業者というのは、要するに町はそのほかに事業系の一般廃棄物を収集する業者、そちらのほうに許可を出しまして、そちらのほうはあくまでも事業者、民間の企業者との契約で収集運搬業務を委託するということで、こちらの許可業者については町のほうではこちらのほうに収集業務を委託しているものではございません。

〔「具体的にどんな内容」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　答弁者に申し上げます。具体的な内容の部分、もう一度答弁お願いします。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　すみません、許可業者と何を話したかということでございますか。どのような打合せをしたという……

〔「だって、意見交換会って書いてあるじゃない」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　休憩します。

休　憩　　（午後　１時４３分）

再　開　　（午後　１時４３分）

○委員長（大竹　惣君）　再開します。

答弁、町民税務課長。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　予算書との関係ということでございます。許可業者につきましては

予算書の……すみません、失礼しました。決算書ですね。すみません。決算書の18ページの歳入に関連してございます。18ページの13款２項２目衛生手数料の１節保健衛生手数料、こちらの廃棄処理許可手数料16万9,260円というふうにございますけれども……

○委員長（大竹　惣君）　答弁者に申し上げます。手数料の話ではなくて、意見交換会で出た具体的な内容の部分で答弁お願いします。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　失礼しました。一昨年町内のごみの排出業者、量が多い、排出量の多い事業者との意見交換をいたしまして、その協議結果に基づきまして収集許可業者を町のほうに招集しまして、そちらのほうで、許可業者は事業系の一般廃棄物を収集、運搬する際にやはりきちっと事業者からの廃棄物を収集する際の共通のルールをつくると。あくまでも水切りというか、その分別、要するにごみを適正に廃棄されない場合については、そこはやはり厳しく収集しないとか徹底してもらうというようなことで、そういうようなところで協議を行ったところでございます。

○委員長（大竹　惣君）　小柴委員。

○３番（小柴葉月君）　分かりました。

　３ページの３の最終評価のところ見ると、事業系ごみの中で最も多い書類や段ボール類というふうに書いてあったのですけれども、これはあくまでも事業系ごみの話で、生活系ごみでは別にそういった書類とか段ボール類、紙類とかのそういった課題とかというのは数字的にはないのでしょうか。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、町民税務課長。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　家庭系のごみでございますけれども、燃えるごみの中にはまだまだ、令和４年度の組成調査の結果でございますけれども、やはり燃やせるごみの中に約50％のそういう容器包装類の、これビニール系、それから紙類が混入しているというような結果が出てございます。また、３成分の調査につきましても、水分が54％を占めているということでございますので、やはりさらに資源ごみの分別を徹底していただくと、それから生ごみの水切りをしっかりしていただくというところが課題であるというふうに考えております。

○委員長（大竹　惣君）　小柴委員、恐らく答弁内容とか、質疑内容が伝わっていないと思うので、もう一度質疑を許可しますので、もう一度分かりやすく……

○３番（小柴葉月君）　でも……

○委員長（大竹　惣君）　大丈夫ですか。

○３番（小柴葉月君）　そうですね。

〔何事か言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　では、やってください。

　小柴委員。

○３番（小柴葉月君）　大体私は分かったので、これいいです。それで、結局何を質問したかったかというと、多分今課長の答弁聞くと、ここには事業系ごみの中で最も多い書類や段ボールと書いてあ

るけれども、でもこれは事業系に限らず、生活系ごみの同じ課題でもあるよという答弁だったと思うので、私はそう受け取って、何が質問したかったかというと、50％生ごみ、50％紙とか段ボール類だという話だったのですけれども、その50％の生ごみに関しては生ごみ処理機の補助金を出していたりとか、水切りだって一生懸命広報で周知してきたりとかしているなというふうな印象もありますし、ちゃんと町民にそれが満遍なく伝わっているなという手応えも私は何となくあるのです。ただ、やっぱりもう一個、50％の段ボールとリサイクルできる紙類の周知とか雑紙の扱い方、捨て方というのは、何かあんまり、結構見落としているのではないかなという印象があったので、そういう認識を持たれているのであればそういった視点からも取り組んでいっても、生ごみ、生ごみだけではなくて、もう半分のほうにも事業系と併せて家庭系のほうも気にしていってはいかがかなと思って質問をいたしました。答弁結構ですので、了解しました。

以上です。

○委員長（大竹　惣君）　ほかに質疑はございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　ないようですので、これをもって３款民生費、４款衛生費の質疑を終了いたします。

説明員入替えのため、２時５分まで休憩いたします。

休　憩　　（午後　１時４９分）

再　開　　（午後　２時０５分）

○委員長（大竹　惣君）　再開します。

まず、先ほどの２款総務費の小柴委員の質疑の中で、各証明書等の交付の部分の件数に対する質疑の準備が整いましたので、この答弁を許可していただきたいという申出がございましたので、これを許可します。

答弁、総務課長、金子吉弘君。

○総務課長（金子吉弘君）　それでは、先ほど総務費の中の質疑の中で、小柴委員から窓口業務委託事業に関します窓口業務におけます証明書の発行件数はというふうなおただしがあったわけでございますが、それにつきましてご報告させていただきたいと思います。

お手元の資料を御覧いただきたいのですが、まず本庁舎の分でございます。赤枠で囲った合計件数がございますが、本庁舎におきましては5,731件でございます。１枚おめくりいただきまして、次に本郷支所の実績を載せてございます。本郷支所につきましては、合計で2,061件でございます。最後に新鶴支所でございますが、合計で1,161件でございます。先ほど質疑の中でお答えできずに大変申し訳ございませんでした。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　大丈夫ですか。

〔「はい」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　それでは、次に移ります。

５款農林水産業費、６款商工費、７款土木費の質疑を行います。

質疑者は挙手にてお願いします。

６番、長嶺一也委員。

○６番（長嶺一也君）　それでは私からは、事業評価の123ページ、森林病害虫等防除事業、あと136ページ、観光誘客事業。あと、予算執行状況に関する説明書の３ページ、土木費の職員手当等、負担金補助及び交付金につきまして質問させていただきます。

まず最初に、事業評価表の123ページ、２、事業の実績、（３）、活動実績及び成果、活動実績で地上散布実施面積18.16平米と、こう書いてあるのですが、この面積って住宅でいえば12畳程度なのです。それに関して350万も使ったのですか。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　おただしにお答えさせていただきます。

この面積につきましては、単位がヘクタールでございます。大変申し訳ございません。18.16ヘクタールが正解でございます。申し訳ございません。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　分かりました。

この防除作業なのですが、対象の樹木はナラ枯れでよろしいのですか。

○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　対象としましては、松くい虫になります。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　10年くらい前から会津方部の森林ではナラ枯れが結構広がっていたものですからナラ枯れかななんて思ったのですが、松くい虫ですね。はい、分かりました。

それで、これもこの場所、地域的にはどの辺になるのでしょうか。

○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　場所は、白鳳山公園になります。ここが薬剤防除の対象地ということになります。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　分かりました。

続きまして、136ページ、観光誘客事業に行きます。同じく２、事業実績の活動、（３）、活動実績及び成果のほうの成果のところなのですが、黒ポチの一番下、人気ゲームと連携したことで、ゲームファンに向けて効果的に向羽黒山城跡のＰＲができたと、こう書いてあります。ゲームファンのアク

セスについては昨日政策財政課長のほうから説明を受けたところなのですが、これＰＲができただけで終わっているのですか。それでもっと観光客を取り込むとか、そういったことはやらなかったのでしょうか。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。
○産業振興課長（小林隆浩君）　令和４年度につきましては、この動画で山城の専用サイトですとかアプリなどをつくりまして、まずはＰＲをするということで、本当に今年度から、こういったものでお客さんに来ていただくようなＰＲ活動で多くの誘客に努めるといったような考えでございます。
○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。
○６番（長嶺一也君）　今後の対応ということでこの場では質問はできませんけれども、よく検討してやっていただきたいと思います。
　続きまして、予算執行状況に関する説明書の３ページ、土木費の職員手当等なのですが、オペレーターの時間外勤務手当等に不用額が生じたということなのですけれども、このオペレーターに対する、前にも聞いたような記憶もあるのですが、オペレーターの待機時間に対する手当があるのですか。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、建設水道課長、加藤定行君。
○建設水道課長（加藤定行君）　お答えいたします。
　オペレーターに関しましては、待機等の手当等は一切ございません。
　以上でございます。
○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。
○６番（長嶺一也君）　分かりました。待機時間に対する手当については、県はあるものですから、町もあるのかななんて思って質問したのですが、町はないのですね。分かりました。
　昨シーズンは雪が少なかったということで、オペレーターも除雪だけではなくて、除雪以外の業務もやっていたかと思うのですが、具体的にどんな仕事をやっていたのか教えてください。
○委員長（大竹　惣君）　建設水道課長。
○建設水道課長（加藤定行君）　降雪のない、除雪のやっていない時間に関しましては、道路の補修及び道路の附帯施設等の修繕等を行っておりました。
　以上でございます。
○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。
○６番（長嶺一也君）　分かりました。
　続きまして、負担金補助及び交付金に参ります。特殊免許取得等の手当でありますが、何名分の予算で、実績は幾ら、何人だったのか教えてください。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、建設水道課長。
○建設水道課長（加藤定行君）　４名分ほどの予算を計上しまして、３名の方の実績がございました。
○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　３名で６万3,000円ですから、１人２万1,000円だと思うのですが、これって申込者の持ち出し分はあったのですか。
○委員長（大竹　惣君）　建設水道課長。
○建設水道課長（加藤定行君）　基本的に免許取得分と作業免許取得分の補助を出そうと思ったのですが、ほとんどの方が作業免許のみの補助で、大型特殊免許は取得済みだったということがございました。
　以上です。
○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。
○６番（長嶺一也君）　オペレーター数なのですが、町として充足されているのか、不足していると思っているのか、どちらでしょうか。
○委員長（大竹　惣君）　建設水道課長。
○建設水道課長（加藤定行君）　オペレーターに関しましては、今までなのですけれども、38名募集かけているところなのですけれども、現在までいまだに到達したことがございません。去年におきましても33名でやっていた状況で、38名にして２人乗り体制を充実したいとは考えているところです。
　以上です。
○委員長（大竹　惣君）　１番、櫻井幹夫委員。
○１番（櫻井幹夫君）　１点お伺いします。
　決算書115ページ、７款土木費、２項道路橋梁費、１目道路橋梁維持費、12節委託料の不用額についてお尋ねします。執行率が80％を超えるためか、執行状況に関する説明書の記載はありませんので、この場でご説明いただけないでしょうか。特に委託先の変更、契約内容の変更があったのであればご説明願いたいと思います。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、建設水道課長、加藤定行君。
○建設水道課長（加藤定行君）　お答えいたします。
　今回の委託料の大きなものとしましては、除雪の委託料、降雪が少なかったことにより、執行額が大幅に減ったところでございます。それにより主な不用額のこと、ほぼほぼ除雪の委託料の残額が残ったような状況でございます。
　以上でございます。
○委員長（大竹　惣君）　櫻井委員。
○１番（櫻井幹夫君）　除雪に関して大分減ったということですが、結果、不具合等はなかったのでしょうか。
○委員長（大竹　惣君）　建設水道課長。
○建設水道課長（加藤定行君）　降雪及び積雪、それが少なかったことにより、除雪の回数が減ったことにより残額が生じたもので、それによる支障は一切起こりませんでした。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　７番、村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　すみません、４点、事後評価シートのほうから質疑させていただきます。１点目が118ページ、農村公園維持管理事業、２点目が124ページ、ペレットストーブ等購入設置事業、３点目が136ページ、観光誘客事業、４点目が144ページ、会津本郷焼振興事業であります。

１点目、118ページの農村公園維持管理事業ということでありますが、こちら２、事業実績のほうの（２）において、農村公園に対するクレーム数が１件令和４年度発生しておりますが、どのようなクレームであったのか。

また、（３）においては、遊具点検19か所行った中で、点検結果において、危険箇所においては使用禁止の看板の設置、また修繕などを行ったとありますが、こちらについては全て修繕ができたのか、またそれとも使用禁止の看板のままだったのか、そこを教えてください。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　クレームにつきましては、遊具が破損しているといったようなクレームでございます。

先ほど使用禁止の看板の設置または修繕を行い、事故を未然に防いだにつきましては、これ使用禁止が必要なところの場合はもうすぐに修繕などを行っているということで、常に修繕を行うということで取り組んでおります。

〔何事か言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　答弁、産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　失礼しました。修繕は、昨年度は３か所の農村公園で実施しております。

〔「何か所のうち」と言う人あり〕

○産業振興課長（小林隆浩君）　何か所のうち。全部で……

○委員長（大竹　惣君）　暫時休憩します。

休　憩　　（午後　２時２１分）

再　開　　（午後　２時２２分）

○委員長（大竹　惣君）　再開します。

答弁、産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　点検した箇所は19か所全部行いまして、直す必要があるところは全て直しました。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　村松委員。

○７番（村松　尚君）　そうしますと、使用禁止の看板が出た場合はもう早急に直して、使用禁止の看板は立っていないという状況だということで確認させてもらっていいですか。
○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　ええ、そのとおりでございます。直ちに対応しております。
○委員長（大竹　惣君）　村松委員。
○７番（村松　尚君）　では、１点目に関しては確認しました。
それでは、２点目の124ページ、ペレットストーブ等購入設置事業であります。こちらのほうについては、成果の考え方としては２台以上の購入を目標としているところでありますけれども、毎年２台程度と、４年も２台程度だということでありますけれども、（３）の中での成果の中では、やはりペレットストーブを導入することによって木質バイオマスの利活用が図られて有効活用につながったというふうなものがあるのですけれども、実際ペレットストーブを使うとこの木質バイオマスどの程度の有効活用が図れるのか、それ数値で表せられるものなのか、数値で表せられないものなのか、その辺いかがなのか伺います。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。
○産業振興課長（小林隆浩君）　ただいまのおただしについてでございますが、目標の数値は２台ですので、そこまで数値というのですか、これの効果というのは２台だけだとそんなにやっぱり大きいものではないと認識しております。
○委員長（大竹　惣君）　村松委員。
○７番（村松　尚君）　これを例えば仮に１台補助を出すことによって効果、そうすると今総体的なちょっとお話、あまり効果は出ないのではないかという話ですけれども、ペレットストーブ１台補助すればこれだけのものがこういうふうに効果が出ますよということもやはり伝えること、住民の方々に周知することも、こういった補助事業せっかくやっているわけですから、周知するには必要だと思うのですけれども、そういったことは行ってこなかったということでよろしいのでしょうか。
○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　すみません、お答え失礼いたしました。
バイオマスの利用の量についてはそれほど大きなものではないと思いますが、その意識の醸成というのですか、このストーブを使ってこういった環境のためというのですか、そういうような意識の醸成を周知するというところではいい影響はあると考えております。
〔何事か言う人あり〕
○委員長（大竹　惣君）　暫時休憩します。
休　憩　　（午後　２時２６分）

再　開　　（午後　２時２７分）

○委員長（大竹　惣君）　再開します。

答弁、産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　すみません、失礼いたしました。

１台補助することについての効果ですけれども、CO_2の削減等にはつながっているということで、ただ実際CO_2どのぐらい減らしたかとかそういうことについてはちょっとまだ、数値の測定などはちょっとなかなかそこまではいってはおりませんが、効果というのですか、意識の醸成等図るとかそういったような効果のＰＲというのは実績になっていると考えております。

○委員長（大竹　惣君）　村松委員。

○７番（村松　尚君）　やはりこういったものを補助するのであれば、まずそういうCO_2の削減があるのであれば、例えば町が率先して庁舎の中でペレットストーブを使ってみるとか、そういったことをしながらやはり来ていただく住民の方々に周知するというやり方だって十分にあると思うのです。新しいものを考えるときには、やはりそういったものを十分考えながらやることが必要ではないかと思います。答弁は結構です。

ペレットストーブについては以上で終わらせてもらいますけれども、それでは136ページの観光誘客事業についてお尋ねします。（３）、活動実績と成果の中でですが、昨年度会津美里町観光大使４名委嘱しております。確かに新聞にも掲載されたということで、広く会津美里町を周知するきっかけをつくることができたとなっておりますが、実際この事業に関しては観光誘客事業なわけです。そうしますと、この４名の方を委嘱したことによって令和４年度実数値みたいなところ、例えばこの方々が絡んだような誘客というのはどの程度あったのか伺います。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　実数値まではつかんではおりませんが、観光大使の方聞きますといろんなところで名刺を配っていただいているということなので、これからそういった成果が出てくるのではないかと考えております。

○委員長（大竹　惣君）　村松委員。

○７番（村松　尚君）　そうしますと、令和４年度に関してはあくまでも広報活動のみということで、その数字というものはまだ表れてきていないという認識でよろしいのか確認させてください。

○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　この観光大使の委嘱につきましても、本当に年度末近かったものですから、これから成果が出てくるというふうに考えてございます。

○委員長（大竹　惣君）　村松委員。

○７番（村松　尚君）　了解しました。では、観光誘客事業については以上で結構でございます。

最後に、144ページ、会津本郷焼振興事業であります。こちらに関してですけれども、事業実績の（２）、指標の推移で新商品の開発がゼロになっております。また、活動実績の中においてゼロであ

ったものは、結局は組合さんが申請した国の補助事業が不採択であったことによって新商品開発が実現しなかったと。これ令和３年度も同じなのですよね、ゼロということは。そうしますと、これ実際のところその国の補助事業がないと新商品はできないという指標の推移であるならば、これ40との開きというのは非常に大きいと思うのです。その辺に対する考え方、認識というものをお伺いします。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　令和２年度ですか、元年度頃までは本当にこの国の補助事業を使いまして、洋食器を皆さん、窯元さんでつくりまして、アメリカですか、そちらのほうで展示会を開いたりとか、そういうところでこの商品開発をしていくということだったのですけれども、国の採択がなかなか受けられないということでこういう状況になっておりますが、今後国の制度なども活用して新商品開発するところを支援していきたいとは考えております。また、組合のほうで新たな何か事業とか活動したいという場合についても、いろいろ協議していきたいと考えております。

○委員長（大竹　惣君）　村松委員。

○７番（村松　尚君）　いや、自前で新商品を開発するのが、それによってのこの指標なのかというのはこれなかなか難しい判断のところあるのですけれども、ただ40に対してゼロで、なおかつ国の補助金が取れなかったからゼロでしたという回答というと、これ今後の指標の考え方的にも結構極端になってくると思うのです。その辺この指標の落とし込み方というのはどうお考えですか。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　ちょっと確かに議員お話しのとおりですので、見直しなども必要であれば考えたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　12番、鈴木繁明委員。

○12番（鈴木繁明君）　決算書の95ページです。18節でありますが、不用額が出ております。それは多分補助金の事業費９件ある中で不用額が出ていると思うのですけれども、この不用額の説明、なぜ出たのか、そういう説明をお願いします。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　負担金補助及び交付金のところでよろしいですか、575万7,569円。

〔「はい」と言う人あり〕

○産業振興課長（小林隆浩君）　これにつきましては、支出済額が１億7,000万の中での500万台という不用額ですので、大きい不用額が出たわけではなくて、ちょっと積み上げ……

〔何事か言う人あり〕

○産業振興課長（小林隆浩君）　失礼しました。特に一番大きかったところは、認定農業者等農業生産費高騰対策支援給付金、この辺りが大きかったと考えております。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　鈴木委員。
○12番（鈴木繁明君）　これ事業費、大変重要な事業費だと思います。そういう中で、何か今の答弁ちょっともっと、軽々しいと思いますけれども、もうちょっと詳しく説明してください。
○委員長（大竹　惣君）　暫時休憩します。

休　憩　　（午後　２時３５分）

再　開　　（午後　２時３９分）

○委員長（大竹　惣君）　再開します。
ここで、２時50分まで休憩します。

休　憩　　（午後　２時３９分）

再　開　　（午後　２時５０分）

○委員長（大竹　惣君）　再開します。
答弁、産業振興課長、小林隆浩君。
○産業振興課長（小林隆浩君）　先ほどのご質問である不用額の出た原因につきましては、特に96ページの一番下にあります認定農業者等農業生産費高騰対策支援事業給付金でございます。この事業につきましては認定農業者を対象にして10万円を上限に給付するといったような事業でありまして、当初予算で見込みましたのは242人の認定農業者を、事業者を見まして10万円ということで予算化したのですが、実際に187件申請がありまして、予算額の2,420万に対しまして1,606万2,000円ということで、約800万円の残が出たということでございます。この約800万のうち、約300万円等は別な予算に流用ということで充てまして使用しましたので、この500万何がしの金額が不用額として残ったということでございます。
○委員長（大竹　惣君）　鈴木委員。
○12番（鈴木繁明君）　別なほうに向けたということでありますけれども、これは認定農業者等農業生産費高騰対策支援給付金ということで、認定農業者はこれだけの不用額ですから、その上の補助金からは不用額が出ていないのか。また、こういったのは重要な事業でありますので、いろんな分析があると思いますけれども、その辺伺います。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　96ページの上にあるような事業からは、そんなに大きな不用額は出てございません。

〔「どこに向けたの、300万は」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長、もう一度お願いします。
○産業振興課長（小林隆浩君）　農地費等の予算に向けております。

○委員長（大竹　惣君）　あと１回、もう一回大丈夫です。
○12番（鈴木繁明君）　では、了解しました。
○委員長（大竹　惣君）　では、10番、星次委員。
○10番（星　　次君）　それでは、２点質問いたします。決算書の108ページ、１款商工費、１項商工費、１目商工振興費、18節負担金補助及び交付金であります。次に、２点目は、決算書106ページ、１款農林水産業費、２項林業費、３目林業整備費、12節委託料について質問いたします。
　まず初めに、決算書の負担金補助及び交付金でありますが、不用額が1,981万4,378円というふうな大きい数字の不用額が生じたのは、私が思うには国の支援事業の確定ということで予定より該当する方や事業者が少なかったことというふうに私なりに分析したのですが、そのようなことで解釈していいのかどうかまず１点伺います。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。
○産業振興課長（小林隆浩君）　不用額の大きな原因としましては、108ページの負担金補助及び交付金の中で、下から２行目ですか、時短要請等協力金ということで、ここが実績として331万1,000円ということで載ってございますが、ここにつきましては予算が1,700万円令和３年度予算で計上しまして、翌年度、４年度に繰り越したものでございます。
　事業の中身につきましては、令和４年度の１月と２月がコロナが蔓延しまして、福島県で時短、時間短縮の要請協力金をお支払いしていたわけですが、これが県の分が２月で終わりまして、それ以降については町でやはりコロナの蔓延防止のために時短要請は必要ではないかということで町独自にこの1,700万の予算を取りまして、時短要請協力金を払ったわけですが、令和４年度に入りまして４月以降になりまして結構コロナのほうが急激に収束しまして、もっと長く時短要請があるのではないかということで予定はしていたのですが、コロナのほうが早く終わったために金額も少なくて済んだといったことが原因でございます。
　以上でございます。
○委員長（大竹　惣君）　星委員。
○10番（星　　次君）　私が質問している事項についてまだ答えになっていないのですよ、回答が。該当する事業者が少なかったのでないかという質問ですけれども、それ言っていないのです。それは質問回数に含まないでお願いしたいと思います。
○委員長（大竹　惣君）　質問の回数含めないで、もう一度そこの答弁お願いします。
　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　お答えいたします。
　予定した事業者よりも事業者数も少なかったということになります。
○委員長（大竹　惣君）　星委員。
○10番（星　　次君）　それでは、全体として何人該当になっていますか。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　補助対象の申請があった事業者は36事業者、36の飲食店でございます。
○委員長（大竹　惣君）　星委員。
○10番（星　　次君）　それで、この時短要請で、令和３年1,700万程度、それから令和４年度は331万1,000円ということで、助成が36事業者に行ったのですが、それでこの補助金によって経営が継続されて、今なお操業というか、店とかそういうふうに今でも継続されているのか。それとか、これらの補助で間に合わなくて、廃業とか倒産とかされた実績あるのかどうか教えてください。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　この時短要請交付金につきましては、お店の経営の継続のためには役割を果たしたというふうに考えております。
　また、あとコロナ禍によって倒産したとか、そういうことにつきましては、コロナ禍のときには融資制度もゼロゼロ、この協力金のほかにも金融でゼロゼロ融資、保証料ゼロ、それから利息ゼロと、そういった融資制度もしっかりと皆さん必要な方は利用されて、活用されていましたので、金融機関等からいろいろ確認している中でも、コロナが原因で倒産した事業者は極端に言うとないというような回答も受けております。
　以上でございます。
○委員長（大竹　惣君）　星委員。
○10番（星　　次君）　了解しました。
　それでは、決算書の106ページの委託料の林道整備の管理ですが、これに、成果に関する説明書でも載っております、41ページ。それから、事務事業評価シートの131ページでも分析されたり、載っておりますが、それで愛護団体の方々に林道、作業道を草刈りを委託して、管理は適正に行われたというふうに記載になっていますが、この愛護団体の今町内には何団体あって、その団体による林道、作業道の整備されたというか、草刈り作業をやった林道の、作業道の箇所を教えていただきたいと思います。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。
○産業振興課長（小林隆浩君）　お答えいたします。
　愛護団体数は、９団体でございます。この愛護団体がこの林道の維持管理作業をやった路線についても、10路線でございます。名称につきましては……作業ですね。作業箇所。
〔何事か言う人あり〕
○委員長（大竹　惣君）　暫時休憩します。
休　憩　　（午後　３時０３分）

再　開　　（午後　３時０５分）

○委員長（大竹　惣君）　再開します。

答弁、産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　愛護団体が行っている場所につきましては、林道市野―大内線、林道駒谷―関山線、林道飯豊―桧枝岐線、林道戦場線、林道大室線、林道松倉川線、林道芦沢線、それから林道天国―悪ノ沢―大高森線、林道長岡―勝負沢線でございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　星委員。

○10番（星　　次君）　愛護団体ということで町は委託されておりますが、やっぱりこの愛護団体には会員数とか、規約とか、そういうのはちゃんとつけて補助申請すると思うのですが、そういう手続は行っているのか。

また、この草刈りの作業中にけがとか事故があった場合の責任というのはどこにあるのか。受託されたほうなのか、委託した側なのか。これ法人ですとそういう責任はきちんとされておりますが、この愛護団体というのは、にわかにその作業を受託するためのつくった団体でなかろうかというふうに意識はするのですが、その点ひとつ教えてください。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　今ほどの質問にお答えいたします。

この事業の申請に当たりまして、これ委託ですので、規約等までは義務づけというのですか、確認はしてございません。

あとは、事故あったときの責任につきましては、やはり委託ということになりますので、それぞれの愛護団体の責任になるというふうに考えてございます。

○委員長（大竹　惣君）　星委員。

○10番（星　　次君）　今、課長が規約も確認していない、では団体でなくて何なのですか、これ。個人のあれですか、集合体というか。それで、ボランティア団体でないでしょう、これは委託料払っているわけですから。きちんとそういうのは書類確認してやっぱりやるべきだと思うのです。そして、そういうけがとか事故のあった場合の責任はどこにある、どっちにあるのかというのもやっぱり書面で明確にしておくべきだと思うのですが、その辺どうですか。

○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　今のご質問のとおりに、今は規約のやはり確認を行うとともに、事故に備えては事前に保険に入ってもらうとか、そういったことをしっかりやっていきたいと考えております。

○委員長（大竹　惣君）　11番、堤信也委員。

○11番（堤　信也君）　２点お願いいたします。決算書114ページの負担金補助及び交付金の中の期

成同盟会についてと、事務事業評価シートの30ページ、道路維持管理事業について、２点お願いします。

では、まず１点目、決算書の114ページの負担金補助及び交付金、この中に、備考の欄に期成同盟会が５件くらいですか、期成同盟会に対しての負担金がございますが、この期成同盟会においての果たす役割、内容について説明願いたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、建設水道課長、加藤定行君。

○建設水道課長（加藤定行君）　期成同盟会におきましては、各市町村における課題等を同盟会を構成いたしまして、県及び国等へ要望することを最大の目的としております。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　堤委員。

○11番（堤　信也君）　この中で、401は一番大きい期成同盟会への会費払っています。この中でちょっと私見落としているのですけれども、県道赤留―塔寺線の期成同盟会あると思います。あそこも長年にわたってまだ県道つながっていない部分があるのですけれども、その辺はこの決算の中に入っていないということの解釈ですね。

○委員長（大竹　惣君）　建設水道課長。

○建設水道課長（加藤定行君）　お答えいたします。

最近のコロナの関係で要望活動を行っていないのが現状です。要望活動等に主に予算を割いているような状況で、コロナにより要望活動を行わなかったことにより繰越金が多く発生している関係で、今現在負担金を徴収していないような状況にあります。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　堤委員。

○11番（堤　信也君）　そうですね、４年度までできなかったということですけれども、期成同盟会かなりの事務局やっておられる部分が結構あると思うのですけれども、期成同盟会の中で予算等もあると思います。そういった部分をうまく活用しながら、地元の河川だったり、県道だったり、そういった部分についても発信して、これは要望ですね。今年度以降やっていただければと思います。その辺はひとつよろしくお願いしたいと思います。

では、２点目、事務事業評価30ページです。この中で活動実績及び成果について、成果の中で危険箇所、要望箇所を修繕することで住民生活、経済活動の維持向上が図れたとございます。何をもってその維持向上図れたということなのでしょうか。

○委員長（大竹　惣君）　建設水道課長。

○建設水道課長（加藤定行君）　道路関係、道路施設において、危険な状況を取り去り、安全な状況を確保していることでございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　堤委員。
○11番（堤　信也君）　それが何％、何割くらいの確率で見ているのかはちょっと計り知れないですけれども、最終評価の中でコストの方向性だったり、今後の方向性の中で、施設の経年劣化かなり進んでおります。あと、舗装等の修繕費用が増大していることから、路線全体の舗装の打ち替えの促進が必要となるとあります。これについてどういった考え、令和４年度終わって。確かにあちこちパッチングとか何かやっています。ただ、例年同じところ、同じ状態でやっているのです。それが同じ状態になっていて、当然亀裂入った状態であったり、あと町道にマンホールございますね。マンホールだけが突出している部分あったり、横断溝が突出している部分あったり、そういった部分もあるのです。それがなかなかこれで満足しているという部分に果たしてそぐうのか、そぐわないのかという部分思うとなかなかちょっと厳しいのではないかと思うのです。ですから、箇所、修繕、パッチング等どうのこうのでは、補修どうのこうのではなくて、やはりこの中に設けてあるように、とにかく予算を組んで、計画を練ってやっていくべきだろうって、これまずいのか。要望になってしまいますけれども、そういった形で年次計画を立てながら予算を組んでしっかりとやって。そうでないと、今の状態でも結構事故の発生率ってあると思うのです、自転車だったり、歩行者だったり。そういった部分も考えながら、すみません、要望です。よろしくお願いいたします。
○委員長（大竹　惣君）　３番、小柴委員。
○３番（小柴葉月君）　３点質問させてください。決算書102ページ、農業体験学習農場管理委託料。２点目、決算書108ページ、商工業活性化対策等振興事業補助金。決算書110ページ、観光対策事業補助金、３点お願いします。
　まず、１点目、102ページの農業体験学習農場管理委託料についてです。こちら事後評価シートの117ページを見ますと、（２）の指標の推移のところ、施設利用者が予定の1,000人を上回って実績が1,721人となっていますが、このプラス721人の理由は何でしょうか。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。
○産業振興課長（小林隆浩君）　すみません、休憩お願いします。
○委員長（大竹　惣君）　暫時休憩します。

休　憩　　（午後　３時１７分）

再　開　　（午後　３時１８分）

○委員長（大竹　惣君）　再開します。
　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。
○産業振興課長（小林隆浩君）　これにつきましては、もともと1,721ぐらいの生徒は来ていたと思うのですが、コロナ禍によりまして来園者が少ないだろうということで目標値も少なくしておいたわけですが、コロナ禍が落ち着いてきたということで元のような数値に戻ってきたということでござい

ます。
○委員長（大竹　惣君）　小柴委員。
○３番（小柴葉月君）　理解しました。見られ方といいますか、これぱっと見たときに、印象として予定1,000人なのに実際にプラス721人、1,721人も来たのだとなると、これ多分利用者８団体となっているので、決まった団体数が来ているので、別に自由に募集かけているわけではないとは思うのですけれども、一応この数字をぱっと見たときにすごいニーズがあるのではないかなという受け止められ方をすると思うのです。何が言いたかったかというと、これ近年中に廃止するという予定の中で、こういうふうにニーズがあるのではないかという見られ方をするとかなり廃止しづらくどんどん、どんどんなっていくのではないかなと私は思います。そこで、何回も言っていますけれども、とにかく機能と箱を切り離して考えるように今後もしていただきたいと。しっかりと今後も産業振興課と教育委員会のほうで連携をして、町民に対して早め早めのアナウンスをして、トラブルのないように進めていただきたいなと思います。答弁結構です。
　次に移ります。２点目の決算書108ページの商工業活性化対策等振興事業補助金についてです。こちらが事後評価シート143ページ見ますと、これちょっと確認なのですけれども、この商工会組織率というのは具体的に何なのでしょうか。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。
○産業振興課長（小林隆浩君）　組織率につきましては、商工会に加盟している事業者ということになります。この割合というのですか。
○委員長（大竹　惣君）　小柴委員。
○３番（小柴葉月君）　分かりました。
　あと、これも確認なのですけれども、（３）の成果のところで、商工会を通して商工業事業者へ経営支援を実施したとあるのですけれども、これ具体的に経営支援ってどんなものなのでしょうか。
○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　コロナ対策として中小企業等経営継続支援給付金、プレミアム付商品券事業、それから時短要請協力金……
〔「そっちじゃなくて上のほうに……」と言う人あり〕
○産業振興課長（小林隆浩君）　すみません、失礼いたしました。
○委員長（大竹　惣君）　もう一度お願いします。
○産業振興課長（小林隆浩君）　商工会を通して商工業者の経営支援を実施したといいますのは、商工会に経営指導員とかそういう方がいて、経営継続の支援ですとか、あと決算の支援ですとか、あと融資制度の支援とか、そういったことをやっておりますので、商工会の業務を行ったというような中身でございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　小柴委員。

○３番（小柴葉月君）　当たり前の業務を当たり前にやりましたという話だったと思うのですけれども、何が言いたいかというと、１の事業概要のところの対象を見ますと、②の最終対象って町内の商工業者というふうになっていると思うのです。つまり町から商工会に補助金を出して、最終的には町内の商工業者に還元されるというイメージの話だと思うのですけれども、多額の補助金出すならそれなりの成果と効果をちゃんと示さなければならないと思いますので、やっぱりそういう視点から今後も商工会と連携を取りながらやっていただきたいなというふうに思います。答弁結構です。

３点目に移ります。決算書110ページの観光対策事業補助金です。こちらは、事後評価シートが137ページになります。これなのですけれども、私予算審議のときに、この項目の説明のときに、観光協会の自主財源を生み出す仕組みをつくるという説明があったと記憶しているのですけれども、その視点からの評価がちょっとどの辺に書かれているのかなと思って確認をさせてください。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　自主財源、そういったものをつくっていくというようなことにつきましては、やはり今いろんな事業をやっていく中で、例えば御城印帳みたいなものを販売したりとか、収益を上げるとか、そういうことも取り組んでおりますので、まだ本当に小さい動きですが、これからそういった視点を持って活動していただけるように協議などを行っていきたいと思っております。

○委員長（大竹　惣君）　小柴委員。

○３番（小柴葉月君）　分かりました。別にここで深くあれだこれだと議論するつもりはないのですけれども、さっきも商工会のほうでも言ったように、結局多額の補助金払うのだったらお金払ったところで満足しては駄目だよという視点から、引き続きそういった、観光協会の黒字の数というのはイコール補助金の効果に比例してくると思いますので、そういった視点を絶対に忘れずに、お金投げて満足せずに、その先をしっかりと見て、ここも出した先、つまり観光協会と引き続き連携を取って、しっかりその数字追っていくようにしていただきたいと思います。答弁結構です。

以上です。

○委員長（大竹　惣君）　ほかに質疑ございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　これをもって５款農林水産業費、６款商工費、７款土木費の質疑を終了いたします。

お諮りいたします。本日はこれにて延会したいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　異議なしと認め、本日はこれにて延会します。

延　会　　（午後　３時２６分）

決 算 特 別 委 員 会

（第　３　日）

令和５年会津美里町議会（決算特別委員会）

第３日

令和５年９月１２日（火）午前１０時００分開議

委員長	大竹　惣　君	副委員長	荒川佳一　君

○出席委員（１４名）

１番	櫻井幹夫　君	９番	渋井清隆　君
２番	大竹　惣　君	１０番	星　次　君
３番	小柴葉月　君	１１番	堤　信也　君
４番	荒川佳一　君	１２番	鈴木繁明　君
６番	長嶺一也　君	１３番	根本謙一　君
７番	村松　尚　君	１４番	根本　剛　君
８番	小島裕子　君	１５番	横山義博　君

○欠席委員（なし）

○説明のため出席した者

町長	杉山純一	君
副町長	佐々木吉一	君
総務課長	金子吉弘	君
総務課課長補佐	渡部　充	君
総務課防災情報係長	齋藤　優	君
政策財政課長	國分利則	君
町民税務課長	猪俣利幸	君
健康ふくし課長	平山正孝	君
会計管理者	松本由佳里	君
産業振興課長	小林隆浩	君
建設水道課長	加藤定行	君
教育長	歌川哲由	君

こども教育課長	渡部　雄二	君
こども教育課 指導主事	小野　泰弘	君
こども教育課 課長補佐	大竹　淳志	君
こども教育課 学校給食 センター所長	馬場　雄一	君
こども教育課 総務係長	菊地　建雄	君
こども教育課 こども教育係長	榎森　正典	君
生涯学習課長	福田　富美代	君
生涯学習課 課長補佐	鵜川　晃	君
生涯学習課 文化係長	梶原　圭介	君
生涯学習課 生涯学習係長	星　通	君
生涯学習課 新鶴生涯学習 センター長	新國　一弥	君
代表監査委員	小島　隆一	君

○事務局職員出席者

事務局長	児島　隆昌	君
事務局次長 兼総務係長	歌川　和仁	君

開　議　　（午前１０時００分）

○委員長（大竹　惣君）　これから本日の会議を開きます。

決算特別委員会３日目を行います。

まず、こども教育課より資料の訂正の申出がございましたので、これを許可します。

こども教育課長、渡部雄二君。

○こども教育課長（渡部雄二君）　令和４年度会津美里町一般会計歳入歳出決算書資料（歳出予算執行状況に関する説明書）の訂正をお願いしたいと思います。

資料の３ページでございます。教育費、教育総務費、事務局費の報償費でございます。こちらの中段から下のほうの説明書きのところを御覧いただきたいと思います。こちら１行目の「御田植祭の」から５行目の……

○委員長（大竹　惣君）　暫時休憩します。

休　憩　　（午前１０時０２分）

再　開　　（午前１０時０２分）

○委員長（大竹　惣君）　再開します。

こども教育課長、お願いします。

○こども教育課長（渡部雄二君）　申し訳ございません。もう一度資料の確認をしたいと思いますが、令和４年度会津美里町一般会計歳入歳出決算書資料（歳出予算執行状況に関する説明書）という、この薄いものでございます。こちらの３ページの中段から下、教育費、教育総務費、事務局報償費のところでございます。

○委員長（大竹　惣君）　暫時休憩します。

休　憩　　（午前１０時０２分）

再　開　　（午前１０時０４分）

○委員長（大竹　惣君）　再開します。

こども教育課長、お願いします。

○こども教育課長（渡部雄二君）　説明書きのところでございます。１行目の「御田植祭の」から５行目の「運動指導研修会が」というところと、その後にまた同じものがダブってございます。ですので、５行目の「御田植祭の参加児童生徒等」から９行目までの「対策により運動指導研修会が」というところを削除していただきたいと思います。二重計上になってございましたので、申し訳ございませんが、削除をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。今後につきましては、このような誤りがないように十分気をつけたいと思います。よろしくお願いいたします。

○委員長（大竹　惣君）　10時10分まで休憩します。

休　憩　　（午前１０時０４分）

再　開　　（午前１０時１０分）

○委員長（大竹　惣君）　再開します。

先ほどのこども教育課長の訂正で、皆さんよろしいでしょうか。

それでは、８款消防費、９款教育費の質疑を行います。

質疑者は挙手にてお願いします。

では、６番、長嶺一也委員。

○６番（長嶺一也君）　それでは、評価資料の153ページ、小学校教育振興事業、併せて次の154ページ、中学校教育振興事業、169ページ、図書館管理運営事業、176ページ、生涯スポーツ振興事業、歳出予算執行状況に関する説明書、今ほどこども教育課長から説明のあった３ページの報償費のところの質問をさせていただきます。

まず、事務事業評価の153ページと154ページにつきましては、関連がありますので、一括して質問させていただきます。２番、事業実績の（３）、活動実績及び成果のところなのですが、本町の学力調査結果につきましては全国よりも若干劣っているという成果でございます。これって、活動実績読みますと、この１行だけでいいのですか。１番の事業の概要を見ますと、３行目、学力検査の結果を集計、分析し、今後の学力向上を目指すと、こう書いてあるのですが、そのことについての活動実績が書いていないから、学力向上に反映できなくて、全国平均よりも劣っているという結果になっているのですか。その辺ちょっと説明をお願いします。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。

○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまのご質問にお答えいたします。

委員おただしのとおり、活動実績の記入が大変分かりにくい、すごく短い表現となってございましたので、本来おただしのとおり事務事業の概要等々に取組なども書いてございますので、この活動実績の記入の仕方について、次年度以降修正をさせていただきたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　今の活動実績に記載されていない教育委員会としての評価というのはどのようにしたのか、その評価をどう学校現場のほうに反映していったのか、ちょっと説明をお願いします。

○委員長（大竹　惣君）　こども教育課長。

○こども教育課長（渡部雄二君）　こちらも事務事業の概要のところにも記載しましたが、今子供たちに様々な学力調査等々を行っておりまして、それを、その結果を先生方が集計、分析しまして、子供たちの指導に当たっているところでございます。確かにその結果、学力検査の結果がここ数年、県、または全国を下回っているような状況が多いのは十分把握しておりますので、今後も引き続きこういった学力検査、様々な検査の結果を分析するとともに、こちらの活動実績のほうにも記載しましたが、

デジタルドリルであったりとか、デジタル教科書であったり、そういったものの活用もさらに進めながら、学力の向上に努めるように先生方と情報を共有しているところでございます。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　分かりました。

最後に、ここに関しまして、教育長のほうから学力向上に対する考えについて、この結果に対してどう評価したのかということをお聞かせいただきたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　ただいまのご質問でございますけれども、学力検査の結果についてはそのままを真摯に受け止めておりますし、実態については毎年毎年母集団、調査対象となる集団が異なりますので、これ変化はやむを得ないというふうに思っておりますけれども、大事なことは課長が今答弁させていただいたように、やっぱり分析して、何が一体課題なのかというのを明らかにするというのが一番大事なことかなというふうに思っております。主幹兼指導主事のほうで町全体の分析をいたしまして、それを校長会議の中で、こういう観点、ここがちょっと劣っていますから、よく見ていただきたいとか、ここも見ていただきたいということを詳しくお伝えしておりますし、加えまして町の学力向上推進委員会という先生方が集まる委員会ありますけれども、そこでも同じような話をもっと詳しくさせていただいて、学校ごとに指導主事が捉えた課題意識の部分を中心に、それぞれ学校の実態を分析しております。やはりそういう地道な分析と、その分析結果を生かした取組をどうしていくか、やっぱりこれを繰り返していくことが一番大事なのかなというふうに思っているところであります。今後子供たちが自分の力を十分発揮できるようなやっぱり学力向上対策というのは必要だと思いますので、十分な予算をつけていただいておりますデジタルドリルの活用なども含めて、総合的に学力向上にも取り組んでまいりたいというふうに考えております。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　学力向上につきましては、一朝一夕では進みませんので、地道にやっていただければというふうに思います。

次に、169ページの図書館管理運営事業につきまして質問させていただきます。１の事業の概要なのですが、の中の成果の考え方の欄につきましてちょっと質問させていただきます。町民ニーズに即したという記載になっているのですが、町民ニーズにつきましてはどのように吸い上げているのかお尋ねします。

○委員長（大竹　惣君）　生涯学習課長、福田富美代君。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの長嶺委員のご質問にお答えします。

町民ニーズに即したというところでございますが、今現在図書館利用のサービスの一つにリクエストというところのサービスがございます。１人当たり、申し訳ありません。少々お待ちください。リクエストに関しましては、お一人購入金額相当が１万円以内、合計です。冊数は10冊までというとこ

ろのリクエストサービスがございます。そういったもので、実際に今図書館にあるものに足りないもの、またはこういう本を入れてほしいという要望を受けながら、順次リクエストに応えながら整備を図っているものでございます。

以上です。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　リクエストということの説明を受けましたが、このリクエストの実績、どのくらい図書館として採用されたのかということをお聞きしたいのですが。

○委員長（大竹　惣君）　生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどのご質問ですが、大変申し訳ありません。手元にそういった資料を持っていなかったため、後ほどお答えさせていただきます。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　分かりました。後で説明をお願いします。

続きまして、176ページ、生涯スポーツ振興事業についてお尋ねいたします。事務事業の概要のところなのですが、生きがいづくり、健康づくりを図れるようと、こう書いてあります。健康ふくし課マターの部分もあると思うのですが、健康ふくし課とどのように連携して事業を実施したのか、説明をお願いします。

○委員長（大竹　惣君）　生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの長嶺委員の質問にお答えいたします。

健康ふくし課との連携につきましては、１つにうんどう教室がございます。そちらのほう、単なる生涯学習課所管の施設を利用していただくだけではなくて、生涯学習センターの１事業と捉えまして、連携しながら取り組んでいる部分がございます。さらには集いの場というところ、各行政区において、各集落ごとに集いの場を展開しているところではございますが、そちらの要望を受けまして、ニュースポーツ教室、出前講座的なもので、スポーツ推進委員を派遣して、そういった運動の機会を図っているところであります。

以上です。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　今の説明で分かりました。引き続きしっかり連携して、町民の健康の確保に努めていただければと思います。

次に、歳出予算執行状況に関する説明書の３ページの報償費のところについてお聞きしたいと思います。教育委員会のほうからも御田植の実行委員会のほうにお金が出ているという、何かこれ見て初めて分かったのですが、この実行委員会からの飲料水の提供となったため、不用額が生じたというところなのですけれども、ちゃんと連携が取れていなかったのではないのかなと思うのですが、この説明の不用額はちょっとお粗末だと思うのですけれども、その辺ちょっと説明お願いします。

○委員長（大竹　惣君）　こども教育課長、渡部雄二君。
○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまの委員のご質問にお答えいたします。
　実行委員会からの提供となったために不用額というような表現でございますが、実情は去年はスポンサーの方がつきましたので、そこで飲料水を頂いたということが予想外というか、生じましたので、不用になったものでございます。
○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。
○６番（長嶺一也君）　分かりました。
　あわせて、この説明資料ですと決算書の131ページということなのですが、飲料水の予算というものは、この132ページの備考欄も確認させていただきたいのですが、協力者謝礼の中に含まれているものでよろしいでしょうか。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。
○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまのご質問にお答えいたします。
　こちらの飲料水につきましては、報償費の各種行事補償に含まれております。失礼いたしました。決算書の132ページの協力者謝礼には含まれてございません。
○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。
○６番（長嶺一也君）　分かりました。
　では、以上で質問を終わります。
○委員長（大竹　惣君）　13番、根本謙一委員。
○13番（根本謙一君）　私３点お願いします。まず、評価シート169ページ、図書館管理運営事業について、成果説明書は62ページになります。
　２点目が評価シートが181ページ、地域文化振興事業です。成果説明書は63ページになっています。
　３点目が評価シート182ページ、遺跡調査整備事業についてです。成果説明書は64ページになっております。
　以上、３点についてやります。
　まず、１点目の図書館管理運営事業についてです。紹介シートを見ますと、細かくいろいろ充実した取組されているなということで、まずは評価したいと思います。その中で利用者の増えてきている数字も実態あります。貸出冊数も微増ではありますけれども、増えてきている。コロナ禍の中でも結構すごくボリュームのある数字になっているなというふうに受け止めております。そこで、利用者のいろいろな実態といいますか、データいろいろ把握されているのか。把握されているとしたらどのようなデータをつくられており、どのような分析をされているのか、４年度。それと、さらにはその中での課題はどんなことが見えてきているのか伺いたいと思います。
○委員長（大竹　惣君）　根本委員、最後にまとめて４点ですか。最後、一旦まとめてもう一度お伝えください。質問事項をお伝えください。

○13番（根本謙一君）　はい。まず、利用者のデータ収集はされているのか。されているとして、分析はどのようにしているのか。その結果、課題は何が見えてきているのか。３点お願いします。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、生涯学習課長、福田富美代君。
○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの根本委員の質問、まず１点目、利用者のデータ収集についてでありますが、利用、貸出しの上で、皆さん図書カードを使って利用していただいておりますので、ある程度年代ごと、年齢別のデータ、さらには貸出しの一般書なのか、児童書なのか、郷土資料なのかというような分類別ということのデータが分かるようになっております。それも踏まえて、それぞれの年齢別の分析、３歳刻み、さらには大人に関しては10歳刻みの貸出人数の傾向を把握しております。実際データの実績ではございますが、まず年齢別貸出人数の令和４年度の実績でありますけれども、一番多く利用されているのが70歳以上でございます。その次に60歳代、次に40歳代、次に30歳代ということになっております。やはり高齢者の方が多くいらっしゃいますので、多くの方に読んでいただいているというところが分かると思います。さらに３番、４番目、やはり子育て世代の方にも多く利用していただいているということが分かっております。
○委員長（大竹　惣君）　生涯学習課長に申し上げます。課題の部分どのように認識しているのか、もう一度答弁お願いします。
○生涯学習課長（福田富美代君）　分かりました。
　逆にそちらのほうのデータを見ますと、一番利用がされていないのは高校生、また20代というところがあるので、やはり読書推進という意味合いから子供たちに多く読んで、子育て世代の方が多く利用しているというところで、やはり児童、幼児等については多く読まれているかと思います。さらに、基本となる読書推進、心豊かなというところで生涯学習の基本となる部分については、やはりこれからお子さんに関しての読書推進というのをさらに図らなければいけないと考えている反面、中高生となるとやはり高校の部活であったり、またあと成人というところの利用が減っているということもございますので、やはりそういった方も多く利用していただけるような、ちょっと蔵書整備だとか広報等も周知していく必要があるかなと考えているところでございます。
　以上です。
○委員長（大竹　惣君）　根本委員。
○13番（根本謙一君）　データのほうですけれども、もう少し細かいデータを取得されているのかなと思いました。私がいつも気にしているのはレファレンスサービスです。これがそこの図書館の利活用の価値を１つ決めるファクターだと思っていますので、そのほかのデータ収集はされているのか、いないのか。
　それから、課題ですけれども、今言ったレファレンスの部分のデータを前はあると言っていました。実態の数字で説明を受けたことあります。ですから、そのことも出てくるのだろうと思ったけれども、出てこなかったので、あったら教えていただきたい、４年度。それに基づいてどうしたらいいかとい

うのが私は出てくると思っていますので、その点伺いたいと思います。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、生涯学習課長。
○生涯学習課長（福田富美代君）　レファレンスサービスに関しましては、４年度の実績については520件になっております。確かに細かい照会に関してお答えしている部分もあるかと思うのですけれども、実績として捉えているのが520件でございます。課題については、やはりこれからお求めになる、単なるこの本はどこにあるかという照会も多くあるところでありますが、やはり郷土資料であったりというところで、ある程度専門的なお問合せの場合もございます。これにつきましては、文化係のほうに照会かけたりとか、今後郷土資料館というところも出てくるかと思うのですけれども、そういった、もう少しレファレンスのサービスの中身については担当レベルでこういったお問合せがあったという情報共有を図っているところでありますが、いろんな区分分け、さらに突っ込んだようなデータ、資料としては落とし込んではおりませんので、その辺もちょっと整理しながらやっていきたいと考えておるところでございます。
　以上です。
○委員長（大竹　惣君）　根本委員。
○13番（根本謙一君）　分かりました。大事な観点だと思うので、しっかり取り組んでいただければというふうに思います。
　次、２点目参ります。２件目は181ページ、成果説明書、63ページの地域文化振興事業です。ここで、公共ホール音楽活性化事業で、すばらしい本物を見ていただいているというのは本当に喜ばしいと思っています。いろんな選択事業をするに当たって、４年度の事業をするに当たって、この公共ホール音楽活性化事業にしたという理由があったら教えていただきたい。いろんな選択肢があったけれども、これにしたのだということで、４年度はいくというふうにしたのか、その点を伺いたいと思います。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、生涯学習課長。
○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの根本委員のご質問にお答えしたいと思います。
　公共ホール音楽活性化事業をなぜ選択したのかというところかと思うのですが、実は令和３年度からこの事業を取り組んでおりまして、これが３年間継続ということがございました。ですので、一応令和４年度について、さらには５年度に関しまして、この公共ホール音楽活性化事業というものに取り組んでいるところでございます。
　以上です。
○委員長（大竹　惣君）　根本委員。
○13番（根本謙一君）　これは、町独自の事業として受け止めてよろしいのですね。何か補助事業で、これがいいという提出をしたのか伺います。
○委員長（大竹　惣君）　生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　こちら補助事業となっております。そちらを有効に活用させていただいているところでございます。

以上です。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　分かりました。

３点目に参ります。評価シートが182ページになります。成果説明書が64ページです。ここでの遺跡調査整備事業で向羽黒山城跡の調査の後、現地説明会、それから講演会も開催されております。私も講演会のほうだけ参加させていただきました。この講演会の趣旨は、調査を踏まえて、どう活用をしていったらいいのかという示唆に富んだものの意図があってやられたというふうに私は受け止めたのですけれども、そういう理解でよろしいのでしょうか。

○委員長（大竹　惣君）　生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほど根本委員の質問にお答えいたします。

委員おっしゃられたとおりといいますか、令和４年度の城跡の調査した報告と整備の在り方、活用をさらに進めるために行っている講演会でございます。

以上です。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　そうしますと、あの中に向羽黒山城跡の活性化に向けた整備の仕方がいろいろ示唆されているというふうに受け止めてみると、当然次の段階はこの報告書の中に示されているということで、理解でよろしいでしょうか。さらに、教育長も現地、それから講演会も聞かれたと思いますけれども、教育長の評価はどのようにされているのか伺っておきたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　１点目の整備報告書のほうにそういった活用について示されているのかの問いではございますが、令和４年度に作成しました報告書につきましては、令和４年度に行った調査、整備内容の記録となるものでございます。ですので、方向性を示してはいないことを申し上げておきます。

以上です。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、教育長。

○教育長（歌川哲由君）　この説明会並びに講演会についてでありますけれども、私も両方参加させていただきまして、他県からも含めて、そんなに大勢ではございませんでしたけれども、お足元の悪い中、たくさんお集まりいただいて、本当によく見ていただいたし、説明も尽くされたのかなというふうに思っております。今後もああいう機会を大事にしていきたいと思っております。

加えまして、公園化につきましては、今委員のほうから向羽黒山城跡の利活用についての道しるべになるのかというふうな趣旨のご質問ありましたけれども、私あれだけではなくて、担当から聞いた

話も含めますと、一つのモデルとしてああいうものがあるので、ご紹介いただいたようなものもあるので、多面的に向羽黒山城跡の利活用を今後考えていく上での一つの参考として皆様にお聞きいただいたというふうに理解しております。一つの例にとらわれることなく、今後もああいうふうな先進的な事例なんかも、調査研究なんかも含めて、今後の利活用計画の策定に参考にさせていただきたいというふうに考えているところであります。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　教育長は道しるべというお言葉をお使いになりましたけれども、私は示唆に富んでいたなという、講演会の中身。ですから、あれ終わった後に講演者の方ともちょっと意見交換をさせていただきましたけれども、多面的にいろいろな事例があるのもそれは承知しておりますけれども、所管としてあの講師を呼んだということは、当然どういうことを紹介されるかというのは百も承知でやられていると思うのです。ですから、所管としての考え方、方向性もある程度詰められてきている中であの講演会が私はあったのだなというふうに、あの講演会を聞いて受け止めたのです。だから、教育長もそれを踏まえていくのかなと思ったけれども、今のニュアンスでは、いや、まだまだいろいろ調べるものが、見たほうがいいという考え方と受け止めたので、そういう受け止め方でいいのかどうなのか。

　これで質問は終わります。

○委員長（大竹　惣君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　繰り返しになりますけれども、恐らくこういう方向性で向羽黒山城の利活用を進めたいというふうな路線ありきで選んだ講師ではないというふうに私は認識しております。今後も様々な知見を活用させていただきながら、よりよい活用計画の策定を目指していきたいというふうに考えております。

○委員長（大竹　惣君）　７番、村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　シートのほうの39ページ、消防費のほうの消防団員活動事業について２点ですか、お伺いいたします。

　成果指標の中での消防団員の充足率ですが、令和４年度に……大丈夫ですか。

○委員長（大竹　惣君）　39ページでよろしかったですよね。

○７番（村松　尚君）　39ページです。

○委員長（大竹　惣君）　では、お願いします。

○７番（村松　尚君）　はい。成果指標の令和４年度消防団員の充足率に関しては100に対して84％、前年度よりも４％程度低下しています。それを基になのか、活動実績（３）においては式典の統合であったり、またアンケート等を行って団員の負担軽減を図ったという結果でありますけれども、こちら、１点目とすればアンケートを基に様々な活動、式典等々の統合を行ったことによってのメリットとデメリットをどういうふうに捉えていらっしゃるのか。

２点目とすれば、２点目に、それを基にした場合この充足率というものは上がっていくものと捉えていらっしゃるのか、その２点お伺いします。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、総務課長、金子吉弘君。
○総務課長（金子吉弘君）　お答えいたします。
まず、アンケートの調査結果による部分でございますが、まず１つ目のメリットにつきましては消防団員の確保が難しいこの中で、やはり消防団員の負担軽減というのは大きな事柄だというふうに思っておりまして、しっかりとその辺を、いわゆる訓練等を除いた行事については統合させていただいて、これによってかなり消防団員の負担軽減になったということで、その後の幹部会議の反省事項の中でもしっかり出ておりまして、その部分が１つメリットであるのかなというふうに考えてございます。
デメリットに関しましては、やはり式典を統合したことによりまして、ちょっと時間が長くなってしまっているというふうなところがございます。特に検閲に関しましては、ちょっと表彰なんかも中に組み入れたというふうなことで、かなりやっぱり暑いさなか、長時間団員を立たせていたというふうなところが、そういったことの細かい部分でございますが、反省点として受け止めて、反省点といいますか、デメリットとして受け止めているところでございます。
最後の充足率の部分でございますが、これ直接的には団員の充足率、確保の部分に関しては、まだこれをちょっと推し進めている最中というか、もう始まりでございますので、この結果がすぐに反映できるのかというとちょっと時間がかかるのかなというふうに思っております。ただ、今後、今の一つの成果の捉まえとしては、やはり総合計画のほうから引っ張ってきているような関係もございまして、団員そのものの数を見直すということはなかなかできないわけでございますが、最終的には人口減少に伴って、団員の確保も難しいということであれば組織の見直し、そういったいわゆる定数の削減なんかも含めまして、今消防団内のほうでしっかりと議論を重ねているというふうなところでございます。
以上でございます。
○委員長（大竹　惣君）　村松委員。
○７番（村松　尚君）　大体の内容は分かりましたが、そうしますとこの令和３年度から４年度に対して充足率が４％減った。これの要因というののを分析なんというものはできるのでしょうか。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、総務課長。
○総務課長（金子吉弘君）　令和３年度から比較しまして４％ほど数値が下がっている理由でございますが、これにつきましてはやはり担い手の不足、消防団の成り手がどうしても少ないというふうなことに尽きるのかなというふうに考えております。かなり消防団員につきましては、各分団のほうで勧誘に力を入れているところではございますが、そもそもの若者の数が減っているというふうなさなかの中で、確保というのが非常に難しいというのが現状でございます。これが一番の原因かなという

ふうに考えているところでございます。

○委員長（大竹　惣君）　村松委員。

○７番（村松　尚君）　最後になりますが、この指標、この充足率に関しては、年々減っていくことが正直なところ想定されるのです。そうしますと、やはり定数の絡みも含めて早急な見直しをしないと、令和４年度だけでも４％下がっていますので、そういったところ、これを、令和４年度の結果を見ながら団員維持にぜひとも活動していただきたいと思います。

質問終わります。

○委員長（大竹　惣君）　ここで、生涯学習課長より答弁があると……

〔何事か言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　失礼しました。先ほどの長嶺委員の質疑に対しての生涯学習課の答弁が後回しになっていた部分、答弁が整いましたので、答弁したいとの申出がございましたので、これを許可します。

答弁、生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　それでは、長嶺委員からのご質問の中で、リクエストに関して何冊程度購入しているのかの問いにつきましては、データとしては取っていないところではありましたが、リクエストに関しては月10冊程度の申出がございます。その中で年間約100冊程度購入させていただいております。

以上であります。

○委員長（大竹　惣君）　よろしいですか。

〔「分かりました」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　それでは、ここで11時５分まで休憩します。

休　憩　　（午前１０時４９分）

再　開　　（午前１１時０５分）

○委員長（大竹　惣君）　再開します。

現在は８款消防費、９款教育費の質疑を行っております。

質疑者は挙手にてお願いします。

８番、小島裕子委員。

○８番（小島裕子君）　事務事業評価シートのほうで38ページ、災害対策事業と、あとは156ページ、健康管理事業のほうで２つお伺いします。

１点目のほうですけれども、38ページのほうで、活動実績の中で備蓄計画に基づき、備蓄品の更新を行ったとありますけれども、どのような備蓄品なのか、また古くなって外したものに関しての取扱い、どのように取り扱ったのか教えていただきたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、総務課長、金子吉弘君。
○総務課長（金子吉弘君）　それでは、お答えいたします。
　まず、備蓄品の更新に係る内容についてでございますけれども、令和４年度につきましては、令和４年度に関しましては食料品の関係の更新がほとんどでございました。食料品につきましては、通常５年間で消費期限というのを迎えます。ですので、ちょうどその年度、年次にあったということで、食料品のほう入替えをさせていただいているところでございます。
　あと、処分方法についてでございますが、処分方法につきましては防災訓練等の中で、消費期限が近い備蓄品を提供させていただきまして、実際食べていただいてその味を知っていただくといいますか、提供させていただいて、実際それをご賞味いただきながら、ご理解といいますか、ご理解を願っているというふうなところの処分方法がございます。あとはそういった食べるものでないものにつきましては、どうしても耐用年数が来てしまいますと処分をさせていただいているというふうなところが現状でございます。
　以上でございます。
○委員長（大竹　惣君）　小島委員。
○８番（小島裕子君）　今回は食料品がほとんどということで、これは常々伺っている、防災訓練のときに皆さんに提供して食べていただくということは伺っていたのですけれども、今回もそんな形でほとんどのものは使用される形になったのでしょうか。
○委員長（大竹　惣君）　総務課長。
○総務課長（金子吉弘君）　ほとんどの備蓄品につきましては、食料品についてはほとんど提供させていただいて、処分をしているというような状況でございますが、若干、やはりかなり多量に備蓄しているものですから、まだ手元に残っているというものも少しはあるというふうなのが現状でございます。
○委員長（大竹　惣君）　小島委員。
○８番（小島裕子君）　そうしますと、やっぱり廃棄される分というのも幾つかは出てくる。そういったものに関しては、何か利用方法、今回コロナ禍で運動会なんかもかなり中止になった部分もありますけれども、そういったところで利用していただくとか、学校の給食で学年で利用していただくとか、そういったことなんかは考えてはいなかったのでしょうか。
○委員長（大竹　惣君）　総務課長。
○総務課長（金子吉弘君）　お答えいたします。
　やっぱり今手元に残っている品物も幾らかございます。どうしても消費期限を迎えてしまっているものについては廃棄をせざるを得ませんが、まだ残っているものもございますので、今後例えば地区の自主防災組織の説明に伺った際に実際提供させていただいて、それを体感いただくとか、そういったことで工夫しながら、無駄にならないように取り扱っていきたいなというふうに考えているところ

でございます。
○委員長（大竹　惣君）　小島委員。
○８番（小島裕子君）　そうしますと、食以外では廃棄せざるを得ないものというのが出てくるかと思うのですけれども、食以外で廃棄するものというのは備蓄品の大体何割ぐらいに当たるのでしょうか。
○委員長（大竹　惣君）　小島委員、質問もう３回終わりました。
○８番（小島裕子君）　これで終わり。
○委員長（大竹　惣君）　これもう、先ほどで３回です。
○８番（小島裕子君）　分かりました。
　では、続きまして健康管理事業のほうで、成果のところなのですけれども、児童生徒、保護者、教職員等の抱える悩みや問題について支援し、児童虐待の問題等の解決４件が図られたとありますけれども、これ全体的にいいますと相談というのは何件くらいあったのか教えていただきたいと思うのです。児童生徒、あと保護者、教員等というふうに分かれてありますので、お願いします。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。
○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまの質問にお答えいたします。
　それぞれの人に対しての質問という、個別のものはございませんが、相談でございますが、スクールソーシャルワーカー全体ですと331件でございます。
○委員長（大竹　惣君）　小島委員。
○８番（小島裕子君）　そうしますと、全てで331件１年間にあったということですよね。それで、４件ということになっているのですけれども、これに関してはすぐに解決できないような相談もあるとは思うのですけれども、これに対してソーシャルワーカーさん頼みという形になっているのか、もしくはもう少し教育委員会として取り組んでいるようなことはあるのでしょうか。
○委員長（大竹　惣君）　こども教育課長。
○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまのご質問でございますが、こちらに記載ありますとおりスクールソーシャルワーカーの方だけではなくて、いろんな方が相談等々に乗っていただいていますので、スクールソーシャルワーカーの方に偏っているわけでは決してございません。我々もこういった教育相談員とか、いろんな方からの報告については全てお受けしておりますので、その中で一番最後に書いてございます児童虐待の問題等の解決についてだけ４件ということで記載をさせていただきましたが、ほかに相談をいただいて解決しているものも当然ございます。
○委員長（大竹　惣君）　小島委員。
○８番（小島裕子君）　分かりました。
○委員長（大竹　惣君）　15番、横山義博委員。
○15番（横山義博君）　それでは、評価シートは170ページ、生涯学習センター施設管理事業の１点

です。施策成果に関する説明書で61ページ、ほぼ同じなので、この中で聞きたいと思います。

まず、事務事業の概要の中で、高田地域の分館について、管理運営は行政区区長に移行し、廃止の選択も含め検討していくと現在進行形になっております。この結果を教えてください。

また、この中で11月９日、10日と町民懇談会、これ活動実績のほうですけれども、やっております。各地区の懇談会に参加された人員と、あるいは主な意見等があれば披瀝してください。まず、それだけお願いします。

２問とする。いいです、別で答えてもらって。

○委員長（大竹　惣君）　全部で２点で３点……

○15番（横山義博君）　同じやつだから、一緒で。

○委員長（大竹　惣君）　一緒で大丈夫ですけれども、確認の意味で、全部で３点ですか。質問の内容は３点ですか。

○15番（横山義博君）　そういうふうになります。

○委員長（大竹　惣君）　結果と懇談会での人員と、あと主な意見ということですよね。

○15番（横山義博君）　はい、そういうことです。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、生涯学習課長、福田富美代君。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの横山委員の質疑にお答えいたします。

まず初めに、町民懇談会の資料、ちょっと手元にございませんので、人員については後ほどお答えさせていただきます。

まず、１点目のそれぞれの各分館の行政区区長への移行に対して、廃止の選択も検討していくというところでございますが、これにつきましては、申し訳ありません。昨年ではなくて、令和４年12月に各分館廃止となる地区の行政区長に対して全て、分館廃止以降の利活用について照会させていただきました。それを受け、最終的にまとまった結果を申し上げますと、それぞれ分館の利用に関して譲渡の希望、または借用の意向というものは全てなかったものでございます。それが１つでございます。

あと、大変申し訳ありません。あと人数についてなのですが、11月９日については宮川生涯学習センターで実施させていただきまして、12名参加いただいております。また、10日につきましては複合文化施設のホールで行い、大会議室のほうで開催しまして、19名の参加となっておりますので、合計31名の方からご参加いただいたところでございます。内容につきましては、分館廃止ということは５年度の末をもって廃止するということを確認させていただいた上で、その中で分館の建物についての譲渡意向についても照会させていただきたい中身を説明いたしました。さらには廃止後の事業の進め方、生涯学習センターの事業をどのように進めていくのか、さらに投票所であったり、避難所になっているところもございますので、そういった町の考え方ということも併せて説明させていただいたところであります。やはり生涯学習課関連でいいますと、これまで生涯学習事業を展開してきた建物でもございます。さらには地域の方に利用していただいたというところもある施設ですので、やはり身

近にある施設がなくなるというところで、やっぱり心配の声というものは多くまだあったところでございます。ただ、生涯学習については、基本各地域にある生涯学習センターを拠点に、それぞれの対象別講座を実施していく、さらには出前講座のような考え方で、各地区への集会所等に足を運んで、出前公民館的な、そういったような事業も展開が考えられる旨、ご説明したところでございます。

〔何事か言う人あり〕

○生涯学習課長（福田富美代君）　はい。すみません。以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　横山委員。

○15番（横山義博君）　まず、最初に言った廃止の選択も含め検討しているとされているのは、もう決定したというふうに理解をしたわけですけれども、ただこの中で、今課長が説明されたいろいろ進め方や従来ある建物の町としての使い方、これは生涯学習センター施設管理事業とは若干違うので、また別の機会に、投票所あるいは避難所、これは別な事業という形になりますので、今回はここでは聞きませんけれども、それだけ重要さがあるというふうに理解しておりますけれども、次、11月９日と10日の町民懇談会、私はこの町民懇談会というのは分館ごとにやったと理解していたわけです、分館ごとに。ところが、宮川生涯学習センターとして集約して、各地区の人をそこに招いて話を聞いた。だから、こんな人数が少ないのです。ここの利用されている地区にはまだまだ集落多いわけです。なぜそこに、分館として今現在あったのに、なぜ分館の中でそういう懇談会、あるいは説明会をしなかったのか、その理由をお聞かせください。私は、これは違うと思っています。

○委員長（大竹　惣君）　生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの質疑にお答えいたします。

分館廃止の懇談会につきましては、平成28年度の在り方方針等のご説明から継続して、毎年のようにそれぞれ懇談会を実施してまいりました。令和３年度につきましては、コロナ禍で実施できておりませんでしたが、その前の令和２年度については対象は自治区長との懇談会ではありましたけれども、各地区ごとに実施してまいりました。やはり令和元年度にこちら、公民館１館体制になるというところで、それまでも各地区との懇談を重ねてきてまいりましたので、ただそのときには既にもう５年後には廃止するという方針で説明してまいりました。令和４年度については、やはりあと１年を残してというところの懇談会の中で、廃止するという説明だけを行ってきたという反省も踏まえまして、今後廃止後はどのようなこと、町の事業をどのように実施していくのかとか、先ほど繰り返しになりますけれども、避難所、さらには投票所となっている分館ですので、今後どういった考え方であるのかということも含めての説明会でございましたので、大きく２か所での実施とさせていただいたところでございます。

以上です。

○委員長（大竹　惣君）　横山委員。

○15番（横山義博君）　今の理由はある程度分からないことでもない。それと、間にコロナという、

ちょっとなかなか個人的に対応できないところあるので、各地区に出なかったのかなということなのですけれども、私が言っているのは小さい単位で、今まで地区で分館のところは活動していたわけです、現実に何十年も。それが行政改革、あるいはいろんな費用対効果というような形でなくすわけです。ですから、その辺を酌み取って、説明はこっちから出ていくべきなのです。宮川生涯学習センターあるいは高田公民館、赤沢地区もあるのですけれども、そこの地区に行って、話をこちらから出して、話を聞いてというふうなことをやらないから、我々懇談会に行ったときもこっぴどく叱られましたけれども、それは経費は大変だけれどもという話で前提で、皆さん分かっているけれども、そういう文句を言いたい場所なのです。だから、そういうものを含めて出かけてやるべきだったと。ですから、あえて11月９日、10日の人数を聞いたのはそういう意味です。まして宮川生涯学習センターと高田でやったと。だから、やってはいるけれども、片手落ちなのです。なくなるところは寂しいわけです。今まであったのです。ですから、そういうものを含んで行政としては説明するべきだと思います。回答をお願いします。できれば町長に回答をお願いしたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、町長。

○町長（杉山純一君）　お答えをさせていただきます。

課長から答弁いたしましたけれども、令和２年の時点では説明をさせていただいてきたと、廃止に向けてということです。その中でコロナということもありましたので、結果的にこういった形になりました。本来であればといいますか、やっぱりこちらから出向いて、いろんな地区民の意見を聞くべきだったというふうには思いますけれども、結果として町としての考えはその前の段階で説明して、あとは地区の区長さんだったり、そういった方の意見も聞きながら進めてきたという経過にございます。結果として、もう既に終わってしまった部分もありますので、今後こういうことがあったときは町のほうから出向いて、しっかり町民の声を聞くという形に持っていければというふうに思います。

○委員長（大竹　惣君）　３番、小柴葉月委員。

○３番（小柴葉月君）　１点質問させてください。

事後評価シートの172ページです。こちらを見ますと、どんなことをやったよということは書いてあります。学校支援事業をやりましたとか、放課後子供教室推進事業やりましたと書いてあるのですけれども、対象の保護者なり町民なり教員なりが成果を実感しているのかというところは書いていないかなと思うのですけれども、そこについてはアンケートなりなんなりを取っているのでしょうか。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどのご質疑にお答えいたします。

地域学校協働本部事業としましては、各学校への学習支援でありましたり、放課後子供教室実施しておりますが、アンケート調査については放課後子供教室に関しましては年度末、事業が完了する２月に、それぞれ参加している児童、さらには保護者に対して、さらには指導していただいている方にアンケート調査をいたしまして、次に向けての参考とさせていただいております。満足度としては非

常に高いものであります。目標としては100％満足しているというところで目指して事業を実施しているところではありますが、ほぼ近いような数字が得られております。

以上です。

○委員長（大竹　惣君）　小柴委員。

○３番（小柴葉月君）　分かりました。私この資料を見ると、この参加者数イコール成果、つまり地域と学校の連帯、協働ができていますというふうな書き方をされているなと思うのです。この（２）の指標の推移とか見ると、参加した児童数とか、参加した町民とかという人数しか書かれていないので、この数字だけを見ると目標値よりも結構人数少ないし、これ何か多かれ少なかれお金使ってやっているのに、ただやっているだけなのではないのみたいな感じで、この数字だけを見るとすごくあまり効果のない事業のふうに見えるのですけれども、今のアンケートをやっていますと、実際にそのアンケート結果もかなり数値の高いものですよという話があったので、ぜひ今後この評価を行うときに、現場の人、現場に立っている人たちの実感度という視点からの評価も入れたらいいのではないかなと思うので、そういう評価の仕方を期待しております。

以上です。

○委員長（大竹　惣君）　14番、根本剛委員。

○14番（根本　剛君）　今ほどの同僚委員とかぶるのですけれども、事業評価の172ページ、施策でいいますと58ページ、それで私が聞きたいのは学校協働活動に協力した指標Ｂのことでございます。計画Ｂは1,320人、実績値Ｂが644人と記載されていますけれども、目標値より半分以下の実績でありましたが、この数字を分析結果、どのようにお考えなのでしょうか、大分下回っていますので。

さらに、644名中の３中学校区それぞれ何名ずつなのか、参加。その数字を教えてください。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　まず、１点目の実績値に対するＢの単位、協力した地域住民の数については計画よりもかなり下回っているということに関してなのですが、実はこちら主に学校に一般の町民の方が学習支援に入る、さらには学校での校内で放課後子供教室ということで、学校内の施設を提供していただいて、その場で活動しているというところがあるのですが、やはり大きくはコロナ禍というところで、やはり感染症対策というところで、そういった活動の制限ということも実質ございました。そういったことも踏まえてかなり数値が下回っているということがございます。

それで、644人の各学校ごと、地域ごとというところの数字は、大変申し訳ないです。大変失礼いたしました。まず、放課後子供教室の数字でいいますと、644の内訳でございます。すみません。こちらの数が放課後子供教室に携わった方の町民の数字でございますので、こちらの内訳については高田小学校区が174人、宮川小学校区については163人、本郷小学校が161人、新鶴小学校が146人になっております。こちら小学校で活動している放課後子供教室のみの実績数、合計644となっております。失礼いたしました。でも、地域学校協働活動だから、本当は数字違う……

〔「３中学校区のことを聞いている。放課後は小学校だ」
と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　では、根本委員、カウントしませんので、もう一度お願いします、その部分。

○14番（根本　剛君）　３中学校区で実施した地域協働の参加した人数644人って載っているのです。それの、高田中学校、本郷中学校、新鶴中学校のでしょう、これ３中学校って。それを私聞いている。

〔「休憩お願いいたします」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　暫時休憩します。

休　憩　　（午前１１時３３分）

再　開　　（午前１１時３５分）

○委員長（大竹　惣君）　再開します。

答弁、生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　再度質疑にお答えさせていただきます。

先ほどは大変失礼いたしました。高田中学校区につきましては337人、本郷中学校区に関しましては161人、新鶴中学校区に関しましては146人、合計では644人でございます。大変失礼いたしました。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○14番（根本　剛君）　課長の答弁ですと、目標値に至らなかったのはコロナの影響ということをおっしゃいました。この事業、本当にすばらしい事業だと思います。地域と中学校を連携して、中学校を盛り上げていこうという事業ですので、ということなので、どんどん地域の活躍した学校の先生のＯＢや看護婦とか、そういう地元のＯＢの方が優秀な方がいっぱいいるのですから、そういった人材を活用して、地域の中学校を盛り上げていくというすばらしい事業に展開されるでしょうから、一生懸命頑張っていただきたいということで終わります。

以上です。

○委員長（大竹　惣君）　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　ないようなので、これをもって８款消防費、９款教育費の質疑を終了いたします。

ここで説明員入替えのため、11時45分まで休憩します。

休　憩　　（午前１１時３６分）

再　開　　（午前１１時４５分）

○委員長（大竹　惣君）　再開します。

次に、10款災害復旧費、11款公債費、12款諸支出金、13款予備費の質疑を行います。

質疑者は挙手にてお願いします。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　ないようなので、これをもって10款災害復旧費、11款公債費、12款諸支出金、13款予備費の質疑を終了します。

お諮りいたします。本日はこれにて延会としたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　異議なしと認め、本日はこれにて延会いたします。

延　会　　（午前１１時４６分）

決 算 特 別 委 員 会

（第　４　日）

令和５年会津美里町議会（決算特別委員会）

第４日

令和５年９月２０日（水）午前１０時００分開議

委員長　大竹　惣君　　副委員長　荒川佳一君

○出席委員（１４名）

１番	櫻井幹夫君	９番	渋井清隆君
２番	大竹　惣君	１０番	星　　次君
３番	小柴葉月君	１１番	堤　信也君
４番	荒川佳一君	１２番	鈴木繁明君
６番	長嶺一也君	１３番	根本謙一君
７番	村松　尚君	１４番	根本　剛君
８番	小島裕子君	１５番	横山義博君

○欠席委員（なし）

○説明のため出席した者

町長	杉山純一	君
副町長	佐々木吉一	君
総務課長	金子吉弘	君
総務課課長補佐	渡部　充	君
総務課防災情報係長	齋藤　優	君
政策財政課長	國分利則	君
政策財政課課長補佐	立川　昇	君
政策財政課課長補佐	目黒裕樹	君
政策財政課政策企画係長	鈴木幸信	君
町民税務課長	猪俣利幸	君

町民税務課 課長補佐	阿部　満枝	君
町民税務課 生活環境係長	遠藤　　香	君
健康ふくし課長	平山　正孝	君
健康ふくし課 課長補佐	渡部　朋宏	君
会計管理者	松本　由佳里	君
産業振興課長	小林　隆浩	君
産業振興課 課長補佐	宮下　　寛	君
産業振興課 課長補佐	佐藤　文彦	君
産業振興課 農政係長	横山　美代子	君
産業振興課 農林土木係長	鈴木　聖崇	君
産業振興課 商工観光係長	鈴木　俊幸	君
建設水道課長	加藤　定行	君
建設水道課 課長補佐	佐藤　勝利	君
建設水道課 管理係長	小林　正裕	君
建設水道課 建設係長	松本　健一	君
教育長	歌川　哲由	君
こども教育課長	渡部　雄二	君
こども教育課 指導主事	小野　泰弘	君
こども教育課 課長補佐	大竹　淳志	君
こども教育課 こども教育係長	榎森　正典	君
生涯学習課長	福田　富美代	君
生涯学習課 課長補佐	鵜川　　晃	君
生涯学習課 文化係長	梶原　圭介	君
農業委員会 総務係長	田邉　実千代	君

代表監査委員	小　島　隆　一	君

○事務局職員出席者

事務局長	児　島　隆　昌	君
事務局次長 兼総務係長	歌　川　和　仁	君

開　議　　（午前１０時００分）

○委員長（大竹　惣君）　これから本日の会議を開きます。

決算特別委員会４日目の質疑を行います。

これより施策評価に対する質疑を行います。

質疑順については、お手元に配付いたしました施策評価質疑表の順に質疑を進めたいと思います。

なお、先日の決算特別委員会質疑における注意事項のほう確認していただいて、質疑の仕方の工夫をお願いしますとともに、質問、答弁ともに簡潔、明瞭にお願いしたいと思います。

なお、１質疑に対し答弁は３回までとし、質疑時間の制限はいたしません。

それでは、これより施策名、自然に配慮した環境づくりの質疑を行います。

施策ナンバー１－１、自然・生活環境の保全について、１番、櫻井幹夫委員。

○１番（櫻井幹夫君）　それでは、施策ナンバー１－１、施策名、自然・生活環境の保全、３、指標の分析の指標①において、成果が向上した、またはしなかった理由を述べられていますが、４、課題に対する取組では何ら記載がありません。取組はなかったのでしょうか。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、町民税務課長、猪俣利幸君。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　それでは、ただいまのご質問にお答えいたします。

成果指標１の２、３年前と比べて自然環境がよくなっていると感じている町民の割合が減少しておりますが、要因としましては近年の過疎化、高齢化に伴いまして、耕作放棄地や管理不全の空き家等が増加していることが影響しているものと考えてございます。この課題に対する取組といたしましては、空き家等につきましては生活基盤の整備、耕作放棄地につきましては農業の振興、それから森林環境につきましては林業の振興など、それぞれの施策において取組を行ったところでございます。

なお、空き家の片づけ等に伴います多量ごみの受付、それから排出方法等の問合せ等に随時対応してきたところでございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　櫻井委員。

○１番（櫻井幹夫君）　今のご説明ですと、各課において何らかの取組をしているということかと思いますが、施策の一番初めにこの項目が挙がっている。要はこの項目が全ての根源となっているのではないかと考えます。しかるに当たって、課が独自に取り組んでいるという以前に、まずこの施策として一番に挙がっているこのことについて、もっとしっかりと取り組む内容、姿勢というのを示すべきだと思いますが、どうお考えでしょうか。

○委員長（大竹　惣君）　町民税務課長。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　お答えいたします。

指標１の自然環境の概念というものは、幅が広くて、一般的には森林や農地、それから河川や公園などを想像しますが、様々な視点での捉え方があると思います。この指標は、町民がどう感じている

か、アウトカムを評価する重要なものでありまして、町の幅広い事業分野に関連し、様々な施策において参考とすべき指標であると考えてございます。

なお、この施策に対する当課の取組といたしましては、河川等への油流出、それから悪臭発生時の対応、騒音調査等の公害防止、それから廃棄物対策、循環型社会の推進による環境保全、それからCO_2排出啓発による温暖化の防止というようなことの取組をこの施策に対して取り組んでまいったところでございます。

○委員長（大竹　惣君）　櫻井委員。

○１番（櫻井幹夫君）　結論です。その取組で、この数値の効果が上がると本当に思っているのですか。

○委員長（大竹　惣君）　町民税務課長。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　今ほども申し上げたとおり、こちらの取組については町全体での幅広い取組があって、やはり町民の方がどういうふうにこの自然環境について感じられているかという最終的なアウトカムを評価するということでございますので、やはり町全体として様々な施策において取り組むべきものでございまして、本課だけの取組だけでは数値を達成できないというふうに認識してございます。ご理解いただきたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　これで櫻井幹夫委員の質疑は終わりました。

次に、同じく施策ナンバー１―１、自然・生活環境の保全について、７番、村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　それでは、施策ナンバー１―１、自然・生活環境の保全から質疑させていただきます。

３番、指標の分析③において、コロナ禍の行動制限が緩和から目標達成には至らなかったとありますが、この問題に対してはどのような取組内容だったのか伺います。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、町民税務課長、猪俣利幸君。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　ただいまのご質問にお答えいたします。

実家の片づけ等に伴います多量ごみの増加につきましては、空き家等の適正管理、それから利活用といった観点からいたしますと、後片づけや危険空き家の解体に取り組んでいただけるということは、良好な住環境の整備に寄与し、大変好ましいことであると考えてございます。一方で町のごみ排出量の増加につながりますことから、可能な限りごみの量を減らすため、空き家の片づけごみの排出方法については、問合せがあった場合、その搬入申請の手続を行う際にごみ分別ガイド等を活用いたしまして、分別や排出の方法について丁寧な説明を行い、適正排出が行われるよう努めてまいったところでございます。

○委員長（大竹　惣君）　村松委員。

○７番（村松　尚君）　ありがとうございます。様々な説明を行って、分別であったり、減量もしたというようなお話でしたけれども、ちょっとコロナ禍の行動制限が緩和されたということによって、

実家の片づけ等が、一時的に多量ごみが増えたと。ただ、これを分析として認識されているということは、５類になって、行動が、常に行き来ができるようになったら、この手のごみというのはなかなか下がってこないのではないかと一般的に考えれば思うのですけれども、その辺は所管としてどのような認識で分析されているのかお伺いします。

○委員長（大竹　惣君）　町民税務課長。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　この多量ごみでございますけれども、多量ごみの受付でございますけれども、こちらについては、受付については本課のほうで、窓口のほうで実施してございますが、令和３年度の受付件数が305件に対しまして、令和４年が406件ということで100件ほど増えてございます。なお、今年度も増加傾向にございます。今後ますますやはり実家の行き来が活発化されることに伴いまして、今後も件数、それから排出量ともに増えていくことが想定されますので、そこはきちっと資源ごみ、それから燃えるごみ、燃えないごみということで、適正に分別、排出をきちっと促してまいりたいというふうに考えてございます。

○委員長（大竹　惣君）　村松委員。

○７番（村松　尚君）　今ほどのお話はもっともなことだと思うのですけれども、確かに今ほど、先ほどから同僚委員も質疑の中でもありましたけれども、空き家の適正管理であったり、様々なことをしていく上では、当然ごみの量というのはどんどん、どんどん右肩上がりで、当面は増えていくのではないかなと。これは、様々な集配業者さんのお話を聞いても、空き家が増えたから、ごみが減るわけではない、空き家が増えたことによって、ごみの量も増えていくと。そういったことで、多量ごみというのはこれから先、非常に右肩上がりで上がっていくと思うのです。それに対してしっかりとした、やっぱり町として町民の方々に知らせる、そういったことが、広報であったり、様々な手だてを講じて周知させていくことが大切だと思うのですけれども、今年度の反省を踏まえた上で、今後の考え方お伺いいたします。

○委員長（大竹　惣君）　村松委員、今後はちょっと質問工夫してください。

○７番（村松　尚君）　今年度の反省をどう生かしていくのかお伺いします。

○委員長（大竹　惣君）　町民税務課長。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　１問目でも先ほどもお答えしましたけれども、空き家のやはり適正管理とか、そういうものについて伴うごみでございますので、町の施策としてはやはり喜ばしいところもございますけれども、反面こういうような短所というか、こういうような問題もあるところでございますので、今後やはりホームページ、それから広報等でやはり後片づけに伴うごみの適正排出、分別等をしっかりするような、適正排出についての広報活動を強化してまいりたいというふうに考えてございます。

○委員長（大竹　惣君）　これで村松尚委員の質疑は終わりました。

次に、同じく施策ナンバー１―１、自然・生活環境の保全について、13番、根本謙一委員。

○13番（根本謙一君）　では、私の質疑をさせていただきます。

成果指標の分析③において、町民１人当たりの生活系一般廃棄物量で、数値は前年度と同値であり、目標値に対して４キログラム減であったとあります。４キログラムの増加ではないのか、まず１点伺います。

次に、ごみの減量化とリサイクル率向上の傾向が見えていると理解していますが、所管としてはこの点についてはどのような認識をお持ちなのか伺いたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、町民税務課長、猪俣利幸君。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　ただいまのご質問にお答えいたします。

指標の分析３につきましては、町から排出される町民１人当たりの生活系一般廃棄物の量は減少の指標でありますが、実績値が目標値まで達していないという意味合いで、目標値に対し三角の４キログラムであったとの記載をしてございますが、目標値に対し４キログラムの超過という表現のほうがより適切であったと考えてございます。

また、生活系一般廃棄物につきましては、令和２年度に開始した選別収集が大きな成果を上げておりまして、令和４年度暫定値と開始前の令和元年度を比較いたしますと、可燃ごみが4,626トンから3,982トンと644トンの減、率にして13.9％の減となっており、また不燃ごみが494トンから374トンと120トンの減、率にして24.3％の減となってございます。また、生活系一般廃棄物におけるリサイクルにつきましては、令和４年度暫定値が16.5％で、令和元年度10.8％と比較いたしますと5.7％の上昇となってございます。この排出量の減少は、人口減の影響もございますが、大幅に超える減少率となってございまして、ごみの減量化、それからリサイクル率の向上が図られているものというふうに認識してございます。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　１点目は分かりました。

２点目ですけれども、だから傾向は間違いなく評価、成果が上がっているというふうに踏まえます。それを踏まえても、先ほど質疑の中ではいわゆる空き家からの排出ごみが今後もどんどん、どんどん増えるのではないかという懸念は、つい持ってしまうのですけれども、所管としての適正な指導、助言、それから関わり方によっては減量化とリサイクルに向けてのさらなる取組が私は必要になってくるのかなというふうにも考えます。その点についてはどのようなふうに分析されますか。

○委員長（大竹　惣君）　町民税務課長。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　先ほどのご質問にお答えしましたが、多量ごみにつきましては受付の際、必ず本庁舎駐車場のほうにごみを一旦持ってこられます。その際にきちっと排出されるごみをしっかり分別されているかと、適正に排出されているかというのをチェックしてから搬入の許可を出すというような手続を行ってございますので、そこはしっかりとその辺についてはやってまいりたいと考えてございます。また、空き家の多量ごみがやはりどうしても今後増えていくというようなこと

が予想される中にあっては、これまでのやはり選別収集をさらに徹底させると。それから、広報において４Ｒ運動、それから３きり運動の周知、それから出前講座等を通しましてそういうものの周知を徹底していきまして、ごみの減量化、適正排出を促してまいりたいと、協力を求めてまいりたいというふうに考えてございます。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　もうそれに尽きるかなというふうに私も思っています。私は、基本的に所管の取組は大変評価しております。如実に成果も上がっているということは、数値的にも言えることです。ただ、時代的に、今回はコロナに絡んでのいろいろな事象がありますので、多少の増減は当然あり得るということを踏まえても、今まで以上のごみ減量化とリサイクル率向上を図るためにはと考えますと、おのずともうやることは決まっていると思います。その辺の分析は、どのようにしていますか。

○委員長（大竹　惣君）　町民税務課長。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　ただいまのご質問、おただしでございますが、やはりこれまでのリユース事業の強化、それから小型家電等の回収イベントの実施、それから何といってもやっぱり生ごみ処理機です。昨年度の実績が、電動生ごみ処理機で一昨年の４件を、その倍ということで８件となってございますので、かなりこの生ごみ処理機の減量率、減量化によって、燃えるごみの量というのは相当減らせる可能性を秘めているというふうに考えてございますので、この辺につきましてもホームページ、それから広報等で周知啓発を徹底していきたいというふうに考えてございます。

〔「委員長、リサイクル向上についてはまだ言われていないんで、そこを伺って」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　それでは、町民税務課長、リサイクル向上についての考え方を答弁お願いします。

町民税務課長。

○町民税務課長（猪俣利幸君）　リサイクルの向上対策でございますけれども、広域事業組合のほうで昨年度実施いたしましたごみの組成調査の結果でございますけれども、やはり雑紙、それから容器包装のプラスチック類、その他のプラスチック類の占める割合がまだ半分と、50％を占めているということで、さらなる、ペットボトルとかそういうような一般的な容器については、分別は皆さん、住民の方に浸透してきていると。ただ、この雑紙、それからプラスチック類を、何とかこの辺を、お菓子のくず、包装紙とか、そういうものがついついやっぱり燃えるごみのほうに捨てられてしまうということで、かなりの割合を占めているということでございますので、その辺をきちっと徹底していけば、さらに燃えるごみの量が減らせるものと考えてございます。

○委員長（大竹　惣君）　これで根本謙一委員の質疑は終わりました。

次の施策に移ります。施策ナンバー１－２、生活基盤の整備について、13番、根本謙一委員。

○13番（根本謙一君）　それでは、生活基盤の整備の部分でお尋ねしたいと思います。

成果指標の分析①におきまして、高田、新鶴地域に公園が少ないという声があることから云々という書き込みがございます。所管課の認識は、この部分についてどのようにお持ちになっているのか。また、課題の取組として公園管理指導員を採用し、新たなあやめ苑の肥培管理を開始したとあります。課題等、事業計画どおりに進められたのかどうか伺いたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、建設水道課長、加藤定行君。

○建設水道課長（加藤定行君）　それでは、お答えいたします。

高田、新鶴地域に公園が少ないという声の所管課の認識につきましては、建設水道課で管理する公園の地域別の数といたしましては高田地域は都市公園３か所、ポケットパーク２か所、あやめ苑の計６か所であり、本郷地域は都市公園４か所、町並み公園10か所、ポケットパーク２か所、せせらぎ緑地公園の計17か所がございます。新鶴地域におきましては、建設水道課で管理する公園はございません。町全体では、児童公園や農村公園等も含めた地域間のバランスは必要であると認識しているところでございます。

次の課題等、事業計画どおりに進めたのかにつきましては、新たに採用しました公園管理指導員が町内の学識経験者よりアドバイスをいただきながら、関係機関と連携し、維持管理を行いました。その成果として、令和４年度に当町で開催されたあやめサミットにおいては、花菖蒲が美しく咲き誇ったものと認識しております。また、あやめ苑再生計画において、令和４年度は令和２年度植付け箇所の株の状況を確認しながら株分けを実施することであったため、株の咲きぶり小さくなっている区画を中心に株分け及び補植を実施しており、計画どおり進めたものと考えておるところでございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　それでは、まず１点目です。今課長はバランスが必要だと言いました。確かに新鶴が所管としての管理、公園としてはゼロだということなので、これは意外とびっくりしました。再認識したいと思いますけれども、これは地域性もあると思います。過去のまちづくりにも影響されているはずですけれども、高田、新鶴地域に公園が少ないという声があるということで評価が下がるということはどういうことなのかなというふうに、ただ数がない、全くないというのもいかがなものかなと思いますけれども、でも現実はあれだけすばらしい公園的なものもあるわけです。それが所管の部分としてはゼロだというふうに、そんな小さく捉まえるのではなくて、地域全体として見た場合にどうなのだというふうに見れば、あれだけ緑豊かな農村田園風景を有している新鶴地域で、そんなに不満が果たして出るものなのかなというのはこちら側として感じるところだったので、ここ伺った次第です。そこはもう少し分析する必要があるのかなというふうに思いますけれども、どのような認識お持ちになります。

○委員長（大竹　惣君）　建設水道課長。

○建設水道課長（加藤定行君）　新鶴地域におきましては、やっぱり各地区に分散して農村公園が10か所ほどございまして、皆で遊べるような公園においてはふれあいの森の公園で、生涯学習課所管である公園のみとなっております。やはり皆で遊べるような公園が欲しいというアンケート調査の結果に基づいて、お答えしているところでございます。

以上でございます。

○13番（根本謙一君）　いいのかな。１点ずつ言っていいのですか。

○委員長（大竹　惣君）　まとめて言っていただかないと、この質疑に対しての３回までですから。

○13番（根本謙一君）　今の部分に対して。いいですね。分かりました。

そうしますと、確かに農村公園が10か所あるということですから、みんなで遊べるものにも、広々とした……

○委員長（大竹　惣君）　根本委員、この通告に対しての２回までの再質疑などで、もしほかにもあるのでしたら一緒に質疑していただきたいと思いますけれども、１点だけで大丈夫ですか。

○13番（根本謙一君）　いや、１点というのは、私が１点目と言ったのは、高田、新鶴地域の公園が少ないというのが１点目。２点目は、あやめ苑、計画どおりに実施できましたかという、そういう意味合いで聞いたのです。では、続けてやったほうがいいということですね。

○委員長（大竹　惣君）　そうですね。質疑回数が決まっていますので、例えば２点だったら２点同時に質疑していただいたほうがよろしいかと思います。

○13番（根本謙一君）　そうします。分かりました。

そうしますと、公園の部分ですけれども、これは、みんなで遊べるというのは何か抽象的で、情緒的な話になってしまうので、あまり生産的ではないなと思いますけれども、そこはちょっと小さく見過ぎているかなというふうに私は思います。農村公園10個あるということですから、地域の人にとっては憩いの場にも十分に活用できるわけです。それをそうではなくて、やはりないのだから、必要だねというところに私はいくとは思っていませんけれども、そういう捉まえ方はもう少し考える必要があるかなというふうに思います。

再度の答弁と、２点目のあやめ苑の計画というのは再生計画ありましたよね。そのとおりにちゃんと確実に、あの計画どおりにやれたのですかねというところです。結果として、今年度のことは聞きませんけれども、今年度のことが出てきたわけです。ですから、再生計画が計画どおりに実施されたにもかかわらず今年度を迎えてしまったのか、何かがあったのか、そこをどういうふうに考えていますか、ちゃんと計画どおりにやれたのですかというところを伺った次第です。お願いします。

○委員長（大竹　惣君）　建設水道課長。

○建設水道課長（加藤定行君）　公園の新鶴地区におきましては、各地区に農村公園等はございますが、皆で遊べるような公園が望まれているというような現状でございまして、それについてはないものと考えておりました。

以上でございます。

それで、続きましてあやめ苑の再生計画が計画どおりに進めたのかと。それにつきましては、あやめ苑の衰退の原因等、長期の渇水時にかんがい用施設の老朽化による水不足、園内の樹木の繁茂による日照不足、連作障害等が主な要因となっていたものと捉えておったのが現状でございます。かんがい用施設においては、老朽化したスプリンクラーから穴あきホースやしみ出るホースへの切替え、園内の支障木の剪定や伐採等を行ってまいったところでございます。連作障害については、令和２年度に全面的な植え付けた株を状況を見ながら令和４年度に株分け作業を実施するなど、計画どおりに進めたとは認識しているところでございます。

○委員長（大竹　惣君）　建設水道課長に申し上げます。

１点目の公園の部分、みんなが遊べる部分ということで、小さく見ているのではないかということ、憩いの場を活用すべきなのではないかということだと思うのですけれども、もう一度その辺丁寧に答弁お願いします。

建設水道課長。

○建設水道課長（加藤定行君）　それでは、お答えいたします。

各地区においての農村公園等はございますが、地区を越えての遊び場が欲しいというような認識でおりました。それで、他課といろいろ連携しながら、今後どのようなものにしていったらよいかということを今後協議してまいりたいというふうに考えておるところです。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　これで根本謙一委員の質疑は終わりました。

次の施策に移ります。施策ナンバー１―３、交通体系の充実について、１番、櫻井幹夫委員。

○１番（櫻井幹夫君）　それでは、質問します。

３、指標の分析の指標②において、あいあいタクシーの利用者も前年度に比べ、年間で1,000人以上の増加とありますが、電話による受付の割合、人数はどのぐらいでしょうか。結果、導入したアプリの普及率はいかほどだったのでしょうか。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、建設水道課長、加藤定行君。

○建設水道課長（加藤定行君）　それでは、お答えいたします。

あいあいタクシーの電話による受付の割合及び人数につきましては、電話受付は全体利用者２万3,411人のうち約99.2％で、２万3,222人となっております。令和４年11月からＡＩを活用したデマンド交通配車システムを新たに導入し、併せて24時間予約等が可能な専用のアプリによるサービス運用を開始いたしました。アプリの普及率につきましては、全体利用者のうち189人が専用アプリによる予約を利用され、約0.8％となったところであります。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　櫻井委員。

○１番（櫻井幹夫君）　今ほどアプリの利用者0.8％ということでございますが、アプリ導入についての課題等は現状ないのでしょうか。
○委員長（大竹　惣君）　政策財政課長、國分利則君。
○政策財政課長（國分利則君）　課題でございますが、やはり主にスマートフォンを想定してございますので、当然スマートフォンをお持ちでない方はなかなかこのアプリをダウンロードというか、利用することができないというのが一つの課題でございます。
　あと、もう一点でございますが、あいあいタクシーの利用者の、ほぼ高齢者の方がご利用されておりますので、高齢者がいかにそのアプリを活用してできるのか、スマホの操作も含めて、その辺が課題と認識してございます。
　以上でございます。
○委員長（大竹　惣君）　櫻井委員。
○１番（櫻井幹夫君）　ただいまの課題という部分について、スマホを持った人、高齢者のアプリの使えるかとかという部分のようですが、アプリをそもそも導入したということについて、アプリを使った利用者、それはすなわち若年層だったり、観光客というところの取り込みが目的ではないのかなというふうに思っていまして、そういった部分の取り込み方法を模索してやっぱり取り組んで、検討して、次に進むべきだと思うのですが、いかがでしょうか。
○委員長（大竹　惣君）　ちょっと質問を変えてください。所感を述べてやるべきだという、ちょっと要望みたいな感じになってしまっていますので、ちょっと工夫をお願いします。
○１番（櫻井幹夫君）　失礼しました。アプリに対する取組やアプリの導入と現状についての当局の認識をお示しください。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　現状と認識ということでございますが、先ほどもお答えいたしましたが、やはり現在の利用者は高齢者の方が多いということでございます。しかしながら、若年層、さらには全世代で当然このデマンド交通システムをぜひ利用していただきたいという気持ちはございます。確かに先ほど高齢者ということで説明申し上げましたが、やはり今後は若年層、さらにはそういった世代にも当然利活用いただけるかなと思っております。これがやはり今ほぼほぼ若年層におきましてはスマホは持ってございますので、今後そういった方の利用がさらに増えていくのかなと思っておりますので、高齢者はもとより、そういった町民全体が使えるように広く周知したいというのが、やはり周知すべきだろうというのが前年度の課題であるのかなと認識してございます。
○委員長（大竹　惣君）　これで櫻井幹夫委員の質疑は終わりました。
　次に、同じく施策ナンバー１―３、交通体系の充実について、６番、長嶺一也委員。
○６番（長嶺一也君）　私のほうからは、４、課題に対する取組の欄の中で質疑をさせていただきます。

道路の舗装補修及び道路施設の修繕を実施したと言っておりますが、穴ぼこ等による物損事故に対する損害賠償を毎年数件行っております。町の道路パトロールはどのように行っていたのかお伺いいたします。

また、自治区長や町民からの道路補修依頼についてどのように受け付けていたのか、さらにそういった補修に対する、穴ぼこがあるという情報提供に係る周知はどのように実施したのかお伺いいたします。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、建設水道課長、加藤定行君。

○建設水道課長（加藤定行君）　お答えいたします。

道路パトロールはどのように行っていたのかにつきましては、職員及び会津美里振興公社との委託、冬期間の除雪オペレーターによる道路パトロールを主とし、地域包括連携協定を結んでいる日本郵便株式会社、ヤマト運輸株式会社など、日々の業務を通しての情報提供もパトロールの一環として捉えているところでございます。

また、自治区長や町民からの補修依頼についてどのように受け付けているのか、さらに情報提供に係る周知はどのように実施したのかにつきましては、受付に関しましては直接電話にて情報提供や、自治区長から要望書により受付が多くあり、情報提供に係る周知は区長会総会や町民の方々が集う各種会議等においてご依頼をしているところでございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　まず、道路パトなのですけれども、やり方は分かったのですが、頻度はどういうふうな形になっているのかお聞きしたいのと、補修依頼についてなのですが、町民の方にお願いというか、依頼するに当たって、例えばスマホの写真ですとメール、それを送ると位置情報がその中に入っています。そういう活用ができるかと思うのですが、そういった説明もしたのかどうかについてお伺いいたします。

○委員長（大竹　惣君）　建設水道課長。

○建設水道課長（加藤定行君）　それでは、お答えします。

パトロールについての頻度につきましては、１週間に１度程度行っているような状況でございます。あと、住民に対する補修等で、写真等のアプリ等でのそういう依頼等はやってございません。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　最後の質問になるのですが、やはりスマホの写真情報というのは便利なものですから、ちょっとその辺の検討いただければと思うのですが、最後になのですけれども、春先、雪が解けると除雪車のカッティングエッジとか排土板で歩道の縁石なんかが壊れているところが数か所必ず出てくるのですけれども、これもやはり区長からの補修依頼とか、町民からのどこどこが壊れていますよというような情報提供があって、補修してきたのかということを最後にお聞きします。

○委員長（大竹　惣君）　建設水道課長。
○建設水道課長（加藤定行君）　それでは、お答えします。
　そのとおりでございます。
○委員長（大竹　惣君）　これで長嶺一也委員の質疑は終わりました。
　次に、同じく施策ナンバー１―３、交通体系の充実について、11番、堤信也委員。
○11番（堤　信也君）　それでは、交通体系の充実でお伺いいたします。
　３の指標の分析、１において、舗装補修及び道路施設修繕の実施、降雪が少なく、通勤、通学時までに丁寧な除雪ができたことが減少の要因と考えるとありますが、経年劣化による舗装補修、道路施設修繕は何か所あったのか、実施率は何か所だったのか、また通勤、通学時までの降雪について問題、支障はなかったのかをお伺いいたします。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、建設水道課長、加藤定行君。
○建設水道課長（加藤定行君）　それでは、お答えいたします。
　経年劣化による舗装補修、道路施設修繕は何か所あって、実施率は何か所だったのかにつきましては、経年劣化による舗装補修工事が４路線、道路施設修繕は契約数で134契約ございました。また、実施率につきましては、区長会要望を最優先とし、通常パトロール、その他情報提供を基にした修繕、街路灯修繕、舗装の路面性状調査結果からの損傷度、重要度、緊急性を判断し行う舗装補修など多岐にわたり、何を基にするかで率が違ってくるため、実施率の算定はできないと考えておるところでございます。
　次に、通勤、通学までの除雪について問題、支障はなかったのかにつきましては、令和４年度は降雪、積雪量が少なかったことから、除雪に対する苦情もなく、円滑な交通の確保ができ、支障はなかったものと考えておるところでございます。
　以上でございます。
○委員長（大竹　惣君）　堤委員。
○11番（堤　信也君）　まず、舗装補修、あと道路施設の修繕、これについて、希望なのでしょうけれども、あと緊急性だったり、そういった部分がありますけれども、亀裂の入った舗装についてはパッチングとか何かでやっているのでしょうけれども、先ほど４路線と言いましたけれども、その施工延長と面積、あと道路施設等においての道路施設の詳細、どういったものがあったのか。例えば横断溝だったりとか、今ほど同僚委員がおっしゃったように歩車境だったりとか、それについての詳細分かれば教えていただければと思います。
○委員長（大竹　惣君）　建設水道課長。
○建設水道課長（加藤定行君）　今４路線の舗装補修工事の面積、延長等については、後ほどちょっとお答えさせていただきたいと思います。
　それで、道路修繕につきましては、舗装表面のポットホールの修繕及び、あと水路、除雪等で壊し

たのも含みますが、経年劣化におきましては水路の修繕、歩車道境界のブロックの修繕等、横断溝等の修繕は本年度におきましては行っておらないところが現状でございます。

以上です。

○委員長（大竹　惣君）　堤委員。

○11番（堤　信也君）　横断溝をやっていなかった。例えば、あと町内歩いていくと、マンホールとか突出している部分あります。そういった部分についてどういった形で除雪するときも注意を促しているのか。横断溝にしてもしかりです。あとは止水栓だったり、そういった部分をどういった形で認識しながら、お互い情報共通しながらやっているのか、それについて伺いたいのと、あとこれは管轄としては401なので、県管轄ですけれども、401の消雪装置、これ町長もご存じだと思うのですけれども、もう数年前から町内の主要の部分が消雪機能がもうストップしています。以前町長にも間に入っていただいて話ししましたけれども、その後一向に進んでいるような要素は見受けられません。今年度も雪が少なかったからよかった、そういう問題ではないのです。今年度も雪、やはり１晩でかなり降るのです。それによって401、当然県管轄ではあっても、町民が使う道路です。それに対しては町のほうでしっかりと建設事務所にこういう状態だから、どうしましょうかと。早めにやってください。これ四、五年前から同じこと言っています。その辺どういう動きになっているのか、それもちょっと教えていただきたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、建設水道課長。

○建設水道課長（加藤定行君）　まず最初に、除雪オペレーターに横断溝やらマンホール等の位置等のものにつきましては、今現在横断溝、新たなものにつきましては、上げる部分が斜めになっているものを最近採用してございまして、基本的に排土板をはじくような構造のものを最近採用しているところでございます。それと、あと去年からなのですけれども、去年より位置情報システム等を採用してございまして、その中にいろいろ構造物等を中に入れるようなことができるそうなので、今後それらを利用した上でも除雪オペレーターの方々には危険箇所と申しますか、構造物等が入っている箇所についての周知等、気をつけるようなことで周知したいと考えております。

それと、あと続きまして401の消雪の状況だったのですけれども、一応去年なのですけれども、降雪前、12月にならないうちに電気のほうをちょっと入れてもらいまして、状況、水がどのような出方をするのかというのを建設事務所と共に調査をいたしたところです。それで２か所ほどがどうしても井戸のほうが今死んでいるような状態だということで、２か所ほど再度今後井戸の掘り替え、新たな新規の井戸が必要だというほどの結果が出ており、今後それの新たなものを入れ替えるようなことで、今後要望していくような状況でございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　建設水道課長に申し上げます。

道路の破損、道路施設の破損箇所の部分、これどういった形で情報収集をしていたのか、この部分

もう一度答弁お願いします。

建設水道課長。

○建設水道課長（加藤定行君）　パトロール等により、また住民の通報等により把握したところでございます。

○委員長（大竹　惣君）　これで……

建設水道課長。

○建設水道課長（加藤定行君）　先ほどの４路線の延長及び面積等、今調べておりますので、休憩をちょっとお願いできますでしょうか。

○委員長（大竹　惣君）　どのくらいの時間要望ですか。

○建設水道課長（加藤定行君）　11時までいただければ。

○委員長（大竹　惣君）　ここで11時まで休憩します。

休　憩　　（午前１０時５３分）

再　開　　（午前１１時００分）

○委員長（大竹　惣君）　再開します。

答弁、建設水道課長。

○建設水道課長（加藤定行君）　先ほどの舗装補修工事４路線の内訳についてお答えいたします。

工事におきましては、全て舗装の打ち替え工事でございます。まず初めに、高田地域の町道12018号線、地域としましては田中、沖ノ舘間でございます。延長が410メートル、舗装面積が1,983.5平米でございます。

続きまして、町道の21013号線でございます。本郷地域でございます。大門と大石間の舗装補修で、延長が340メートル、面積が1,746.5平米でございます。

続きまして、30104号線、新鶴地域でございます。米沢と根岸間の舗装補修でございます。延長が250メートル、面積が1,600平米でございます。

続きまして、高田の12008号線でございます。通称７号線です。これにおきましては、下水の本復旧工事と併せて下水の対象外の部分を同時に施工を行ったところでございます。コンクリート化からアスファルト化をしたところで、延長が235.5メートル、面積が2,355平米でございます。合計で延長が1,235.5メートル、面積が7,685平米でございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　よろしいですか。

〔「今の７号線のやつは、単費による、要は下水等を抜いた部分の面積でいいんですね」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　建設水道課長。

○建設水道課長（加藤定行君）　下水と建設分含んだ延長及び面積でございます。

〔「下水も入っているわけ」と言う人あり〕

○建設水道課長（加藤定行君）　はい。

○委員長（大竹　惣君）　これで堤信也委員の質疑は終わりました。

以上で施策名、自然に配慮した環境づくりに関する質疑は終了しました。

質疑漏れはございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　以上で自然に配慮した環境づくりに関する質疑は終了します。

ここで、次の政策に移りますので、説明員入替えのため11時15分まで休憩いたします。

休　憩　　（午前１１時０３分）

再　開　　（午前１１時１５分）

○委員長（大竹　惣君）　再開します。

これより政策名、安心で安全な暮らしづくりの質疑を行います。

施策ナンバー２―１、防災・消防体制の充実について、１番、櫻井幹夫委員。

○１番（櫻井幹夫君）　それでは質問します。

４、課題に対する取組において、集落支援員により各自治区へ自主防災組織の組織化の働きかけ及び出前講座を行ったとありますが、出前講座の内容と回数、参加者は何名だったのでしょうか。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、総務課長、金子吉弘君。

○総務課長（金子吉弘君）　それでは、お答えいたします。

職員出前講座の内容につきましては、自分たちの地域は自分たちで守る、自主防災組織とはというメニューの内容で、内容につきましては災害時の備えや自主防災についての説明を行うものとなってございます。令和４年度の職員出前講座の開催回数につきましては３回で、対象者数は13名となっております。また、自主防災組織設立に向けました出前講座の開催回数につきましては合計２回、参加者につきましては約40名というふうになっているところでございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　櫻井委員。

○１番（櫻井幹夫君）　今の答弁ですと、設立に向けた出前講座が２回ということは、この施策評価シートを見ますと２件の設立があったということですので、そちらに対する２件の出前講座。これは、先方から要請があって行ったということなのでしょうか。

○委員長（大竹　惣君）　総務課長。

○総務課長（金子吉弘君）　それでは、再度のおただしにお答えさせていただきます。

設立に向けた、まず出前講座につきましては、令和４年度２件の設立があったことは事実でござい

ます。ただし、この説明に伺った自治区が全て２件とも設立されたということではございません。内容を申し上げますと、設立に向けました出前講座には本郷地域の螺良岡と新鶴地域の梁田のほうに出向いて行っております。実際４年度に設立されましたのは、螺良岡に関しましては設立に至ったわけでございますが、梁田についてはまだ設立に至っておりません。もう一つは、高田地域の箕作地区が１件、令和４年度中に設立にこぎ着けたというふうな内容でございますので、昨年説明会を行った、講座を行った１件については設立に至ったというふうな内容でございます。

あと、この設立の講座につきましては、地区のほうから要請がございまして、我々のほうで出向いて説明をさせていただいたというふうな中身になってございます。

○委員長（大竹　惣君）　櫻井委員。

○１番（櫻井幹夫君）　今後ますます自主防災組織の重要性というのは大事になってくるというふうに考えています。

そこで、先方からの、地区からの設立、それに対する説明という、行政としての後手の行動ではなく、町が主導するような形で、全地域が自主防災組織を立ち上げるような事業として予算を組んだりとかして、一気に持っていくというような考えは今現在はございませんか。

○委員長（大竹　惣君）　総務課長。

○総務課長（金子吉弘君）　お答えいたします。

まさに委員がおっしゃるとおり、この自主防災組織については非常に大事な組織であるというふうに町も思っておるところでございます。当然ながらこの設立の動きを早めていかなければいけない。また、早めることによって、町民の安心、安全につながっていくということは事実でございますので、取組を進めていく、推進していくというのは間違いないことでございますが、予算の関係につきましてはある程度目標を大きく持っていきたいところではございますが、さすがにちょっと地区の事情等もある部分もございます。ですので、町から積極的な声かけは従来以上にさせていただきながら、積極的にＰＲ、あと設立の意義等についてしっかりと、今も区長会の席上、総会の席上とかではしっかりとお伝えさせていただいておりますし、さらには集落支援員の地道な努力といいますか、各地区、全地区を回りまして、その必要性なんかを訴えていただいているところでございます。そういった歩みといいますか、動きを強めていきながら、なるべく早く、早い時期に全地区設立に向けていただけるように、しっかりと町で対応していきたいなというふうに思っているところでございます。

○委員長（大竹　惣君）　これで櫻井幹夫委員の質疑は終わりました。

次に、同じく施策ナンバー２－１、防災・消防体制の充実について、10番、星次委員。

○10番（星　　次君）　それでは、成果指標に対して、４の課題に対する取組の中で、避難行動要支援者名簿を整備し、関係機関との共有を行ったとしているが、関係機関を示せ。また、避難誘導するために自治区長に対しても周知を図ったのか。支援者にはどの時点で説明するのか、さらには理解をしていただくことが肝要かと考えるが、伺います。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、総務課長、金子吉弘君。
○総務課長（金子吉弘君）　それでは、お答えいたします。
　避難行動要支援者名簿の関係機関との共有につきましては、まず警察署、消防署、さらには社会福祉協議会及び自治区長並びに民生児童委員に名簿を提供しているところでございます。名簿の提供に際しましては、平常時には地区内の避難支援が必要な方の把握に活用させていただきまして、災害が発生しそうな場合や災害発生時には避難の呼びかけ、さらには安否確認などに活用する旨、併せてお知らせをしているところでございます。
　次の避難者への説明につきましては、先ほど申し上げましたように、名簿の提供の際に説明を行っておりまして、また要支援者への説明につきましては、名簿の作成の際に関係機関への名簿の提供に当たり、対象者へ同意確認を行っているところでございます。その際に避難行動要支援者名簿や活用方法についてお知らせをしているところでございます。
　なお、避難行動要支援者名簿が平常時及び災害時とも有効に活用されていることに対しまして、支援者及び要支援者に理解していただくことは重要であるというふうに認識しているところでございます。
　以上でございます。
○委員長（大竹　惣君）　星委員。
○10番（星　　次君）　そうすると、自治区長さんにも協力を呼びかけたということでございますので、区長さんはこの要支援者の名簿は持っているのですかと、３点しか質問できないので、名簿作成というのはどのような方法で調査して、町が独自に調査したのか、どういう把握の仕方をしたのか、その辺も併せてお願いします。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、総務課長。
○総務課長（金子吉弘君）　まず、１点目の部分でございますが、自治区長が名簿を持っているのかというふうなおただしでございます。これにつきましては、当然自治区長さんのほうに名簿を提供しておりますので、各自治区のほうで名簿は持っていらっしゃるというふうなところでございます。
　あと、名簿の作成の方法でございますが、ちょっと詳しく内容を申し上げますと、避難行動要支援者のまずちょっと範囲からご説明させていただきますと、まず１点目といたしまして要介護認定３から５の方、さらには身体障害者手帳１級、２級の第１種の所持者、さらには３点目といたしまして療育手帳Ａを所持する知的障がい者の方、４点目でございます。精神障害者保健福祉手帳１級、２級を所持する単身世帯の方、さらに５点目でございます。町の生活支援を受けている難病疾患患者の方、６点目として満75歳以上の単身高齢者及び高齢者のみの世帯の方、最後にその他支援の必要があると認めた方でございまして、これに基づきまして町のほうでこの方を抽出いたしまして名簿のほうを作成していると。内容を確認しまして、名簿のほうを作成しているというふうな形になってございます。
○委員長（大竹　惣君）　星委員。

○10番（星　　次君）　そうすると、名簿に登載された方はもう既に承知しているということで、いざ何か避難誘導のあった場合はこの方を誘導していくというふうな、これは誰というか、それは例えば災害あったときに自治区だとか、あと警察、消防とか、そういう方々がやってしかるべきなのか、その辺の確認でひとつお願いします。

○委員長（大竹　惣君）　総務課長。

○総務課長（金子吉弘君）　実際に災害が発生した場合の対象者がどのように避難をされるかというふうな部分でございますが、基本的に名簿の提供は警察署ですとか、あと消防署のほうに提供しているわけでございますが、基本的に災害が発生しますと、地区内の大規模な災害ですと、当然各地区の要請者を一番最初に手助けできるというふうな状態にはやはり公的機関の場合ございません。ですので、基本的にお願いしている部分に関しましては、自主防災組織等がある地区に関しましては当然その地区内でいわゆる避難弱者の方を把握していらっしゃいますので、こういった名簿に基づきまして各行政区のほうで対応していただくというふうなことになってございます。あとは各地域の自治区長様のほうにも名簿のほうはお渡ししているわけでございますので、それを実際に把握していただいて、やはりそういったのを地区の責任において、しっかり避難所のほうに移動させていただくというふうなところで町としてはお願いをしているというふうなところでございます。

○委員長（大竹　惣君）　これで星次委員の質疑は終わりました。

次の施策に移ります。施策ナンバー２－２、交通安全・防犯体制の充実について、６番、長嶺一也委員。

○６番（長嶺一也君）　防犯灯のＬＥＤ化の支援についてお伺いいたします。

町、または自治区管理防犯灯についてですが、ＬＥＤ化の進捗状況は把握しているのかお尋ねいたします。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、総務課長、金子吉弘君。

○総務課長（金子吉弘君）　それでは、お答えをいたします。

ＬＥＤ化の進捗状況につきましては、各自治区管理の防犯灯は町内に約3,100か所ございます。そのうちの約67％の2,100か所をＬＥＤ化しているところでございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　ＬＥＤ化に係る町の考え方、あるいは、あといつまでに全ての防犯灯をＬＥＤ化するというような方針があるのかお尋ねいたします。

○委員長（大竹　惣君）　総務課長。

○総務課長（金子吉弘君）　それでは、お答えいたします。

まず、ＬＥＤ化に対する町の考え方でございます。これにつきましては、基本的にやはり従来のいわゆる防犯灯からＬＥＤ化にすることによりまして、何せ施設が長もちするというふうなところは、

これは間違いないものでございます。そうすることによりまして、各地域におきましてはそういった交換ですとか修繕の手間が省けるというふうなメリットが享受できますし、また町のほうで電気料に関しましても確実に軽減化されるというふうなところになっておりますので、この部分に関しましては積極的にＬＥＤ化を推進してまいりたいというふうに考えているところでございます。さらに、全ＬＥＤ化する目標年次、年度につきましては基本的にはございません。残りが約2,100か所くらいございますので、各その地域……大変失礼しました。残り約1,000か所ございますので、これを速やかにＬＥＤ化していただくように町のほうではＰＲしていきたいというふうに思っております。あと、それぞれの各行政区の事情もありますので、それに対応したような形でしっかりと補助制度を活用しながら、積極的にこれを推進していけるように周知を図ってまいりたいなというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　分かっていればでいいのですけれども、高田、本郷、新鶴で進んでいる、進んでいないというような格差があれば、その辺の状況を教えてください。

○委員長（大竹　惣君）　総務課長。

○総務課長（金子吉弘君）　お答えいたします。

各地域とも大体同じような進捗でございますが、ちなみに今データ手元にございますので、ご報告申し上げたいと思うのですが、まず高田地域に関しましては、整備率でございますが、72.2％でございます。本郷地域につきましては、60.2％となっております。新鶴地域につきましては、57.5％の整備率というふうになっているところでございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　これで長嶺一也委員の質疑は終わりました。

以上で政策名、安心で安全な暮らしづくりに関する質疑は終了しました。

質疑漏れはございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　以上で安心で安全な暮らしづくりに関する質疑は終了します。

ここで、次の政策に移りますので、説明員入替えのため暫時休憩いたします。

休　憩　　（午前１１時３４分）

再　開　　（午前１１時３６分）

○委員長（大竹　惣君）　再開します。

これより政策名、健やかで人にやさしいまちづくりの質疑を行います。

施策ナンバー３－３、子育て支援の充実について、６番、長嶺一也委員。

○６番（長嶺一也君）　それでは、質問させていただきます。

成果指標の①、令和３年度の70.8％から令和４年度62.8％と８ポイント減少したことについて、どのように分析しているのかお尋ねいたします。

また、令和４年度の成果指標実績値において、①、62.8％、②、94.3％という結果でありますが、私は両者の指標は相関関係があると考えております。同程度の数値になるものと考えるが、約30ポイントの差があることをどう分析しているのかお伺いいたします。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。

○こども教育課長（渡部雄二君）　それでは、お答えいたします。

町民アンケート結果分析につきましては、子育て家庭の経済的負担の軽減対策が足りないことなどの理由から成果実績値が減少したものであり、その一つの原因としてはコロナ禍での子育て世帯に対する現金給付等の事業がなかったことと分析しております。しかしながら、子育て家庭への経済的負担軽減策につきましては、乳幼児、児童生徒医療費助成やあいづみさと多子世帯保育料軽減、児童クラブ利用料やこども園給食費に係る主食費無償化などを実施しており、今後も継続して取り組んでいく考えであります。

また、成果指標の相違につきましては、①と②では成果指標の対象が異なり、①はゼロ歳から18歳までの保護者を対象とし、②はゼロ歳から３歳までの乳児期の保護者を対象としております。②の指標については、乳幼児健康診査、健康相談など保健師等によるきめ細かな支援を実施していることから、非常に高い成果指標実績値であると認識しております。①の指標については、青年期までの幅広い世代が対象となり、それに伴い多様なニーズがあることから、差が生じるものと認識しております。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　子育て支援の環境につきましては、移住者にとってもチェックするポイントになっております。なので、こういった子育てしやすい環境を整えていかないと、移住者の移住したいなという気持ちも起きてこないのではないのかなと、こう思っております。子育てしやすい環境、何が劣っていると考えておりますでしょうか。

○委員長（大竹　惣君）　こども教育課長。

○こども教育課長（渡部雄二君）　先ほどお答えした部分でもございますが、やはりこの指標に表れておりますとおり、昨年度につきまして現金給付的な支援が不足しているのかなというふうに分析をしているところでございます。これにつきましては、他課の事業にはなるのですけれども、年度末から年度の初めにおきまして現金給付、小学校、中学校の入学と中学校の卒業時に給付をしている事業を開始しておりますので、そういったところから徐々に数値は上がっていくのかなというふうに思っております。ただ、こちらにつきましてもこれからの事業でございますので、そういったところを地道に取組を行って、指標の数値が上昇するように取り組んでいきたいと考えてございます。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。
○６番（長嶺一也君）　今の今年度現金給付ということだったのですけれども、それは今年度の話で、昨年度、令和４年度、この決算の内容ですから、４年度についてなのですけれども、現金給付がなかったことだけが理由と考えているのか、そこ最後確認させてください。
○委員長（大竹　惣君）　こども教育課長。
○こども教育課長（渡部雄二君）　現金給付等の対策だけではないというふうに当然分析はしております。ただ、今までの町民アンケートの流れといいますか、動きといいますか、そういったところから、あとは世の中のコロナであったり、そういった状況等を踏まえますと、一番大きなのがそういった現金給付というような理由なのかなというふうに分析はしております。ただ、我々としましても、こちらの指標の分析にも書かせていただいておりますが、こども園等における保育サービス、そういったものに対する不満の声というのが少なくなっておりますので、我々が今まで取組をしてきたものが少しずつ認められているというふうには考えております。ただ、そういった全体的に子育て世代に対する支援というのは、これからもいろんな広範囲において、できる限り対策をしてまいりたいと考えております。
以上でございます。
○委員長（大竹　惣君）　これで長嶺一也委員の質疑は終わりました。
以上で政策名、健やかで人にやさしいまちづくりに関する質疑は終了しました。
質疑漏れはございませんか。
〔「なし」と言う人あり〕
○委員長（大竹　惣君）　以上で健やかで人にやさしいまちづくりに関する質疑を終了します。
ここで、次の政策に移りますので、説明員入替えのため暫時休憩いたします。
休　憩　　（午前１１時４３分）

再　開　　（午前１１時４４分）
○委員長（大竹　惣君）　再開します。
これより政策名、元気と賑わいのある産業づくりの質疑を行います。
施策ナンバー４－１、農業の振興について、１番、櫻井幹夫委員。
○１番（櫻井幹夫君）　それでは、お尋ねをいたします。
４、課題に対する取組において、遊休農地再生事業、町単独補助事業では地域の担い手による耕作放棄地の有効活用を支援したとありますが、具体的な内容を教えていただけませんでしょうか。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。
○産業振興課長（小林隆浩君）　お答えいたします。
遊休農地再生事業は、遊休農地の再生及び有効活用を図るため、遊休農地再生を行う農業者に対し

まして経費の一部を補助するものであります。再生作業の内容につきましては、障害物除去、果樹畑等の抜根整地、草刈り等で、令和４年度は地域の担い手である５事業者によって、2.3ヘクタールの耕作可能な農地に再生されました。この事業は、遊休農地を再生してから10年間は、その農地を耕作して利用することを補助の要件としており、令和４年度についてはソバが1.6ヘクタール、水稲が0.5ヘクタール、アスパラガスが0.2ヘクタール作付けられました。このように遊休農地再生後も農地が適切に管理され、継続して有効活用が図られていくものと考えております。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　櫻井委員。

○１番（櫻井幹夫君）　５事業者で2.3ヘクタールとありましたが、この５事業者はもともと美里町で農業されていた方なのでしょうか。

○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　この補助事業の制度としまして、町内に住所を有する農業者というのを対象にしておりますので、この５事業者は全て町内で農業している方でございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　櫻井委員。

○１番（櫻井幹夫君）　そうしますと、仮に移住して住所を有すれば、そういった方々でも対象にはなるということですか、仮に。そういった例はないのでしょうか。

○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　委員おただしのとおり移住者でも対象になります。過去においての例は、いまだ例としてはありません。ない状況であります。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　これで櫻井幹夫委員の質疑は終わりました。

次に、同じく施策ナンバー４－１、農業の振興について、13番、根本謙一委員。

○13番（根本謙一君）　では、私の質疑をさせていただきます。

成果指標の認定農業者数の減少と比例して耕作放棄地が増加しています。それぞれの分析はそのとおりと言えると思いますが、課題、取組で８月から９月にかけて農地パトロールにより耕作放棄地の実態や意向等を把握して農地中間管理機構に情報提供し、利用調整を実施、ほか町単独補助事業でも有効活用したと言っております。喫緊の課題の成果をどう総括したのか伺いたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　お答えいたします。

農業振興地域内の耕作放棄地につきましては、目標の65ヘクタールに対し、実績値は前年度より８ヘクタール増加し、82ヘクタールとなりました。令和４年度は耕作放棄地の増加を抑制するために、農地パトロールの結果、再生可能である農地と判断された農地の所有者を対象に意向調査を実施し、

土地所有者、または耕作者へ適正に管理されるように通知を行いました。その結果、34筆、3.3ヘクタールが農地として適切に管理され、さらに町遊休農地再生事業により2.3ヘクタールの耕作放棄地が解消したところでございます。しかしながら、農業担い手の減少に伴い、解消の取組以上に耕作放棄地が増加しているため、現状を維持することも大変な状況であると認識しております。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　私は、門外漢ですので、この農業については。ですから、ただ大きい目での問いただしをしたいと思います。つまり今課長がいみじくも言われましたように、担い手もそれなりに増えていると。それから、実績として耕作放棄地が昨年、前年度と比べて８ヘクタール増えている。でも、実際は耕作放棄地は増えていると。この現実はやっぱり厳しいなというふうに受け止めたいと思います。ですから、今まで一生懸命取り組んできているのは毎年毎年決算で承知していますから、それにも増して実質的な耕作放棄地が増えているという現実ですから、今までのやり方でいいのかというところにやっぱり一度立たなければいけないと思っています。地域計画にも取り組んでいるということになっていくわけですけれども、そこはどのような認識を持たれていますか。

○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　そこの考え方につきましては、やはりちょっと今までの取組というのは、まず自主再生ということで、本当に昨年度初めて耕作放棄地と認定したようなところは比較的簡単に再生できますので、そういうところは3.3ヘクタール再生しておりますし、あと町の遊休農地再生事業によっても2.3ヘクタールということで、両方で5.6ヘクタールというところは耕作放棄地を解消しておりますので、あとやはり今後につきましては当然この事業はやり続けるものとして、やっぱり地域計画をしっかりとしたものをつくりまして、そこの中で将来の耕作者なども決めるという中で、そういった担い手の方と一緒に協議なり情報交換などをして、耕作放棄地の解消に加速化というのですか、つけて対応したいというふうには考えてございます。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　方向性はそれだともう理解できます。いろいろよそを勉強してきても、やはりそこに行き着くのです。これ質疑ではありません。ここに書いてあることを言うだけです。農地の連担性を阻害している放棄地だと。それから、それには集約と集積が必要だと。それは、個人事業ではもう無理なわけです。一定程度のやっぱり力のある集団でとか、我々素人でもそれはやっぱりそうだねということになるのですけれども、そこにしっかり標準を定めてもういかなければならない。それが今まで何でやれなかったのかなというところが、もうずっとここ何年も私は引きずっています。今回行ってきました。そこの認識の持ちようでやはり施策の中身が変わってくると私は思っていますので、その辺の認識を最後に伺っておきたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　担い手ということで、確かに今やはり農地の耕作についても、耕作放棄地の再生につきましても、やはり担い手が中心になっていただいています。そういった中で、今担い手も現状のままですと結構もういっぱいいっぱいになっているような方もいるという中で、今後やっぱり集積なり集約化を進めまして、そしてある程度効率的に作業するようになって、さらに機械、今例えばドローンとかを使って効率的に作業する。あと、高性能な田植機とかいろいろございますので、そういったような機械的なものもしっかり認定農家については支援をしていくということで、そういうことになっていきますともう少し受入れといいますか、受皿とかも広がると思いますので、そういうふうに考えておりますので、特に認定農家につきましてはしっかりとした支援を行っていきたいと考えております。

○委員長（大竹　惣君）　これで根本謙一委員の質疑は終わりました。

ここで、昼食のため午後１時まで休憩いたします。

休　憩　　（午前１１時５６分）

再　開　　（午後　１時００分）

○委員長（大竹　惣君）　休憩前に引き続き会議を再開いたします。

次の施策に移ります。施策ナンバー４－２、林業の振興について、７番、村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　それでは、林業の振興についてご質問します。

３、指標の分析②において、高齢化や気候変動による温度管理の難しさでの影響などで生産量が減少したと分析していますが、どのような取組内容だったのか伺います。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　お答えいたします。

取組を行った内容につきましては、特用林産物振興支援事業補助金の交付により、生産者の支援を行うため、農業関係者への制度の内容について周知を行ったところであります。補助金の内容といたしましては、新規生産者、または栽培規模を拡大する生産者で、菌床等の購入費、パイプハウス、菌床棚、暖房及びかん水装置等の購入に対する補助でございます。また、ＪＡや菌床生産組合との話合いや生産者から情報収集、栽培施設の現地指導に立ち会うなど、成果指標である生産量の増加に向けた取組について検討を行った内容でございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　村松委員。

○７番（村松　尚君）　様々な補助金等行っているみたいですけれども、高齢化等による生産者の減少という部分はなかなか歯止めが利かない部分ではないのかなと。あと、この数字からいっても、どうしてもやはり非常に大きい開きが出ているのではないかなと、令和４年度に対しても。そういったところで、これを捉まえて、特にこの２つに関してどういうふうな、数字から追える部分、また高齢

者の減少という部分での判断というのをどういうふうに分析されているのかを１点と、あともう一点は気候変動による温度管理の難しさという部分を指標の分析に挙げておりますが、これは気候の変動に対する温度管理の難しさというのは、これから先、もうどんどん令和４年度以降も続いていくと思いますが、この令和４年度の実感として何らかの対策ができるようなものなのか、その辺の対策を行ったのか、そこを伺います。

○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　お答えいたします。

まず初めに、高齢が進んでいると、そういったところにつきましては、この菌床生産組合ですが、17人の方が組合員としていらっしゃいまして、その中には年配の方もいれば、比較的年齢若い方もいるということに、内容になっております。そういった中で、今後やはり生産者の減少も当然予想、見込まれますので、この菌床の取組というのですか、キノコの取組などもやはりもっと宣伝を、周知をしたりですとか、あとはこの助成制度なども組合員の方の話なども聞いて、もっと使いやすいものにする改良が必要だというふうには考えています。

あと、次に気候変動につきましては、どうしてなかなか難しかったといいますと、ちょっと今年の夏はやっぱり温度が高かったということで、まず夏のときは……

〔「令和４年」と言う人あり〕

○産業振興課長（小林隆浩君）　すみません。失礼しました。令和４年もやっぱり最近夏が暑くなってきていますので、どうしても温度が上がり過ぎるといい菌床にならないということで、例えば遮光するとか、何か温度管理が以前より難しくなっているということと、あと冬につきましてもやはり冬の暖房費の兼ね合いもありますので、本当にちょうどいい温度、暖房を、温度とかをやっぱり維持しなければいけないということで、そういったところで温度管理が非常に難しいというような状況であります。そういう現状も踏まえまして、やはり皆さんいろいろ研修なり、そういったことをやはり行って、レベルアップをしていかなくてはいけないのかなというふうに考えております。

○委員長（大竹　惣君）　村松委員。

○７番（村松　尚君）　最後ですので、お伺いしますが、この成果指標の中の目標値というものは、実際令和３年度に比べれば下がっているわけですけれども、令和４年度のこの数字を見て、なおかつ指標の分析等を勘案した中で、目標値に進んでいくために、ましてや課題等々ももう見えているわけです。先ほど課長がおっしゃったように、遮光であったり、温度管理が非常に難しくなっている。ましてや明確に高齢化等によって、やる方々も少なくなってきている。一方では、補助金のそういったＰＲこれからやっていきますよというような課題も見えている中で、気候変動に関する生産量の減少というのは、毎年毎年これを書かれてしまったのでは、申し訳ないですけれども、気候変動ですから、もう異常気象ですからというような話で終わってしまうのです。ただし、そこをしっかりこういうふうにして捉えているわけですから、やはりしっかりとした対策、またそれをすることによって、この

目標、少しでも生産量を上げていく努力というものも必要だと思うのですけれども、もう少し具体的にこの課題に対して取り組む意欲、そういった部分をお聞かせください。
○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　お答えいたします。
まず、このキノコの生産につきましては、農業者の冬季間の収入確保というのにはすごく有効であると考えていまして、やはり農業支援としての、農業振興のための取組って、そういったものはしっかり進めていきたいというのが前提でございます。そういった中でやはり生産量を上げるためということで、例えば資材メーカーというのですか、農業資材メーカーの方とかをお招きしてしっかり現地指導など、今もやってはいるのですが、もうちょっとさらにそういう研修のレベルを上げるですとか、あとは何か例えば今培養施設とか、そういったものはないのですが、そういったものも何か検討するですとか、そういったところで考えていきたいとは思っております。
○委員長（大竹　惣君）　これで村松尚委員の質疑は終わりました。
次の施策に移ります。施策ナンバー４－３、観光の振興について、６番、長嶺一也委員。
○６番（長嶺一也君）　それでは、早速質問させていただきます。
成果指標の②、観光ガイドの回数については、ガイドを行っている方は何人いたのか。ガイドの資質向上のための研修はどのように実施していたのか。
また、指標の分析の①のその他1,175人について、具体的宿泊先はどこかをお伺いいたします。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。
○産業振興課長（小林隆浩君）　お答えいたします。
ガイドにつきましては、11名の登録者がおり、研修につきましては年２回、ベテランガイドが講師となって、向羽黒山城跡整備資料室などで研修会を開催するほか、先進地に赴き、現地ガイドから研修を受けるなどガイドの能力向上に努めてきたところであります。
その他の宿泊者数1,175人につきましては、新鶴のにんじん湯吹上荘、花紋屋旅館、ふれあいの森公園、本郷地域のかっぽう旅館吉田屋、蛍の宿こぶし荘の合計の人数になります。
以上でございます。
○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。
○６番（長嶺一也君）　成果指標の①、②、宿泊者数とガイドの回数、これ今のお話ですと延べ件数というふうに理解したのですけれども、成果指標と課題に対する取組に宿泊者数とガイドの回数についての取組内容が全然記載されていないわけなのですが、その辺はどういった取組をしてきたのかお伺いします。
○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　ガイドに関する取組としましては、先ほども申しましたが、向羽黒山城跡の整備資料室等での研修会、あとは先進地研修として現地ガイドからの研修なども行っている

ということでございます。

あと、宿泊のほうの取組につきましては、こちらにつきましては利用者増を図るために観光協会のホームページで周知をしたり、当然町のほうでも情報依頼がありましたらそういった情報などの提供など、そういうことを行っております。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　観光の振興につきましては、ワインフェス等でお客さんいっぱい呼び込みが成功したイベントだったと思います。ただ、このシートで、成果指標等で記載されているように、課題に対する取組にその内容を落とし込んでいないということにつきましては気をつけていただければというふうに思います。

ちょっとこれに関しましては、あと質問は以上で終わります。

○委員長（大竹　惣君）　これで長嶺一也委員の質疑は終わりました。

次に、同じく施策ナンバー４－３、観光の振興について、７番、村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　それでは、観光振興について質問させていただきます。

３番、指標の分析③において、行動制限緩和によりから観光消費額が増加としていますが、観光消費額について、業種別の消費額の内容はどのようになっていたのか伺います。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　お答えいたします。

観光消費額につきましては、後期観光振興計画の中でデータの取得先が定められております。物販は会津本郷陶磁器会館、流紋焼、酔月窯、宿泊は新鶴温泉ほっとぴあ新鶴、にんじん湯吹上荘ほか５事業所、飲食につきましては新鶴ワイナリー、ハッタンドウの売上げを聞き取りで調査しております。飲食については、ワイナリー、ハッタンドウとも営業しておりませんので、ゼロということで計上してございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　村松委員。

○７番（村松　尚君）　そうすると、どのくらいの金額が焼き物組合とかに下りているか、この内訳的なものというものは分からないと。金額自体のものって、消費額の金額というのはどの辺なのでしょうか。伺います。

○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　今ほど申し上げました例えば物販に関しては、会津本郷陶磁器会館ですとか流紋焼、例えば酔月窯といったところは数字を報告して、売上額等つかんでございます。ですので、ゼロと申しましたのは新鶴ワイナリーとハッタンドウがコロナの影響とかで休んでいるところがありましたので、そういったところでゼロ表示ということになっているということでございます。

〔「額面を知りたいんですけど。額面、消費額ですから

額面を」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長、額面のほうお願いします。

答弁、産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　失礼しました。売上げの計算につきましては、データの取得先から売上額というのですか、そういったものを報告していただきまして、それで最終的に観光の消費額ということで金額を、売上額を出しまして、そこから宿泊なりお店なりに入った人数で割り返しているといった内容でございます。

○委員長（大竹　惣君）　ちょっと休憩します。

休　憩　　（午後　１時１７分）

再　開　　（午後　１時１７分）

○委員長（大竹　惣君）　再開します。

村松委員、もう一度質問お願いします。

○７番（村松　尚君）　観光消費額において、業種別の消費額の内容を知りたいものですから、その業種に対してこのくらいの消費額があったよという部分を教えていただきたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　業種別といいますか、売上額の根拠にしていますのは直接お店から売上額をいただいた額を集計しておりますので、ちょっと業種別ということになると……すみません。ちょっと休憩お願いします。

○委員長（大竹　惣君）　暫時休憩します。

休　憩　　（午後　１時１７分）

再　開　　（午後　１時２３分）

○委員長（大竹　惣君）　再開します。

答弁、産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　まずは物販のほうですが、物販につきましては2,442万円でございます。

次に、宿泊につきましては6,814万円でございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　質疑漏れがございましたので、再度の質疑を許可します。

村松委員。

○７番（村松　尚君）　ありがとうございます。結局何をお話ししたいかというと、やはりこういうような分析がある程度されていないと対策がしようがないのではないかなと。業種別で、令和４年度

のコロナ禍の中で、その中でも売上げを上げてきたと。その中身は何だったのかという部分をしっかりとやはり所管として把握することによって、先が見えるのではないかなと思うのです。今回の消費額は増加しましたけれども、目標値まではいかなかったので、これに対する令和４年度の取組であったり考え方、そこをお尋ねします。

○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　今、まず最初のこういった数字につきましては、本当に政策企画、立案する際のベースになりますので、こういったものはしっかりと捉えて、新たな事業等を構築していきたいと思っております。

あと、目標値に届かなかった点につきましては、やはり１人当たりの消費額を増やしていただくということが必要になりますので、できるだけ長時間滞在していただいて、やはり１人当たりの消費額が増えるような取組というか、そういうことを考えて観光事業を行ってまいります。

○委員長（大竹　惣君）　では、村松委員、もう一度質疑お願いします。ちょっと趣旨が伝わらない部分があったと思うので、もう一度許可します。

○７番（村松　尚君）　今ほど数字というものをしっかり捉えた上で、何に力を入れていくのかという部分をしっかり考えていかなければならないかと思うのですけれども、この課題に対する取組、どういった取組をされたのか、この数字に対してどういった取組をされたのか、課題に対するそういった部分での取組の内容だけ、１点だけ教えてください。

○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　特に宿泊額が目標には届きませんでしたけれども、宿泊額が増加というのがございまして、それにつきましては昨年度コロナ対策として国が行った全国旅行支援、そういったものがありますので、そういったものをしっかり活用して、お客さんに来ていただいたというところが原因だと思っております。

○委員長（大竹　惣君）　村松委員。

○７番（村松　尚君）　最後になりますので、お尋ねしますが、今数字……

○委員長（大竹　惣君）　村松委員、もう３回いきました。

○７番（村松　尚君）　すみません。

○委員長（大竹　惣君）　これで村松尚委員の質疑は終わりました。

次に、同じく施策ナンバー４―３、観光の振興について、11番、堤信也委員。

○11番（堤　信也君）　それでは、観光の振興の課題に対する取組において、町をＰＲするため観光大使４名委嘱したとありますが、どのような場面でどのような活動を行っているのか、おのおのが参加した活動内容、回数、反響など具体的に示してください。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　お答えいたします。

本町の観光大使の大きな役割の一つとして町のＰＲ活動がありますが、ＰＲの方法や内容については細かい指示はなく、報告の義務も設定しておりません。その理由として、無償により委託していることが挙げられます。大使の幅広い人脈や影響力を考慮し、町をＰＲしたいという善意で意欲的な活動をお願いしていることから、町のホームページへ誘導するＱＲコードが印刷された専用の名刺を作成し、名刺を配付しながら町の魅力をアピールしていただいたところでございます。成果としましては、町のホームページの閲覧数の伸び方や観光大使への委嘱が新聞やネットニュースに掲載されるというアピール効果があったと分析してございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　堤委員。

○11番（堤　信也君）　それで、その４名について委嘱するに当たって、個々に望むものがあったと思うのです、そういった形でＰＲしていく上で。その内容、詳細を教えていただければと。

○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　この選定というのですか、４名の方で、基本的に選定するベースになっていますのは本町に縁があり、町の魅力や情報を積極的に発信する機会がある方ということで選定しております。また、お願いすることとしましては、先ほど申しましたが、ふだんの活動の中で観光大使の名刺や名義を活用していただいて、町の観光、伝統工芸、特産品など町の魅力や情報を行っていただいて、町のイメージアップ、知名度向上に貢献していただくということでございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長に申し上げます。

４名個々に、それぞれに望むものがあったのではないかというところで、そこの詳細な部分をお聞きしておりますので、もう一度答弁お願いいたします。

○産業振興課長（小林隆浩君）　まず初めに、石原直氏ですが、この方については町の観光振興計画策定の委員長さんということで観光振興のアドバイスをいただいている方で、この方はもともとホテル業界で、東京では有名なホテルの総支配人などもやったりですとか、いろんな活動している方ですので、そういった方、ホテル業界とかそういうところに本町の情報を発信していただきたいというところでございます。

２人目につきましては、ドリルフィンフィンズですが、こちらも本町の本郷地域と、あとは喜多方市出身の若手お笑い芸人さんということで、こういった方にはいろいろテレビに出ていただいて、そういうところから本町の情報ですとか魅力を発信していただきたいということでお願いしてございます。

３人目につきましては、新城猪之吉さんでございまして、この方についても会津地域の全体の魅力に精通しておりますので、本町の魅力も会津地域全体の魅力と併せて情報発信していただきたいということでお願いしてございます。

あと、最後に阿部進氏ですが、この方はもともとルービィ工業の前任の取締役さんでございまして、会津内外の産業界ですとか工業系に幅広い人脈を持っているということと、会津産業ネットワークフォーラムの相談役さんなどもやられていて、いろんなところに顔が広いということで、うちの町の情報発信していただきたいということで４名の方をお願いしたわけでございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　堤委員。

○11番（堤　信也君）　結果どういった、今のところ、これからのあれなので、進行形なのでしょうけれども、どういった結果が効果的にあったか、それだけ教えていただければと思いますけれども。

○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　こちら委嘱しましたのは本当に本年ですか、令和５年３月でしたので、まだちょっと時間的に半年までたっておりませんので、こういった成果が出ているのだというところまではいきませんが、そういう確認をする手法としまして名刺にＱＲコードということで、町のホームページにアクセスするようなことになっておりますので、成果を確認するために、この名刺を配付されたことになると思いますが、名刺を使って町のホームページに入ってきた人という数を把握、今後したいというふうに、そういうことで検証していきたいと考えております。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　これで堤信也委員の質疑は終わりました。

次に、同じく施策ナンバー４－３、観光の振興について、13番、根本謙一委員。

○13番（根本謙一君）　では、再度施策名、観光の振興について伺います。

コロナ禍の中にあって、成果指標の実績それぞれはやむを得ない数字であると思われます。しかし、成果指標のみならず、今後に生かす貴重なデータ源であることから、しっかり蓄積されているのか。中でも指標分析②の観光ガイドの依頼について、回数とともに動機、目的、人数、性別、年代やどちらからお出かけかなどの把握はされているのか具体的に伺いたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　お答えいたします。

観光ガイドの依頼についての検証につきましては、ガイド依頼の申込みの際に出発地や動機や目的、年代など聞き取りによって調査しております。また、実際に観光協会を依頼者が訪れた場合も窓口で職員が聞き取りを行い、ガイド終了後についても解説内容や改善点などを聞き取り、その結果をガイド本人にもフィードバックしまして、ガイドの能力向上のために活用しております。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　分かりました。一定程度は蓄積されてきていると。

それから、今課長は答弁で観光ガイドの依頼の中身のことだけ言われましたけれども、その前段に

貴重なデータ源というのは、観光に関わる、さっきの同僚委員の質疑の中にもありましたけれども、このデータ蓄積というのは物すごく貴重なのです。私は、具体的にと聞いたのは観光ガイドのことになりますけれども、その前段には全体のいろんなデータをしっかりためて、そこから分析して導き出すものが次の対策につながるという、さっきの同僚委員の質疑、まさにそこなのです。ですから、そういうことも含めて全体的なデータも蓄積されているのか。その中でも観光ガイドの部分はどうなっていますかということで具体的に聞いた。観光ガイドの部分はいろいろ持っているということです。私は、可能な限り私の必要だろうなと思う中身をここでお尋ねしましたけれども、私はこれで十分だとは思いません。当然分析するにはいろんな手法があると思います。それから、データもいろんな集め方あると思います。そういうことも含めて、しっかりそこの認識に立ってやられているかどうかを私は問いたいのです。ですから、そのところも含めて認識を伺っておきます。

○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　今の全体的な話につきましては、確かに先ほどお話ししたのは観光ガイドに限ったことということで、大変申し訳ありませんでした。観光客の全体の話でということになりますと、やはりそれぞれ高田地域についても、本郷地域についてもインフォメーションセンターございますので、相談があったりですとか、苦情があったりですとか、あと車のナンバーなども確認しておりまして、どういった地区から大体どういった方々が来られたとかという、そういうような情報はつかんで活用してございます。

　以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　一般質問ではないので、なかなか細かいところに入っていきませんけれども、ではいろんなデータをきちっと年度ごとにまとめて整理してありますか。特に４年度のことを聞かなければならないので、４年度しっかりまとめたものがあるというふうに受け止めていいですか。それを提出できますね、あったとして。これ大変貴重ですから。

○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　今の質問ですが、それぞれの情報ということで、それぞれの毎月月報とかというような形でまとめてはあるのですが、そこを、それをさらに分析するまでは行っておりませんので、そういったところを目を通してこういうふうになっているのだという理解している程度になっていますので、そういったところについては今後分析などもしっかりやっていかなければならないと考えております。

　以上でございます。

〔「委員長、まとめてあるならば資料として出せますか
　ということを私聞きましたね。そのことで分析する
　ところまではいっていないような話ししていますか

ら、ということは出すほどの整理はされていないと
いう受け止めていいですよね」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　私はそういうふうに認識しましたけれども、ではもう一度その部分答弁お願いします。

○産業振興課長（小林隆浩君）　すみません。申し訳ありません。今ほどの話ですが、観光まちづくり協議会の中で観光振興計画の計画に基づいての進捗管理というのはしていますので、そういったところで大きい中での分析、この事務事業評価とかでやっているような観光客の入り込み数ですとか、あとはどのようなところでお金みたいな、どのようとか、観光客の入客数とか、そういった数字の取りまとめとかはやっていますけれども、先ほど申しましたのはインフォメーションセンターで報告する数値というのが例えば毎日どこから誰が何人来たとかって細かい数字が入ってきていますので、そういったところまでの全体の整理というのですか、そういった細かいところまではちょっと取りまとめまではいまだ行われていないといった内容でございます。もう一度あれですが、観光振興計画に基づいた進捗管理等の分析などはしっかりやっております。

以上でございます。

〔「委員長、ごめんなさいね。答弁はいいですから、こ
こで一言言わせてください」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　では、根本委員、許可します。

○13番（根本謙一君）　分析というのは、そんな大まかな分析では、傾向は読めるかもしれませんけれども、本当に緻密な分析するにはやっぱり緻密なデータが必要です。そこまで集めているならば、そこまで詰めたちゃんと分析をやっておかなければ。観光まちづくりでその一部分使っているとしか私は見ていません。私も会議録見ていますから。そこはしっかりやっていただきたい。答弁は結構です。

○委員長（大竹　惣君）　これで根本謙一委員の質疑は終わりました。

次の施策に移ります。施策ナンバー４－４、商工業の振興について、７番、村松尚委員。

○７番（村松　尚君）　それでは、商工業の振興についてお伺いします。

３番、指標の分析①において、商店街の利用者が減少しているのが現状であるとありますが、商店街の年間利用者の把握はしているのか、また利用者の中で観光客の割合などは把握しているのか伺います。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　商店街の年間利用者数については把握まではしてございませんが、高田インフォメーションセンターや本郷インフォメーションセンターの利用者は毎月観光協会が把握しており、町へも報告をいただいてございます。

２つ目のインフォメーションセンターは、商店街の一角に位置しておりまして、商店街の利用者数

を把握する参考のデータになると判断しております。利用者の県外ナンバーの来訪者数も把握しておりますので、ある程度の観光客も把握できていると判断しております。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　村松委員。

○７番（村松　尚君）　商店街の年間利用者数の把握はできていない、していないということですけれども、観光客の把握はできていると。高田インフォメーションセンターに来るお客さんがいるから、商店街のほうもそれに比例しながら、ある程度回っているのではないかというような感触の答弁に私は受け取ったのですけれども、ちょっとそれは様々な計画の中から考えても、ちょっとどうなのかなと疑問が非常に多く感じます。

また、ではこの①について、最後には後継者不足などでもやはり事業者数が減ってきている現状が記載されています。それに対する取組として、消費喚起等、下支えをするためにプレミアム付商品券事業を実施したと。町内事業者の事業継続を支援したというふうに取組を記載してありますが、どのくらい商店街に、中規模店は別としてください。商店街にどのくらいの経済効果があったのか。販売枚数に対してどのくらいの経済効果として商店街に落ちたものと考えていらっしゃるのか、そこをお伺いします。

○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　まず、プレミアム商品券の経済効果ですが、令和４年度におきましては利用者にアンケートを取っての経済効果の検証までは行っていないということになります。

あと、商店街で使われた金額につきましてはデータを取っておりますので、実際に使われた金額というのは約１億5,800万なのですけれども、１億5,800万のうちに大規模店で使われた割合というのが52.4％でございまして、小規模店で使われた金額が47.6％ということになりますので、大体半分、換金された方ですか、金額ですか、利用された金額の半分近くは大規模店ではなくて、小規模店というのですか、そういったところで利用されているという結果が出てございます。

○委員長（大竹　惣君）　村松委員。

○７番（村松　尚君）　事業継続を支援するためにプレミアム付商品券販売して、48％弱を商店街というお話がありましたけれどもか、あのとき、大体購入すると加盟店が一覧表で出ます。加盟店の一覧表の中で、大体おおむね7,000万円程度が加盟店の中に、大規模店は別としても、下りていったのかなと思います。

１点目としては、アンケートを、やはり毎年毎年これ、プレミアム商品券やっているわけです。そしたら、本来であれば商店街への経済効果等々、これを町内事業者の事業継承の支援をしたというふうにして課題解決にしているのであれば、やはり令和４年度においてもアンケートを取るべきだったのではないか。また、コロナ禍だったからこそアンケートを逆に言えば取りやすい時期ではあったのではないかと思うのですけれども、そこの考え方を１点と、あと商店街の先ほどお話しになりました

年間利用者の把握というものは、ある程度これもおおむね売上げであるのか、またアンケートであるのか、これは例えば商工会等々に依頼するなりして把握をすることというのは十分に可能だと思うのです。それによって施策とかそういうものを組んでいく必要もあると思うのですけれども、そこを２点目でお伺いしたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　まず、初めのアンケートにつきましては、令和４年度も取るべきではなかったのかということでございますが、それは経済効果を確かめるために必要であるという考えを持ちまして、今年度はそれを取るということで準備してございます。

あと、年間利用者の把握につきましても、やはりどのくらい商店街で売上げなり人が来ているかということ、確かに重要なことですので、これにつきましては商工会と協議してみたいと思います。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　これで村松尚委員の質疑は終わりました。

次に、同じく施策ナンバー４－４、商工業の振興について、８番、小島裕子委員。

○８番（小島裕子君）　では、よろしくお願いします。

４番の課題に対する取組において、町内企業への就労を支援するため、地元高校生を対象とした就職説明会を開催したとありますが、開催への経緯と効果等を伺います。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　お答えいたします。

就職説明会開催の経緯につきましては、以前から訪問した地元企業や会津西陵高校の進路アドバイザーの先生から地元企業への就職の希望者が少ないという分析をいただいておりましたが、町も企業も高校もぜひ地元の高校生に地元企業へ就職していただいて、若者の流出を防ぎたいという思いから、この就職説明会の開催に至りました。昨年６月に開催した説明会には参加地元企業は５社でございまして、会津西陵高校の３年生の39名と先生の４名の参加がありました。初年度の開催のため、初めての開催ですので、この就職説明会がきっかけとなって就職したという事例はまだありませんが、地元に就職したいという高校生のニーズを生かす、よい機会になると先生や地元の企業からも好感を得ておるといったような内容でございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　小島委員。

○８番（小島裕子君）　高校も合併してそんなに年数たっているわけではありませんけれども、以前から大沼高校という地元には高校がありました。それに対して、小学生ですと各町内の商店街だったり、企業に体験学習みたいな形で取り組んでいたということはあったと思うのですけれども、それに似たような形で町内の魅力を伝えるというような取組というか、高校生に対してそういったことをしていたのかどうか、ちょっと伺いたいのですけれども。

○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　高校生のインターンというのですか、高校生が各企業に行って、実際に一緒にお仕事をするというようなことは西陵高校さん以前からやっていまして、役場のほうにも毎年数名希望がありますので、大体３日間ぐらいの日程になりますけれども、各課で受入れということで行っております。
○委員長（大竹　惣君）　小島委員。
○８番（小島裕子君）　役場のほうには来られていたということですけれども、町内の商店街とか企業にはいかがだったのでしょうか。そのときにどういった形で体験をしてきたか、その体験を通じて町の魅力なり、課題なり、希望なりというようなことを知るためのアンケート等、そういったものを行ってきたのか教えてください。
○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　当然地元企業にも、リオンドールさんですとか、農業ですとか、そういったところでインターンシップを行っておりまして、当然１日終わりますと今日の感想とか、そういうことを生徒さんに書いていただいて、課の課長とかが確認をするということで３日間行うという、そういったことも確認というのですか、行ってございます。
○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長に申し上げます。
　確認した後、結果の部分ですか、結果の分析の部分、ちょっとその部分を答弁お願いします。
　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　結果の分析につきましては、もともとインターンシップの生徒さんがここに来て、仕事をやってみてどういうふうに感じているかとか、この役場に就職したいと思っていたとか、そういうものを最終的に確認するというものでございまして、町としても今後インターンシップよいものになるようにということで、内容の確認などは行っているという程度でございます。
○委員長（大竹　惣君）　これで小島裕子委員の質疑は終わりました。
　次に、同じく施策ナンバー４－４、商工業の振興について、10番、星次委員。
○10番（星　　次君）　それでは、商工会を通して商工業事業者へ経営支援を実施した。また、コロナ対策として給付金や商品券発行事業など、また時短要請等協力金事業を実施し、事業者の経営維持を支援したとあるが、効果は検証されたのか、廃業、閉店された商店はなかったのか伺います。
　現状は後継者不足や高齢化で、継続は厳しいと考えていますが、どのような対策を取ってきたのか伺います。
　また、移住、定住を希望されている方へ、空き商店の開業を勧めて商店街の活性化を図ることは非常に有効であると考えますが、これまでにぎわい創出と街なか再生に向けた計画づくりにそのようなことを検討したのか伺います。よろしくお願いします。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。

○産業振興課長（小林隆浩君）　お答えいたします。

１点目のコロナ対策の効果検証につきましては、数字での効果の検証はしておりませんが、商工会や金融機関を通して事業者からの聞き取りを実施しております。今回の支援策につきましては、効果があったとの評価をいただいてございます。

２点目の廃業、閉店につきましては、コロナ禍が原因となる倒産はありませんが、自主廃業につきましては商工会総会資料の令和４年度の会員数が720人のため、令和３年度から５名減少しておりますが、廃業の理由がコロナ禍によるものかの確認はできておりません。

３点目の事業継続につきましては、高齢化や後継者不足が主な原因の一つだと考えられますので、金融機関を通して伴走型支援や創業希望者とのマッチング支援などの紹介を行っているところでございます。

４点目の空き店舗を移住者開業によって活用することにつきましては、令和４年度におきましては計画づくりには着手しておりませんが、にぎわいづくりのための有効な対策になると考えております。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　星委員。

○10番（星　　次君）　ちょっと確認ですが、さっき金融、業者というふうな言葉のその後がちょっと聞こえなかったのです。もう一度お願いしたいなと思っているのですが。

○委員長（大竹　惣君）　再答弁させますので、回数制限はカウントしませんので、もう一度、産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　１点目のところでよろしいですね。

○委員長（大竹　惣君）　はい。

○産業振興課長（小林隆浩君）　では、もう一度します。

１点目のコロナ対策の効果の件……

〔「それじゃなくて、後のほう。金融何とかと言ったでしょう。それが聞こえなかったんです」と言う人あり〕

○産業振興課長（小林隆浩君）　分かりました。

では、３点目のところですが、事業継続につきましては高齢化や後継者不足などが主な原因の一つだと考えられますので、金融機関を通して伴走型支援や創業希望者とのマッチング支援などを紹介したところであります。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　星委員。

○10番（星　　次君）　それで、中小企業等の経営継続支援給付金事業の該当された事業所というのは、恐らく把握していると思うのですが、これを使った事業者数と、これを使って継続されていると

思うのですが、これもう使っても廃業に追い込まれたという事業所はあるのかどうか、併せてお願いします。

○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　中小企業等の経営継続支援給付金の対象となった事業者は164事業者でございます。それで、廃業になったといいますのは、コロナが原因になって、まず倒産した企業はないということを金融機関に確認しておりまして、あとは当然今減った事業者さんは自主廃業ということでなっていまして、一般的にはやはり高齢化によって後継者がいないというところがほとんどとなっておりますので、コロナが原因で自主廃業になったということはなかなか考えにくいというふうには思っております。

〔何事か言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長。

○産業振興課長（小林隆浩君）　お答えいたします。

給付金事業を受けて、廃業したところというのはございません。

○委員長（大竹　惣君）　星委員。

○10番（星　　次君）　理解しましたので、質問を終わります。

○委員長（大竹　惣君）　これで星次委員の質疑は終わりました。

以上で政策名、元気と賑わいのある産業づくりに関する質疑は終了しました。

質疑漏れはございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　以上で元気と賑わいのある産業づくりに関する質疑は終了します。

ここで、次の政策に移りますので、説明員入替えのため２時15分まで休憩いたします。

休　憩　　（午後　２時０２分）

再　開　　（午後　２時１５分）

○委員長（大竹　惣君）　再開します。

これより政策名、学びあい未来を拓く人づくりの質疑を行います。

施策ナンバー５－１、子ども教育の充実について、６番、長嶺一也委員。

○６番（長嶺一也君）　それでは、質疑を始めます。

指標の分析では、①、英語のみの記載となっております。いわゆる全国学力テストの結果を見ますと、福島県は算数、数学においても低迷傾向にございますが、標準学力検査では本町における小６の算数と中３の数学の結果をどのように分析、評価しているのかお尋ねします。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。

○こども教育課長（渡部雄二君）　それでは、お答えいたします。

本町におきます令和４年度標準学力検査の小６算数と中３数学の結果につきましては、小中どちらも全国の正答率を上回る良好な結果でございました。これは、丁寧な学習指導の積み重ねと児童生徒の意欲的な学習への取組が結果に表れたものと捉えております。指標の数値につきましては、あくまでも町の平均値を示しており、学校ごとに成果や課題は異なります。結果に一喜一憂することなく、各学校においては結果を基に学習内容を領域的に分析し、児童生徒が苦手としている問題の傾向を捉え、指導に生かすことが重要と考えております。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　ちょっとすみません。何か私勘違いしていたような質問だったようで、失礼しました。

２番の成果指標の①なのですが、令和３年度と４年度を比較しまして50.6から50に若干偏差値が下がっておりますが、これにつきましてはどのように分析されたのでしょうか。

○委員長（大竹　惣君）　こども教育課長。

○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまのご質問でございますが、やはり学力検査の種類であったり、その問題であったりによって、傾向というか、結果が違ってくる部分もございます。まして本町の場合ですと１学年当たりやはり100人ちょっとでございますので、特定の集団によって影響される部分とか、そういったこともございますので、確かに小学６年生の算数につきまして、若干偏差値が下がっておりますけれども、そこをすごく細かく分析するというのはなかなか難しいところではあるのですけれども、やはり結果なんかを見ますと、小学６年生においても、中学３年生におきましても、若干図形が苦手だったりとか、そういったところは当然我々として分析しているところでございますが、年度によってその対象者も異なりますので、そこでやはり一喜一憂するのではなくて、地道に学力向上のために取り組んでいきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　学力検査から検査結果が出て、その結果を分析して、その分析結果が学校、あるいは教育委員会のほうに来て、またそこで子供の指導をどうするかということも中で検討して、教員につないで子供に指導していくと。分析の中でこういう問題が弱いとか、こういう問題は結構できているとか、そういった分析も出てくると思うのですが、日程的なことで、学力検査を行って、子供たちに分析結果に基づく指導方法の改善というか、弱い部分なんかをフォローするための指導に反映するまでのスパン的な、期間的にはどういうスケジュール感でやっているのか、ちょっと教えていただけますか。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

実際本町におきます標準学力検査につきましては、年度末に行っております。したがいまして、結果が出てくるのは本当に年度末ぎりぎりか、新年度当初あたりに出てくるわけでございまして、結局６年生で言えば、もう中学校に進学したときに小学校に結果が戻ってくるというような形になりますから、小学校時代にこういうところが弱かったということの引継ぎは当然中学校できますけれども、なかなかその引継ぎが難しい部分もございます。ただ、小学校としましても、６年生は毎年新たに６年生が進級して出てくるわけですから、６年生の指導の中で前の学年もこういうところ弱かったから、こういうところをこんなふうに指導していきましょうというふうな、そういう反省材料的な使い方はもちろんできているというふうに思っております。

この標準学力検査というのは、いわゆる学習指導要録という子供たちの学習の記録等を残す書類があるわけですけれども、そこに各教科の観点というのがございます。４つぐらい観点がございまして、例えば知識理解であったり、算数であったら算数的な考え方であったり、関心、意欲、態度だったり、あるいは計算の操作的な技能であったりとか、そういうふうな領域がありまして、その領域ごとに問題というのは作られておりますから、例えば算数的な考え方のこういう問題ができなかったとか、そういうものを次年度分析しながら、こんなふうに指導を変えてみましょうとか、もう少しこの辺の練習を多くしましょうとか、そんなふうな課題解決に向けたアプローチはできているのかなというふうに思います。

なお、担任が引き続き、例えば小学校３年生、４年生とか、継続して同じ担任が学級担任する場合などは余計活用は容易にできているかなというふうに考えているところであります。

○委員長（大竹　惣君）　これで長嶺一也委員の質疑は終わりました。

次に、同じく施策ナンバー５―１、子ども教育の充実について、８番、小島裕子委員。

○８番（小島裕子君）　それでは、３番の指標の分析についてお伺いします。

県や全国と比較し、自分にはよいところがあると思う割合や将来の夢や目標を持っている割合が低かったことなどから、自己肯定感が少し低いために目標値には届かなかったとありますが、割合が低かった項目に対しどのように取り組んだのか伺います。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。

○こども教育課長（渡部雄二君）　お答えいたします。

調査対象学年は、中学校入学時よりコロナ禍の影響を受け、数多くの行事が中止や規模縮小を余儀なくされ、学校行事がもたらす達成感や成就感、そして成功体験などを得る機会が例年より少なかったと考えます。そのような中ではありましたが、各学校では児童生徒個々への丁寧な関わりや、よりよい学校づくりを通して自己肯定感を高めるよう取り組んでまいりました。具体的には学校生活における児童生徒の学習の成果や伸びを見取り、建設的なアドバイスや称賛の場面をより多くすること、また校内の相談体制を充実させ、子供の不安や悩みに寄り添う環境を充実させること、コロナ禍における行事などにつきましては、感染防止対策を取りながら、児童生徒にとって充実した活動になるよ

う、できる限り工夫して実施するように取り組んでまいりました。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　小島委員。

○８番（小島裕子君）　説明いただきまして、本当にコロナ禍、３年間という長い間、に行事も計画は立てても本当に実行されないということで、子供さんたちが本当に精神的にかなりダメージを受けているという部分は大人からしてもすごくよく伝わってくるところではあります。それに対して、学校のほうで先生方も心から生徒たちを本当にフォローしていただいているということには感謝申し上げます。私としてもちょっとやっぱり自己肯定感が低いということは、自分にはよいところがあると思うという部分がやっぱり割合が少ないというところは、これからやっぱり生きていく上にあって、一番ベースになってくる部分かなというふうに思いまして、ちょっといろいろ調べてみたところではあるのですけれども、発達障がいを持っている方に対してのペアレントトレーニング、あとは親子関係だったり、学校の先生と子供間だったりというところで、レジリエンス教育といいますか、研修、そういったものがすごく効果が出てきているというようなお話もちょっと伺ったりもしているところなのですけれども、それに対しては町のほうではどういった形で考えているのでしょうか。

○委員長（大竹　惣君）　こども教育課長。

○こども教育課長（渡部雄二君）　ただいまのご質問にお答えいたします。

子供たちの自己肯定感を高めるために、先生方があらゆる場面で称賛をしたりしているところでございますが、またあとうちの町は特別支援等に対する支援もいろいろやってございまして、スクールカウンセラーであったりとか、子供と親の相談員であったりとか、そういった方が常に子供や保護者の方の相談に乗ったり、悩み相談したりということで、様々な場面で子供たちに寄り添って悩みを相談したりして、不登校にならないような対応とか、様々な工夫をして対応しているところでございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　こども教育課長に申し上げます。

ペアレントトレーニングとレジリエンス教育のことですか、ここの部分答弁お願いします。

答弁、教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

ペアレント教育とおっしゃいましたか。ペアレント……

○委員長（大竹　惣君）　トレーニング。

○教育長（歌川哲由君）　トレーニングですか。親に対する様々なアプローチというのはやり方があると思うのですが、ただいま課長答弁させていただいたとおり当町では学校に配置している町独自の相談員を、子供の相談員ではなくて、子供と親の相談員という形で進めておりまして、親の方の悩みにも寄り添いながら、そして親への啓蒙もしながら、家庭教育の養育の問題であったり、様々な問題

に対応できるように取り組んでいるところでございます。さほど親そのものの相談件数は、そう多くはないというふうに認識しておりますけれども、今後どんどんその辺も広報しながら、活用を図っていただければというふうに思っております。

それから、レジリエンス教育も近年あちこちで取組が見られまして、効果を上げているという事例も承知はしております。レジリエンス教育を進められている精神科医の方にもいろいろアプローチしたりして、こんなプログラムがあるなんていうことは見識として知っておりますけれども、今後学校でどのように、講演会であったり、あるいはレジリエンス教育のプログラムも若干ありますけれども、そういうものを取り入れていけるかどうか、検討もちょっと進めていきたいなと思っているところではございます。

○委員長（大竹　惣君）　小島委員。

○８番（小島裕子君）　ペアレントトレーニングに関しては、喜多方のほうでもかなり取り入れて、プログラムとして６回に分けて、いろんな形で保護者の方に、あとは学校の職員の方等にトレーニング内容ということを伝えていて、やっぱり成果が上がっているというようなことも聞いています。まして先生方も今やっぱり鬱だったり、精神的にかなりダメージを受けて、本当に長期休暇を取られている方とか退職されている方が最近すごく増えているというようなことも伺っているところではあります。やはりそういったところから、心の相談があったときに手を差し伸べるといいますか、相談に乗って解決の方法を探るというのも、それはあるのかもしれないのですけれども、町としては全町で認知症に優しい美里町といったことを取り上げていますけれども、やはり悩みだったり、悩みにつながる原因ということを、関係者ではなくても、そういったところをしっかりとやっぱり学んでいくことが必要だとは思うのですけれども、それについて。

○委員長（大竹　惣君）　小島委員、もう少し簡潔に、もう一度お願いします。

○８番（小島裕子君）　すみません。先生方もいろんな形で、ストレスによって、かなりダメージを受けている方もいらっしゃるところから、早期にそういった効果の上がるペアレントトレーニングだったり、レジリエンス教育というものをしっかりとまた見直していく考えを持っていただきたいと思うのですけれども。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたしますが、今の小島委員おっしゃられましたペアレントトレーニングとか、それからレジリエンス教育というのは、私直接的に今問題にされている自己肯定感の向上には、全く関係ないとは申し上げませんけれども、直接的な効果があるものとは思ってはおりません。それよりも子供たちに実体験を基に成功体験を積ませていく。これが私は自己肯定感であったり、あるいは様々な体験の中で将来人の役に立とうと思うようなやっぱり出会いであったり、町の方とか、そういうふうな特別活動であったり、総合的な学習の時間なんかを中心にした体験型の学習が結びついていくものかなというふうに考えているところであります。

○委員長（大竹　惣君）　これで小島裕子委員の質疑は終わりました。

次に、同じく施策ナンバー５－１、子ども教育の充実について、13番、根本謙一委員。

○13番（根本謙一君）　施策名、子ども教育の充実のところで伺います。

成果指標①、②の分析で述べていることから、学年、年代によって低下傾向や向上傾向があるとうかがえます。それを踏まえながら、教科によって注力、強化をしなければならないのではと思われますけれども、対策はどのように取り組んできたのか伺いたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、こども教育課長、渡部雄二君。

○こども教育課長（渡部雄二君）　お答えをいたします。

学力向上につきましては、令和４年度より町内全ての小中学校にデジタルドリル教材を導入し、授業や自主学習の時間などに個人の学力に応じた問題練習ができる環境を提供し、活用をしております。中学１年生ではリーディングスキルテストを実施し、生徒の読解力を分析するとともに、町内の小中学校で組織する読解力向上部会において、実態を踏まえた授業実践を推進しております。さらに、国、県におきましては個別最適な学びを重視しており、本町におきましてもＩＣＴ機器を活用したデジタルドリルの効果的な活用を図ったところでございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　いろいろ答弁されましたけれども、私そうではないと思っています。つまり今までこういう分析は、この評価シートで見たことないのです、私。例えば事務事業シート見ますと、学力調査などの各調査の結果を学校、学年ごとに細かく分析し、学力の向上につなげるということを言っているのです。このことを言ってきたのはこの評価シートでは初めてです。今まで、ずっと前繰り返して見ましたけれども、この言い方したのは初めてなのです。これ当たり前のことのように思ったのですけれども、前にはこういう書き込みはどこにも見当たらない。この施策評価シートにもその部分は出ていない。今デジタルとかなんとかかんとか言いました。先生の質を上げるとか書いてありますけれども、私もっと肝腎なところで抜けていませんかというふうに思ったのです。だから、ここで問うているのは注力、強化するところはもう明らかに分かっているのではないですか。どうしてそこに集中的に取り組もうという、この評価分析が出てこないのだろうなという疑問です。そこは教育長、どんなふうに思われますか。私の問うている意味ご理解いただけなかったら、なお反問権と言いませんけれども、言ってください。

○委員長（大竹　惣君）　教育長、大丈夫ですか。

教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

一般質問でもお答え申し上げましたけれども、学力というのは、今回の指標というのは様々な子供たちの集合値、平均値でございます。したがって、その数字の裏には子供たち個々の様々な実態があ

りまして、得意、不得意もございます。それから、指導している教員の指導力、得意な指導分野だったり、そうでなかったり、様々な状況がございます。その結果の集大成としての数字ですので、今委員おっしゃったとおり分析して弱いところに注力するというのは当然のことだというふうに思います。ですから、そのために分析をし、その子供、あるいは自分が担任している教科担任もしくは学級担任している子供たちのどこが弱いのか、どこができなかったのかというのを明らかにして、それを改善するために授業で生かしていくということを各学校ごとに今行っていただいているところであります。ですから、教育委員会としましては、全体的な傾向の分析はできますけれども、そのベースになっている子供たち個々の問題であったり、あるいは学級そのものの問題であったりというのを教育委員会が全て分析して、ここをこうしなさいということはちょっと不可能でございます。ですから、各学校ごとに細かな分析を基に、実情に合った指導、改善をお願いしたいというふうにお願いしているところでございます。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　教育長の総論的なところは物すごく理解できます。ただし、ちょっと気になったのが最後の部分です。終わりのところで、教育委員会としては分析してこうしなさい、ああしなさい、こうしなさいで私はないと思います。こうしたほうがいいのではないか、ここはこうすべきではないかということは、私は教育委員会の仕事だというふうに思います。それなしに、あとは学校でそれぞれに課題に向かって、ちゃんと学校ごとにそれぞれやってくださいという話では私はないと思います。だって、施策評価というのは、全体的なことを評価して、我々に提示するのです。こういう取組やった結果、こういう数字でした。それは、学年とか学校ごとにやっぱり明らかに違うというのが、これはもう過去からもずっとあります。年代ごとに動くというのも承知しているつもりです。だから、そういうことを踏まえて考えれば、学校ごとに、学年ごとに注力するところはおのずと選ばれてくるのではないかなというふうに思う。それによって、全体的なアップが図れるのではないかなというふうに思うのです。個々の対応をもって、全体最適化に持っていく。私はそういうふうに考えていましたので、そういう取組は実際にやっているのかなというのはこの評価シートからは見れない。やっているならば、そういうこともここにやっぱり入れていくべきではないのかなというふうに思います。やっていないだろうと言うつもりはありません。これを見る限りはなかなか見えないところなので、どうなのですかというところで問題提起した次第です。再度答弁いただけたら。

○委員長（大竹　惣君）　教育長。

○教育長（歌川哲由君）　お答えいたします。

　今委員おっしゃったとおり、そういうふうなアプローチをしていくことは大事だというふうに思っております。実際例えば今回の指標とは違いますけれども、全国学力・学習状況調査等におきましては、傾向をつかんで、この問題はやっぱりどうしてもなかなか手ごわくてできないから、こういうふうな授業をやっていくべきではないでしょうかというようなことも含めて指導主事のほうで分析し

て、学校のほうにお伝えし、授業改善に取り組んでいただいているところであります。今回のこの指標に上げております標準学力テストといいますのは、全国学習調査と違ったもので、民間の会社が提供しているテストでございますけれども、これにつきましては観点別学習状況調査というふうな言い方もされまして、先ほど申しましたとおり観点ごとにどの点が弱いかなんていうのを把握するためのテストでありまして、それを基に教師が自分の指導改善に生かしていくというものでございます。ですから、全体的に共通する課題については委員おっしゃったとおりのような対応はできますけれども、やはり学級という学習集団を考えたとき、それぞれの学習集団の質は違います。これは、子供たちの実態をよく知っている、やっぱり指導している教師が実態に合った改善のための指導をしていくというのが一番身近な解決につながる方法だというふうに思っております。ですから、そういう個々の部分については、我々がこうしたほうがいいという暗示はできますけれども、実際にそれを活用して、子供たちの実態改善に向かっていくのはやはり現場の教師の力が一番大きいというふうに考えておりますので、そこは細かな分析と実態に応じた指導を各学校にお願いしているところでございます。

○委員長（大竹　惣君）　これで根本謙一委員の質疑は終わりました。

次の施策に移ります。施策ナンバー５－３、生涯スポーツの充実について、11番、堤信也委員。

○11番（堤　信也君）　それでは、生涯スポーツの充実についてお伺いいたします。

課題に対する取組において、今後の体育施設の改修等を控えた施設利用の効率化を図るため、公共施設予約システムを構築するとありますが、利便性の向上、施設利用の効率化にどのような成果が出たのかお伺いいたします。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、生涯学習課長、福田富美代君。

○生涯学習課長（福田富美代君）　堤委員の質疑にお答えいたします。

公共施設予約システムの導入による利便性の向上、施設利用の効率化につきましては、システム導入に先立ち、事前に各団体と効率的な施設利用を図るため、利用調整会議を開催いたしました。また、システムにより施設の空き状況の確認や利用申請、また利用許可についてもメールにて確認ができるなど、施設利用者が直接来庁されなくても手続が可能となることがメリットであると考えております。

以上です。

○委員長（大竹　惣君）　堤委員。

○11番（堤　信也君）　始まったばかりなので、今後のということでしょうけれども、その中で今現在使っている体育施設、現在賃貸料を支払っている体育施設の名称と借地料金、その詳細ちょっと教えていただけますか。

○委員長（大竹　惣君）　堤委員、令和４年度でよろしいですか。

○11番（堤　信也君）　そうです。

○委員長（大竹　惣君）　生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　少々お待ちください。申し訳ありません。実際こちらシステムを

導入されております体育施設のうち、土地賃借料としてお支払いしている分でありますが、こちら本郷生涯学習センターと本郷体育館、ちょっと一体的になっている部分がありますが、こちらのほうが合計で228万93円、さらには本郷運動場、本郷テニスコート、一体的になっておりますが、こちら200万8,722円となっております。

以上です。

○委員長（大竹　惣君）　堤委員。

○11番（堤　信也君）　ありがとうございます。それで、４年度という形ですけれども、今河畔公園のテニス場ございますね。あそこが会津西陵高校のテニス部だったり、高田中学校のテニス部が結構な頻度でお使いになっているという話ですけれども、その辺令和４年度どんな状況だったのか。前年と比べてどういった状況で使用頻度が上がったか、その辺データで分かれば説明願いたいのですけれども。

○委員長（大竹　惣君）　堤委員、通告の質疑の中と関係するような形に持っていく予定ですか。通告にあった中の質疑と今の質疑、関連性を持って話を持っていくような予定で質疑していますか。

○11番（堤　信也君）　はい。施設の利用でございますので。

○委員長（大竹　惣君）　生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの堤委員のご質疑でございますが、実際実態調査ということで把握していない部分ではございます。ただし、会津西陵高校のテニス部につきましては、本来会津西陵高にテニスコートあるところではありますが、隣に道路がございまして、そちらのフェンスが低いために、テニスボールが多く道路に越えてしまうというところの危険性等を踏まえて、事前に高校のほうから協議をされております。ですので、利用可能な部分についてテニスコートのほうを利用していただいているということの理解をしているところでございます。

以上です。

○委員長（大竹　惣君）　生涯学習課長に申し上げます。

前年度の比較の部分、もう一度答弁お願いします。

生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　大変申し訳ありません。前年度の数値、今年度の数値、実数値を把握しておりません。大変申し訳ありません。

○委員長（大竹　惣君）　これで堤信也委員の質疑は終わりました。

次の施策に移ります。施策ナンバー５－４、地域文化の振興について、６番、長嶺一也委員。

○６番（長嶺一也君）　それでは、質疑いたします。

向羽黒山城跡見学や史跡等への来場も増加しているとのことだが、４－３、観光の振興における観光ガイドとの連携はどのように実施したのかをお伺いいたします。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、生涯学習課長、福田富美代君。

○生涯学習課長（福田富美代君）　長嶺委員の質疑にお答えいたします。

向羽黒山城跡の見学者等への対応における観光ガイドとの連携につきましては、調査整備事業の成果資料や現地の調査、整備の状況について観光ガイドに情報を提供して、事業に活用するなどの連携を図っております。

以上です。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　今、最後に何々と連携してがちょっとよく聞き取れなかったので、もう一回お願いします。

○委員長（大竹　惣君）　生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　大変失礼いたしました。観光ガイドに情報を提供して、事業に活用するなどの連携を図っております。

以上です。

〔「授業、事業」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　事業です。

答弁が聞き取れなかったということなので、質問回数にはカウントしませんので。

長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　向羽黒山の歴史的価値につきましては、ちょっと私議員になる前に勉強していなかったので、よく分からなかったのですけれども、この文化的遺産を子供たちにも教えているということは、地元の文化の歴史をちゃんと教育するという姿勢はとてもよろしいことかと思います。向羽黒山の築城した盛氏さんが入った頃にはちょうど大川の大氾濫なんかもあった時期でもございますし、その辺も含めて総合的な歴史の教育なんかもやっていただければななんていうのも考えているところです。向羽黒山のＰＲにつきましては、令和４年度どのような形で情報発信したのかお伺いします。歴史の自分の、生涯学習課領域部分だけで結構です。

○委員長（大竹　惣君）　生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの長嶺委員の質疑でございますが、向羽黒山城跡整備事業においては、講演会毎年やっております。現地説明会の開催、また講演会の開催、さらには出前講座による向羽黒山城跡の史跡案内等がございますが、周知に関しましては広報等に掲載しまして、周知を図っているところでございます。

以上です。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　今広報で周知を図ったとおっしゃいましたけれども、ほかのいろんな我々質問しますと、当局側はあらゆる手段で広報しますよと言っているのですが、ＳＮＳとかそういった、そっちのほうでの広報活動はなかったのでしょうか。

○委員長（大竹　惣君）　生涯学習課長。
○生涯学習課長（福田富美代君）　令和４年度の事業の周知につきましては、ＳＮＳ、さらには町で実施しておりますライン周知ということは実施しておりません。主に新聞投げ込みということで周知を図っていたところでございます。また、ホームページのほうの掲載をしたりというところで周知を図ってまいりました。
○委員長（大竹　惣君）　これで長嶺一也委員の質疑は終わりました。
次に、同じく施策ナンバー５－４、地域文化の振興について、13番、根本謙一委員。
○13番（根本謙一君）　それでは、私も地域文化の振興について質疑申し上げます。
成果指標①、②、③それぞれあるわけですけれども、増加傾向が見られています。コロナ禍にあっても一定の成果があり、評価できると思っています。指標の分析において、①、②は理解、納得できるところですが、③の反省点を踏まえ、どのように考えているのか伺いたいと思います。つまり反省点というのは、事業実施における事前周知不足や地域文化財への魅力再発見事業（出前講座）の固定化も見られ、目標値を下回ったという、本当に分かりやすい。ただ、内容的にはちょっと不明なところありますので、伺いたいと思います。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、生涯学習課長、福田富美代君。
○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの根本委員の質疑にお答えいたします。
町の歴史文化に興味、関心のある町民の割合についての反省点を踏まえ、どのように考えているのかにつきましては、地域再発見事業や出前講座などの申込みについては、自治区等における興味、関心の違いから、開催箇所が偏る傾向があります。町の歴史文化の情報収集と発信の拠点となる郷土資料館への来館を広く推進するとともに、地域再発見事業など関連事業の開催と周知に努める必要があると考えております。
以上です。
○委員長（大竹　惣君）　根本委員。
○13番（根本謙一君）　自治区長や、それから地域の認識の在り方で事前の周知不足、または出前講座の固定化のことをおっしゃっていました。ということは、コロナ禍であまり動きが取れなかったということを言おうとしているのですか、これ。私は、その取り組み方、見ているところが何か違うような気がするのですけれども、地域的な意思の偏りは、私はそれ言ってはいけないと思っています。全町的にやっぱり知らしめていくという取組が大事だと思います。そういうふうに考えると、この分析、それから今の答弁は、私はちょっと違和感を持ったのですけれども、再度の答弁をお願いします。
○委員長（大竹　惣君）　生涯学習課長。
○生涯学習課長（福田富美代君）　コロナ禍ということも確かにございますが、ただ町出前講座に関しましては令和４年度については４件ございました。令和３年度が３件ということで、若干増えつつございます。しかし、出前講座ということで、町のほかの出前講座と一緒に広報等で周知していると

ころではありますが、実際の地域再発見事業というものがどういったものかということを十分な広報がされていないというところもあるかと思います。具体的に広報等に、こういった実際に行った地域での活動の内容をアップするなどということで、広く地元にある文化財、指定、未指定にかかわらずというところの、みんなで地域の文化財についてお話ししようというような、気軽に参加できるような事業なのだということの周知も十分に必要かと思います。また、講演会等実際やっているところではありますが、十分な周知が図られていないという反省がございます。確かにどの事業にとってもそうなのですが、余裕を持った企画立案、早期の周知というところには尽きると考えております。そういったところで、今後郷土資料館開館におきましては、ホームページのさらなる充実、またラインの活用などを図りながら、十分な周知に努めてまいりたいと考えております。

以上です。

○委員長（大竹　惣君）　あと１回です。

根本委員。

○13番（根本謙一君）　ありがとうございます。私それでいいと思います。やろうとしていることは、まさにそうだと思います。ただ、どれで、手段だと思います。手段、何を使うか。よく皆さん方言われるのは、ホームページへ掲載しています。現代のそういう手段ばかりではなくて、やはり紙ベースです。やっぱり各戸に配布して、こんなものできましたよ、こんなもの見れますよ、こんな整備をしましたよ。それが私は不足していると思っています。それ無駄だと思わないでください。各戸に配布するというのは大前提だと思います。ホームページで見れます。私見ていますけれども、あれで魅力を発信しているかと皆さん思っているのだったら、私はちょっと違うと思っていますから、それも併せて、一緒に今の課長の考え方で、ぜひ取り組む必要があるのではないかなということを思っています。

なお、再度の確認の意味で、再度の答弁お願いします。

○委員長（大竹　惣君）　生涯学習課長。

○生涯学習課長（福田富美代君）　今ほどの再度の根本委員のおただしについてでありますが、実際町民アンケートによりますと、町の歴史文化に興味、関心のある割合というところでアンケート調査を別途させていただいております。55％以上の多くの方が関心を持っているというところが実際数値として出ております。それをいかに町の事業に多くの方に参加していただくというところについては本当に必要かと考えております。今後資料館、さらには関係の事業におきましては、今おただしのありました紙での周知ということも視野に入れながら、周知に努めてまいります。

○委員長（大竹　惣君）　これで根本謙一委員の質疑は終わりました。

以上で政策名、学びあい未来を拓く人づくりに関する質疑は終了しました。

質疑漏れはございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　以上で学びあい未来を拓く人づくりに関する質疑は終了します。

お諮りいたします。本日はこれにて延会としたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　異議なしと認め、本日はこれにて延会いたします。

延　会　　（午後　３時０１分）

決 算 特 別 委 員 会

（第　５　日）

令和５年会津美里町議会（決算特別委員会）

第５日

令和５年９月２１日（木）午前１０時００分開議

委員長	大竹　惣　君	副委員長	荒川佳一　君

○出席委員（１４名）

１番	櫻井幹夫　君	９番	渋井清隆　君
２番	大竹　惣　君	１０番	星　次　君
３番	小柴葉月　君	１１番	堤　信也　君
４番	荒川佳一　君	１２番	鈴木繁明　君
６番	長嶺一也　君	１３番	根本謙一　君
７番	村松　尚　君	１４番	根本　剛　君
８番	小島裕子　君	１５番	横山義博　君

○欠席委員（なし）

○説明のため出席した者

町長	杉山純一	君
副町長	佐々木吉一	君
総務課長	金子吉弘	君
政策財政課長	國分利則	君
政策財政課課長補佐	立川　昇	君
政策財政課課長補佐	目黒裕樹	君
政策財政課政策企画係長	鈴木幸信	君
政策財政課人口減少対策係長	小林一成	君
産業振興課長	小林隆浩	君
産業振興課課長補佐	宮下　寛	君

産業振興課 商工観光係長	鈴	木	俊	幸	君
代表監査委員	小	島	隆	一	君

○事務局職員出席者

事務局長	児	島	隆	昌	君
事務局次長 兼総務係長	歌	川	和	仁	君

開　議　　（午前１０時００分）

○委員長（大竹　惣君）　それでは、これから本日の会議を開きます。

決算特別委員会５日目を行います。

施策名、魅力と個性のある地域づくりの質疑を行います。

施策ナンバー６－１、地域活動の推進について、13番、根本謙一委員。

○13番（根本謙一君）　それでは、私の質疑を始めます。

地域活動の推進についてです。成果指標①、②の数値がコロナ禍にあっても、一定の成果が見えるのは、地道な事業活動があってこそと評価できると思っています。その中で分析②に述べている女性と若者の参加率を高める必要がある。このことについてのどういうことを分析しての考え方なのか伺いたいと思います。

また、課題、取組において、地域おこし協力隊事業の受入れ態勢整備のため、採用５か年計画を作成したと述べていますが、取り組む地域課題は何なのか、その具体的内容について伺いたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　失礼しました。最初の部分ちょっと勘違いした可能性がありますので、ちょっと確認します。今回は施策ナンバー６－１、地域活動の推進について、13番、根本委員の質疑になっております。

それでは、答弁のほうお願いします。

答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　それでは、お答えいたします。

地域活動に女性と若者の参加率を高める必要があるとした考え方につきましては、地域活動の継続と活性化、さらに魅力ある地域づくりを行うためには若者と女性の参加を促進することが必要であると認識しております。町民アンケートの設問で、何らかの地域活動に参加しているかに対しまして、参加している割合について49.4％で、男女比は男性が62％、女性が39.1％であります。また、参加者の年齢別では18歳以上から29歳までは２割、30歳以上では５割の参加と年齢層が高くなるほど地域活動に参加している割合が高く、若者の参加率は低いことが読み取ることができます。そのため、より若者や女性が参加しやすい魅力ある地域活動を実施していくことや、若者や女性の利用が多いと言われておりますＳＮＳなどを積極的に活用することで地域活動の参加促進と地域の活性化につながるものと考えております。

次の地域おこし協力隊が取り組む地域課題でございますが、本町に限らず、全国的な過疎地域におきましては、少子高齢化に伴います人口減少が顕著となる中、地域おこしの支援や農林水産業への従事、さらには住民の生活支援などが地域おこし協力隊に求められております。そのため５か年計画におきましては、まず移住の促進、農業、伝統工芸等の担い手の確保、観光誘客事業など20の事業を地域課題に対して取り組む事業として掲げております。

以上でございます。
○委員長（大竹　惣君）　根本委員。
○13番（根本謙一君）　まず、前段の部分ですけれども、本当そのとおりだと思うのです。女性、若者参加率、これはいつの時代でも頭を悩ます問題だと思います。いろいろ分析しているのは分かるのですけれども、ではどうしようかというのはこれから考えるということですか。今ＳＮＳのことを話ししましたけれども、私はそれだけではないと思っています。ですから、そのところまで言っていただかないと、分析したというところまではいかないと思うのです。では、その後にどうするかという。それが見えないとなるほどというふうにはいかないし、不十分だとか、なるほど、十分だねというふうになるか、そこがポイントだと思うので、もう一度伺いたいと思います。

後段の部分ですけれども、５年計画ですから、20事業というお話しされましたけれども、５年間で20事業ですから、１年間でどれだけの事業、私は具体的に言っていただけるのかなと思いましたけれども、大きなくくりでしかお話しされていません。ですから、もう少し詳細に説明をお願いしたいと思います。

それから、５年計画の資料ですけれども、これは出していただけるのでしょうか。お願いします。
○委員長（大竹　惣君）　根本委員、最後に要点だけ。３点ですよね、今回の質疑は。要点だけもう一度お願いします。確認の意味でお願いします。
○13番（根本謙一君）　１点目が分析した結果、対応としてはどんなことを考えているのかということです。

それから、２点目は協力隊事業の５か年計画、年度ごとにしっかり20事業について振り分けがされていると想像しているのですけれども、そこまでしっかりあるのか。それから、具体的にちゃんと言えるのか。その計画を資料として議会に出せるのか。私は、出してこないのが不思議に思っているのですけれども。
○委員長（大竹　惣君）　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　それでは、まず１点目でございますが、対策としてどうするのかと、具体的なことだと思いますが、まず先ほどの答弁でも申し上げましたが、若者、若年層の参加にはやはりＳＮＳというようなことで、そういった活用が必要だろうということで認識しております。これにつきましては、国のほうの調査でも、総務省で行っております調査研究の中でもやはり参加率の低下についてはそういったデジタルの必要性、さらにはＳＮＳ等の活用が必要であろうという提言なり報告書がございます。では、しからばどうするのかということでございますが、まず１点でございますが、先ほど言ったそういったＳＮＳをどう活用するか、これは必要だと思っております。

あと、もう一つは地域ごとのそういった行事、地域活動の内容の見直し、これは必要なのかなと思っております。やはり今の時代に合った内容になっているのかどうか、そういったことをやはり検証が必要なのかと思っております。その対策でございますが、現在集落支援員ということで、２名では

ございますが、そういったことで活動をしておりますので、やはり前年度の反省点といたしましては、これまで主に４年度につきましては、防災、さらには健康などを中心的に活動行っておりましたが、やはりそういった地域コミュニティーなり、そういった活動の支援なり、どういったことを望んでいるのか、そういう活動なり調査も必要なのかなと思ってございます。

次の協力隊の20の事業でございますが、まず２点目の資料は出せるのかというようなことでございますが、これは請求があれば出すのが可能でございますので、一度見ていただければなと思っております。

20の事業でございますが、これにつきましては年度ごとにどの事業をやるということで計画で載せております。若干20の事業、非常に長いですので、主なものをちょっと言わせていただきますが、まず20のうち、まずは空き家の利活用事業、地域の福祉団体の支援事業、耕作放棄地対策事業、新規就農者、担い手育成事業、６次産業化支援事業、有害鳥獣防除事業、観光対策事業、観光まちづくり推進事業、商工活性化事業、教育研究事業、生涯学習センター活動事業、生涯スポーツ振興事業、文化財保存活用事業、まちづくり活動支援事業、地域おこし協力隊事業、移住促進事業、ネウボラ推進事業、モンベルと連携した事業、町有財産を利活用した事業、企業型提案型事業ということで、約20の事業を提案してございます。それを年度ごとに割り振ったのが５か年計画ということでございます。そういったことで計画を策定しているということでございます。

なお、年度ごとについてもそれを計画の中に入れ込んで、５年間で38名の隊員を募集すると、採用するという計画でございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　大体分かってきました。

まず、１点目ですけれども、地域活動の中身の見直しと言いましたけれども、地域活動に見直しなんていうのは私はあり得るとは思えないのです。見直しと言いましたけれども、地域活動に何が必要なのか、若者がどうして参加されてこないのか、それから女性が参加しづらくなっているのかいないのか、どういうことを望んでいるのかというのは、やっぱりこれは調べる必要があると思います。それによってどうしたらいいかというのが私は見えてくると思います。そこが大事かなと思いますので、その部分の話が出てこなかったので、ただ地域活動の見直しというのは相当地元にとってはきつい話になるかなというふうには私は受け止めましたので、そこは再度の説明をお願いしたいと思います。

２点目ですけれども、５年間で38名。これは初めて聞きましたから、ちょっとびっくりしていますけれども、とにかくこれだけ地域課題を抽出してあるということですから、それは大いに取り組んでいただいて私はいいと思っていますけれども、きちっと成果が出せるような状況、これは１年、２年の話ではないでしょうけれども、そこまで見通したものでしっかり取り組んでいただくべきではないかなというふうに思います。今までの成果も含めて、しっかりそこは検証していただいたほうがいい

のかなと思いますけれども、ご認識を伺っておきたいと思います。といいますのは、じげんホールで発表会していますよね。地域おこし協力隊、していますよね。町民の皆さんにも案内を一応していますよね。でも、出席者は本当に少ない。どちらかというと職員のほうが多かったと。職員もいっぱい来ているのかというとあまりに来ていない。ああいう中で発表会やって、本当に認知されていくのかなという不安を私はあの当時受けました。そんなことも含めて、しっかり取り組んで、この計画の成果を上げていくように考えてやるべきではないかなというふうに思います。ご認識を伺いたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　まず、１点目でございます。地域活動の内容の見直しと私お答えしましたが、地域によって、その地域活動の種類、内容、様々だと思っております。個人的な私見ではございますが、大きく分けて、いわゆる街なか、さらには農村部といいますか、大きな地域活動の違いが見れると思います。例えば村部であれば、通称人足と言われるのも地域活動の一環であります。いわゆる共同活動です。そういった場合、やはりそういった参加者が少ないというのも聞いております。それは、作業の内容、作業時間等もやはり見直すべきことがあるのではないかと、そういう内容でございます。例えば街なかの事業、活動にしましてもそういったやり方、周知の仕方、内容は、やはり今参加されているその地域の皆様の中でどういった内容でやっていくのか、そういった話合いが必要だろうかなと思っておりますので、そういった中でどこが見直せるのか、どこがそういった参加者が少なくなっているか、その現状なりの把握は必要なのかなと思ってございます。これは、何も行政がタッチするというようなことではございません。各地域のほうでそこはやはり検討するというのが一番大事なことだと思います。ただし、そこの中で行政として何ができるのか。それは、やはり中間支援だったり、ＮＰＯの中間支援をやっておりますので、そういった地域だけではできなくなっている状況があります。今少子高齢化、さらには人口減少しておりますので、そういった協力体制の中で見直すというようなことを考えているということでございます。

　次の協力隊でございますが、まず発表会の件について触れますが、年１回発表会は実施しております。言われるとおり町民の参加は若干少ないというようなことで認識しております。ただ、この発表会につきましては、これだけではなくて、例えば毎月広報紙のほうに１面を割きまして、協力隊の活動報告というのをさせていただいております。これは、毎月広報のほうに掲載しております。さらに、イベント、例えば今年の例で申しますとあやめ祭りでございますか、そこの中にも地域おこし協力隊参加しまして、協力隊の活動内容の、そういった観光客、さらには町民の方へのＰＲをしておりますので、この発表会、確かに多くの町民の方に参加していただきたいわけでございますが、周知につきましてはそういった広報紙、当然ホームページ、さらにはそういった誰でも参加できるようなイベントに積極的に参加いたしまして活動をＰＲ、さらには周知をしていくと、そういったことでやってきてまいりました。

あと、38名もの採用計画ということで、成果はどうなのかということで、当然これまでのやってきた実績なり経験ございますので、そういったことを踏まえまして各課連携、さらには各団体と連携しまして成果が上がる内容とするように、当然そのための５か年計画をつくりまして、事前に打合せも綿密にしまして、そのために受け入れて成果を上げていくと、そういった方向で考えております。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　これで根本謙一委員の質疑は終わりました。

次の施策に移ります。施策ナンバー６－２、多様な交流と連携の推進について、６番、長嶺一也委員。

○６番（長嶺一也君）　それでは、質疑させていただきます。

移住世帯数が増加することは喜ばしいことでございます。一方で、成果指標には出てこない、移住はしたが、その後転出してしまった世帯数は把握しているのかお尋ねいたします。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　お答えします。

移住後に転出した世帯数の把握につきましては、町が把握しております数値につきましては移住に関する住宅取得の補助金や移住支援金などを活用した方、さらには空き家を取得した方に絞りまして、ある程度長期間の定住が想定される移住者数をカウントしているため、移住後の転出世帯数の把握は行ってございません。

なお、移住、定住促進の政策におきましては、移住するまでの期間と移住直後の相談体制が特に大切な時期であると認識しております。そのため移住する地域の様々な情報を事前に移住者へ提供するとともに、移住後の１年間の方を特にケアが必要ということで、移住定住支援コーディネーター、いわゆる移住コンシェルジュが相談を行うなど、安心して移住、定住いただける相談体制の構築に取り組んだところでございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　コロナ禍で働き方改革が進みまして、転職なき移住というのも結構定着というか、進んでいたかと思うのですが、転職なき移住の実態は把握しておりますでしょうか。

○委員長（大竹　惣君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　先ほども申し上げましたが、あくまでもそういったことで、例えば転職なき移住された方におきましても、こういった補助金を活用した方をカウントしてございますので、それのみで転入された方についての把握はしてございません。

○委員長（大竹　惣君）　長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　最初の答弁で、移住者に対しての相談体制、ケアを進めていますよという答弁がございました。移住者のサポート体制は重要だと思います。もう少しサポート体制について、ち

ょっと詳しく説明をお願いしたいのですが。
○委員長（大竹　惣君）　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　それでは、移住者のサポート体制ということでございますが、まず移住するまでの間、例えば移住したいという希望がある方については、例えば一つの例を申し上げますと、首都圏の移住相談会などに職員なりが出向きましていろいろな相談、そこの中には住環境、働き口、様々な内容で相談をしております。その後、現在移住定住支援コーディネーターというようなことで、一般社団法人のほうに町は業務を委託しておりますので、そこの委託業務の中で24時間例えばメールでの問合せ、さらにはなかなかこちらには来れないのだけれどもという場合につきましては、例えばそういったインターネット等を活用した面談なりを行っているというところでございます。その後移住されて後、様々な例えば悩み事、相談事がございます。それにつきましても先ほど申し上げました移住コンシェルジュがおりますので、そこの中で様々な相談、場合によっては直接町のほうに相談がある場合がございますので、そういったことで丁寧な説明を行っているという内容でございます。
○委員長（大竹　惣君）　これで長嶺一也委員の質疑は終わりました。
　次に、同じく施策ナンバー６－２、多様な交流と連携の推進について、11番、堤信也委員。
○11番（堤　信也君）　それでは、多様な交流と連携の推進の施策の３、指標の分析において、アンケート設問における無回答者が多いことなどから、交流事業や移住、定住促進政策の認知がまだ低いことなども要因として挙げられるとあるが、友好、姉妹都市の町民の認知度を深める事業、交流事業はどことどのような内容で、どの程度の回数を行ったのかをお伺いいたします。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。
○政策財政課長（國分利則君）　お答えします。
　友好都市との交流事業につきましては、昨年度は３回実施しております。まず、令和４年６月に宮城県美里町から19名の住民の方が訪れまして、開催中のあやめ祭りや伊佐須美神社を散策いたしました。次に、11月には町内の６次産業化に取り組んでいる農業団体の方が台東区にございますふるさと交流ショップにおきまして、有機野菜や加工品の販売を行い、１週間で約400名の方が来客されております。さらに、同月に本町の町民22名の方が楢葉町を訪れまして、産業まつりや農産物の貯蔵施設を見学するなど住民レベルの交流を図ったところでございます。
　以上でございます。
○委員長（大竹　惣君）　堤委員。
○11番（堤　信也君）　ほぼほぼ３地区と交流を行ったと。その中で計画にあったかどうかは分かりませんが、以前は小学校、中学校の交流事業等も行っていました。スポーツの大会であったり、文化、音楽交流等も行っていましたけれども、そういったのは令和４年度は計画にはなかった。コロナ禍の中でなかった、それともあったができなかった、その辺のちょっと回答をお願いしたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、産業振興課長、小林隆浩君。
○産業振興課長（小林隆浩君）　教育交流につきましては、やはり計画はあったということですが、やはりコロナ禍とかの影響によりまして、なかなか開催ができなかったといった内容でございます。
以上でございます。
○委員長（大竹　惣君）　堤委員。
○11番（堤　信也君）　コロナ禍の中でできなかったと言いつつも、その他交流は行っているわけです。逆に言うと小学校、中学校あたりであれば、親御さんであったり、おじいさん、おばあさんあたりも一緒に交流事業についていくとか、そういった部分もあると思うのです。そういった形でやっていけば、当然姉妹、友好都市の認知も広がっていくわけです。ですから、その辺やらなかったということですけれども、それについての反省はないですね。コロナ禍の中でやらなかったということですので、ただそれについてはどういった考えをお持ちだったのか、その点１点だけ。
○委員長（大竹　惣君）　産業振興課長。
○産業振興課長（小林隆浩君）　考えとしまして、今後ともそういう友好都市との交流事業というのは積極的に行っていきたいと考えております。そういった中で、４年度はなかなかちょっとできなかったわけですが、現在はコロナ前にしていたような以前の交流事業ということで……では、ちょっとそのような中身になりまして、こういった事業は教育関係とか、その他いろいろ民間交流なども含めて大変重要な事業だと考えております。
○委員長（大竹　惣君）　これで堤信也委員の質疑は終わりました。
次に、同じく施策ナンバー６－２、多様な交流と連携の推進について、13番、根本謙一委員。
○13番（根本謙一君）　では、私の多様な交流と連携の推進について質疑をさせていただきます。
施策評価116ページ、町の主な取組の中に交流人口と関係人口の拡大を促進するとあります。施策評価シートからはその内容が見えてこないのです。そもそもの決算特別委員会の質疑の在り方がとても不十分になっているなと思います。というのは、次年度の方向性ぐらいはやっぱり議論の中に入ってこないと議論が深まらない。自分の考えは言えない。ただ、内容を聞くだけですから、深まらない。
○委員長（大竹　惣君）　根本委員、通告外です。
○13番（根本謙一君）　はい。ですから、見えてこないので、そこをもう少し明らかに説明していただきたいし、どのように認識しているのか。今までと同じようなことをやってきていると。コロナ禍はあったけれども、できなかったということもありますけれども、交流人口と特に関係人口をどうつくるかということが大事だと思うので、そのところの認識を伺いたいと思います。
〔「休憩お願いします」と言う人あり〕
○委員長（大竹　惣君）　暫時休憩します。
休　憩　　（午前１０時２９分）

再　開　　（午前１０時３１分）

○委員長（大竹　惣君）　再開します。

答弁、政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　それでは、お答えいたします。

交流人口や関係人口の拡大を促進への認識でございますが、一般的でございますが、まず関係人口につきましては一時的ではなく、継続的に地域や住民と関係を持っている方々を指してございまして、また交流人口につきましては通勤や通学、観光等で一時的に地域と交流する方を指すものと認識してございます。当町におきます関係人口とは、ふるさと納税をされた方、さらには町の移住イベントに参加された方、町の出身者で町外に居住される方、さらには町ラインに登録して、町の情報を常に受信されている方々などを当町へ高い関心のある方であると認識してございます。また、交流人口につきましては、関係人口ほど当町と関わりは少ないものの、ホームページを閲覧した方や通勤、通学や観光などで訪問され、当町を認知された方々であると私は捉えてございます。

第３次総合計画に掲げております交流人口や関係人口の拡大の促進につきましては、移住、定住につながる取組の一つでありますので、その成果指標につきましては移住定住窓口を通した移住世帯数を増加させることを目標としているものでございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　認識はそのとおりなのでしょうけれども、実際やっていること、特に４年度やった事業の内容ある程度書いてありますけれども、今までの延長線でしかないではないですか。移住、定住のことをすごくこだわっていますけれども、これも大事です、施策。これはこれでいろんな取組やっていますから、いいのですけれども、特にふるさと納税されている方々へのアプローチが私は不十分だと思います。移住、定住が交流人口、関係人口の拡大ではないと思いませんか。私は、ここに来る人、ここに来て、この町に来たい人を増やす。住みたい人を増やすのではない。来ている人、交流ということはそうでしょう、関係人口というのは。関心持っていただいているというのは、ある程度のデータありますから、そういうのをどうして生かしてもっとアプローチできないのか。４年度は、では具体的にどういうことをやられましたか。お尋ねしたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　お答えします。

まず、先ほどお答えをいたしましたが、町で考えている関係人口とは何々、交流人口とは何ということで、多岐にわたっております。といいますのは、そういった関連する事務事業、さらに施策において実施しておりますので、この一つの施策においてこれが完結するものではございません。なので、当然それは各課連携、各施策ごとの連携等は必要でございます。なので、そういった連携の下にこの成果が出てくるということで私は認識してございますので、ある特定の事務事業をしたから、成果が

これに結びつくというものではございませんので、そこをご理解いただきたいと思います。

では、具体的に何をしたのかというようなことでございます。今ふるさと納税というようなことでおただしありましたが、ふるさと納税につきましてもそういったＰＲの仕方、さらには新たな商品の開発なりも昨年度は実施してございますので、そういった魅力ある商品なりを開発しまして、そういった関係人口なりを増やすというようなことでございます。

あと、もう一点、関係人口と移住は関係ないのではないのかというようなおただしではございますけれども……

〔「そんなことは言っていない」と言う人あり〕

○政策財政課長（國分利則君）　失礼しました。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　私関係ないとは言っていないと思いますけれども、そういうふうに取られるような言い方したかもしれませんけれども、それは言っていません。つまり一つの象徴的にふるさと納税のことはお話ししましたけれども、こういったことをアピールするだけではなくて、これだけ積み重ねて年次、経年的にやってきているわけですから、そのデータを使って、もっともっと来てもらうアプローチを私はやっていかないのかなというのがそもそもの問題意識です。今の話ですと、定番の、ただふるさと納税してくれるというその関係性だけで、そこで何か終わってしまっているようにしか今の説明では聞こえていません。その関係ができたのだから、もっともっと深くアプローチの仕方は当然考えていったほうがいいのではないだろうか。そこまで４年度はやらなかったのですかというところ。ふるさと納税、去年、おととし始まったわけではないですから、これは過去の一般質問でもしたことありますけれども、もっともっと関係人口を充実させる、実質的に中身を、成果を上げていくというやり方は私はあると思います。象徴的に私はふるさと納税のことを言いましたけれども、これで完結させろなんていうことは言うつもりさらさらありませんから、そこは誤解のないようにお願いしたいなと思います。再度の答弁をお願いします。

○委員長（大竹　惣君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　お答えします。

確かに今ふるさと納税という一つの例ということでございまして、当然そのように町も捉えております。繰り返しになりますが、この施策につきましては、この施策だけでは当然できない業務でございます。先ほど申し上げましたが、観光だったり、そういった町に来ていただく、さらにはホームページなりの充実ございますので、いかにこの町に来ていただくかという施策があってこその数字でございますので、ですからそういった施策、事務事業、別にございますので、繰り返しになりますが、そういった事業もさらに連携をしながら、観光もしかり、そういったふるさと納税もしかり、今事務事業やってございますので、それをさらに磨き上げしながら図っていくというようなことで考えてお

ります。

○委員長（大竹　惣君）　これで根本謙一委員の質疑は終わりました。

以上で政策名、魅力と個性のある地域づくりに関する質疑は終了しました。

質疑漏れはございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　以上で魅力と個性のある地域づくりに関する質疑は終了します。

ここで、次の政策に移りますので、説明員入替えのため暫時休憩いたします。

休　憩　　（午前１０時３９分）

再　開　　（午前１０時４０分）

○委員長（大竹　惣君）　再開します。

これより政策名、町民に信頼される行政の推進の質疑を行います。

施策ナンバー７－２、効率的な行政運営について、13番、根本謙一委員。

○13番（根本謙一君）　では、私の質疑を始めさせていただきます。

効率的な行政運営について、課題に対する取組の中で民間活力、ＰＰＰ、ＰＦＩ等を活用した公有財産の利活用で調査、検討したと述べております。なぜなのか、その結果をどのように出されているのか伺いたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、総務課長、金子吉弘君。

○総務課長（金子吉弘君）　それでは、お答えいたします。

民間活力を活用しました公有財産の利活用の調査、検討につきましては、本町におきます公有財産利活用の課題を解決する手法の一つといたしまして、これまでの行政主導にはない民間活力による先進事例が全国的にも多くあることから、本町におきましても先進事例に学び、調査研究することが必要と考えましてこの取組を進めてきたところでございます。この民間活力を活用する目的は、民間の資金、経営能力や技術的能力に加えまして、民間事業者の経営上のノウハウ等を活用し、効率的かつ効果的にその取組を実施することでコスト削減や質の高い公共サービスの提供が可能となることにございます。

なお、この調査結果につきましては、令和４年度におきましては調査研究を中心に取り組んできましたことから、調査結果をまとめる段階にはありませんが、引き続き公有財産利活用の課題解決をするための手段の一つとして民間活力を有効に活用した取組の導入可能性を調査研究してまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　分かりました。まだまとめる段階ではないというお話もありました。それか

ら、確かに利活用しなければならない公有財産がいっぱいあるということも承知しております。ただ、民間活力をと簡単に言ってしまいますけれども、ＰＰＰにしろＰＦＩにしろ、これ簡単な話ではないと思っています。ただ、研究、勉強しておくのは大事だと思っています。成功事例も私たち見に行っていますけれども、可能性を追求するということは、一定程度の目的地といいますか、エリアといいますか、何かあって、その必要性、検討する必要があるだろうということによっての調査だと思います。それを４年度にやったと。ただ、まとめる段階ではないと言われるので、なかなか答弁も難しいところあるかもしれませんけれども、この理解でよろしいのですか。この町にも民間活力をするところがあると、可能性のあるところがあるというふうに考えているというふうに受け止めてよろしいでしょうか。

○委員長（大竹　惣君）　総務課長。

○総務課長（金子吉弘君）　再度のおただしでございます。その可能性につきましては、結論から申し上げますと可能性があるということで調査研究を進めているところでございます。ただし、委員おっしゃるとおり行政の手法の一つとしてＰＦＩ等ございますが、ただしこれは導入に値するものなのか否かという判断は我々のほうでしていかなくてはいけないというふうに当然思っておりますので、その辺導入できる部分について順次導入することで、最少の経費でやっぱり最大の住民サービスの向上が図れるというふうな部分ございますので、そこはしっかり目指していかなければいけないというふうに考えているところでございます。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　これ簡単な取組ではないという認識を私持っていますからなのですけれども、本町の中でそういう検討に値するところがあるとは私はなかなかちょっと考えていない。まだまだこれ以上来年度以降のことをできないので、苦しいのです。課長、分かりますよね。課長も本当に苦しいと思います。ですから、これ以上どうやって聞いていいのかなというのがあるのですけれども、でも可能性あるというふうにおっしゃったので、またの機会にいろいろ議論させていただきたいと思いますので、そういう認識でよろしいですね。再度の確認でお願いいたします。

○委員長（大竹　惣君）　総務課長。

○総務課長（金子吉弘君）　再度ちょっとお答えさせていただきます。

　確かに今現在行っている進捗についてちょっとなかなか申し上げる場ではないということで、ちょっとはっきりした答弁ができなくて申し訳ございませんが、町としましては、先ほどの繰り返しになりますが、可能性があるというふうに思っている部分がございますので、しっかりと調査研究を重ねていきまして、それがお話しできる段階に入りましたらしっかりと皆様方のほうにお知らせをしてまいりたいというふうに考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長（大竹　惣君）　これで根本謙一委員の質疑は終わりました。

　次の施策に移ります。施策ナンバー７－３、町民参加の推進について、10番、星次委員。

○10番（星　　次君）　それでは、成果指標①に対して、指標の分析①で広報紙による情報提供は80％以上の高い評価が得られたとしているが、月１回の発行と紙面構成の変更を行ったとも言っています。月１回の発行に対する町民の評価や意見は把握されているのか伺います。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。
○政策財政課長（國分利則君）　それでは、お答えします。
　広報紙の月１回の発行に対する町民の評価や意見につきましては、令和５年４月に実施いたしました町民アンケートにより評価及び意見を把握してございます。全体で約73％の方が月１回の発行に肯定的な評価をしている一方で、１冊当たりの情報量が増え、読みづらくなった、統合しないほうがよかったなどの否定的な意見も約15％程度ございました。これは、男女別、年代別に見ても、おおむね同じ傾向となっております。また、１冊当たりのページ数につきましてはの設問につきましては、約76％の方がちょうどよいという回答をいただいてございます。また、読みづらいという点につきましては、レイアウトや表現方法の工夫によりまして、さらに読みやすくするなど改善に努めたところでございます。
　なお、広報紙の発行を月１回にするに至った経緯でございますが、令和元年から２年間をかけまして会津短期大学と連携し、調査を行いまして、また町民アンケートを行うなど十分検討を重ねた上で決定してございまして、掲載内容の充実と読みやすい紙面構成となるよう工夫に努めたところでございます。
　以上でございます。
○委員長（大竹　惣君）　星委員。
○10番（星　　次君）　それで、パーセンテージ的にはよいというふうに、73％の方がアンケート調査でなっているわけですが、我々議会として、議会の地区別意見交換会の席上で、月１回の発行では、今課長が若干申し上げましたが、紙面が、ページ数が多くて、また活字がびっちり本当に書き込みがあって、途中で読むのをやめたくなるというふうな意見があって、やはり前と同じに月２回の発行はお願いできないかというふうな意見が出されたものですから、その辺はやっぱり検討するべきでなかろうかと思いますが、その辺の考え方はどうですか。
○委員長（大竹　惣君）　星委員、ちょっと所感を述べて、意見を聞くような形になってしまっているので、４年度どうするかとか、ちょっとうまく表現してください。
　星委員。
○10番（星　　次君）　変えます。それでは、23％ぐらいの方が読みづらいというふうな意見に対して、読んでいただくための広報紙というふうに、少ない人数の方のための工夫というのはやる必要があると思うのですが、その辺の考え方お願いします。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　アンケート結果では、そういった１回の発行について様々な意見が

あったのを承知しております。当然２回のほうがよかったという意見もあります。情報量が多いなど、そういった読みづらいという意見もございます。それに対してどのような対策を前年度行ったのかということでございますが、まず１つは今回町民アンケートの結果を申し上げましたが、広報モニターを委嘱してございます。広報モニターにつきましては、毎月の広報紙につきまして、いろいろな意見をいただいております。そこの中でもやはりそういった同様の意見がございましたので、そういったもの、対策といたしまして、まず内容を、文字数を少し減らすと申しますか、簡略的、もう少し短く表現できないかということで、若干調整はしてございます。あと、優先順位、何を前のほうに、前ページのほうに持っていくか。例えばやはり町民がより知りたい内容、例えばイベントの内容だとか、そういった内容をなるべく前のほうに出すとか、そういった工夫もしてございます。あと、もう一つにつきましては、カラーなり色使いに対しても様々な工夫を行ってございます。あともう一つ、文字が多いというようなことに対しましては、昨年度は広報紙と併せまして、ＱＲコードを一緒に掲載してございます。要は広報紙の中だけでは情報量が多過ぎて、なかなか読みづらいという場合については、広報紙については必要最低限のことは当然載せますが、さらに詳細に知りたい場合についてはそのＱＲコードを読んでいただきまして、スマホ等から読んでいただくという、そういうような工夫をしておりますので、大部分の方が肯定的な意見であったということで答弁してございますが、やはり読みづらい方の２割の方のそういった意見も十分酌み取りながら、工夫をしたところでございます。

○委員長（大竹　惣君）　星委員。

○10番（星　　次君）　先ほど広報モニターさんの意見も取り入れながら工夫、改善していくというふうなことですが、どの程度広報モニターさんが意見を申し上げているのか、そしてモニターさんの意見というのがどの程度紙面に反映しているのか、その辺お聞きしたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　お答えします。

まず、広報モニターでございますが、３名の方を委嘱、お願いしてございます。３名の方が月１回の広報に対しまして、毎月ご意見をいただいております。内容については様々でございますが、やはりそういった内容について紙面構成はどうだったかとか、そういったほかに自由意見というのがございますので、そこの中で様々な意見がございました。先ほどの改善点なり改良点申し上げましたが、そういったことも広報モニターの方が意見がありまして、そういった工夫をしてきたところでございます。主にはやはりもっと見やすいほうがいいのではないかということで紙面のレイアウト、さらには優先順位を前のほうに持ってきたり、そういった内容、さらには色使い、さらにはもう少し写真を多くしたほうがいいのではないかというような意見もありましたので、そういったことにつきましては積極的に意見を取り入れて、工夫したというところでございます。

○委員長（大竹　惣君）　これで星次委員の質疑は終わりました。

次に、同じく施策ナンバー７―３、町民参加の推進について、13番、根本謙一委員。

○13番（根本謙一君）　それでは、私の町民参加の推進についての質疑を始めます。

町民ニーズがまちづくりに反映されているか、成果指標の分析③において、アンケート詳細分析において、年代別の評価にはあまり差がないが、地域（高田、本郷、新鶴）によって大きく差があるとしています。対応として地域政策の充実を述べております。具体的にどのように町民満足度の向上を図ったのかの考えを伺いたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　お答えします。

地域政策の充実につきましては、行政サービス全体に対する設問でございます。町民ニーズを反映した町政運営がされているかにおいて、地域間に大きな差が現れる結果となりました。さらに、過去３年間の町民アンケート結果を分析しますと、特定の施策分野において一定の地域が常に低いなどの傾向は見られないものの、地域間の格差や不公平を感じるなどの自由意見が継続して寄せられております。特定の地域のみを重視した政策は行っておりませんが、地域バランスや地域特性を生かした行政運営が必要であると認識してございます。令和４年度におきましても、住民に大きな影響がある計画や事業につきましては、説明会やワークショップ、さらにはパブリックコメントなど実施をいたしまして住民の声を政策に反映してまいりましたが、町民満足度の向上をさらに図るためには住民の立場に立った丁寧な説明や周知の方法など、さらなる工夫が必要であると考えてございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　そこまでの説明なので、さらに伺いますけれども、確かに年度年度、経年的に見ても、力、予算の配分、それから仕事の内容によっては地域差が出ているというのは、当然これは誰しも説明されればそうだねというふうになると思いますけれども、でも町民の皆さんからすると、またこの格差の発露もこれ素直な感情なのです、これは。だから、新鶴の皆さんからも聞かされたことあるし、本郷でも聞かされたこと実際にありますから、でも私は丁寧に説明しています。今はそう見えるかもしれないけれども、前はここはこうだったではないですか、こうやりましたよねと。だから、こういうことをやって、これは年数がかかるから、いつまでも見えているから、そこに力入れているみたいな誤解もあるかもしれないですが、実際はこうなのですよとか、やはり我々もそういう立場に立っているなと思って、私は説明してきていますけれども、ただ地域施策の充実と、ここまで行政としてしっかり受け止めているならば、これにしっかり真摯に対応する施策は当然やらなければならないと思います、説明も含めて。ですから、４年度こういう分析結果を導き出したのですから、しっかり対応していくのだという考え方に、認識を今持っているということで受け止めていいですよね。具体的に行動を起こすことも考えていくということでよろしいですか。

○委員長（大竹　惣君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　お答えいたします。

当然町としましては、住民福祉の向上を目的に事業なり施策を展開してございますので、そういった町民ニーズに合った施策を展開するのは当然のことだと思っております。さらには実施する上についても、先ほど申しましたが、やはりなぜそうするのか、なぜそういうふうになるのか、その経過なり、これからの進捗状況なり、その辺をやはりもう少し丁寧に説明をして、より町民の方に分かりやすく、さらにはそういった工夫をしながら、その説明の仕方、資料を工夫をしながら、やはりそういった町の事業なり施策を説明なり提示していきます。提示をしていくといいますか、そういったことがやはり必要なのかなと思ってございます。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　おおむねそういうことだろうと思います。ちょっと余計なことを話しするようになりますけれども、合併してからしばらくはやっぱり皆さん執行側、行政の皆さんは、やっぱりバランス感覚を持ってやっていたというのは私実感していました。でも、20年近くもなると、そういうそもそもの大事な部分がやはり薄れていってしまっているのではないか。こういう分析をされたわけですので、改めてそこは再認識されて事に当たったほうがいいのかなというのが、ここから私は浮かび上がってくると思うのです。だから、そういう認識に立って、しっかり取り組んでいくべきだなというふうに思いますけれども、再度確認の意味で認識をお願いします。

○委員長（大竹　惣君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　お答えします。

地域間のバランス、この考え方は、様々な人がそれぞれの考え方持っていらっしゃると思います。３つの地域合併しまして、美里町が誕生いたしました。当然今町が進めている１つの事業、例えば公共施設の見直し今やってございます。例えば施設の統廃合もしてございますので、これについてはやはり住民の方にご理解をいただくというようなことが重要だと思っております。当然今のままの施設を維持するということは、今の状況では困難であるというのは考えております。ただし、やはりそこまでに至る経過、そういった後どうするのか、そういったことを町としては丁寧に説明する必要があると思ってございますので、そういった町の施策、事業に対しましてやはり丁寧に説明をして、住民の方に納得をしていただける、さらにはある程度バランス感覚を持って事業をするという職員も意識を持ちながら、事業展開してまいりたいと思っております。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　これで根本謙一委員の質疑は終わりました。

以上で、政策名、町民に信頼される行政の推進に関する質疑は終了しました。

質疑漏れはございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　以上で町民に信頼される行政の推進に関する質疑は終了します。

以上で通告された質疑は全部終了いたしました。

これで施策に対する質疑を終了いたします。

ここで、説明員入替えのため11時20分まで休憩いたします。

休　憩　　（午前１１時０３分）

再　開　　（午前１１時２０分）

○委員長（大竹　惣君）　再開します。

続きまして、総括質疑に入ります。質疑者は挙手にてお願いします。

根本謙一委員。

○13番（根本謙一君）　私からは、大きく３点について、監査委員による審査意見書を踏まえておただししたいと思います。大きく財政と、それから不用額と、それから労務管理状況について伺いたいと思います。

まず、財政のほうからです。経常収支比率と合併特例債のことについて伺いたいと思います。経常収支比率ですが、昨年と比べて少し上がってきております。ただ、財計から見ると、長期財政計画から見ると５ポイントぐらい下がっていますけれども、それは年度年度のいろいろな状況で大きく変動することもあり得るということで踏まえたとして、この状況を財政当局はどのように認識されているのか、この結果。そこのところをまず伺いたいと思います。どういうふうに捉えているか。

それから、合併特例債、現在の発行額は幾らになっているのか。長期財政計画を見ますと、全てを使い切るような一応計画になっておりますけれども、現在どういう状況になっているのか伺いたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、政策財政課長、國分利則君。

○政策財政課長（國分利則君）　ただいまのご質問についてお答えいたします。

まず、経常収支比率の考えでございます。長期財政計画と比較しましてですけれども、財政計画の中ではその比率は95と想定してございましたが、令和４年度につきましては89.4という結果になって、マイナスの5.6ポイント低くなっているというような状況でございます。しかしながら、これにつきましては、やはり今後も経常収支比率についてはこれからもう少し伸びるのかなと思っております。その一つの要因といたしましては、１つはやはり物件費のことでございます。主な中身を申しますと、昨年来国際的な状況によりまして原油価格の高騰などによりますやはり電気料、燃料費の高騰が大幅に上がってございます。ちなみに、長期財政計画と比較した場合、物件費においては約２億1,000万ほど増えているというような状況でございますので、やはり経常収支比率については今後も注視していく必要があると考えております。

ただし、しからばこれを削減する方法、方策はあるのかという考えでございますが、なかなか経常収支比率、今の状況、こういった燃料価格の高騰、電気代の高騰、現在の推移の中であれば、なかなかこの比率を下げるというのは困難だと認識してございます。当然その原因としましては、やはり経

常一般財源の確保、これには税の伸び、さらには交付税の伸びというようなことが期待されるわけですが、これにつきましては人口減少等によりまして、当然ながらこれが今後も増えるのはなかなか困難であるというようなことで認識してございますので、やはり歳出の中で経常収支比率、先ほど申し上げました物件費、さらにはそういったもろもろの計上に上がります費用をどう抑えてといいますか、それを有効的に使っていくのかというのが大きな一つの課題であると考えてございます。

次に、合併特例債の発行状況ということでございますが、委員長、すみません。休憩お願いいたします。

○委員長（大竹　惣君）　暫時休憩します。

休　憩　　（午前１１時２５分）

再　開　　（午前１１時２６分）

○委員長（大竹　惣君）　再開します。

答弁、政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　大変失礼いたしました。合併特例債でございますが、まず起債可能額としまして全体合計で106億3,000万でございます。うち既に借入れいたしましたのが92億6,840万円でございます。残り13億6,160万が現在借入れ可能という状況になってございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　そうしますと、経常収支比率のほうですけれども、これ私は抑える方法はあると思っています。町村レベルは75％以下にするべきだというのが１つ、標準的にあります。80％以内という捉え方があるのですけれども、これはＣレベルの話だというふうに考えるとやっぱり相当努力しなければならない。ただ、やむを得ないということもありますから、厳密に細かいことを言うつもりはありませんけれども、方法はある。毎年経常経費の削減、これに努力すべきという監査意見書が上がっていることも承知しています。ということは、まだまだ努力の余地はあるというふうに私は捉えていますので、しっかりそこは踏まえて進めていくべきではないかなというふうに思っております。物件費、数字は明らかに上がってきているのは見えています。今２億幾らが増えているということ。これは、相当きつくなることを覚悟しながらも、対処方法は私はあると思っていますので、ご努力の認識はいかがかなというふうにお尋ねしたいと思います。

合併特例債のほうですけれども、つまり確かに余力はあると思っています。財調も含めてあると思っていますけれども、今後のことを考えるとこの計画どおりに、発行額、見込額が計画からすると全てを盛り込んであるのです。そうしますと、これ全部使い切るとやっぱり後年度負担が当然増えていくおそれもありますので、そこは喫緊で計算してやっていただきたい。何のための長期財政計画だということになります。明らかにもう相当狂ってきていますから、基本的なところは抑えたとしても、

しっかり見ていく必要があるというふうに思っていますので、再度の認識を伺いたいと思います。
○委員長（大竹　惣君）　政策財政課長。
○政策財政課長（國分利則君）　まず、経常収支比率の件でございます。確かにこれを抑えていくと、伸びないようにするというのはなかなか困難であると考えております。ただ、現在、今公共施設のまず見直しがございます。先ほど冒頭私がお答えしましたが、やはり高騰の要因の一つとして電気料、さらには様々な燃料、これにある程度施設の維持管理に関わるものが相当数ございますので、現在の見直しの中で今後縮小なり統廃合していきますので、これで全体量としては減るのかなと考えておりますが、ただし金額については今後の電気料なり、物価の高騰なり、そこは考慮しなければいけないと思いますので、一概に施設を減らしたから経費が下がると、そういう理論はないのかなと思っております。ただし、今なるべく電気料も抑えるように、照明についてもちゃんと省エネタイプの例えばＬＥＤに替えていくとか、そういったこともしてございますので、なるべく町民の方には快適な環境をやはり提供する義務ございますので、それを維持しながら、いかにそういった物件費を抑えていくのか、そういったことが重要であると考えてございます。
　もう一つ、合併特例債でございます。残りあと13億ほどございます。これに関してはある程度今後の使い道を決めておりますので、なかなかこれを多方面に使うというのは今後困難だと考えております。現在考えてございますのは、それに代わる起債としまして例えば過疎債等がございますので、それにいかにやるか。あとはもう一つ、最近使っておりますが、緊防債、防災関連の起債もございますので、当然起債はしないことにこしたことはございませんが、そういった交付税措置、同じく７割でございますので、そういったことをうまく探しながら、そういった事業に充てていくというようなことで、当然財政のほうも後年度負担なるべくないように考えて、十分に注意しながら起債については発行したいと考えてございます。
○委員長（大竹　惣君）　根本委員。
○13番（根本謙一君）　しっかりそこは取り組んでいただきたい。
　では、次に参ります。財政当局からの答弁を求めたいので、次に不用額のほうに行きます。監査意見書をどういうふうに受け止めているか。これ過般に監査意見書の中で、言い方は違うけれども、趣旨は同じだと思っております。不用額が増加傾向になっていますよと。やっぱり当初予算の編成精度を上げろということですよね、これ。これ毎年言われていることについてどうなのだろうねという問題意識があります。これ財政当局として、毎年毎年言われてられないねというところにやはり立つべきだと思います。コロナ禍もありましたので、この不用額の説明見ますとそうだよね、そうだったよねと、確かに。ただし、減額補正もしっかり進めてやる方法はある。そういう中で柔軟に予算の使い方を、しっかり成果が上げるべく使い方があるという意味だと思っていますので、そこのところ認識どのようにお持ちか伺いたいと思います。
○委員長（大竹　惣君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　まさしく委員のおっしゃるとおりだと思います。当然この不用残をいかに少なくするかについては、当初予算編成の中でのより詳細な積算なりに基づいてやるというのがまず大前提だと思っております。また、当然その後の補正予算というようなこともございますので、適宜補正をいたしまして、予算の執行を見ながら補正をするというのも当然あると思っております。

今回の、かなり前年度より増えていますので、少し、ちょっと内容だけ若干説明させていただきたいと思います。先ほどコロナというようなことでございましたが、４年度の不用額でちょっと特徴的なものがございますので、ちょっと説明をさせていただきたいと思います。まず、この不用の、できれば決算書の８ページのほうを御覧いただければと思っております。すみませんが、８ページのほうをお開きいただきたいと思います。歳出予算の不用残額についてちょっと説明をさせていただきます。

８ページの中段でございますが、そこに不用額がございまして、４億8,121万7,614円の不用残となっております。これ前年度が約４億2,000万程度でございますので、約5,700万程度増えております。ちょっと内容を説明させていただきます。まず、不用額の内訳でございますが、郷土資料館整備事業などの繰越しがございましたので、それで約9,943万円でございます。次、新型コロナウイルスワクチンの接種事業や感染対策上いろいろございましたので、それに伴う中止など、新型コロナ関連としまして１億621万円が不用と。もう一つ、あと住民非課税世帯に対する給付事業など、これ国の施策によるものでございますが、それについて不用になったのが4,035万円でございます。あともう一つ、昨年度除雪、いわゆる降雪が少なかったということで、除雪関連費用でございますが、これが不用額が約6,913万円ほどございました。そのほか、それによらない通常のいわゆる残というのが約１億6,034万円ほどというような分析をしてございますので、そういった中で当然コロナが理由ということでは申し上げられませんが、当然当初予算なり補正予算なり適宜見直しをして、こういった不用残をできるだけ少なくしたいと考えてございます。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　これしっかり取り組んだ上で、今の特徴的なことは当然この決算書からはなかなか見えないですけれども、この説明を見ればそうだったねと、計算すれば確かにそういうことになるのですけれども、ではどうして監査委員のほうからこういう意見が出るのかというところです。今年度決算のときに初めて出てきたものではないわけですので、そこはしっかり踏まえていただきたい。同じことを何遍言わせるのですかなんていうことを言われないように、しっかり取り組むべきではないかなというところで、来年度はないようにしていただきたいと思いますが、再度の答弁お願いします。

○委員長（大竹　惣君）　政策財政課長。

○政策財政課長（國分利則君）　４年度決算の監査からの意見もございましたので、当然この決算を基に反省をいたしまして、次年度に生かしたいと考えてございます。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。
○13番（根本謙一君）　では、次参ります。３点目の労務管理状況についてです。これは、監査委員の代表監査にお伺いしたほうがいいかなと思いますので、委員長、よろしいでしょうか。
○委員長（大竹　惣君）　許可します。
○13番（根本謙一君）　大変ずっと気になってきておりました。監査意見書でどういうことが出てくるかなと思って注目していたのですけれども、その部分の記載がないようになっていますので、改めて口頭で、本当に問題あるいは懸念事項、監査する中でなかったのかどうなのか、どうして記載がなかったのかも含めて伺えればと思っております。よろしくお願いします。
○委員長（大竹　惣君）　答弁、監査委員。
○代表監査委員（小島隆一君）　それでは、お答えいたします。
なぜ審査意見書で触れていないのかということにつきましては、労務管理の状況に触れていないことにつきましては、財務関係の審査に主眼を置いた内容となったためでございます。
次に、労務管理の審査の内容につきましては、主に４つの視点について関係資料の提出と担当課長より説明を受け、審査を行ったところでございます。まず、１点目は時間外勤務についてでございます。月45時間を超える勤務実績のある者は31名おりました。年間最も多い時間外勤務となった職員の時間数については558時間でございます。複数月にわたって45時間以上勤務した者が14名となっております。理由としましては、選挙事務の発生とか、新型コロナやマイナンバー等、特定の事務対応等、様々ございますが、時間外勤務が特定の職員に偏っている職場も見受けられたところでございます。
２点目は、有給休暇並びに夏季休暇の取得状況についてでございます。夏季休暇５日については、ほぼ全ての職員が取得できているような状況となっております。有給休暇の取得率については、全体的に低い傾向にありました。国による働き方改革の方針、特定事業主行動計画を踏まえて取得率の向上に努めていただきたいと思いました。
３点目は、健康診断の受診状況についてでございます。職員の健康診断等については、会計年度任用職員も含め、全職員が受診していることを確認いたしました。また、要精密検査となった職員の再検査の実施についても受診の徹底について確認をしたところでございます。
４点目は、公用車等の事故発生防止の取組状況についてでございます。事故件数は全体で９件発生し、このうち２件が除雪作業中の事故となっておりますが、総数としては前年度の半数に減少しております。重大事故の発生はありませんでしたが、注意緩慢に起因するものがほとんどでございまして、引き続き安全管理の徹底を図っていただきたいと存じます。
以上、４点について実施したわけでございますが、これら労務管理の徹底につきましては管理監督の地位にある職員の課題意識や指導力が大事であります。これと併せ職員個々の業務量に偏りがないか、メンタルヘルス面での問題を抱えていないか、定期的な業務内容の点検等に常日頃よりよく注意を払い、職員が持てる能力を発揮できるような職場環境づくりに努めていただきたいと存じます。

その他職員の教育訓練の実施状況についてでありますが、新人研修、階層別研修、専門研修等による人材育成とともに、これらと併せコンプライアンス研修、メンタルヘルス研修等についても取り組んでおり、いずれも研修計画等を踏まえ、適切に実施されていることを確認いたしました。

以上でございます。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　ご丁寧にありがとうございました。伺ってよかったなと思っております。

この意見、内容、当然執行部としては義務的に受け入れて、向き合わなければならないわけですけれども、それぞれに、４点についてどのような受け止め方をされているのか伺って、確認しておきたいと思います。

○委員長（大竹　惣君）　答弁、総務課長、金子吉弘君。

○総務課長（金子吉弘君）　それでは、お答え申し上げます。

まず、監査のご指摘につきましては、私ども厳粛に受け止めまして、しっかりした労務管理を実践していかなければならないということで、改めて気持ちを新たにしたところでございます。一つ一つのひもとき、捉まえでございますが、まず時間外勤務についてにつきましては、監査のほうからは一応いわゆる限度基準を上回っている方もいらっしゃるというふうな指摘を受けております。これにつきましては、先ほど監査委員のほうから話がありましたとおりコロナ禍における交付金事業でしたり、さらには物価高騰に伴います経済対策等の他律的業務が非常に多かったというところが起因しているというようなところでございます。さらに申し上げますと、他律的業務の中には選挙事務、さらには災害等の対応業務というのも含まれておりますので、これについてはなかなか削減するというふうなところは難しいところでございますが、ただ職員にやっぱり偏っている部分に関しましては各所属長においてしっかりとした業務管理が必要であるということで、この辺については指示しているところでございます。これにおいてもなかなか平準化がなされないというふうな場合については、しっかり人的配置を含めまして、全体で考えていかなければならないというふうな形で考えているところでございます。

続きまして、２点目の有給休暇の取得についてでございます。これにつきましては、町のほうで特定事業主行動計画というものを策定しております。そこの中で有給休暇につきましては、目標といたしまして、約３割を目指すというふうなところでございます。年間の付与日数というのが大体40日ございますので、それの３割ですと12日というふうなことになります。年間を通しまして大体３割である12日を目標として、しっかりと休暇を取ってリフレッシュ、さらに休息を取りましょうというふうなところでやっておりますが、現時点においては約24％程度の取得率というふうになっているというふうなところでございます。令和４年度の実績でございますが、約24％というふうな実績でございます。これを踏まえて、やはり業務の部分の見直しというものが必要であるというふうに考えております。当然いわゆるアウトソーシングできるような部分がございましたら、それについては当然そうい

うふうに業務を委託していく部分もあろうかなというふうに思います。あとは業務改善の中でしっかり改善できる部分もあろうかなというふうに思います。さらには平準化をさせるというふうな努力がもっともっと必要だなというふうに感じているところでございます。そういったいろいろな対策を講じまして、しっかりと職員が休暇目標に向かって、３割というふうな目標に向かって、しっかりと休暇が取れるような職場環境にしていかなければならないというふうに考えているところでございます。

３点目でございますが、職員の健康診断受診についてでございます。これにつきましては、先ほど監査委員のほうから話がありましたとおり、受診率については100％であるというふうなところになっております。ただ、その中で再検査が必要な方が中にはいらっしゃいます。この方に対しましては、しっかりと再検査を受けていただくように、各所属長のほうでまずそういった配慮をしていただいているところでございます。ある程度時間が過ぎましたら私どものほうに再受診率の結果の通知が参りますので、それを、なかなか個人情報でございますので、担当者と、また総務課長、私でございますが、しっかりと情報共有させていただいて、私のほうからお声がけをさせていただいて受診を促しているというふうなところでございまして、この辺については徹底して実施してまいりたいなというふうに考えているところでございます。

あと、最後の４点目でございます。公用車の関係の事故の発生防止関係でございますが、これにつきましては令和３年度と比較すると半減はしたものの、依然としてやはり事故が発生しているというふうな状況でございます。ご指摘にもありましたとおり注意緩慢による事故がほとんどでございます。ですので、そこの部分に関しましては、職員へのしっかりした所属長からの声かけの徹底ですとか、さらには警察署とかの警察官を講師にお招きして、実際の職場の研修なんかも実施をさせていただいておるところでございます。そういったものをしっかりと回数重ねながら、意識の高揚を図りながら、絶対事故は起こさないのだというようなところでしっかり認識を持っていただいて、集中してそういった運転にも取り組んでいく、そういった職場風土を構築してまいりたいなというふうに考えているところでございます。

以上、簡単でありますが、捉まえということでさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○委員長（大竹　惣君）　根本委員。

○13番（根本謙一君）　では、２点について再度お尋ねします。

まず、時間外と働き方改革の有給取得率のことです。時間外については、業務管理をしっかりやっていくというのは所属長の当然責任でやられるのでしょうけれども、この状況を見ますと年度年度で当然過密業務が変わってくるということもあります。コロナ禍も確かにあるのですけれども、人的配置、そこまで総務課長が認識されているということであるならば、しっかり改善されていくのかなというふうに受け止められるのですけれども、再度そこのところを伺いたいと思います。

有給休暇取得が低いというのは私意外だなと思いました。もう少し取られているのかなと思ったら、

目標が３割ということを聞いたので、それで大丈夫というふうに思うところなのですけれども、これもうちょっと、今４年度で24％と言いましたよね。それを30％というと大したことない、１日ぐらい増やせという話にしか伺えないのですけれども、どうしてこんなに低い目標なのか、２点についてお願いします。

○委員長（大竹　惣君）　総務課長。

○総務課長（金子吉弘君）　再度のおただしにお答えいたします。

まず、１点目の時間外勤務に関する部分でございますが、まずは先ほども申し上げましたが、各所属長のしっかりとやはり課員一人一人の業務量を把握することにより、ある程度人に偏ることなく平準化をしていく必要があるのかなと。まだ、そういうことを実施、実践していただいているとは思うのですが、まだまだ改善の余地はあるのかなというふうに、まず１点考えているところでございます。どうしてもやはりそういう他律的業務の多さによって、その年度その年度でこれは変わってくるわけでございますが、そういった部分がございまして、なかなか業務が軽減化されないというふうなところはあるというふうに思います。職員も一人一人工夫しながら業務を行っておりまして、そういう努力より、やはり業務が多くなってきている部分が相当あるのかなというふうな認識でございます。そういったことから個人の努力、さらには所属長の努力によってもやはりどうしてもカバーし切れない部分というのが出てまいりますので、そういった部分につきましてはある程度そういう人的配置をさせていただくことによって、解消を図っていくしかないのかなというふうに思っておりますので、そういう順序立てさせていただきながらしっかり対応していきたいというふうに思っております。

２点目の有給休暇の部分でございますが、特定事業主行動計画の目標値でございますが、これにつきましては３割を目標というふうに定めているところでございます。これにつきましては、やはり今の現状、時間外と連動するわけでございますが、なかなか今の業務の業務量に合わせますと、やはりこの３割というふうな数字が目標として妥当な数字ではないのかなというふうに掲げておるところでございます。当然先ほど申し上げましたが、その年々によって違いは出てくるわけでございますが、ある程度そういった業務改善改革を行いまして、比較的そういう職場環境がよくなりまして、しっかりとその辺休みが取りやすいような環境、そういったことになってくるようであれば、しっかりと目標をもう少し高く持って対応していくということも十分可能なのかなというふうに思いますので、今はそこに、その段階まで向かう過渡期でありますので、この３割の目標をまずはクリアするというふうなところから進めてまいりたいなというふうに考えているところでございます。

○委員長（大竹　惣君）　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　以上で認定第１号　令和４年度会津美里町一般会計歳入歳出決算認定の質疑は終了いたします。

お諮りします。本日はこれにて延会としたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　異議なしと認め、本日はこれにて延会します。

延　会　　（午前１１時５５分）

決 算 特 別 委 員 会

（第　６　日）

令和５年会津美里町議会（決算特別委員会）

第６日

令和５年９月２５日（月）午後２時００分開議

委員長	大竹　惣君	副委員長	荒川佳一君

○出席委員（１４名）

１番	櫻井幹夫君	９番	渋井清隆君
２番	大竹　惣君	１０番	星　次君
３番	小柴葉月君	１１番	堤　信也君
４番	荒川佳一君	１２番	鈴木繁明君
６番	長嶺一也君	１３番	根本謙一君
７番	村松　尚君	１４番	根本　剛君
８番	小島裕子君	１５番	横山義博君

○欠席委員（なし）

○説明のため出席した者

町長	杉山純一	君
副町長	佐々木吉一	君
総務課長	金子吉弘	君
政策財政課長	國分利則	君
町民税務課長	猪俣利幸	君
健康ふくし課長	平山正孝	君
会計管理者	松本由佳里	君
産業振興課長	小林隆浩	君
建設水道課長	加藤定行	君
教育長	歌川哲由	君
こども教育課長	渡部雄二	君
生涯学習課長	福田富美代	君
代表監査委員	小島隆一	君

○事務局職員出席者

事務局長	児	島	隆	昌	君
事務局次長 兼総務係長	歌	川	和	仁	君

開　議　　（午後　２時００分）

○委員長（大竹　惣君）　これから本日の会議を開きます。

決算特別委員会６日目を行います。令和４年度会津美里町一般会計歳入歳出決算認定に係る提言書（案）についてお諮りいたします。

お手元に配付しました提言書（案）について、委員間討議により共通認識を図りたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　異議なしと認めます。

それでは、配付してございます提言書（案）について何かご意見ございませんか。

長嶺委員。

○６番（長嶺一也君）　短い時間の中でまとめられて、ご苦労さまでございました。若干ちょっと字句の訂正をお願いしたいと思います。１ページ目、政策１、自然に配慮した環境づくりのところなのですが、黒ポツの１つ目、１行目の最後なのですが、「方法について、よく説明を行い」のところなのですが、「方法について十分説明を行い、適正に排出されるよう周知に努めること」、これ町に提言する内容ですので、これは町民に対して適正に排出するように周知に努める内容だと思いますので、「周知に」ということを、文言を加えたほうがよろしいかと思います。

続きまして、２ページ目、安心、安全暮らしづくりなのですが、黒ポツの１行目、「整理及び、」となっていますけれども、通常であれば「整理、及び」という形になります。

あと、施策３の黒ポツ１行目も同じく「充実、及び将来」なので、「及び」の後の読点はなくて、「及び」の前に読点になるのが通常かと思いますので、その辺の修正をお願いします。

○委員長（大竹　惣君）　ただいまご意見ございました。

まず、施策１の部分です。「一時的な空き家の片づけによるごみの分別や排出の方法について、よく」の部分を「十分に」に変えるということで、そして最後の部分は「適正に排出されるよう周知に努めること」ということになります。

それで、２ページ目です。まず、政策２の部分です。「整理及び、」の部分を「整理、」で「及び」の後の「、」を削除、同じく政策３、「充実及び、」を「充実、及び」の後の「、」を削除。こちらについてはそのように訂正しようと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　ほかにございませんか。ほかにご意見等ございましたらお願いします。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　ないようなので、以上で委員間討議を終了します。

ここで執行部入室のため、暫時休憩します。

休　憩　　（午後　２時０４分）

再　開　　（午後　２時０５分）

○委員長（大竹　惣君）　再開します。

令和４年度会津美里町一般会計歳入歳出決算認定に係る提言書（案）についてお諮りします。

お手元に配付しました提言書（案）を議長に報告したいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　異議なしと認めます。

それでは、提言書にあります「(案)」を削除し、議長へ報告することに決しました。

それでは、これより認定第１号に対する討論を行います。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより認定第１号を電子採決によって採決いたします。

本案を原案のとおり認定することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各委員投票〕

○委員長（大竹　惣君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（大竹　惣君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり認定されました。

これで本委員会に付託されました議案の審議が終了いたしました。

○副委員長（荒川佳一君）　これで令和５年会津美里町議会定例会９月会議決算特別委員会を閉会いたします。

閉　会　　（午後　２時０７分）

定 例 会 ９ 月 会 議

（第 ５ 号）

令和５年会津美里町議会定例会９月会議

議事日程　第５号

令和５年９月２６日（火）午前１０時００分開議

諸般の報告　町長の追加行政報告
第　１　常任委員会委員長の報告
第　２　決算特別委員会委員長の報告
第　３　認定第　１号　令和４年度会津美里町一般会計歳入歳出決算認定について
第　４　認定第　２号　令和４年度会津美里町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について
第　５　認定第　３号　令和４年度会津美里町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について
第　６　認定第　４号　令和４年度会津美里町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について
第　７　認定第　５号　令和４年度会津美里町工業団地造成事業特別会計歳入歳出決算認定について
第　８　認定第　６号　令和４年度会津美里町住宅用地造成事業特別会計歳入歳出決算認定について
第　９　認定第　７号　令和４年度会津美里町水道事業会計決算認定について
第１０　認定第　８号　令和４年度会津美里町下水道事業会計決算認定について
第１１　認定第　９号　令和４年度永井野財産区特別会計歳入歳出決算認定について
第１２　議案第４５号　令和５年度会津美里町一般会計補正予算（第４号）
第１３　議案第４６号　令和５年度会津美里町国民健康保険特別会計補正予算（第２号）
第１４　議案第４７号　令和５年度会津美里町介護保険特別会計補正予算（第２号）
第１５　議案第４８号　令和５年度会津美里町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）
第１６　議案第４９号　令和５年度会津美里町工業団地造成事業特別会計補正予算（第１号）
第１７　議案第５０号　令和５年度会津美里町住宅用地造成事業特別会計補正予算（第１号）
第１８　議案第５１号　令和５年度会津美里町水道事業会計補正予算（第１号）
第１９　議案第５２号　令和５年度会津美里町下水道事業会計補正予算（第１号）
第２０　陳情第　９号　地方財政の充実・強化を求める意見書提出陳情書

本日の会議に付した事件
　第２０まで同じ
　追加日程第１　議案第５５号　国家賠償請求事件に係る訴訟上の和解について
　追加日程第２　議案第５６号　令和５年度会津美里町一般会計補正予算（第５号）
　追加日程第３　発議第　４号　地方財政の充実・強化に関する意見書

○出席議員（１６名）

１番	櫻井幹夫君	９番	渋井清隆君
２番	大竹惣君	１０番	星次君
３番	小柴葉月君	１１番	堤信也君
４番	荒川佳一君	１２番	鈴木繁明君
５番	山内豪君	１３番	根本謙一君
６番	長嶺一也君	１４番	根本剛君
７番	村松尚君	１５番	横山義博君
８番	小島裕子君	１６番	横山知世志君

○欠席議員（なし）

○説明のため出席した者

町長	杉山純一	君
副町長	佐々木吉一	君
総務課長	金子吉弘	君
政策財政課長	國分利則	君
会計管理者	松本由佳里	君
町民税務課長	猪俣利幸	君
健康ふくし課長	平山正孝	君
産業振興課長	小林隆浩	君
建設水道課長	加藤定行	君
教育長	歌川哲由	君
こども教育課長	渡部雄二	君
生涯学習課長	福田富美代	君
代表監査委員	小島隆一	君

○事務局職員出席者

事務局長	児島隆昌	君
事務局次長 兼総務係長	歌川和仁	君

開　議　　（午前１０時００分）

○開議の宣告

○議長（横山知世志君）　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりであります。

○諸般の報告

○議長（横山知世志君）　日程に入ります前に、諸般の報告を行います。

町長の追加行政報告ですが、お手元に配付いたしました報告書のとおりであります。

以上をもって諸般の報告を終わります。

ここで、議長より町執行部に申し上げます。

今議会定例会９月会議において、決算資料及び町長行政報告に説明の訂正や記載漏れがありました。大変憂慮すべきことであります。今後においては、庁内での資料の精査を強化させ、不備のないよう提出されることを強く申し添えます。

○常任委員会委員長の報告

○議長（横山知世志君）　日程第１、常任委員会委員長の報告を議題といたします。

初めに、総務厚生常任委員会委員長、星次君、報告願います。

〔総務厚生常任委員長（星　　次君）登壇〕

○総務厚生常任委員長（星　　次君）　それでは、総務厚生常任委員会報告を申し上げます。

本委員会は、９月４日に論点抽出を行いましたが、論点はなく、また９月８日の総括質疑応答後にも論点整理表は提出されませんでした。よって、論点はなしとして質疑を行いました。

令和５年９月15日午前10時より本庁舎議場において、委員全員、所管課及び議会事務局同席の下、総務厚生常任委員会を開催いたしました。本委員会に付託されたのは認定５件、議案４件及び陳情１件でありました。審議、審査の結果はお手元に配付されておりますので、件名を省略し、議案番号で報告いたします。

認定第２号について、委員より、職員の数と職員手当の不用額についての問いに、町当局より、国保特会として５名を計上しており、職員手当については時間外勤務の状況やその他不測の事態に対応するための金額が必要であり、結果としては不用額が発生したとの答弁がありました。また、口座振替による納付者の割合についての問いに、約38％であるとの答弁がありました。そのほかにも何点か質問がありましたが、討論はなく、採決の結果、賛成全員により本案は認定されました。

認定第３号について、委員より、人件費に係る流用についての問いに、町当局より、パートタイム、会計年度任用職員の出席日数増により報酬が不足したため、職員手当から流用したとの答弁がありました。また、委員より、介護サービス等諸費の負担金補助及び交付金について約7,700万円の不用額

が発生しているのだがの問いに、町当局より、不用額の主なものとして居宅介護サービス給付費約4,200万円、施設介護サービス給付費約2,300万円であり、コロナ禍による利用者の減等が要因であるとの答弁がありました。また、成年後見人制度の後見人の職業と申立ての３件の内容、トラブルの有無についての問いに、町当局より、後見人の職業は司法書士が多く、３件とも町による申立てであり、相談はありますが、特にトラブルは発生していないとの答弁がありました。討論はなく、採決の結果、賛成全員により本案は認定されました。

認定第４号については、委員より、健康診査受診者数について人数はどうなのかの問いに、町当局より、対象者3,968人中、集団健診707人、施設健診181人であり、受診率22.5％ですとの答弁がありました。また、委員より、未受診者への対応についてはどのように行っているのかの問いに、当局より、国保と一緒に実施しており、健康カレンダーの配布やポスター、パンフレットの掲示等により対応しているとの答弁がありました。討論はなく、採決の結果、賛成全員により本案は認定されました。

認定第６号について、委員より、工事請負費から委託費への内容と補正対応ができなかったのかの問いに、当局より、住宅団地内のり面の土質、腐葉土の撤去工事を行いましたが、春先の雪解け水の出方を見極めて施工することにより減額変更し、その減額分を住宅団地内のつる撤去、支障木撤去へ流用したとの答弁がありました。また、委員より、流用対応でなく補正できなかったのかの問いに、当局より、年度末に地区から陳情書が提出され、急遽対応したとの答弁がありました。ほかにも質問がありましたが、討論はなく、採決の結果、賛成全員により本案は認定されました。

認定第９号について、質疑はなく、討論もなく、採決の結果、賛成全員により本案は認定されました。

議案第46号について、委員より、予備費の増額についてはの問いに、繰越金の確定に伴うものであるが、医療費の不測の事態に備えるため、ある程度の金額は必要でありますとの答弁がありました。討論もなく、採決の結果、賛成全員により本案は可決されました。

議案第47号について、質疑はなく、討論もなく、採決の結果、賛成全員により本案は可決されました。

議案第48号について、質疑はなく、討論もなく、採決の結果、賛成全員により本案は可決されました。

議案第50号について、質疑はなく、討論もなく、採決の結果、賛成全員により本案は可決されました。

陳情第９号について、質疑はなく、討論もなく、採決の結果、賛成全員により本案は採択されました。

以上をもって総務厚生常任委員会の報告を終わります。

○議長（横山知世志君）　これより委員長報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

〔「議長」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　14番、根本議員。

○14番（根本　剛君）　今の陳情第９号なのですけれども、これ表紙、可決ってなっていますけれども、採択ではないですか。

〔何事か言う人あり〕

○14番（根本　剛君）　これ、表紙。委員長報告の。委員長は採択って……

○議長（横山知世志君）　ちょっと休憩します。

休　憩　　（午前１０時００分）

再　開　　（午前１０時０１分）

○議長（横山知世志君）　再開いたします。

お配りしてある委員会の審査報告書、陳情第９号について可決というふうな記載されておりますが、採択というふうに訂正をさせてください。

続いて、産業教育常任委員会委員長、根本謙一君、報告願います。

〔産業教育常任委員長（根本謙一君）登壇〕

○産業教育常任委員長（根本謙一君）　おはようございます。これより産業教育常任委員会の報告を申し上げます。

去る９月15日午前10時より常任委員会室において、委員７名全員、所管課、議会事務局出席の下、委員会を開催しました。本委員会に付託されました案件は、認定３件、議案３件です。なお、今回の付託案件について論点整理表の提出はなく、論点はなかったことを報告いたします。審査の結果については、お手元に配付されているとおりですので、件名を省略して、陳情番号にて報告いたします。

まず、認定第５号について、質疑はなく、討論もなく、採決の結果、賛成全員により本案は原案のとおり認定となりました。

次に、認定第７号について、委員より、前年度と比較して有収率が減少している。漏水が原因かとの問いに、当局より、前年度と比較して給水管の漏水は減少したが、排水管の漏水は増加しました。排水管の漏水が原因と考えていますとの答弁がありました。続いて、委員より、排水管の漏水は石綿セメント管がほとんどかとの問いに、当局より、石綿セメント管が多いですが、塩ビ管の下部の割れが原因の漏水もありましたとの答弁がありました。さらに、委員より、有収率80％にならないと経営的に厳しい。有収率の向上に努めていくべきではないかとの問いに、当局より、漏水調査等を実施し、有収率の向上に努めますとの答弁がありました。次に、委員より、給水人口340人減、給水戸数８戸減の理由と算出方法はとの問いに、当局より、給水人口の減少は自然現象によるもので、給水戸数は一般世帯の調定件数を基に算出していますとの答弁がありました。次に、委員より、貸倒引当金の取

崩しについて、不納欠損金の内容はとの問いに、当局より、居所不明６件ですとの答弁がありました。ほかにも質疑ありましたが、討論はなく、採決の結果、賛成全員により本案は原案のとおり認定となりました。

次に、認定第８号について、委員より、接続率が向上しない理由はとの問いに、当局より、独居老人など、跡継ぎがいないので、今お金を使って接続する必要がないというのが多いようですとの答弁がありました。さらに、委員より、下水道のいいところを盛り込んだＰＲなどを検討していくべきではないかとの問いに、当局より、ＰＲ方法など検討し、接続率の向上に努めますとの答弁がありました。ほかに質疑はなく、討論もなく、採決の結果、賛成全員により本案は原案のとおり認定となりました。

次に、議案第49号について、質疑はなく、討論もなく、採決の結果、賛成全員により本案は原案のとおり可決となりました。

次に、議案第51号について、質疑はなく、討論もなく、採決の結果、賛成全員により本案は原案のとおり可決となりました。

次に、議案第52号について、委員より、確認の意味で後づけ公共ますとはについてと、町道、国、県道で金額は変わるのかとの問いに、当局より、後づけ公共ますとは本管敷設が完了している区間に後から公共ますを設置することです。受益者負担金も、本管敷設時に公共ますを設置すれば20万円ですが、後から設置する場合は工事費相当額となります。工事費は、町道ですと60万円、国、県道ですと130万円ぐらいになっていますとの答弁がありました。また、委員より、コンクリートとか舗装復旧など、施工したばかりの区間については掘削の規制はあるのかとの問いに、当局より、インフラ整備について掘り返し規制などは関係なく認めていますとの答弁がありました。ほかに質疑はなく、討論もなく、採決の結果、賛成全員により本案は原案のとおり可決となりました。

以上をもって産業教育常任委員会の報告を終わります。

○議長（横山知世志君）　これより委員長報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

以上で常任委員会委員長の報告を終わります。

○決算特別委員会委員長の報告

○議長（横山知世志君）　日程第２、決算特別委員会委員長の報告を議題といたします。

本件についての委員長報告は、別紙報告書のとおりであります。

お諮りいたします。委員長の報告は、会議規則第41条第３項の規定により省略したいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

よって、決算特別委員会委員長の報告は省略することに決しました。

○認定第１号の議題、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第３、認定第１号　令和４年度会津美里町一般会計歳入歳出決算認定についてを議題といたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより認定第１号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を委員長報告のとおり認定することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり認定されました。

○認定第２号の議題、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第４、認定第２号　令和４年度会津美里町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定についてを議題といたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより認定第２号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を委員長報告のとおり認定することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり認定されました。

○認定第３号の議題、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第５、認定第３号　令和４年度会津美里町介護保険特別会計歳入歳出決算認定についてを議題といたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより認定第３号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を委員長報告のとおり認定することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり認定されました。

○認定第４号の議題、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第６、認定第４号　令和４年度会津美里町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定についてを議題といたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより認定第４号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を委員長報告のとおり認定することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり認定されました。

○認定第５号の議題、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第７、認定第５号　令和４年度会津美里町工業団地造成事業特別会計歳入歳出決算認定についてを議題といたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより認定第５号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を委員長報告のとおり認定することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり認定されました。

○認定第６号の議題、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第８、認定第６号　令和４年度会津美里町住宅用地造成事業特別会計歳入歳出決算認定についてを議題といたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより認定第６号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を委員長報告のとおり認定することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり認定されました。

○認定第７号の議題、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第９、認定第７号　令和４年度会津美里町水道事業会計決算認定についてを議題といたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより認定第７号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を委員長報告のとおり認定することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり認定されました。

○認定第８号の議題、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第10、認定第８号　令和４年度会津美里町下水道事業会計決算認定についてを議題といたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより認定第８号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を委員長報告のとおり認定することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり認定されました。

○認定第９号の議題、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第11、認定第９号　令和４年度永井野財産区特別会計歳入歳出決算認定についてを議題といたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより認定第９号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を委員長報告のとおり認定することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを

押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり認定されました。

○議案第４５号の議題、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第12、議案第45号　令和５年度会津美里町一般会計補正予算（第４号）を議題といたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより議案第45号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を原案のとおり決することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

○議案第４６号の議題、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第13、議案第46号　令和５年度会津美里町国民健康保険特別会計補正予算（第２号）を議題といたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより議案第46号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を委員長報告のとおり決することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

○議案第４７号の議題、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第14、議案第47号　令和５年度会津美里町介護保険特別会計補正予算（第２号）を議題といたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより議案第47号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を委員長報告のとおり決することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

○議案第４８号の議題、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第15、議案第48号　令和５年度会津美里町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）を議題といたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより議案第48号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を委員長報告のとおり決することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

○議案第４９号の議題、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第16、議案第49号　令和５年度会津美里町工業団地造成事業特別会計補正予算（第１号）を議題といたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより議案第49号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を委員長報告のとおり決することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

○議案第５０号の議題、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第17、議案第50号　令和５年度会津美里町住宅用地造成事業特別会計補正予算（第１号）を議題といたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより議案第50号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を委員長報告のとおり決することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

○議案第５１号の議題、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第18、議案第51号　令和５年度会津美里町水道事業会計補正予算（第１号）を議題といたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより議案第51号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を委員長報告のとおり決することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

○議案第５２号の議題、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第19、議案第52号　令和５年度会津美里町下水道事業会計補正予算（第１号）を議題といたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより議案第52号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を委員長報告のとおり決することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

○陳情第９号の議題、討論、採決

○議長（横山知世志君）　日程第20、陳情第９号　地方財政の充実・強化を求める意見書提出陳情書についてを議題といたします。

これより討論に入ります。

まず、陳情に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより陳情第９号を電子採決システムにより採決いたします。

この陳情に対する委員長の報告は採択です。この陳情を委員長報告のとおり採択することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、陳情第９号は原案のとおり採択されました。

ただいま町長、杉山純一君、10番、星次君より追加議案の申出がありました。ここで議会運営委員会及び全員協議会開催のため、暫時休憩いたします。

休　憩　　（午前１０時４０分）

再　開　　（午前１１時３５分）

○議長（横山知世志君）　再開いたします。

○日程の追加

○議長（横山知世志君）　ただいま追加送達された事件は、町長、杉山純一君より議案第55号及び議案第56号、10番、星次君より発議第４号の計３議案であります。

お諮りいたします。本日はこれを日程に追加し、議案を別紙追加付議事件一覧表のとおり上程し、提案者からの説明を求めたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

よって、ただいま宣告のとおり議事を進行いたします。

○議案第５５号、議案第５６号の議題及び提案理由の説明

○議長（横山知世志君）　提案者からの提案理由の説明を求めます。

町長、杉山純一君。

〔町長（杉山純一君）登壇〕

○町長（杉山純一君）　それでは、追加提案いたします議案２件の提案理由をご説明申し上げます。

議案第55号は、国家賠償請求事件に係る訴訟上の和解についてであります。本案は、平成21年に行った門前町整備により、東京都在住のＳ氏と補償契約した建物に存した動産を外川原団地67号棟に保管していましたが、町営住宅外川原団地解体の際、誤って処分したことについて、令和５年１月31日にＳ氏から国家賠償請求事件として提訴されました。その後の弁論準備手続等による和解協議を経て、大筋和解の合意が得られたことから、和解及び損害賠償の額を決定することについて、地方自治法第96条第１項第12号及び第13号の規定により議会の議決を求めるものであります。

次の議案第56号は、令和５年度会津美里町一般会計補正予算（第５号）であります。国家賠償請求事件に係る損害賠償金の支払いにより、既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ120万円を追加し、歳入歳出予算の総額を123億1,729万5,000円とするものであります。

私からは以上であります。審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（横山知世志君）　これをもって提案理由の説明を終わります。

○議案第５５号の議題、説明、質疑、討論、採決

○議長（横山知世志君）　追加日程第１、議案第55号　国家賠償請求事件に係る訴訟上の和解についてを議題といたします。

ここで、当局より内容の説明を求めます。

総務課長、金子吉弘君。

〔総務課長（金子吉弘君）登壇〕

○総務課長（金子吉弘君）　それでは、議案第55号　国家賠償請求事件に係る訴訟上の和解についてご説明申し上げます。

追加議案書１ページ、併せまして追加提出案件資料１ページ上段、参考資料裏面１ページを御覧いただきたいと存じます。

それでは、追加提出案件資料によりご説明申し上げます。本案は、平成21年に実施いたしました門前町整備によりまして、東京都在住のＳ氏と補償契約した建物に存した動産を外川原団地67号棟に保管しておりましたが、当該団地解体の際に誤って処分したことについて、令和５年１月31日付でＳ氏から町を被告とする国家賠償請求事件として提訴されたところでございます。その後、弁論準備手続等における和解協議によりまして大筋和解の合意が得られたことから、和解条項の内容で原告Ｓ氏との和解及び損害賠償の額を決定することについて、地方自治法第96条第１項第12号及び第13号の規定によりまして議会の議決を求めるものでございます。

和解条項の主な内容でありますが、まず１つ目といたしまして、和解による解決金、いわゆる損害賠償の額は120万円であります。２つ目といたしまして、謝罪につきましては本和解成立日から１か

月以内を目標に、原告の指定した日時、場所において行うこととしております。３つ目といたしましては、原告はその余の請求を放棄することとしております。これは、この後ご説明いたします訴訟の概要における遅延損害金及び訴訟費用の被告負担を放棄するというものであります。４つ目といたしまして、原告及び被告は、本和解条項に定めるもののほか、何ら債権債務がないことを相互に確認するものとしております。最後に、５つ目といたしまして、訴訟費用は各自の負担とするものであります。なお、本町における訴訟費用の負担はございません。

続いて、参考資料を御覧いただきたいと存じます。今回の提出されるまでの経緯、訴訟の概要、訴訟の経過及び和解に対する町の考えについてご説明申し上げます。まず、提訴されるまでの経緯につきましては、これまで全員協議会でも担当課よりご説明させていただいておりましたが、令和３年２月にＳ氏からの連絡により動産誤処分が発覚いたしまして、提訴されるまでの約２年間にわたりましてＳ氏との間で謝罪及び賠償額について交渉してきたところでございます。町では、誤処分した動産について、保有している情報等から、弁護士とも相談いたしまして109万1,000円を算出しましたが、Ｓ氏からは3,489万5,000円もの請求があり、この賠償額での折り合いがつかなかったため、先ほどご説明申し上げましたとおり、令和５年１月31日にＳ氏から提訴されたものでございます。

次に、訴訟の概要につきましては、今回の事件名が福島地方裁判所会津若松支部令和５年（ワ）第７号国家賠償請求事件となっておりまして、出訴日が今ほどの令和５年１月31日、当事者は原告がＳ氏、被告は会津美里町となります。

請求の趣旨につきましては、まず１つ目が、被告は原告に対し金476万1,900円及びこれに対する平成27年３月31日から支払い済みまで年５分の割合による金員、いわゆる遅延損害金の支払いを求めるというものであります。２つ目といたしまして、訴訟費用は被告の負担とするものであります。この２つについて判決並びに１つ目については仮執行の宣言を求めるというものになります。

次に、訴訟の経過でありますが、令和５年１月31日にＳ氏から提訴されてから、同年２月20日に口頭弁論の呼出し通知がありまして、４月18日に第１回口頭弁論に出廷しております。その後、５月31日から９月５日までの間において、計５回にわたって弁論準備手続等において和解に向け協議を行ってまいりました。町としましては、提示した額、いわゆる109万1,000円以上は出せない旨を当初より主張してきたところ、原告側は、和解金の額を少しずつ引き下げ、第４回弁論準備手続の時点で120万円の和解案を提示してきたところでございます。

そこで、次の和解に対する町の考えといたしましては、まず第１に、誤処分した事実に誤りはなく、早期に解決したいということ、次に、提訴前の段階ではＳ氏からは3,000万円を超える賠償額の請求がありましたが、弁論準備手続等による和解協議の結果、原告側が町で示した賠償額に近い額まで譲歩し、和解案として提示してきたこと、最後に、今回の和解条項の内容が原告、被告とも納得できる最良の解決方法と考えられることから、今回の和解及び損害賠償金としての解決金を受け入れたいとするものでございます。

説明は以上でございます。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

○議長（横山知世志君）　説明が終わりました。

質疑があれば、これを許可いたします。質疑はありませんか。

４番、荒川議員。

○４番（荒川佳一君）　議案第55号及び議案第56号は、この案件と私が関係しているということもありますので、採決に参加せずに退席の許可をお願いいたします。

○議長（横山知世志君）　許可します。

〔４番（荒川佳一君）退席〕

○議長（横山知世志君）　それでは、ほかに質疑ございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより議案第55号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を原案のとおり決することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

○議案第５６号の議題、説明、質疑、討論、採決

○議長（横山知世志君）　追加日程第２、議案第56号　令和５年度会津美里町一般会計補正予算（第５号）を議題といたします。

ここで、当局より内容の説明を求めます。

政策財政課長、國分利則君。

〔政策財政課長（國分利則君）登壇〕

○政策財政課長（國分利則君）　それでは、議案第56号　令和５年度会津美里町一般会計補正予算（第５号）につきましてご説明いたします。

予算書と併せまして追加提出案件資料２ページを御覧願います。今回の補正予算でございますが、国家賠償請求事件に係る損害賠償金について補正するものでございます。

それでは、予算書の表紙を御覧願います。まず、第１条におきまして歳入歳出予算の補正でございます。既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ120万円を追加いたしまして、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ123億1,729万5,000円とするものでございます。

それでは、内容につきまして事項別明細書によりご説明いたします。３枚おめくりいただきまして、３ページを御覧願います。歳入でございます。20款諸収入、４項雑入、３目雑入120万円の補正増につきましては、賠償補償保険金でございまして、国家賠償請求事件について保険金の対象となることから増額するものでございます。

続きまして、歳出でございます。４ページを御覧願います。２款総務費、１項総務管理費、１目一般管理費120万円の補正増につきましては、損害賠償金でございまして、国家賠償請求事件として町を被告として提訴されたことを受けまして、相手側と和解に向けて損害賠償金を支払うため増額するものでございます。

歳入歳出の説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○議長（横山知世志君）　説明が終わりました。

これより質疑に入ります。歳入歳出を一括しての質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

これをもって質疑を終了いたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより議案第56号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を原案のとおり決することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

ここで、荒川議員の入場を許可します。

〔４番（荒川佳一君）入場〕

○発議第４号の議題、説明、質疑、討論、採決

○議長（横山知世志君）　追加日程第３、発議第４号　地方財政の充実・強化に関する意見書を議題といたします。

本件に対する提案者からの趣旨説明を求めます。

10番、星次君。

〔10番（星　　次君）登壇〕

○10番（星　　次君）　それでは、提案の理由を申し上げます。発議第４号は、地方財政の充実・強化に関する意見書の提案の趣旨説明を申し上げます。

人材不足が叫ばれる昨今、急激な物価高騰により、多様な社会保障ニーズの対応など、新しい課題に取り組む必要があります。この意見書は、政府に対して、それらに対応するため、地方財政の確立を目指すよう次のとおり求めるものであります。

１つ目、十分な地方一般財源総額の確保を図ること。２つ、十分な社会保障経費の拡充を図ること。３つ、より自立的な地方財政の確立に取り組むこと。４つ、新型コロナウイルス感染症対策として、十分な財政措置を行うこと。５つ、まち・ひと・しごと創生事業費を、より恒久的な財源とすること。６つ、会計年度任用職員制度の運用について、財政需要を十分に満たすこと。７つ、諸手当等の支給水準が国の基準を超えた自治体に対し、特別交付税の減額措置を行わないこと。８つ、デジタル化における自治体業務システムの標準化については、十分な財源を保障すること。９つ、森林環境譲与税は、人口による配分を３割とする現行基準を見直すこと。10、小規模自治体を支援するため、地方交付税の財源保障機能、財政調整機能の強化を図ること。

以上、10項目について地方自治法第99条の規定に基づき意見書を提出するものであります。

2023年９月26日付でありますが、衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、財務大臣、総務大臣、厚生労働大臣、国土交通大臣、デジタル大臣、農林水産大臣、内閣府特命担当大臣にそれぞれ議長名で提出するものでありますので、どうぞ趣旨ご理解の上、ご賛同くださるようお願いいたします。

○会議時間の延長

○議長（横山知世志君）　お諮りいたします。

間もなく昼食の時刻となりますが、本会議終了まで延刻したいと思いますが、ご異議ございません

か。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　異議なしと認めます。

それでは、延刻いたします。

○議長（横山知世志君）　追加日程第３の発議の説明が終わりました。

これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。

まず、本件に対する反対討論の発言を許します。反対討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　討論なしと認めます。

これをもって討論を終了いたします。

これより発議第４号を電子採決システムにより採決いたします。

本案を原案のとおり決することに賛成の方は賛成のボタンを、反対の方は反対のボタンを押してください。

〔各議員投票〕

○議長（横山知世志君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（横山知世志君）　なしと認めます。

これをもって採決を確定いたします。

賛成全員。

よって、本案は原案のとおり決しました。

○散会の宣告

○議長（横山知世志君）　以上をもちまして、本定例会９月会議に付議されました案件の審議は全て終了いたしました。

これで令和５年会津美里町議会定例会９月会議を散会いたします。

散　会　　（午前１１時５７分）

上記会議のてんまつを記録し、相違ないことを証するため署名する。

令和５年　　月　　日

議　　長　　横　　山　　知　世　志

議　　員　　村　　松　　　　尚

議　　員　　小　　島　　裕　　子